

十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓より一圓五十錢。(兼營)印刷。(十五、十一、四)

根室日報

根室町常務三、二。(電)五六四、五四三。株式。五萬圓。(社史)大正十四年十二月十四日創立昭和三年一月株式會社に組織變更。朝刊四頁。(版數)一版。(部數)十四年十月十日現在四千二百都。四千二百二十八號。(社主)稻垣龍。(社長)安藤石典。(取締役)佐野忠三郎、柳田謙三、延原重男、熊谷近吉、松岡政治郎。(監査役)八木安太郎、守谷金次郎、寺島清司。(主幹)安住逸夫。(主筆)同。(編輯)浦信一(營業)加藤德三郎。(東京支局)原田柳二。(社員)三十二名。(工場員)十六名。(機械)平盤四六、十六頁二、八頁一、ステロ、設備あり。(活字)七ボ、十四字、百二十行、十四段。一箇月七十錢。(廣告料)七十錢、指定料五十錢、特別面二圓十錢。(十四、十、十)

根室毎日新聞

根室町鳴海町一ノ三。創刊大正十五年七月二十八日。夕刊小型四頁。(社長)

野田爲左衛門。(編輯)野田鏡與(營業)同。一箇月五十錢。

北見新聞

(旭川新聞の經營)野付牛町。(電)三二三、三五四。個人經營。十萬圓。(社史)明治四十五年旬刊新聞とし創刊、大正三年七月より日刊新聞となる、昭和十四年十月一日、新北見新聞、北見毎日新聞、野付牛新聞と合同、現社長田中秋聲經營し今日に至る。十五年十一月十三日現在七千九百八十九號。(部數)九千部。夕刊四頁。(版數)二版。(社主)田中秋聲。(社長)同。(副社長)小林幸太郎。(編輯)竹内智代造。(營業)高僧幹彦。(東京支局)佐々木正。大阪支局)田上友行。(社員)三十一名。(工場員)十四名。(機械)平盤印刷機四六版十六頁型三、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ボ、十四字、百五十四行、十四段。一箇月七十錢。(廣告料)一圓、場所指定五割増。(十五、十一、十三)

青年陸上競技北見大會、中部北見株式野球大會其他を行ふ。北見時論 野付牛。(電)一七

七。八千圓。(社史)昭和九年十一月三日創刊。夕刊小型四頁。(部數)十四年十月三十日現在二千部。七百四十號。(社主)吉田角次。(社長)永井勝次郎。(編輯)多田久。(營業)渡邊龍男。(社員)六名。(工場員)七名。(機械)四六版十六頁一。一箇月五十錢。(十四、十、三十)

網走新報

(小樽新聞の經營)網走町。株式。創刊昭和十五年九月十五日。夕刊四頁。(社長)清涼得髓。(編輯)營業)同。十五年九月網走の日東新聞、北見日日新聞、網走毎日新聞の三紙を統合して株式會社網走新報を創設、小樽新聞と姉妹關係を結びその經營下に九月十五日付より第一號を發刊す。宗谷新報 稚内町本通北三丁目二一六。(電)代表二。個人經營。五萬圓。(社史)明治三十六年七月十五日北見新報と題し創刊、其後日露戰役の際對岸樺太島占領につき樺太新聞と改題し發行中同島に於て新聞發刊するあり更に現在の宗谷新聞と改め今日に至る。夕刊四頁。(社長)岡

田義胤。(編輯)濱寄正孝。(廣告)飯田與三郎。(社員)三十一名。(工場員)廿一名。(機械)四六六頁掛三。ステロあり。流込機二。(活字)七半、十四字、九十八行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)五十錢。

日高毎日新聞

日高國浦河町(電)一六九。匿名組合。二萬圓(社史)昭和七年三月創刊、昭和十五年八月日高民報社を買収合併す。十五年十月二十五日現在二千三百七號。(部數)三千八百九十部。夕刊小型四頁。(社主)竹嶋由太郎(晚翠)。(社長)同。(主筆)同。(編輯)小林鐵雄(部長)淺野政義。(營業)竹嶋菊野(社員)三十五名。(工場員)九名(機械)平盤二。(活字)八ボ、十四字、百廿行、九段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢。

留萌新聞

(旭川新聞の姉妹紙)留萌町南大通一〇。(電)一六個人經營。創刊大正十三年八月三十一日、昭和十五年四月留萌日日新聞、夕刊留萌新聞、天鹽

毎日新聞の三紙合併旭川新聞の經營となる。夕刊四頁。(社長)田中秋聲。(副社長)城川徹郎。(編輯)山田吉司。ステロあり。(活字)十三字、百三十一行、十三段。一箇月五十錢。

十五年三月前留萌日日新聞社長城川徹郎君副社長となる。

江差日日新聞

江差町橋本町六九。創刊明治三十一年二月三日。匿名組合。夕刊小型四頁。(社長)北村吃郎。(編輯)營業)北林一。(機械)平盤三。(活字)八ボ、十四字、九十六行、十段一箇月五十錢。(廣告料)五十錢

樺太

人口.....三九、三三七
世帯數.....三、三八八

樺太は人口に比較して新聞の數極めて多く、一時は新聞洪水禍が叫ばれた程であつたが、昭和十年當局の不良狩りに日刊六、旬刊二十四、月刊十六が廢刊し十四年度には日刊十五社となり十五年十月には九社となつた。

今回の新聞統制は十四年九月内閣情報部から來島あり、漸く議が熟して緒につき、先づ一年間に六紙の廢刊見たのである。その六紙は、名好村の樺太北進新聞、惠須取町の樺太西海毎日新聞、泊居町の樺太西海タイムス野田町の樺太新報、本斗町の樺太新聞、豊原市の樺太毎日新聞で、いづれも形式的に自發的廢刊となつてゐる。而して統制はこれを以て終了したのではなく尙進行中に屬し、現在の見透しでは島内三社或は四社を存続せしめんとするものゝ如くであるその存続圏内にありと見られるのは、中央に樺太日日新聞、東海岸北部に樺太旭新聞(樺太敷香時報の改題)、西海岸北部に惠須取毎日新聞、以上三社が先づ確定的で、他に眞岡町の樺太時事新聞は暫定的に一、二年間存続となるのではないかと見られてゐる。現在問題となつてゐるのは、小樽新聞の經營下に入つたと傳へられる大泊町の太北新報で、若し當局が此種の手法を認めるならば、他にも同様

の方法によつて存続を策するものが出て來るであらうと豫測される。從來此の地の新聞中心地は豊原(人口三萬七千)、大泊(二萬四千)、眞岡(一萬八千)惠須取(三萬一千)、敷香(二萬四千)等に分れ、各紙の部數は十四年九月某新聞關係筋の推定では次の如くであつた。但しこれ等の數字は何れもそのまゝ信ずべきではない。

Table with 2 columns: Newspaper Name, Circulation/Details. Includes 樺太日日, 惠須取毎日, 大北新報, 敷香時報, 樺太時事.

樺太日日新聞

豊原市大通南六ノ一。(電)二二一〇、二二二一。個人經營。二十萬圓。(社史)明治三十九年八月樺太日報と題して大泊町に創刊され、四十年九月一日樺太日日新聞と改題、四十一年十月豊原町に移轉、大正七年九月より沖島鎌三氏の個人經營となり十一年太田現社長繼承す。十五年十月三十

日現在一萬二千二十五號。(部數)一萬三千部。朝刊八頁。(社主)社長太田鎮雄。(編輯)植田公男。(編部)佐藤林七。(政經)木村慶一。(社會)元山勇。(學藝)傳法谷秀丸(通信)瀧本直作。(寫真)打越留男。(營業主事)戶松活三。(廣告・事業)上田一明。(販賣)小山内泰輔。(東京支局)山田壽惠吉。(大阪支局)梅山全治。(社員)七十名。(工場員)百二十名。(機械)マリノニ式八頁掛け輪轉一、内國製輪轉一、平盤三。活字鑄造機、マテロ、寫真版あり。(活字)七ボ、十四字百五十五行、十四段、一箇月一圓十錢。(廣告料)一圓二十錢、場所指定三割増。(十五、十、三十一)

之助。(東市支局)齋藤松三。(大阪支局)宮谷陸彌。(社員)十二名。(工場員)二十名。(機械)輪轉機一、平版一。鑄造機二、全部設備あり。(活字)七ボ、十四字、百四十五行、十三段。一箇月七十錢。(十五、十、廿九)

樺太時事新聞 眞岡町山手町二丁目一。電話三〇二、六二二。個人經營。十萬圓。(社史)創刊明治四十二年、朝刊八頁。(部數)十五年一月現在五千部(社長總務)寺岡正巳。(主筆)同(編輯)同。(營業)小川不二夫。(東京支局)古川文次郎。(社員)二十名。(工場員)二十名。(機械)内國製輪轉機一、平盤二。鑄造機一、ステロ寫真版の設備あり(活字)七ボ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓二十錢。(兼營)一般印刷引受。(十五、十一、十五)

眞岡毎日新聞 眞岡町榮町七ノ一。電話三六一。個人經營。一萬圓。(社史)昭和九年三月十日現在社長岩下貞男氏樺太時事新聞社より獨立經營。夕刊四頁。(版數)一。(社主)岩下貞男。(社長)同。(編輯)同。(政治)佐藤正。(社會)金子修。(營業)岩下貞男。(廣告)日澤雄一。(販賣)古田忠雄。(支局)八。(社員)三十六名。(工場員)十五名。(機械)平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫真版設備あり。(活字)十五字、百四十行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)一圓五十錢、場所指定五割増。

惠須取毎日新聞 惠須取町本町四ノ五。電話四四五、六六五。個人經營。五萬二千圓。(社史)昭和二年五月一日創刊四年五月廿八日の大火災に遇ふ、十年代理部を設く、同年映畫部創設洋畫購入し十五年十月三十一日現在三千七百八號。(部數)八千六百五十一部。(朝刊)四頁。(版數)三。(地方版)南部版。(天內、ウシロ、珍内、眞岡、東海岸各版)北部版(名好、塔路、安別西柵丹版)。(社主)山浦選。(社長)同。(副社長)西谷彰。(支配人)大原剛。(編輯)寺澤肇。(相談役)池田彌吉。(營業)大原剛。(營業)田中ミキ子。(相談役)本間彌吉。(東京支局)小松吉太郎。(大阪支局)上村弘。(社員)四十六名。(工場員)二十一名。(休職)十名。(機械)平盤ロール三。(活字)九ボ、一四字、四十八行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓、場所指定三圓。(兼營)代理部氣光堂十五年八月十六日開設。休止中の映畫部も十月初旬洋畫を以て封切り北部映畫界に活氣をあたへて居る。

■十六年早春輪轉機購入紙面刷新の計畫中、外に映畫部では文化映畫公開を計畫し目下選畫中又新社屋建設の計畫あり。(十五、十一、一)

樺太旭新聞 (樺太敷香時報の問題)敷香町大通北五丁目。電話四一、二二二。個人經營。五萬圓。(社史)大正十五年五月一日創刊。夕刊四頁。(附錄)春秋グラフィヤ版紹介號。十三年十月より郷土出身兵への慰問特輯號毎月一回。(社長)尾崎重直。(編輯)佐藤克己。(營業)玉置義勝。(東京支局)中山正重。(大阪支局)落合忠兵衛。(社員)二十三名。(工場員)二十六名。(機械)平盤十六、三二各一、ステロ、寫真

設備あり。(活字)七半、十四字、八十三行、十三段。一箇月八十錢。(發行物)毎年發行一樺太年鑑、代理部あり。

■十五年樺太敷香時報を樺太旭新聞と改題す。

夕刊からんと 敷香町大通北四丁目一。創刊、昭和七年。個人經營。夕刊小型四頁。(社長)前田彰。(編輯)町平平一郎。(營業)社長兼務。(機械)平盤一。十段。一箇月五十錢。(兼營)印刷業。

樺太日報 泊居町字南本町四ノ一八。電話三六〇九。個人經營。十萬圓。(社史)昭和三年十二月七日創刊泊居新聞五年七月十五日樺太日報と改題今日に至る。夕刊四頁。(社長)後藤藤太郎。(編輯)石川春吉。(營業)社長兼務。(社員)十名。(工場員)十四名。(機械)二。活字鑄造機、ステロあり。(活字)七ボ、十五字、九十一行、十三段。一箇月一圓。(兼營)代理部。

東樺日日新聞 知取町幸町二丁目二。電話四一六。個人經營。二萬五千圓。(社史)大正十三年

五月旬刊東樺新聞創刊、十五年十月日刊として東樺日日新聞と改題、昭和八年二月同業樺太毎日新聞を合併同九年五月樺太朝日新聞を合併夕刊四頁。(版數)二。(附錄)隨時。(社長)一柳直一。(副社長)安田長一郎。(主筆)同。(編輯)木村慶一。(政經)仁佐經夫。(社會)佐藤和夫。(營業)表喜一。(廣告)平山儀三郎。(販賣)山本謙次郎。(東京支局)赤澤吳。(大阪支局)田村香松。(社員)二十七名。(工場員)二十四名。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)七半、十四字、百四十五行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓。

(二) 臺灣

從來我國の邊境とのみ考へられ
てゐた臺灣は、今や南方政策の根
據地として重きを加へるに至つた。

從つて新聞の使命も愈々大となつた譯であるが、此地の新聞界の現状は斯る期待に添ふものとは稱し難い。此處では日刊、週刊、月刊の別なく、總て新聞は許可主義の下に發行され、而も永らく一市日刊主義がとられてゐたので、昭和七年四月本島人を背景とする臺灣新民報が登壇するまで日刊紙は内地人の經營する四新聞に過ぎなかつた。處がその後高雄に高雄新報が創刊され、現在六種であるが、その總發行部數は、内地人經營の五紙合せて約八萬、臺灣新民報二三萬として合計十一萬、これが九十萬世帯に對する地元紙の總發行部數である。勿論九州で印刷される大朝、大毎、及び福岡日日などが少なからず移入されてゐるが、輸送に足かけ三日も要するので併讀紙の範圍を出ないであらう。それで約八萬の内地人經營紙は約三十萬の内地人を讀者層とし約二三萬の本島人經營紙は約五百三十萬の本島人を讀者層とする。本島人讀者層の如何に薄きかを察すべきである。尤も昭和十二年四月から臺灣日日、臺灣新聞、臺灣

日報、臺灣新民報の四社は相次いで漢文欄廢止を行ひ、臺灣全日刊紙は邦字紙の一種に統一され、其の間讀者層の多少の交流はあるであらうが、それにしても約八十萬世帯の住民(本島人)は地元紙を購讀しない計算となり、國力發展の上から甚だ遺憾とされる。此地の日刊紙は、總督府の御用紙的色彩濃厚なる點に於て總てその軌を一にし、中でも臺北市(人口三十萬二千、うち内地人八萬六千)の臺灣日日は總督府のお膝元に於て發行されるだけに部數は少なくても稀薄ながら全島的に頒布せられそれに總督府の印刷物の收入などもあつて一割の配當の出来る程經營は樂である。又同じ臺北を發行地とする本島人經營の臺灣新民報は本島人のインテリヤ有産階級的支持を受け、黒字を出してゐる新聞の一つである。以上二紙の外は何れも經營は樂でなく、臺南市(人口十二萬、うち内地人一萬六千)の臺灣日報は主として臺南州を勢力範圍とし、高雄新報は高雄州を範圍とする。又臺中市(人口七萬六千、うち内地人一萬七千)

人口、五、三、九、四、三
世帯數、八、九、六、六、五

の臺灣新聞は臺中、新竹兩州に勢力を張り、地元紙中の雄と稱され部数二萬七千と稱してゐる。次に花蓮港街(人口二萬三千)の東臺灣新聞は、花蓮港と臺東兩廳の東部を地盤とし地理的關係から小規模たるを免かれぬ。

次に移入紙では大朝、大毎共に約一萬、福日これにつき、東朝二千、東日千五百、讀賣一千見當と推定する向がある。尙これを局地的に見ると、十五年十月臺中地方に於ては、大朝一千五百、大毎一千、東朝七百、東日、讀賣各五百其他五百と推定される。併し以上の数字は何れもそのまゝ信ずべきではない。

臺灣日日新聞

臺北市榮町四丁目三二。(電)代表五八〇一。株式。一萬圓。(社史)明治三十一年四月臺北に於て發刊せる臺灣新報及臺灣日報の兩社を合併して新たに臺灣日日新聞社を設立し同年五月一日發刊の宣言をなし同月六日第一號を發刊す、創刊以來公布による府報臺北州報、臺北市報を本紙附録として發行附帶事業として活版

石版、銅版印刷及活字、鑄造、印刷諸材料、運動用品販賣を兼營し今日に及ぶ。昭和十五年十月二十九日現在一萬四千五百九十五號。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)二版。(社長)河村徹。(顧問)赤石定藏。(監査役)大澤貞吉。(支配人)取締役)長谷理教。(編輯長)鈴木巖。(政治)笹盛治平。(經濟)森岡憲爾。(社會)岩田彌榮。(國語新聞編輯部長)木場一三。(參與)杉野嘉助、中會根武多。(企劃)上田商人。(支配人代理販賣)西田恒之。(會計)伊藤道三。(印刷)顯川首。(廣告)江原治三郎。(庶務)西田力松。(秘書)前田莊吉。(商事)吉光帖十。(東京支社)永井省三。(大阪支社)入良良郎。(社員)四百八名。(工場員)三百七十二名。(機械)高速輪轉機一、輪轉機一、活版印刷機一三、自動活字鑄造機五、活字鑄造機四、オフセット印刷機二、グラビア印刷機二石版印刷機二、其他一五、ステロ、寫眞版あり。(活字)六・三、十五字、百七十五行、十五段。一箇月一圓五〇錢。(廣告料)一

圓、特別一圓五〇錢、割込二圓

圓、特別一圓五〇錢、割込二圓

同九月十一日より總督府の推薦により國語新聞(タブロイド型四頁)を週三回發行する事となる、本島人の再教育を旨としたもので創刊號十萬は全部契約済みとなる、但し無料配布。

臺灣新民報

臺北市末廣町五丁目八。(電)代表八七三二

一。株式。三十六萬二千五百圓(社史)大正九年七月十六日「臺灣青年」創刊、同十二年四月半月刊臺灣新報發行、同八月株式會社となり昭和七年四月十五日より日刊となる。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)二版。(專務)林呈祿。(現業重役)林柏壽、羅萬俔、林資彬、楊肇喜、黃朝清、陳啓川、林雲龍。(監査役)吉富保之、林文樹、阮朝日。(主筆)林呈祿(編輯)吉富保之助。(編輯總務)竹內清。(整理)黃登洲。(政治)竹內清。(經濟)黃登洲。陳逢源。(社會)陳萬。(地方)黃洪炎(文化)林阿丙。(校閱)簡進發(寫眞課)沈相成。(國語普及)黃登洲。(業務)林雲龍。(總務局)林呈祿。(廣告)林佛樹。(販賣)楊景山。(工務課)呂靈石。(出版)林佛樹。(企劃)林雲龍。(會計課)林雲龍。(文書課)呂靈石(調査)廖大貴。(東京支局)葉榮鐘。(大阪支局)浮田金治。(社員)百名。(工場員)百五十名。(機械)マリノニ一輪轉機二、折疊輪轉機一。自動式活字鑄造機三、手廻二、ステロ二、寫眞版設備あり。

り。(活字)七ボ、十四字、百三十行、十五段。一箇月一圓五十錢。(十五、十一、三十)

十五年二月東京支局長吳三連君休職となり葉榮鐘君その後任となる。

同五月より十四字十五段制となる。

同五月專務取締役羅萬俔君辭任して編輯顧問となり、主筆林呈祿君後任となる。

九月新に總務局を新設して南支南洋方面事情究明の爲め南方部を設く。

臺灣新聞

臺中市明治一丁目五。(電)九二〇・二〇〇。株式。(社史)創刊明治三十四年五月一日臺中毎日新聞と題し、後、中部臺灣日報と改題、四十年十月現名となる、大正四年社屋新築、同六年五年現社長經營の任に當る。十五年十一月十四日現在一三五六四號。朝刊六頁。夕刊四頁。(社長)松岡富雄。(常務)安陸院貞熊。(主筆)小川節。(編輯)岡野喜一郎。(外交)遠藤東之助(校正)北川修一。(連絡)城代志。

臺灣日報

臺南市北門町二丁目六一。(電)一五〇一・一五〇六。株式。十萬圓。(社史)明治三十二年五月前社長富地近思の個人經營として創刊、明治三十六年一月株式會社に組織變更(臺南新報)、昭和九年九月富地社長死亡し現社長宮本一學其後を承け昭和十二年四月題號を「臺灣日報」と改稱今日に至る。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)朝夕刊共二版。(社長)宮本一學。(取締役主筆兼編輯長)中村事。(取締役支配人)田中政太郎。(主筆)中村事。(編輯)同。(政治)大久兵衛藏。(經濟)田里維章。(社會)室谷信次郎。(地方)太田

高雄新報

高雄市山下町一丁目一。(電)二五三七、三五三二、二八六七、三六六九、二四七五、二〇五三。株式。十萬圓。(社史)昭和九年四月十六日創刊當時日曜一回の週刊一年後木曜日を加へ週二回とし、昭和十二年七月二十五日より日刊四頁を發行昭和十三年四月十六日より之を八頁とす。十五年十一月六頁とす。朝刊六頁。(附録)高雄州報高雄市報、其他法院の登記公告を掲載す。(部數)十三年十月一日現在九千六百部。(專務取締役)杉本三郎。(取締役)船橋武

東臺灣新報

花蓮港街高砂通一丁目。(電)四二、四三、七二〇。株式。六萬圓。(社史)大正五年十月一日創刊、大正十二年九月十六日株式會社に變更今日に至る。朝刊四頁。(社長)吉村佐平。(取締役)古賀朝一郎、玉置彌四郎、松井金二郎。(監査役)小川浩、饒永昌。(支配人)齋藤齊。(主筆)同。(編輯)尾關正勝。(東京大阪支局)横井九郎。(機械)十六頁判一。(活字)七ボ、一箇

雄、本地才一郎。(監査役)陳啓貞、福井四磨。(相談役)森山遠枝。(主筆兼整理)柴田貞一。(社會)河野浩。(總務部兼企畫)日高東一郎。(廣告)廣田四郎。(工務)荒木榮。(東京支局)井上忠太郎。(大阪支局)横井九郎。(支局)十八。(機械)マリノニ式輪轉機一、外平盤印刷機二、谷口式自動鑄造機三及ステロ、寫眞版設備一切を持つ。(活字)七ボ、十四字、百五十六行、十四段。一箇月一圓二十錢。(廣告料)一圓、特別面一圓五十錢。十五年十一月より八頁建を六頁建とす。

(三) 朝鮮

月一圓十錢。
 ■十五年四月二十三日社長梅野清六君逝く、享年六十六。
 ■同五月七日専務取締役吉村佐平君後任社長となる。

▼人、口……三、五、四、五
 (内地人)……六、元、五、二
 ▼世帯數……四、九、七、八〇三

十五年度の朝鮮新聞界には、近來稀れに見る變遷が行はれた。その第一は、京城發行の二大諺文紙朝鮮日報、東亞日報の兩紙が、八、十日限りそれ〳〵二十餘年の歴史を閉じたことであり、第二は清津の邦字紙北鮮日報及び羅南の北鮮日日新聞兩紙が十月二十日限り廢刊し、別に鎮南浦の邦字紙西鮮日報も同じく廢刊の運命を辿り新たに清津から邦字紙清津日報が八月一日から發行され、又京城に米肥日報が八月十三日から新たに業界紙として登場したこと等である。其他通信界では京城の帝國通

信が廢刊となり、咸北及び清津から新たに同盟通信の發行を見た。即ち普通日日新聞五紙が廢刊となり一紙が創刊された譯である。二大諺文紙の廢刊には色々事情があつたものゝ如く傳へられてゐるが、大體に於て發展的解消と見るのが至當であり、諺文紙としての創刊當時に於ける使命は既に完了されたものと見てよい。滿洲事變後、朝鮮は大陸への兵站基地として、國防的に、經濟的に、將たまた文化的に再認識を要する時代となり、殊に支那事變以來半島二千二百萬民衆の間には新東亞建設の意義が徹底し、その國民的自覺を呼び起すと同時に、志願兵制度の實施、創氏制度の實現、更に義務教育の實施へと、半島は擧げて南總督主唱の内鮮一體の一路に向つて邁進するに至つた。斯る情勢の變化は、前掲二諺文紙にとつては當局の廢刊統制を待つまでもなく當然玉碎の運命に逢着しつゝあつたものと云ふて然るべきであつたのである。廢刊に際して、東亞日報あたりは大分反對の氣勢があつたやに傳へられるが、終に當局の意

のある處を譲承するの已むなきに至つた。兩大諺文紙が、朝鮮文化史上に残した足跡は、その是非は別として強大なるものがあつた。斯くして唯一の諺文紙となつた。毎日新聞は、兩紙の廢刊に際して三十五萬圓を出資し、その讀者の大部分を吸収して、今やその發行部數三十餘萬と稱し、百五十萬圓の株式會社として、京城日報と共に半島新聞界の二大新聞として名實ともに雄飛するに至つた。

由來朝鮮での新聞發行は、内地人及び外國人は新聞紙規則により總督府の認可を受け、半島人發行のものは許可を受けることとなつてゐた。而して各新聞は中央地方の別なく、何れも多少は當局の機關紙の性格を持ち、それ〳〵の必要に應じて認可された許可されてゐたのである。然るに最近用紙節約等の爲めに、内地に新聞統制の旋風の捲き起るや、此處にもその波動の及ぶべきは當然であつたが、十四年度には未ださしたることなく、十五年度に入つてはじめて上記の結果を見たのである。併し用紙配給節減の緩和せられざる

限り、更に統制の續行は避け難く、追つては一道一紙、乃至一都市一紙の體制をも見るに至るであらう。が、現在では餘り強行的手段を用ひず、専ら自然廢合の機會を待ちつゝあるやに觀取される。何にしても近時半島人方面に購讀者が急増しつゝあるもので、或る程度まで統制を續行して、二重購讀を抑制し、一方急増の需要に應じて出版文化の向上普及に資せんとするの不可避の狀態である。

朝鮮の新聞中心地は京城(人口七十萬六千、うち内地人十三萬一千)を以て第一とし、次は釜山(人口二十一萬三千、うち内地人五萬九千)、平壤(人口十八萬五千、うち内地人二萬三千)、大邱(人口一萬、うち内地人二萬七千)等である。京城日報は總督府の機關紙として京城に發行され、厚薄はあつたが殆んど半島に購讀者を有してゐる。これに對して民間色の濃いものに朝鮮新聞、朝鮮日日等があり、又地方では釜山の釜山日報、平壤の平壤毎日、大邱の朝鮮民報、大邱日報等が有力とされる。尙外に仁川、大田、咸興、清津、羅南、

元山、新義州等からもそれ〳〵有力な邦字紙が發行されつゝある。移入紙は九州で印刷される大朝、大毎を大宗とし、福日其他これにつぐ。その部數を示す一例として十四年九月、大邱府の一新聞關係者は同地方の移入紙は大朝、大毎各二千を超へ、福日約一千、關門日日約五百と推定してゐる。尙又全半島では十五年八月末現在官憲方面の推定は次の如くである。但しこれ等の數字は何れもそのまゝ信ずべきでないこと無論である。

大阪毎日	八五、〇〇〇
大阪朝日	七五、〇〇〇
大毎小學生新聞	一五、〇〇〇
大阪毎夕	七五〇
大阪中外商業	五〇〇
鹿兒島新聞	六〇〇
關門日日	八〇〇
中外商業	七〇〇
東京日日	一、二〇〇
東京朝日	一、六〇〇
日刊工業	七〇〇
福岡日日	三、一〇〇
報知新聞	五五〇
讀賣新聞	三、一〇〇

(五百部以下略)

尙半島に於ける新聞の普及率は逐年著しく増加しつゝありとは云へ、内地に較べればまだ僅かに十分の一に過ぎないと云はれる。

京城日報

京城府太平通一丁日三十一ノ二。(電)本局一一八一、一四八六、一四九六。合資會社。五十萬圓。(社史)創刊明治三十九年九月一日、同四十年日韓合併成り徳富蘇峯氏經營、大正二年合資會社となり其後數代の社長を經、昭和十四年十月田口彌一氏に代つて現社長就任。昭和十五年十二月三十一日現在一萬一千九百三十一號。(部數)十八萬部。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)各三版制。(地方版)南鮮、湖南、全南、忠北、江原、中鮮、西鮮、咸南、咸北、綜合版。(社長)御手洗辰雄。(支配人)熊谷寛一。(編局)島元勸(論說委員會幹事)平原勝郎。(企畫委員會幹事)近藤銀一。(外務班主任兼政治)松本俊。(社會)大津和夫。(經濟)高田信一。(寫眞)森川新一。(相談役兼内務班主任)高橋猛。(地方)栗津信爾

(學藝)寺田瑛。(小學)石川秀三

郎。(校正)大口義夫。(總務局)上野盛一。(營業局)原田公道。(庶務)絹田節一。(經理)上野盛一。(調度)石川均。(販賣)渡邊武雄。(事業)渡邊武雄。(廣告)瀨田兼丸。(工務)仲野鷹雄。(東京支局)熊谷寛一。(大阪支局)竹田津吾一。(北支總局)藤井安正。(社員)三百九十八名。(工場員)百六十四名。(機械)京日式超高速度輪轉機(時速十五萬刷)三、平版印刷機十六頁一、菊八頁一、四六版十六頁一、四六版四頁一。活字鑄造機林榮社製自働鑄造機六、タイプライター社製自働鑄造機八、トムソン式一、計十五。手廻鑄造機四、スプロ設備ローリング紙型壓搾二乾燥機二、整版機二、鉛熔爐二丸版鑄造機四、セービングマシン一、ルーチングマシン一。(活字)六・三、十五字、百七十五行、十五段。一箇月一圓二十錢。(廣告料)一圓五十錢、指定料一行二十錢以上増。(兼營)京日小學生新聞(部數十三萬、京日文化映畫劇場。(十五、十一、十)

■十四年十月小學部長窪田嘉計

君を整理部長とす。
 ■十五年元旦號に二千六百年記念として朝鮮大博覽其他の五大計畫を發表す。
 ■同二月次の異動を行ふ。
 總務局長兼經理部長 岩田 織三
 依願退社 上野 盛一
 理事に任じ總務局長とす 整理部長兼務を解く松本 俊
 整理部長とす 石川秀三郎
 校正部長とす 大口 義夫
 ■同四月より十五段制となり朝夕刊十二頁となる
 ■同六月二十九日御手洗辰雄君新聞代表の一員として閣院宮殿下より賜謁の光榮に浴す。
 ■同九月一日より十月二十三日に亘り京城驛前に、朝鮮始政三十周年記念並に本紙創刊三十五周年記念朝鮮大博覽會を主催し、會期五十三日間の入場人員一百三十餘萬盛況を呈す。
 ■同九月一日創立三十五周年記念式典を博覽會場内に舉行しついで十年以上勤続者六十九名の表彰を行ふ、二十五年以上大東

春太郎、金鐘燦、金永元、飯島剛、二十年以上編輯一君以下九名、十五年以上武藤島次郎君以下二十二名、十年以上本間徳一君以下三十二名。

同十一月従来の論説部を廢し、企畫委員會を新設、委員に高橋猛、松本俊、寺田稔彦、高田信一、の四君、幹事に平原勝郎君を任す。

同十一月編輯部の權威を内務外務兩班に分ちその下に各部を置く事とし次の異動を發表す。

編輯局長 島元 勳

編輯局長心得 高橋 猛

編輯局長兼内務部長とす 政治部長兼社會部長 松本 俊

外務部長兼政治部長とす 小學部長 大津 和夫

社會部長とす 整理部長 石川秀三郎

小學部長とす 小學校長とす 石川秀三郎

尙營業局に映畫部を新設し 事業部長 佐野重三郎

映畫部長とす 十一月六日御手洗社長は國民

總力朝鮮聯盟宣傳部長となる。朝鮮新聞 京城府太平通二ノ一二三。(電)本局一〇一

五。株式。三十萬圓。(社史)明治二十一年四月三日創刊、大正九年牧山耕藏の經營に移り大正十五年十月株式組織に變更。昭和八年十二月社屋を新築し九年十一月から十二頁制となる、十二年十一月陣容を一新す、朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)四。(地方版)仁川版、東部版、西部版、間島北鮮版。(取締役社長)金井甲淳。(取締役に社長)野崎眞三(取締役に)江藤徳衛、中馬越之助、李並吉、表谷佐平、服部米次郎。(監査役)齋藤久太郎、松岡東吉。(編輯)廣幡謙太郎。(名譽主筆)相馬由也。(論説、經濟)東條哲士郎。(整理)松本與一郎。(社會)直江兼孟。(同次長)池田徹。(政治次長)松田肇。(通信次長)坂本昌道。(學藝次長)道田昌彌。(校正)大場直治。(警局)江藤徳衛。(廣告)大島勝太郎。(販賣)金康鉉。(經理)松村正彦。(外交)岩本虎平。(企畫)原口虎雄。(工場長)有徳武雄。(東京支社)

石丸務。(同營業)關夷弘。(大阪支局)小串虎芳。(機械)獨逸製高速機一、折式輪轉機二、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)六・七ボ、十五字、百六十三行、十四段。一箇月一圓廿錢。(廣告料)一圓五十錢、場所指定二割増。

同九月二十五日次の如く重役を選す。取締役に社長金井甲淳、同副社長野崎眞三、取締役に江藤徳衛、中馬越之助、李並吉、表谷佐平、服部米次郎、監査役、齋藤久太郎、松岡東吉。

朝鮮日日新聞 京城府黃金町二ノ一九九。(電)本局二七〇八、二七三三、二七三三、二七六八、二七七六。個人經營。二十萬圓。(社史)大正九年七月一日創刊、經營者を選す事三回。昭和六年末現社長之を經營、七年二月十一日更新發刊、十一年二月社屋新築に着手し八月竣工移轉、同年九月十一日より朝夕刊八頁發行。十五年九月二十一日現在七七〇六號。朝刊四頁。夕刊四頁。(社主)齋藤五

吉。(社長)同。(主筆兼編輯)杉浦津。(編輯兼社會)沖津主税。(警局)社長兼務。(秘書)皆川留作。(工務局)小林浩爾。(營業)伊藤積。(販賣)皆川留作。(外交)片山政輔。(專賣所長)赤澤彦四郎。(東京支社)山田不二夫。(大阪支社)宮谷時彌(機械)マリノニ式輪轉機二、平盤三、活字鑄造機三、マテロ、寫眞版設備あり。(活字)六・七、十四字、百六十三行、十五段。一箇月九十錢(廣告料)一圓九十錢、場所指定二割増、特別面三圓。

十五年一月新年附録として十五年版日日百科便覽を添付す。同十一月二十六百年記念として論文廿年後の朝鮮の懸賞募集(一千圓)及び篤農家、厚生部落の表彰を發表す。同二月自動式活字鑄造機完成四月上旬より紙面一新す。同五月より新活字による十五段制となり購讀料を二十錢値上げして九十錢となる。同九月次の異動を行ふ。販賣部長兼地方部長 中尾 昭夫

依願解職

庶務部長 皆川 留作

地方部長事務取扱とす

同九月宮谷時彌君を大阪支局長とす。

朝鮮商工新聞 京城府黃金町二ノ一九九。(電)本局一一八、一五八一、四五四〇、四五〇、七七〇五。個人經營。十五萬圓。(社史)大正九年十一月十五日週刊創刊、大正十二年九月一日齊藤社長主宰の下に日刊に變更、昭和十一年九月李肯鐘社長を迎へ齊藤民副社長となる。十三年十月李君辭任、齊藤君齊長に復歸す。十五年九月二十一日現在五七七七號。夕刊四頁。(社主)齋藤五吉。(社長)同(編輯)渡邊四郎。(工務局)小林浩爾。(秘書)皆川留作。(商況)水口京造。(總務兼經濟)加藤清吉。(營業)益野幸哉。(外交)川原一元。(販賣)中尾昭夫。(東京支局)山田不二夫。(大阪支局)宮谷時彌。(機械)マリノニ式輪轉機二、平盤三、活字鑄造機三、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)六・七、十四字、百六十三行、十

五段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓五十錢、場所指定二割増、特別面三圓。(兼營)朝鮮取引所株式商報、仁川取引所商報。十五年七月十七日二十周年記念號を發行す。

京日小學生新聞 (京城日報の經營)京城日報社發行。日刊夕プロイド型四頁。(社長)御手洗辰雄。(編輯)石川秀三郎。百十行、十段。一箇月二十五錢(廣告料)一圓。(十五、十一、十)

毎日新報 (鮮文)京城府太平通一ノ三一。(電)本局八一一一。株式。百五十萬圓。(社史)創刊、明治四十三年九月京城日報の經營、昭和十三年四月京城日報を離れて獨立し毎日申報を毎日新報と改題、百萬圓の株式會社となる十五年九月五〇萬圓増資。朝刊四頁。夕刊六頁。(取締役に)崔麟(專務取締役に)福江鹿好。(常務取締役に)金本東進。(取締役に)李相詰(編輯)鄭寅翼。(主筆)徐椿。(經濟)李允鐘。(社會)洪鏡仁。(政治)洪鏡仁。(通信)李昌洙。(學藝)白鉄。(新聞)徐承孝。(調査)李昌

洙。(地方)玉峰和夫。(體育)徐延禧。(國民新聞顧問)井上收。(庶務兼經理)長島龜喜。(事業)朱潤。(販賣)李炳坤。(廣告)尹炳殷。(工場)崔益進。(東京支局)鄭寅翼。(大阪支局)金山策範。(機械)アールホウ式高速度輪轉機一、アルバート式高速度輪轉機二、平盤四。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)六・七五、十五字、百六十三行、十四段。一箇月一圓。(廣告料)一圓五十錢、特別面一圓八十錢(十五、十一)

同九月九月三日寫眞報が創刊隔日發行。現在『每新寫眞旬報』と改題旬刊とす。十五年十一月より四頁の月曜朝刊の外火曜朝刊を減頁する事となる。

釜山日報 釜山大倉町四ノ三六。(電)代表四〇〇一。(社史)創刊明治三十八年二月一日四十年十月現稱に改題、大正八年芥川正君の個人經營を株式組織とす。十五年十一月十七日現在一一七五一號。株式。二十五萬圓。朝刊四頁。夕刊八頁。

朝鮮時報 釜山府西町四ノ六。(電)代表一五四一。合資。

十萬圓。(社史)明治廿五年七月十一日商況を報道する目的を以て釜山商況を創刊、後東亞貿易新聞と改題内容を改め廿七年七月時の釜山總領事室田美文氏、釜山商業會議所會頭柳原茂夫氏、漢城新聞社長安達謙藏氏相謀り朝鮮時報を創立、高木末熊社長時代一時株式なりしも大正九年七月合資となり、現今川社長の經營下にうつる。夕刊四頁。(版數)一。(社長)今川廣吉。(副社長)清水雲治。(編輯)今川龜之助。(營業)今川百枝。(東京支局)藤野保三。(大阪支局)松本三郎。(社員)四十五名。(工場員)二十三名。(機械)マリノニ輪轉機一、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七ボ、十四字、百五十五行、十四段。一箇月八十錢。(廣告料)一圓五十錢、特別面五割増。

平壤每日新聞

平壤府紅梅町一。(電)二六三六、二七七二、二八六八、二九九四、四八二八、二二〇六、二七〇九、五一六一、五二六〇。創刊、大正九年四月一日組合。三十二萬五

朝鮮每日新聞

仁川府濱町一。(電)一〇四〇、一〇四一。個人經營。二十萬圓。(社史)大正十年八月一日創刊、昭和十二年十二月四日初代社長後藤連平氏逝去後嗣子後藤一郎氏二代社長となる。夕刊四頁。(部數)十四年十月一日現在六千七百部(社主)後藤一郎。(社長)同。(副

朝鮮民報

大邱府東雲町二九七ノ二。(電)二四九、七四七、一七一九。個人經營。(社史)明治三十八年三月二十六日大邱實業新聞と題し隔日刊創刊。同四十二年八月前社長河井朝雄氏の經營に移り大邱新聞と改題、大正二年三月朝鮮民報と改む、前社長河井朝雄氏昭和六年十二月逝去と共に大學卒業直後の第二

大邱日報

大邱府東城町三丁目八四。(電)一三六三、一三六五、一三五六。個人經營。十萬圓。(社史)創刊、昭和三年八月十一日、十三年四月四代目現社長就任。夕刊八頁。(版數)三(地方版)慶南版、東海版、中鮮版、湖南版、道内版。(部數)七

千圓。朝刊四頁。夕刊四頁。(地方版)毎月五回以上黄海版(四頁)發行。(社長)稻葉善之助。(主幹)森幸次郎。(支配人)佐々木鐵藏。(編輯)石坂朝郎(營局)支配人兼務。(廣告)石井彌太。(販賣)谷内田源治。(工場長)岡部茂太。(東京支局)岩瀨太平。(大阪支局)松本三郎。(機械)マリノニ式輪轉機三、十六頁平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)六、七、五、十五字、百六十三行、十四段。一箇月一圓二十錢。(廣告料)一圓三十錢、特別面二圓六十錢。(兼營)代理部。

十五年十月三十日市内吉村新開舖主に一千圓を贈りその功を表彰す。

社主)後藤進。(支配人)佐藤鐵藏。(編輯)丸山雄治。(經濟)米原精一。(社會)橋木貫。(政治)水島完。(營部)篠崎文治郎。(企畫)岡田貞男。(廣告)田中高三郎。(東京支局)大内寛。(大阪支局)三宅哲夫。(社員)三十二名(工場員)三十六名。(機械)津田式輪轉機一、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)六、七、五、十五字、百六十五行、十四段。一箇月一圓。(廣告料)一圓五十錢、場所指定五割増、特別面三圓。(兼營)毎年正月元日仁川新年名鑑發行す、印刷部兼營。(十四、十一)

十五年二月十二日工場より出火し工場及本館の一部を焼失す

世戸四雄氏社長に就任、昭和十二年十一月一日より十四段制に改め社屋を新築す。夕刊八頁。(地方版)慶南版、湖南版、地方版。(社主)河井戸四雄。(社長)同。(副社長)野坂茂一。(支配人)編輯)砂田辰一。(理事)原辰助。(編輯次長)渡邊圓四郎。(地方)工藤外衛(調査)歌原恒。(寫眞)半木德雄。(營局)伊藤文質(經理兼庶務)奇建一。(廣告)清原徹。(販賣)李相祚。(東京支社)松尾慶昭(大阪支社)田中正男。(機械)マリノニ式輪轉機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ボ、十四字、百五十五行、十四段。一箇月一圓二十錢。(廣告料)一圓卅錢、特別面二圓六十錢。(發行物)日支事變寫眞畫報。

特別面二圓六十錢。(發行物)日支事變寫眞畫報。

南鮮實業新報

大邱府大和町六四。(電)一六四四。(社史)大正十三年十月二十七日南鮮實業日報創刊、大正十二年十月以來大邱實業新聞として發行し居たる旬刊紙實業新聞と昭和十四年三月合併して南鮮實業新報と改題せり。夕刊小型四頁。(社主)韓翼東。(副社長)山北光徳。(理事)衛藤吉之助。(主筆)山北光徳。(編輯)衛藤吉之助。(營部)

四年一月一日現在二萬二千部。

(社長)河谷不二男。(支配人)衛藤翼。(主筆)韓翼東。(編輯)八坂桃太郎。(社會)古手彬。(政治)橫澤翁一。(營局)元永禮一。(廣告)同。(販賣)吉野溪。(庶務)森繁人。(經理)鄭命辰。(工場)山本阪太。(東京支局)岩瀨太平(大阪支局)中島常太郎。(社員)六十三名。(工場員)五十六名。(機械)折疊式輪轉機一、マリノニ式一。萬能鑄造機二、寫眞版設備あり。(活字)六、七、十五字、百六十三行、十四段。一箇月一圓二十錢。(廣告料)一圓三十錢、特別面二圓五十錢。(兼營)大日こども新聞。

木浦新報

株式會社木浦新報光州日報發行。全羅南道木浦府仲町一ノ四。(電)營業三三三、編輯一〇三三。株式。五萬圓。(社史)明治三十二年六月十日創刊、大正八年四月十五日資本金一萬圓を五萬圓に増加し同年五月一日光州日報社を買収し全南印刷株式會社と改稱、昭和四年十二月二日株式會社木浦新報光州日報と改稱す。十五年十月三十一日現在一萬六百四十四號。(部數)三千二百五十五部。朝刊平日建頁四頁(社長)福田有造。(取締役)坂口喜助、松井邑次郎、村上直助、鹿野秀三、山本精一。(監査役)松井理三郎、山野亘。(主幹)山本精一。(編輯)磯井正一。(營業)廣瀬芳太郎。(會計)同。(廣告)大島晴輔。(販賣)吉村正雄。(東京支局)林省三。(大阪支局)竹田津吾一。(社員)十名。(工場員)二十四名。(機械)十六頁平盤印刷機一。ステロ、寫眞版の

福原清勝。(社員)十名。(活字)舊、十一字、八段。一箇月六十錢。(兼營)火災保險、鐵山。(十四、十一)

光州日報

木浦新報の經營光州府明治町一ノ一。(電)四二八五三。株式。五萬圓。(社史)明治四十二年五月九日創刊、大正八年六月一日木浦新報社と合併さる。朝刊四頁。(版數)二。(地方版)木浦版、麗水版、順天版每週發行。(部數)十四年九月一日現在八千五百部。九千二十三號。(社長)福田有造。(主幹)鹿野秀三。(編輯)楠瀬素則。(營部)中田鹿治。(東京支局)島原而行。(大阪支局)竹田津吾一。(社員)六十名。(工場員)四十名(機械)平盤印刷機五。活字鑄造機、ステロ、寫眞版十あり。(活字)七ボ、四十字、百二十五行、十四段。一箇月一圓。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓。(發行物)全羅南道報社後の全南、全南の青年。(十四、九、十)

群山日報

群山府淺山町五。

全北日報

全州府大正町一ノ二。(電)一六、五〇一。個人經營。五萬圓。(社史)明治三十八年十二月二十五日創刊、美濃版手押式複寫紙より三十年の歲月を経て今日に至る。夕刊四頁。(版數)一。(社主)松波千海。(社長)同。(主筆)同。(編輯)齋藤

惟恭。(營業)木下孝。(機械)平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫真版あり。(活字)八半、十三字、百三十行、十二段。一箇月一圓(特設)活動寫真部。(十四、十、十)

朝鮮日報

馬山府都町二丁目 二十一ノ二。(電)一六二。(社史)明治四十一年十月馬山日報として發刊、大正四年四月南鮮日報と改題日刊紙としての形態を整へ既に九千號を突破昨年社の機構を改革し通信網の擴充、紙面刷新「南日」確立面目一新せり。十五年十月廿九日現在九千三百四十二號。(部數)五三二〇部。夕刊四頁。(社長)坂田文吉(副社長)今井八郎。(編輯)高須信二。(營業)伊淺熊一郎。(東京支局)平野三郎。(大阪支局)松下兵馬。(社員)五十名。(工場員)三十名。(機械)平盤三。(活字)七ボ、十四字、百四十二行、十四段。一箇月七十錢(十五、十、二十九)

元山每日新聞 元山府京町八〇。(電)八〇〇、五五〇三七、九一二。株式。二十萬圓。(社史)明治四十二年一月一日の發刊、昭和十二年四月一日より株式會社として經營今日に至る夕刊八頁。(地方版)成興版。(社長)西田京二。(編輯)土屋幹夫(東京支局)漆原一衛。(大阪支局)岡本太郎。(機械)マリノニ一式輪轉機一、十六頁平盤二、活字鑄造機、ステロ、寫真版設備有り。(活字)七ボ、十四字、百五十三行、十四段。一箇月一圓。(廣告料)一圓五十錢、場所

北鮮時事新報

成興府本町三ノ三六。(電)五五〇。個人經營。十萬圓。(社史)明治四十一年十二月四日成興民友新聞として創刊、同四十二年成南新聞と改題、大正八年現社屋を新築昭和四年北鮮時事新報と改題、輪轉機寫真製版機等工場の大刷新を行ひ、十二年八月更に色刷機を据付け今日に及ぶ。夕刊六頁。(版數)一。(社長)畑本逸平(主幹)八谷賢次。(編輯)戸田弘毅。(營業)主幹(兼)。(廣告)大島淳一。(販賣)金良信。(東京支局)柳澤篁治。(大阪支局)同。(機械)マリノニ式輪轉機一、二十四頁掛平盤一、八頁掛二、色刷機一。ステロ、寫真版設備あり。(活字)七ボ、十四字、百五十七行、十四段。一箇月一圓。(廣告料)一圓五十錢、特別面三圓。

清津日報

清津府浦項洞八一。(社史)明治四十年八月一日

鳴江日報

新義州府常盤町五ノ一。(電)五二四、三〇三。株式。四萬五千圓。(社史)明治三十九年十二月一日創刊。夕刊四頁。(部數)十四年十月一日現在一萬四百二十七號。(社長)加藤鎮治郎。(副社長)神保信吉。(監査役)中込精一。(支配人)渡邊眞一郎。(主幹)小川延吉(編輯)渡邊眞一郎。(營業)岡本茂(廣告)黒田彌四郎。(販賣)朴炳

中鮮日報

大田府本町一ノ五〇。(電)一〇〇、二〇〇、三〇〇

滿洲報協會

初め二百萬圓の資本で發足した滿洲報協會は、其後事業の擴大と共に内部施設の強化が必要となり、十二年(康德四年)七月百萬圓、十四年二月二百萬圓、十五年六月更に三百萬圓を増資し、現在は資本金八百萬圓で、その資本引受内譯は、滿洲國政府がその約八パーセント、残りは滿鐵及び電々會社の出資である。加盟各社は所謂ホールディング・カンパニーたる協會に資本的に統制管理され、協會はこの資本と政府年々の補助金により加盟社の全株若しくは過半数株を所有し、これが親會社たる役目を遂行してゐる。そして一方政府情報處及び軍(報道班)の監督支援を受けると同時に、傘下の加盟社を指導し、その機能を遺憾なく發揮せしむる爲め、毎月全加盟社の首腦者及び幹部を招致して關係當局の出席を求め、國策宣傳の完璧を期すると共に業務上の緊密なる連絡をとつてゐる。即ち、

社長會議、編輯責任者會議を開いて國策遂行への協力、重要ニュースの統制を遲滞なく實施し、又營業責任者會議に於ては經營の合理化―營業部門の協定、資材の共同購入を行ひ、其他通信網の動員糾合、人事の交流配備、職員従業員の特遇等のこともすべて協會を中心とする責任代表者の會議、決定指令によつて圓滑敏速に處理される。協會は初代理事長高柳保太郎君を経て現在は森田久君がその任にあり、又機構は十二年七月編成が改正され、十三年十二月にも職制一部の改正を見、現在は次の如くである。

滿洲國

(關東州を含む)

滿洲の新聞統制

滿洲國は各種民族の複合國家であるがために、その國策遂行上の必然的政策として早くから國內の言論統制を實行した。昭和七年(大同元年)十二月一日、一國一通信

社主義の大方針に基き、滿洲國通信社が國策通信社として設立されたが、それは内地の同盟通信(昭和十一年一月一日の創立)に先立つこと数年である。又今日滿洲に於ける弘報宣傳の總司令部たる滿洲報協會も、言論統制の實行機關として設立されたもので、時は昭和十一年(康德三年)四月七日、勅令第五十一號を以てその設立の件を公布し、その第一條に「政府は新聞、通信その他弘報事業の健全なる發達を遂げしむるため株式會社滿洲報協會を設立せしむ」と規定し、同年九月二十八日、政府、滿鐵、滿洲電信電話株式會社の出資により、資本金二百萬圓を以て同協會の設立を見たのである。而して創立第一次の加盟社としてその統制下に屬したのは、直營一通信外八新聞社であつたが、其後年と共に擴大され十五年五月現在では一通信十七新聞社一印刷所となり、その經營下にある新聞は日文十紙、滿文九紙、諺文一紙、英文一紙、露文一紙計二十二紙(小型紙を含まず)に及び、尙若干非加盟紙を残すと雖も、在滿日刊四十三

指定二割増。十五年六月六日前社長西田常三郎君決心症の爲の長逝す、享年六十一。北鮮時事新報 成興府本町三ノ三六。(電)五五〇。個人經營。十萬圓。(社史)明治四十一年十二月四日成興民友新聞として創刊、同四十二年成南新聞と改題、大正八年現社屋を新築昭和四年北鮮時事新報と改題、輪轉機寫真製版機等工場の大刷新を行ひ、十二年八月更に色刷機を据付け今日に及ぶ。夕刊六頁。(版數)一。(社長)畑本逸平(主幹)八谷賢次。(編輯)戸田弘毅。(營業)主幹(兼)。(廣告)大島淳一。(販賣)金良信。(東京支局)柳澤篁治。(大阪支局)同。(機械)マリノニ式輪轉機一、二十四頁掛平盤一、八頁掛二、色刷機一。ステロ、寫真版設備あり。(活字)七ボ、十四字、百五十七行、十四段。一箇月一圓。(廣告料)一圓五十錢、特別面三圓。

次現在の陣容は
理事長 森田久
理事 三浦義臣
同 中島俊雄
同 宮脇襄二
同 姚任
同 松本豊三
同 平島敏夫
庶務課 藤田久
人事課 三浦義臣
弘報課 中島俊雄
業務課 宮脇襄二
經理課 姚任

同 前田 直造
 監事 中川 増蔵
 同 北村 三郎
 顧問 高柳保太郎
 庶務課長兼人事課長 實性 確成
 弘報課長 本橋 壽一
 業務課長 田中總一郎
 經理課長 伴野 大造
 協會加盟の各紙
 十五年五月現在の弘報協會加盟
 社は次の如くである。

東滿新聞社(日文、延吉)
 滿洲新聞社の經營、別に東滿
 時報(滿文)を經營す。
 奉天日報社(滿文、大連)
 盛京時報社(滿文、奉天)
 別に月刊附録小時報を經營す
 大同報社(滿文、新京)
 別に實話報(滿文)を經營す。
 大北新報社(滿文、哈爾濱)
 盛京時報社の經營、別に午報
 (滿文)を經營す。
 錦州新報社(日文、錦州)
 盛京時報社の經營、別に遼西
 晨報(滿文)を經營す。
 三江報社(滿文、佳木斯)
 別に三江日日新聞(日文)を發
 行す。
 熱河新報社(滿文、承德)
 別に日文版を發行す。
 マンチユリヤ、デリー、
 ニュース社(英文、新京)
 ハルビンスコエ、ウレミヤ社
 (露文、哈爾濱)
 露文日報(鮮文、新京)
 東滿日日新聞社(日文、牡丹江)
 別に東滿報(滿文、小型、目下
 五日一回發行、近く日刊
 となる豫定)を經營す。

右各紙の外、協會加盟社に大同印
 刷所、及び滿洲經濟社がある。後
 者は十五年二月一日、新京に創立
 され、五萬圓の株式會社で月刊雜
 誌滿洲經濟を發行する。社長は藤
 川靖夫君。事務所を新京特別市中
 央通り四三に置く。

滿洲國通信社
 滿洲國通信社は、昭和七年十二
 月一日の創立にかゝり、十一年九
 月弘報協會の創立と共にこれに加
 盟し、十二年七月一日を以て獨立
 した。一般には國通と略稱され
 る。日本に於ける同盟と同様、一
 國一通信社主義の大方針の下に創
 立せられた國策通信社で、十二年
 四月十二日同盟との間に姉妹關係
 の契約が成立し、次の諸點に於て
 特殊關係が結ばれるに至つた。
 人事の交流、國通の社員は日本
 及び支那に於ては出向社員として
 同盟の籍内に入り、同盟の社員は
 滿洲に於ては出向社員として國通
 の籍内に入り、相互の支配者の指
 揮の下に各業務に従事する。
 出先支局の通信業務委譲、從來
 國通は内地は東京、大阪に支社を
 有し独自の立場で取材その他の通

電中心の通信網を國內縱横に張り
 めぐらしてあるが、安東、奉天間
 の無裝荷ケーブル線の完成により
 日、鮮、滿を結ぶ直通電話が完備
 し、國內では大連、哈爾濱間の電
 線増設工事が進捗し、十四年二月
 十日大連、奉天、新京間の直通電
 話が開通した。又奉天より東京、
 大阪間の電送寫眞は十四年十月一
 日から一般に開放される事となつ
 た。(國通については一覽篇参照)

開中心地は南から大連、奉天、新
 京、哈爾濱を四大中心地とし、外
 に安東、齊々哈爾、吉林、營口撫
 順、佳木斯、牡丹江其他を擧げる
 事が出来る。而してその主要都市
 の人口は十三年十二月末現在は大
 連市(總計) 五三三、六九九
 内地人 一六〇、九四七
 奉天市 八一〇、四六五
 日 系 一一九、八一八
 新京特別市 三七八、二四二
 内地人 八二、一一七
 哈爾濱市 四六〇、二〇六
 内地人 二八、二二八
 白系露人 二四、七二八
 蘇聯人 四、四五七
 吉林市 一三一、一一三
 内地人 一〇、九二五
 齊々哈爾市 九七、四一八
 日 系 一〇、〇三七
 安東市(十三年六月一日現在)
 二一〇、八三二
 内地人(概算) 一七、〇〇〇
 半島人(同) 一七、〇〇〇
 營口市 一五二、六四四
 内地人 五、五九九
 錦州市 一〇九、九七九

内地人 九、四七四
 鞍山市 二六、九七〇
 内地人 二七、五四四
 遼陽市(概算) 一〇〇、〇〇〇
 内地人 六、〇〇〇
 撫順市(同) 二一〇、〇〇〇
 日 系 三五、〇〇〇
 鐵嶺市 五〇、七七三
 内地人 三、二六六
 佳木斯市(概算) 八〇、〇〇〇
 日 系 五、一二七
 牡丹江市 一〇一、七〇六
 内地人 一四、八五七
 半島人 一七、三一二
 而して新聞の購讀率は十五年二月
 某新聞關係業者の報告によれば邦
 字紙は邦人四名に對して一部、滿
 文紙は滿人三百名に對して一部の
 割合である。

四大新聞中心地
 四大中心地の第一大連は、大滿
 洲國の關門、人口百二十一萬五千
 (うち内地人十七萬九千)の關東州
 の中心として重要な位置を占め、
 此處に邦、滿、英文三紙が發行さ
 れてゐた。然るに十三年十二月、
 邦文滿洲日日新聞は本社を奉天に
 移し、十四年十月には英文マンチ

ユリヤ、デリー、ニュースが新京
 に移轉した。滿日が奉天に移つて
 より一箇年、同社は奉天と共に
 此地に同名、同頁、同實質の新聞を
 印刷發行しつゝあつたが、十五年
 七月一日大連滿洲日日新聞は大連
 日日新聞と改題して關東州の特殊
 事情に即應することとなつた。ま
 た滿文奉天日報は十二年七月滿洲
 報、關東報の兩紙を合併して以來
 格段の勢力を加へ、斯くして邦滿
 兩文二大新聞を擁する大連市は、
 依然として重要な新聞中心地の
 一つとなつてゐる。第二中心地の
 奉天は南滿洲の中樞として早くか
 ら多數の新聞があつたが、弘報協
 會の統合によつて現在に滿洲日日
 奉天毎日の二邦文紙及び滿文盛京
 時報の外見るべきものはない。奉
 天毎日弘報協會外に立つ第一の
 有力紙で、部數一萬前後と推定さ
 れ、滿日の進出を迎へてその經營
 に一段の活氣を加へた。盛京時報
 は明治三十九年の創刊早くから滿
 洲第一の漢字紙として認められて
 ゐる。第三中心地の新京は新滿洲
 國の首都として勢ひ隆々、此處に
 邦文二種、滿文一種、鮮文一種及び

英文一種がある。一邦文紙の外は悉く弘報協會に屬し、邦文滿洲新聞は全滿席捲の意氣に燃え、滿洲大同報、鮮文滿洲日報及び英マンチウリヤ・デーリー・ニュースはそれ／＼首都の國策紙として健實な分野を持つ。大同報は元支那人の經營したのが滿洲事變後日系滿人の手に移り、更に滿洲國より補助を受けた純然たる滿洲國機關紙となつたものである。第四中心地の哈爾濱は、國際都市として多數の外國人(主に露人)が在住し、新聞も日、滿文の外多くの露文紙が發行されてゐたが、今は弘報協會支配下のヘルピン・スエ・ウレミヤの外露文紙の見るべきものなく邦文では哈爾濱日日、滿文では大北新聞及び午報が弘報協會に屬し、邦文哈爾濱新聞が獨り在野の機關として残つてゐたが、十四年十一月三十日限り廢刊した。(尙同社前社長、大河原厚仁君は二千六百年祝典に際して在外功勞者として表彰さる)。又露文紙ザリヤは加盟外紙だが統制方針を遵守する立場に置かれてゐる。

の安東新聞、安東時報(邦文及び滿文)、牡丹江の東滿日日新聞(邦文)、吉林の吉林新聞(邦文及滿文)撫順の撫順新報(邦文)等を擧げることが出来る。

尙十四年十一月、政府及び弘報協會は國策徹底の爲め、全滿各省に對し、滿文一省一紙を實施すべく決定し、着々その歩を進めてゐる。尙又十六年度から新たに蒙古新聞を發行して蒙古人に廣く配布する計畫があると傳へられる。

移入紙の概況

滿洲各地の移入紙は、大朝、大毎を第一とするが外に東朝、讀賣、東日、中外商業、福日等も入つて居り、十四年八月大連方面某官憲の推定は次の如くである。但しこれ等の數字は何れもそのまゝ、信ぜらるべきではない。

大阪朝日	七、八五三
大阪毎日	六、六七八
讀賣新聞	一、五八二
東京朝日	一、五二二
華文毎日	一、〇一五
東京日日	七、一八
日本工業新聞	五、五九
大毎小學生新聞	四、二八

中外商業 三一
日刊工業新聞 二七一
福岡日日 二七一
報知新聞 一五三
都新聞 一一八
英文毎日 一一六

尙滿洲より他地方への移出は滿洲新聞の日本版をはじめ、滿日其他の北支方面への移出もあり、相當數に上る模様である。部數の増加にも拘はらず用紙節約は此處でも免かれ難く主要滿文紙は十六頁建から十二頁となり、邦文紙のあるものは適宜減頁を實施しつゝある併しその國策的特殊使命に鑑み十五年度には用紙の新制限はなく、寧ろ新規配給増量要求の中若干は認容せられたやうに傳へられてゐる。

大連

大連日日新聞

滿洲日日新聞 滿洲日日新聞社大連支店發行。大連市東公園町三十一。(電)二一六三。四八(庶務部)。株式。七十五萬圓。(社史)は奉天に於て發行する滿洲日日新聞の姉妹紙である。滿洲日日新聞は明治三十八年十月二十五日大連市に於て創刊、昭和二年遼東新聞を合併し題號を滿洲日報と改題、昭和十年八月大連新聞を合併して再び滿洲日日新聞の題號に復歸す。十五年十一月一日現在一萬二千四百五十二號。(部數)三十萬部。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)四版。(地方版)四種。(社長)松本豐三。(現業重役)米野豐實、鍋田覺治、湯畑正一、松岡功。(主幹)(兼)湯畑正一。(編輯)山内一郎。(整理)堤治三郎。(調査)大井憲照。(取材)島田一男。(東亞)島野進治。(運動)熊田敏夫。(營局)武田鈺(販賣)武田鈺(兼)。(廣告)森本長治。(總務)松井一之祐。(經理)長山梅吉。(東京支局)中澤不二雄。(大阪支局)和氣傳。(社員)六百二十名。(工場員)六百八十名。(機械)高速度輪轉機四。活字鑄造機二十。(內十臺印刷所

機、ステロ、寫眞版完備。(活字)六・三、十五字、百七十五行、十五段。一箇月一圓三十五錢。小學生開閉十錢。(廣告料)一圓五十錢、場所指定五割増。(兼營)印刷所、滿洲年鑑(年一回)其他單行本、叢書類。(十五、十、廿九)。

最近一年間に、大陸開拓精神叢書の刊行、一、滿蒙開拓青年義勇隊隊母國訪問奉納演奏並に行進、一、日本野球聯盟招聘、一、公式滿洲リーグ戦等を行ふ。

十五年四月次の異動を行ふ。

工務部長とす 山田 峰吉

同七月一日より滿洲日日新聞大連版を現題に改稱す。

同八月改題記念として十年後の關東州論文及び滿洲の民族融和を主題とする讀物を懸賞募集すそれ／＼當選一名五百圓。

同十一月元販賣部長加藤松吉君退社し同社本部直營所を經營することゝなる。

泰東日報

(滿文) 大連市飛鷹町六七。日滿合辦株式會社。三十萬圓。(社史)明治四十一年(光緒三十四年)十一月三日創刊

金子雪齋を社長に推戴大連華商幹部の出資により北京政府並に奉天政權に對する嚴正なる批判と文化の普及による民族の協和を目的として創刊、大正十四年二月日滿合辦株式會社に改組、三月風見章氏社長就任。十二年十月限り滿洲報、關東報兩紙を廢刊して合併、弘報協會に加盟す。朝刊十二頁。(版數)二版制。(附錄)日語小報(日刊)。(地方版)北滿版、冀東版。(社長)高柳保太郎。(取締役)劉仙洲、曲模亭、郭習楷、井口陸造、張本政、大西秀治。(監査役)三浦義臣、邵慎亭。(主幹)大西秀治。(支配人)井口陸造。(編輯)大西秀治。(營局)同。(東京支局)國通支社。(大阪支局)國通支社。

(機械)高速度輪轉機三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)九ボ、十二字、百二十行、十四段。一箇月一圓三十錢。(廣告料)一圓二十錢。(兼營)週刊新聞新報(一頁兩面刷)毎月曜日發行)年刊滿入商工案内。

奉天

滿洲日日新聞

奉天市大和區協和街四段。(電)代表二一四六一。株式。七十五萬圓。(社史)明治三十八年十月二十五日創立、昭和二年十一月遼東新聞を合併し題號を滿洲日報と改題、昭和十年八月大連新聞を合併して再び滿洲日日新聞の題號に復歸す。十五年十一月一日現在一萬二千四百五十二號。(部數)三十萬部。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)四版。(地方版)四種。(社長)松本豐三。(現業重役)米野豐實、鍋田覺治、湯畑正一、松岡功。(主幹)(兼)湯畑正一。(編輯)山内一郎。(整理)堤治三郎。(調査)大井憲照。(取材)島田一男。(東亞)島野進治。(運動)熊田敏夫。(營局)武田鈺(販賣)武田鈺(兼)。(廣告)森本長治。(總務)松井一之祐。(經理)長山梅吉。(東京支局)中澤不二雄。(大阪支局)和氣傳。(社員)六百二十名。(工場員)六百八十名。(機械)高速度輪轉機四。活字鑄造機二十。(內十臺印刷所

用)鉛版鑄込機三、寫眞製版機三。(活字)六・五、十五字、百七十五行、十五段。一箇月一圓三十五錢。(廣告料)一圓五十錢、場所指定五割増。(兼營)大連支店に於て大連日日新聞を發行す外小學生新聞(日刊)、滿洲年鑑(十五、十、三十)。

十四年十二月前國民主筆山内一郎君論說委員長として入社す

十五年元旦號より十四字十五段制をとす。

同一月金崎賢君の論說委員長を解き山内一郎君を後任とし出版部長田中總一郎君を弘報協會出向として横田市治君をその後任とす。

同一月論說委員長山内一郎君編輯局長兼務となる。

同一月總務局長南里順生君は奉天本社事業部長事務取扱兼務となる。

同二月二千六百年記念として大陸開拓精神叢書第一輯を發行す、以下毎月一二冊を發行三ヶ年年を以て完了の豫定。

同二月二十日社長村田鑑磨君退き松本豐三君後任となる。

同三月經理局長早川與之吉君退社す。
 同三月次の異動を行ふ。
 營業局長 橋本喜代司
 營業局長を免じ社長室勤務とす
 總務局長 南里 順生
 總務局長を免じ同前
 事業部長とす 島田 一男
 同三月各局の職制を改めついで次の異動を行ふ。
 取締役兼新京支社長 兼務を解く 芝田 研三
 大連編輯局長 神藏 重勝
 新京支社長とす 後藤 和夫
 大連編輯局長とす 島屋 進治
 東亞部長兼論說委員とす 島田 一男
 事業部長 吉田 凱
 取材部長とす 熊田 敏夫
 取材部長とす 熊田 敏夫
 運動部長とす 増田 情一
 大連政経部長 田上 學
 同社部長とす 春田 義信
 同部長とす 森澤 忠昌
 同聯絡部長

同編輯局庶務課長とす 政經部長 福田 政藏
 新京支社通信部長とす 營業局長兼販賣部長 武田 鈞
 同四月創刊三十五年及び二千六百年祝賀として次の六大事業を発表す、大陸開拓精神叢書、大陸都市早廻り競争、滿蒙開拓青年義勇喇叭鼓隊、日本野球聯盟招聘、二千六百年講座、母國聖地巡拜團募集。
 同五月七日より小學生新聞(週刊)を日本全國小學生に寄贈す。
 同五月次の異動を行ふ。
 大連印刷所營業部長とす 青山鐵十郎
 學藝部長兼出版部長 横田 市治
 大連支社編輯局勤務とす 大連調査部長 小笠原 勝
 小學生新聞部長とす 大連編輯局長 後藤 和夫
 學藝部長兼出版部長、大連支社調査部長とす
 同五月北支販賣店主により北支滿日會結成さる。

同六月販賣部長武田鐵君營業局長心得となる、販賣部長如故
 同六月取締役芝田研三君の滿鐵轉出、細野繁勝君の任期満了により滿日印刷所長鍋田覺治、滿鐵總裁室調査役岡功君新たに取締役に選任され、芝田君は社外取締役に任ぜらる。
 同六月次の異動を行ふ。
 東京支社長兼大阪支社長 山崎 卓雄
 本職並に兼職を解き顧問とす 元滿鐵支社弘報課 中澤不二雄
 入社、東京支社長とす 大阪支社通信部長 和氣 傳
 大阪支社長とす
 同七月一日より大連版を大連日日新聞と改稱す。
 同七月一日より從來無料頒布した小學生新聞は一ヶ月十五錢の有代となる。即ち本紙とも合せ一圓五十錢。
 同七月二十四名の寄稿陣による『直言』欄を夕刊に新設す。
 同七月次の異動を行ふ。
 印刷所副所長 吾妻 力松

印刷所長とす 武田 鈞
 營業局長心得 大連支店編輯局長兼學藝部長 後藤 和夫
 調査、出版部長兼務を解く 大連支店會計部長 長山 梅吉
 大連支店用度部長事務取扱兼務とす 福富 八郎
 大連支店出版部長とす 田上 學
 小學生新聞部長とす
 同八月東京支社顧問山崎卓雄君依願退社す。
 同九月より毎週月曜及び木曜日付朝刊を四頁とす。
 同九月滿日社歌成る。
 同九月次の異動を行ふ。
 大連支店經理部長 長山 梅吉
 經理部長とす 谷澤 旭
 工務部長とす 堤 治三郎
 同十月巻取紙倉庫並に變遷所の新築に着手す。

奉天毎日新聞

奉天市大和區十間町四。(電)二二〇五七、二八五六、二八五七、三三二六、三四五六、四五六六。個人。五十萬圓。(社史)明治四十年七月一日創刊、十五年十一月一日現在一六〇二號。朝刊四頁。夕刊八頁。(版數)二。(社主)松宮琴子。(支配人)尾本捨次郎。(理事)高味萬之助。(編輯)河野晃次郎。(社長)牧野勲。(整理)河野晃次郎。(社會)市橋辰雄。(政治)岩淵平作。(經濟)中島太郎。(營業)支配人兼任。(廣告)本間基市。(同次長)中村到。(販賣)淺川政夫。(工務局)井手濟。(東京支局)深田龜太郎。(大阪支局)同。(社員)二百二十名。(工場員)九十五名。(機械)高速色刷輪轉機二。活字鑄造機、ステロ、寫真版全部有り。(活字)六・七、十四字、百六十三行、十五段。一箇月一圓三十五錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓。(十五、十一、一)
 同十五年十月編輯局長山中正夫君退社す。
 同十月九日副社長杉山嘉雄

盛京時報

君大連に於て病歿す、享年五十二。
 同十一月改題二十周年を迎へ十日から新活字による十五段制となる。
 盛京時報(滿文) 小時報(滿文) 盛京時報社發行。奉天市大和區隔田町九。(電)二二〇二二、二一五七六一、二一八九七、二一三二八二。株式。三十五萬圓。(社史)明治三十九年十月十八日滿洲最大の滿文紙として日露戰役直後日本帝國の滿洲經營に對する側面的宣化機關として創刊、昭和十五年十月二十九日現在。朝刊八頁。夕刊四頁。小時報四頁(小型)。(地方版)大連版、新京版、濱江版。(社長)染谷保藏。(主幹)東光明。(主筆)菊池貞二。(編輯)酒家重好。(整理)菅野祐吉。(營業)東光明。(局次長)高橋清孝。(庶務)山崎彰。(廣告)高橋清孝。(經理)香掛敦男。(販賣)劉廷芳。(用度)遠藤光司。(東京支局)松本七五郎。(大阪支局)瀬戸保太郎。(社員)八十名。(工場員)百三十名。(機械)マリノニ式高速

度輪轉機三。鑄造機一、ステロ二、寫真版有り。(活字)九ボ一箇月一圓三十五錢。(會費)普通印刷物、運動年鑑、その他書籍。(十五、十、二十八)
 最近一年間に訪日學童使節團日本派遣、全滿足球大會、新京一吉林マラソン大會、文化賞、體育賞、科學賞、審査、贈呈を行ふ。
 同十五年四月次の異動を行ふ。
 大連支社長 市橋 太郎
 大北新報主幹とす 榎原德三郎
 營業部長 大同報廣告部長とす 遠藤 光司
 大北新報 盛京時報用度部長とす
 同七月より用紙節約の爲十二頁を八頁建とす。
 同十一月二千六百年祝典に際し染谷社長在外功勞者として表彰さる。
 醒時報(滿文) 奉天市小南門外創刊明治四十二年一月二十一日個人經營。一萬圓朝刊八頁。(社長)死亡缺。(編輯)張反塵。(機械)平整四。(活字)九ボ、十二段。一箇月八十錢。(廣告料)一

新京

滿洲新聞

同教徒の機關紙。
 滿洲新聞 新京特別市中央通四四。(電)代表三一六一一。株式。七十萬圓。(社史)明治四十三年一月一日長春日報として創刊其後幾多の變遷を経て昭和十三年十月十一日現稱となる。十四年一月日支間島新聞、滿文延邊晨報を買収間島新聞を「東滿新聞」、延邊晨報を「東滿時報」と改題僚紙として經營せり。朝刊八頁。夕刊四頁。日本版四頁(地方版)南北。(取締役社長)和田日出吉。(同主幹)笠神志都延(取締役)三浦義臣、伴野大造、實性確成。(監査役)中島俊雄。(編輯次長)能勢政秀。(編局次長兼政經)森崎實。(總務局兼事業)和木本久。(經理局)名越福治。(論說委員長)主幹兼任。(整理)井上圓三。(社會)江崎利雄利雄。(學藝)山田清三郎。(營業)村田攪雄。(販賣)荻原治郎(廣告)井石壽一。(東滿新聞社主幹)八木市松。(東京支社)西

部健商。(大阪支社)太田勝二。(奉天支社)進藤與吉。(大連支社)武井吉光。(ハルビン支社)森田甲子三。(吉林支社)小川金之助。支局外に九十一。(社員)三百三十一名。(工場員)二百三十三名。(機械)高速度輪轉機四、ローリングマシン一、萬能鑄造機七、其他附屬機械一切、寫眞版設備完備。(活字)六・三、十五字、百七十五行、十五段。一箇月一圓三十錢。日本版一箇月五十錢。(廣告料)一圓五十錢、特別圓。(兼營)東滿新聞(日刊日文)、東滿時報(同滿文)、コドモ滿洲(月二回)、カメラ滿洲(月刊)。

誌は週刊タブロイド制十六頁となる。
 ■同二月滿洲作家古丁、外交、小松の三君を日本に派し日本文壇に紹介す。
 ■同二月三局の統轄部課を決定營業局は廣告部、販賣部、總務局は事業部、庶務課、出版部、秘書課、經理局は會計部、用度課を統管す。尙局長はそれ、村田、和久木、名越福治君である。
 ■同三月十二日東京に於て記者採用試験を行ふ。
 ■同四月より地方版を南北に兩分す。
 ■同四月十五日東京支社主催の滿洲訪問東京商工視察團第一班二十名出發す、五月五日歸京。
 ■同五月四日商工視察團第二班二十一名東京を出發す。
 ■同六月英、佛、獨文により季刊海外版『滿洲』を發刊す。
 ■同六月山田清三郎君學藝部長となる。
 ■同七月十五日より二十日まで夏季大學を開催す。
 ■同九月九日全社員會議を招集

し和田社長より滿洲新聞の動向に就いて訓示し全滿新體制指導に勉て起つ。
 ■九月次の異動を行ふ。
 編輯局長 能勢 政秀
 整理部長兼務を解く 森田甲子三
 整理部長とす 江崎 利雄
 社會部長 太田 勝巳
 説論委員とす 杉森與平治
 大阪支社長とす 杉森與平治
 大阪支社長を解く 森田甲子三
 整理部長 森田甲子三
 政經部長 森崎 實
 編輯局長兼政經部長とす 井上 圓三
 整理部長とす
 ■同十月社長直屬の指導委員會を設計同社の運営に關し一切の企畫指導する事となる。
 ■同十月二十八日及び二十九日一萬號記念祝賀を大阪及び東京に行ふ。

市永樂町四丁目一。(電)(編輯)三、三二二五、(營業)三、三三〇〇。個人經營。二十萬圓。(社史)大正九年十一月十五日創刊長春實業新聞と稱し夕刊四頁發行し昭和七年長春が新京と稱せられるに及び新京日日新聞と改題同時夕刊四頁朝刊八頁發行現在に至る朝刊四頁。夕刊四頁。(社主)城島德壽。(社長)同。(主幹)十河榮忠。(編輯)豊村胤。(總務)恒松太郎。(經理)瑞健。(廣告)立川義澄。(同次長)池田款一。(販賣)宮地好男。(東京支局)松本七五郎。(大阪支局)瀬戸保太郎。(社員)五十六名。(工場員)九十六名。(機械)マリノニー式二、萬能鑄造機二。(活字)六・七、十三字、百六十三行、十六段。一箇月一圓。(廣告料)一圓五十錢、指定料二圓五十錢、(十五、十一、廿)十五年春城島舟禮君社長に就任し六月退任す。
 ■同十一月日曜夕刊に隣保組織強化の爲め地區版を新設す。

大同報 (滿文) 新京特別市東六馬路。(電)二二〇九六。株式。十二萬一千圓。(社史)大

同元年(昭和七年)三月一日滿洲國建國と同時に新京東六馬路に創立され、康徳三年八月滿洲弘報協會加盟社となり、株式會社に改組、社長に染谷保藏氏就任同四年九月朝夕刊實施、翌五年五月下層大衆の要望に副ひ小報「實話報」を發刊、康徳七年九月一日現社長大石智郎氏社長に就任、内部機構の刷新を斷行す。十五年十月一日現在三〇七一號朝刊四頁。夕刊八頁。(地方版)吉林版。(取締役社長)大石智郎。(常務)福島潔。(現業重役)寶性確成、中島俊雄、姚任。(編輯)岩下輝夫。(同次長)西村二三彦(編輯總務)楊華亭。(論說委員)柏式訓。(整理)梁世録。(取材)兼)西村二三彦。(學藝)弓文字(調査)傳鐵夫。(業務局)福島潔(人事)島田稻喜。(廣告)榎原徳三郎。(庶務)松山喜輝。(販賣)衣實田。(經理)吉田榮作。(事業)兼)西村二三彦。(用度)大住明(工務)寺畑海二。(東京支社)田中寛次。(大阪支社)岡部秀二。(社員)百八十名。(工場員)九十名。(機械)マ式輪轉機三。活

字鑄造機、ステロ、寫眞版有り。
 (活字)九・一、十一字、百二十行、十四段。一箇月一圓三十錢。(廣告料)一圓。場所指定二圓。(兼營)小報「實話報」發行部數四萬三千份。(十五、十一、一)十四年十二月十四段となる。
 ■十五年四月前盛京時報營業部長榎原徳三郎君廣告部長となる
 ■十五年八月三十日總會に於て取締役長染谷保藏君辭任して取締役主幹大石智郎君その後任となり、又取締役三浦義臣君退き營業局長福島潔君後任となる。
實話報 (滿文) (大同報社の經營) 新京。創刊十三年五月。小型四頁。(部數)十五年十一月現在四萬三千部。(活字)九・九、九字、五十八行、八段。(廣告料)一圓五十錢。

の指導機關として昭和八年八月二十五日設立せられたるものにして現在滿洲弘報協會の加盟社となり、創刊當時より滿蒙日報として四面の新聞であつたが、十二年十月二十一日を以て滿蒙日報と改號と同時に八面に増頁す尙昭和十一年十一月間島朝鮮人新聞間島日報を買收し、本社間島支社として間島版を出刊しありたるが、滿蒙日報と改號と同時に間島支社を廢止し本社と合併せり。朝夕刊八頁。(部數)十一年九月三十日現在二萬部。
 (代表取締役)李性在。(取締役)姚任、山口源二、三浦義臣、寶性確成。(監査役)中島俊雄。(主幹)山口源二。(顧問)崔南善。(編輯)洪陽明。(編輯)朴八陽。(整理)洗享澤。(社會)田榮雨。(地方)金雨混。(營局)李性在。(庶務)黃韓虎。(經理)金現俊。(販賣)李敬白。(廣告)金泰東。(東京支社)平澤恂。(大阪支社)藤原益夫。(社員)九十五名(工場員)五十三名。(機械)輪轉機一。鑄造機二。(活字)七・十、四字、百五十行、十四段。一箇

月一圓。(廣告料)百九十五圓、場所指定二百四十圓、特別面二百九十二圓五十錢。(兼營)通化愛國民報、諺字壁新聞。
 ■十四年末來各地支局の陣容を整備す。
 ■十五年十月次の異動を行ふ。
 編輯局長 洪 陽 明
 編輯局長とす 洗 享 澤
 政經部長とす 李 甲 基
 整理部長とす 藤 原 益 夫
 調査部長とし依頼解職囑託とす 入 社
 大阪支社長とす

マンチユリア・デイリー・ニュース (英文) 新京特別市八島通三二。株式。十萬圓。(社史)明治四十一年一月十七日大連に創刊、當時の滿鐵社員濱村善吉氏が滿鐵側の後援に依り創業、昭和八年三月高柳保太郎氏社長十一年四月弘報協會下に入る。同年八月古城胤秀氏社長、十三年十二月現社長就任、十四年十一月一日新京に移る。朝刊八頁。(版數)一。部數)十二年九月末日現在四千部。

(社主)滿洲國報協會。(社長)小野敏夫。(專務)太原要。(取締役)三浦義臣、實性確成、芝田研三。(監査役)中島俊雄。(支配人)太原要。(編局)中野昇。(半月刊編輯主任)白井同風。(整理)窪田正直。(校正)守瀬與三吉。(支配人代理)小山市郎。(販賣)越田喜久男。(廣告)向井楠男。(印刷)小山市郎。(經理)下里德太郎。(工場)荒木篤。(東京、大阪支局)國通支局長兼任。(東京駐在員)今瀬清。(機械)三十二頁二回轉式平盤機(ヒーター付)二、十六頁二、八頁一、六頁一。ライノタイプ機五。活字鑄造機一。(活字)七、八欄。一箇月一圓五十錢。(廣告料)一時四圓(兼營)半月刊「マンチュリヤ」、半月刊「時文英語學習號」各種印刷物。

十五年六月末總會に於て次の如く重役選任さる。
取締役社長小野敏夫、取締役太原要、三浦義臣、實性確成(以上重任)、芝田研三(新任)監査役中島俊雄(重任)

哈爾濱
哈爾濱日日新聞

濱埠頭區地段街二號。(電)五四五六(代表)。株式。二十萬圓。(社史)大正十年十二月十日初代社長兒玉右二氏に依り創刊、舊東北政權時代久しきに亘る支那官憲の酷烈排日的迫害にめげず續刊、昭和十一年滿洲報協會加盟紙となり十四年十一月三十日哈爾濱新聞の廢刊によりその地盤を接受し今や北滿唯一の日字紙として報道報國に邁進しつゝあり。十五年十一月五日現在六千三百三十八號。(部數)五萬部。朝刊八頁。夕刊四頁。(社長)寒河江堅吾。(編局)森澤忠昌。(取材)浦瀬太郎。(調査)平田滋。(整理兼筆寫)加藤齡明。(營業)下村豐吉。(廣告)同。(東京支局)多田一郎。(大阪支局)森久。(社員)百十五名。(工場員)七十五名。(機械)哈爾濱日式高速度輪轉機。萬能活字鑄造機三。(活字)六、三、十五字、百七十五行、十五段。一箇月一圓三十錢。(廣告料)一圓二十錢。場

大北新報

(滿文) 哈爾濱地段街二號。(電)五二七一、五二七二、三三〇三、四三四六。株式。三十五萬圓。(社史)大正十一年十月創刊、四頁發行、昭和七年六月八日に擴大、十一年八月滿洲報協會に加盟、十二年九月午報社を接收兼營す、同時に本紙は十頁に擴大十三年十月新社屋竣工と同時に移轉す、十三年六月牡丹江に東滿支社を開設東滿版發行、十四年九月北安支社を設置し北安版發行。朝刊十二頁。(版數)二。(地方版)東滿版、北滿版、北安版。(部數)十三年十月一日現在二、〇〇〇部。(社長)山本久治。(取締役)三浦義臣、築谷保藏、菊池貞二。主任。(主幹)市橋太郎。(編輯)郭趾祥。(取材兼整理)劑孔璋。(原稿)譚鐵錚。(翻譯)喬再天。

午報

(滿文) 大北新報社發行、哈爾濱市埠頭區地段街二號。(社史)創刊大同二年八月二十五日康德四年九月大北新報社の兼營となる。夕刊小型四頁、一箇月八十錢。

濱江日報

(滿文) 哈爾濱市道裏經緯街水道街拐角九號。(電)二七七九、三一七〇。個人經營。

所指定二割増。(十五、十一、十)

十五年十一月、從來佳木斯新聞牡丹江版を現地で印刷發行せるを後本紙に収録し佳木斯版、牡丹江版とせしが此の兩版を綜合して東滿版として發行す事となる。

(社史)康德四年十一月一日遼奉政府統制新聞之意旨糾合哈市國際協報、哈爾濱公報、濱江時報、消間錄四大報社改組爲濱江日報發行朝夕兩刊。朝刊八頁。夕刊二頁。(版數)十二。(部數)十四年十月二十六日現在朝刊一萬四千七百部。夕刊二萬五千部。六百八十七號。(社長)王維周。(編局)楊景宣。(編輯長)趙秋鴻(編輯)長文中。(採訪股長)高卿華。(校正股長)趙鳳樓。(印刷股長)王瑞慶。(營業)苑介卿。(發行股長)呂仲三。(廣告股長)荆荊蓀。(東京支局)齋藤松三。(大阪支局)金井勝三郎。(社員)五十三名。(工場員)三十九名。(機械)平面印刷機三。鑄鉛版機一架。(活字)朝刊十一字、夕刊八字、朝刊八十八行、夕刊六十八行、一頁段數朝刊十二段夕刊十五段。一箇月一圓四十錢。(廣告料)二十錢、場所指定十錢、增特別面五十錢。(十四、十一、十六)

月一字佐美寬爾氏の創刊、十二年グンバオ、ルーホルの二紙合併十一月弘報協會に加盟、十三年六月株式組織となる。株式。十五萬圓。朝夕刊十二頁、日曜附録を發行す。(版數)一。(取締役社長)古澤幸吉。(取締役)森田久、寒河江堅吾、三浦義臣、伴野大造。(監査役)中島俊雄。(主幹)柴田五郎。(編輯)エス・ベ・コップツエフ。(總務局)藤原喜代二。(工場員)九十名。(大部分白系露人)。(機械)輪轉機一、平盤印刷機二十四頁五。ライノタイプ四、ステロ一。一箇月一元三角。(十四、十一、十一)

安東新聞(日文) 安東市大和橋通り一ノ二。(電)二九〇一、三〇七〇、三一六六。弘報協會加盟紙。十二萬圓。(社史)十四年七月安東市發行の國境毎日新聞、安東新報、安東時報(滿文)三紙合併して、安東新聞となり、日、滿兩文紙を發行す。朝刊四

頁、夕刊四頁。(版數)二回。(社長)佐藤武雄。(取締役)八木元八、山縣寅吉、范先和。(監査役)瀨ノ口藤太郎、三浦義臣。(編局)中島駿吉。(營業)富田正男。(東京支局)國通支社。(大阪支局)國通支社。(機械)マリノニー式輪轉機一、寫眞製版機一。萬能鑄造機一、ステロ設備あり。(活字)七、十、十四字、百五十四行十四段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、場所指定二圓。特別面三圓。

安東時報(滿文) (安東新聞の經營)安東市廣濟街四一。(社史)康德四年六月東邊日報の發行權を買収。同年九月現稱に改題、同六年春安東新聞社に發行權を讓渡し同年七月弘報協會の加盟社となる。朝刊六頁。(社長)佐藤武雄。(以下安東新聞と同じ) (主幹)杉山宗作。(活字)九、十三字、百二十行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)一圓。

齊々哈爾濱 齊々哈爾濱 齊々哈爾濱

行。齊齊哈爾市豐恒胡同一號。
 (電)二〇〇〇、二五一五、二三
 一〇、二四八五。株式。二萬八
 千圓。(社史)民國十一年十一月
 時の督軍萬福麟が黑龍江省の機
 關紙として創刊したものの滿洲事
 變を契機として之を新國家の黑
 龍江省機關紙として運営を継
 其の後康徳五年五月株式會社に
 改組と同時に内容を刷新し政府
 の言論統制に呼應して滿洲弘報
 協會に加盟、北滿西部唯一の邦
 字紙として地方文化の向上と産
 業の開發に貢献す、又康徳六年
 五月齊齊哈爾市民の要望により
 邦字紙北滿洲日報を買收件營し
 同年九月齊齊哈爾新聞と改題し
 内外施設を擴充紙面の刷新を圖
 り黑龍江民報と同じく北滿西部
 唯一の邦字紙として活躍してゐ
 る。十五年十月三十一日現在民
 報三六四五號。齊新二七四一號
 (部數)六〇〇〇部。五〇〇〇
 部。朝夕四頁。(社長)片山誠三。
 (現業重役)姚任、中島俊雄、租
 式可夫。(編輯)山口新一。(營
 業)中島市治。(社員)三十名。
 (工場員)八十名。(機械)平盤印

吉林

吉林新聞(邦文及滿文) 吉林市
 南大路二六五。(電)(代表)三六
 八一。個人經營。十二萬圓。(社
 史)大正十一年六月北滿の排日
 熾烈なる際外務省補助により創
 刊され昭和十二年九月一日滿文
 東省日報並に邦文松江新聞を併
 合吉林新聞に併合吉林新聞と改
 題す。日文朝刊六頁、滿文朝刊
 二頁。(部數)十二年十一月末日
 現在(日文)七千七百。(滿文)一

撫順

撫順新報 撫順永安大街四十七
 (電)二二五二、二二二六。個人
 經營。創刊大正十年四月三日。
 朝刊四頁。(社主)窪田利平。(社
 長)同。(理事)福田仲三。(主幹)
 月野一露。(營業)東郷喜市。(廣
 告)嘉村謙一。(東京支局)田中
 寛治。(大阪支局)森久。(社員)
 十二名。(工場員)四十三名。機
 械)半截輪轉機一。活字鑄造機
 ステロ完備。(活字)六・七・十
 五字、百六十三行、十四段。一
 箇月一圓。(廣告料)一圓。(兼營)

營口

營口新報(日文及び滿文) 營口
 市大和區南本街一丁目十二號地
 (電)七五、一五二五。株式。二
 萬五千圓。(社史)明治四十一年
 二月發刊の滿洲新報社と光緒三
 十三年十月一日發刊の營商日報
 が合併康徳五年四月二十三日營
 口新報社と改題日文滿文を發行
 する事とせり。日文四頁、滿文
 六頁。(部數)十四年十一月一日
 現在三千部。(社長)李子初。(副
 社長)古川米吉。(專務)關守銳。
 王芝泉。(取締役)片山頼衛、限
 部廣泰、刑海清、夏稱橋。(監査

撫順民報

撫順民報。
 十五年十一月窪田社長二千六
 百年祝典に際し在外功勞者とし
 て表彰さる。

撫順新報

撫順新報(滿文) (撫順新報の
 姉妹紙)撫順永安大街四七。創
 刊昭和六年十二月二十六日。朝
 刊小型四頁。(社主)窪田利平。
 (社長)同。(理事)福田仲三。(編
 輯)楊雲樓。(機械)撫順新報と
 同じ。(活字)舊、六十五行、九
 段。一箇月五十錢。

役)山住市藏、劉景春。(支配人)
 關守銳。(編輯)水城乙四郎。(編
 輯)陳錫箴。(營業)關守銳。
 (營業)木野亨。(東京支局)櫻井
 朝次郎。(大阪支局)原義一。(社
 員)十二名外雜役十二名。(工場
 員)三十二名。(機械)十六頁印
 刷機械二、中形ハンド二、ステ
 ロ、寫眞製版設備あり。(活字)
 日文用七・六、滿文用十・六、十
 字詰、十一字詰、九十行、八十
 行、十四段、十二段。一箇月日
 文一圓、滿文一圓二十錢。(廣告
 料)四面七十錢、一面一圓、雜
 報欄一圓四十錢。(十四、十一、
 十八)

佳木斯

三江日日新聞 佳木斯市康樂
 街二段地。株式。四萬圓。(社史)
 十五年五月一日創刊、弘報協會
 加盟紙たり。朝刊四頁。(社長)
 安井徹。(取締役)三浦義臣、田
 中總一郎。(監査役)中島俊雄。
 (編輯)山口哲、吉田秀彦。(總務)
 今井吉夫。(活字)七半、十五字
 百六十三行、十四段。(廣告料)
 一圓。

三江報(滿文) (三江日日新聞の
 姉妹紙)佳木斯市康樂街二段地。
 株式。一萬圓。(社史)康徳元年
 八月一日創刊、同五年二月滿洲
 弘報協會に加盟。朝刊四頁。(取
 締役)姚任、佐藤武雄、伴野大
 造。(監査役)三浦義臣。(主幹)
 安井徹。(機械)平盤一。(活字)
 九・六、十二字、百行、十三段。
 一箇月一圓二十錢。(廣告料)五
 十錢)

牡丹江

東滿日日新聞 牡丹江市太平
 路七。株式。十萬圓。(社史)創
 刊、昭和十五年一月一日、弘報
 協會加盟紙たり。朝刊八頁。夕
 刊四頁。(當分の間朝夕刊八頁)
 (社長)須佐美芳男。(編輯)中島
 駿吉。(營業)角田時雄。(工場
 長)鹽貝隆一。(活字)七・六、十
 四字、百六十三行、十五段。(廣
 告料)一圓。
 滿文紙小型東滿報を兼營す。
 目下五日に一回發行制なれども
 近く日刊となる豫定。

延吉

東滿新聞(日文)東滿時報(滿
 文)東滿新聞社發行。間島省延
 吉街道學區協和路。(電)一〇、
 五二九、六三四。株式會社。三
 萬圓。(社史)大正十年七月十六
 日間島省龍井村に創刊されたる延
 (日文)間島新報と大同元年八月
 間島省延吉街に創刊されたる延
 邊晨報とを昭和十四年一月一日
 滿洲弘報協會に於て買収、株式
 會社滿洲新聞社の姉妹會社とし
 て更生、十四年九月社名を東滿
 新聞社と改め今日に至る。朝刊
 (日文)四頁。(滿文)四頁。(版
 數)各二。(地方版)牡丹江版、
 間島版。(部數)十四年九月末日
 現在(日文)八千部。(滿文)三千
 部。(社長)和田日出吉。(專務)
 八木市松。(取締役)笠神志都延
 伴野大造。實性確成。(監査役)
 中島俊夫。(主幹)八木市松。(相
 談役)笠神志都延。(編輯)主幹
 兼務。日文(整理)中村金作。(取
 材)堀江晃。滿文(營業)主
 幹兼務。(販賣兼經理)岡田吾一。
 (廣告)井上裕。(東京支局)西部
 伴面。(大阪支局)杉森平次。(社
 員)四十名。(工場員)三十八名

各地

鐵嶺時報 鐵嶺數島町三丁目。
 (電)四一六。個人經營。一萬五
 千圓。(社史)創刊明治四十四年
 八月一日。朝刊四頁。(社主)西
 尾信。(社長)同。(主筆)俵谷景
 藏。(營業)間野稔。(社員)五名
 (工場員)十一名。(機械)平盤三。
 (活字)舊、十二字、八十五行、
 十段。一箇月八十五錢。(廣告料)
 四十錢、特別面四十五錢。
 鐵嶺公報(滿文) 鐵嶺城內。創
 刊大同元年三月二十七日。個人
 經營。(社長)木多正。
 遼鞍每日新聞 遼陽西關。(電)
 一四四。個人經營。二萬圓。(社

史)明治四十一年三月十日創刊
初め遼陽新報と稱し昭和七年鞍
山製鐵所開設の際現名に改題す
奉天總領事館、遼陽地方事務所
(滿鐵)、鞍山地方事務所(同)公
布式新聞。夕刊小型八頁。(社長)
渡邊德重。(副社長)渡邊源次郎
(主筆)社長(兼)。(營業)浦川伊
太郎。(機械)平盤二。(活字)舊
十三字、六十行、七段。一箇月
五十錢。(廣告料)五十錢、特別
面一圓。(兼營)漢字新聞遼海公
報は本紙の姉妹紙として社長も
同一なり。

十五年十一月二十六百年祝典
に際し渡邊社長在外功勞者とし
て表彰さる。

遼海公報(滿文) (遼鞍每日の
姉妹紙)遼陽市西關。(電)滿一
七九。個人經營。二萬圓。(社史)
大同二年十月一日遼陽縣公署の
宣傳機關紙として創刊、其後海
城遼中兩縣公署の純機關紙とし
て活用せらる、始め遼陽公報と
いひ後現名に改題。朝刊小型四
頁。(社長)渡邊德重。(主筆)張
曉漢。(編輯)周知吾。(營業)賈
明源。(機械)平盤二。(活字)舊

十三字、六十行、七段。一箇月
五十錢。(廣告料)五十錢。特別
面一圓。

鞍山日日新聞 鞍山市北二條
町二。(電)四一六。株式。二萬
圓。創刊昭和七年七月一日。夕
刊六頁。(版數)一。(社長)野尻
彌一。(營業)内野長作。(東京大
阪支局)金井勝三郎。(機械)三
十六頁一、十六頁三。カッチン
グー、ステロ。(活字)七ボ、
十五字、九十八行、十三段。一
箇月一圓。(廣告料)五十錢、場
所指定一圓。

四洮新聞 四平街南四條道。
創刊康德元年四月七日。個人經
營。二萬五千圓。朝刊小型四頁
(社長)櫻井教輔。(編輯)石木力
藏。(機械)平盤三。(活字)舊、
十一字、六十三行、八段。一箇
月五十錢。

安奉每日新聞 本溪湖石山町
七七。(電)一一一。個人經營。
創刊大正十五年八月二十五日。
朝刊小型四頁。(社長)野村一郎
(機械)平盤三、八段組。一箇月
五十錢。(廣告料)五十錢。(兼
營)印刷物。

開原新報 開原孫家臺。(電)
三五五。個人經營。(社史)大正
八年二月十一日此地唯一の邦字
紙として創刊。朝刊小型六頁。
(社長)符田仙十郎。(支局)四。
(工場員)十名。(機械)平盤二。
(活字)舊、十二字、八段。一箇
月八十錢。(廣告料)四十錢。(十
二、十一、二五)

北安日報 北安鎮。(電)一一
三。個人經營。五萬圓。(社史)
昭和九年六月一日創刊、初め二
頁、十年一月より四頁となる。
朝刊四頁。(社長)露崎彌太郎。
(機械)平盤二。(活字)十五字、
十三段。一箇月一圓。(廣告料)
一圓二十錢。(近況不明)

黑河民報(滿文) 大黑河大興街
二十四號。(電)一一四。(社史)
大同元年七月二十五日創刊爲促
進日滿協和及王道政治故由宮崎
特務機關長主張開辦。朝刊小型
八頁。(社長)蘭錫侯。(支配人)
白榮恩。(主幹)郭慶福。(社員)
十五名。(工場員)六名。(機械)
八頁一。活字鑄造機あり。(活字)
十字、二十八行、七段。一箇月
八十錢。(廣告料)百字。(四號)

一元、場所指定二元、特別面普
通面の倍。

錦州新報 錦州市錦華區三笠街
十。(電)二一一、三〇五七、
三〇六六、三三七二。株式。(社
史)昭和七年一月二十二日騰寫
版刷發行同年九月十八日活版刷
八年四月大擴張、十四年八月前
社長井下萬次郎君退き、九月一
日新に株式會社錦州新報社を創
立、その經營を盛京時報社に委
任す。株式。九萬圓。夕刊四頁
(附錄)阜新版現地に於て印刷發
行。(社長)下野重三郎。(主幹)
尾形順次。(編輯)同。(總務)根
本重作。(販賣・廣告)鶴岡宇一
郎。(支局)三。(機械)輪轉機。
鑄造機、ステロ、寫眞版其他全
部完備。(活字)十ボ、十四字、
百五十五行、十四段。一箇月一
圓。(廣告料)一圓、場所指定倍
額。(兼營)遼西晨報(滿文)。炭
都阜新にも小型紙を發行し錦州
新報の附録とす。

遼西晨報(滿文) 錦州新報社發
行。十五年十一月前社長井下萬次
郎君は二千六百年祝典に際し
外功勞者として表彰さる。

行。錦州市錦華區三笠街十。(社
史)十三年六月二十五日錦州省
内を目標として發行さる、十四
年九月一日より錦州市に移る。
小型四頁。(社長)下野重三郎。
(主幹)尾形順次。

熱河新報(滿文及日文)承德市
後二道街二〇四。(電)四〇二二
四二三一、四六七六。株式。一
萬圓。(社史)大同二年三月十八
日第八師團の熱河討伐直後、軍
部の發企に依り地方有志相謀つ
て創刊さる、當時の舊軍閥湯玉
麟は既に熱河に暴政を布き機關
紙熱河公報を有して宣傳工作に
當つてゐた、現在の社屋は其跡
を繼承したものである。康德五
年五月株式會社に改め滿洲弘報
協會に加盟するに至り爾來社長
主幹の更迭を見たるも社業は逐
日健實に省内十三縣旗は勿論二
十二ヶ所に分社を設立し通信網
の擴充を期し康德五年には日文
版四頁を發行同六年十二月北熱
河の經濟南部赤峰に日系特派員
を常置せしめ報道陣を完ふし民
心の安定把握、王道政治への歸
趨に力を傾注し報道報國の使命

を發揮しつゝあり。十五年十一
月一日現在二二四一號。一五〇
〇〇部。朝刊(滿文)四頁。(日
文)小型四頁。(社長)森常雄。
(取締役)田中總一郎、姚任、尹
怡恩。(編輯)池谷真一。(編輯)
施維民。(主要幹部)菊池正雄、
王恩波、杜其瑞、陳九泉。(營局
兼總務局)薄田政市。(營局)上
山忠雄。(印刷局)武内金六郎。
(外幹部)奥野次男、安齊容、大
野忠雄、高澤溥、王文修、南雲
章。(社員)八十七名。(工場員)
六十一名。(機械)十六頁三、菊
八頁一。(目下輪轉機据付中)。
活字鑄造機二、寫眞版本年中完
了見込。(活字)五號、日文十字
滿文十二字、日文五十行、滿文
七十行日文十段。滿文十一段。
一箇月滿文一圓、日文七十錢。
(廣告料)一圓、場所指定二割増
(兼營)熱河省公報、協和月報發
行。(十五、十一、一)

(四) 南洋群島

南洋諸島の在留邦人は約六萬人

と云はれ、その大部分はサイパン
支廳管内に住み、その人々を目標
として南洋朝日新聞、南洋振興日
報の二紙がサイパン島ガラパン町
から發行されてゐる。歴史は後者
の方が古く、現在は南洋興發會社
の經營だが、昭和四年元社長醫師
林秀藏君によつて創刊された。當
時サイパン支廳管下邦人は一萬二
千七百九十六人(外に島人三千七
百九十人、外國人十二人、計一萬
六千五百九十八人)に過ぎなかつ
たといふ。振興日報の小型紙なる
に對して南洋朝日は大型を發行し
つゝある。其他最近に邦人を増し
たパラオ島コロルに南洋新報あ
り、五萬圓の株式會社で、大判四
頁を發行し、勢ひ隆々、尙テニア
ン島に南洋ラヂオ新聞(南洋興發
會社の機關紙)ボナベ島にカロリ
ン・タイムスがあり、騰寫版刷り
の原始的なものにヤップ島のヤツ
プ日報、トラツク島のトラツク時
報、ヤルト島のマシヤル時報
等がある。十五年十月(各紙の發
行部數につき某新聞關係方面の推
定では、南洋朝日が二千前後、振
興日報千五百前後、南洋ラヂオ約

三千七百、カロリンタイムス七八
百、南洋新報は五千と稱する。但
し以上の數字は何れもそのまゝ信
ぜらるべきではない。

南洋朝日新聞 南洋サイパン
島ガラパン町二丁目。(電)一三
四、一四七。個人。十萬圓。(社
史)昭和六年七月南洋日日新聞
として發行同八年八月二十日南
洋朝日新聞と改題今日に至る。
朝刊四頁。(部數)十四年十月現
在一萬部。(社主)土井十太郎。
(社長)同。(主幹)山口祥辰。(主
筆)加藤春雄。(編輯)安次當長
光。(營業)山岡薫。(工務)深野
正藏。(東京支局)土井眞市。(社
員)二十五名。(工場員)三十五
名。(機械)平盤三。ステロ、寫
眞版あり。(活字)九ボ、十二字
十二段。一箇月八十錢。(廣告料)
五十錢、指定料十錢、特別面一
圓。(兼營)各種の印刷物。(十四
十、一)

南洋振興日報 サイパン島ガ
ラパン町北ガラパン四丁目(電)
八九。個人經營。二萬五千圓。
(社史)昭和四年三月二十八日創
刊、十四年六月二十九日十周年

三千號を迎ふ。小型六頁。(部數) 十四年十月二十七日現在二千三百五十部。三千九十九號。(社長) 新城朝功。(副社長) 近藤忠孝。(主筆) 近藤三男。(主筆) 鈴木山。(編輯) 近藤三男。(營業) 近藤忠孝。(東京支局) 新城朝功。(工場員) 十一名。(機械) キク八頁一、キク四頁一。(活字) 九ホ、十三字、四十三行、八段。一箇月六十錢。(廣告料) 五十錢。特別面一圓。(兼營) 雜印刷(十四、十七) 廿七)

南洋新報

ベラオ島コロル。(電) (代) 三六九。株式。五萬圓。(社史) 昭和十一年十一月、南洋廳長官の斡旋にて舊電報新聞を買収合併して創刊され、南洋拓殖、南洋興發、南洋貿易の三南洋關係會社の出資に依り漸次内容充實し、現在にては内南洋最大の新聞紙たり。十五年十月十六日現在一六七號。(部數) 五千部。朝刊四頁。(社長) 宮竹重一郎。(取締役) 上條深志、本目都太郎。(支配人) 山本耕三。(編局) 同。(政治・經濟) 森田幸雄。(社會) 大坪茂吉。(外南洋版主任)

堀清。(營業主任) 古川清治。(廣告主任) 碓武徳。(會計主任) 川崎勝吉。(東京支局) 大内寛。(社員) 二十三名。(工場員) 四十八名。(機械) 平盤印刷機三。活字鑄造機、寫真版、凸版の設備あり。(活字) 七ホ、十五字、編輯行數七十二行、十三段。一箇月一圓五十錢。(廣告料) 五十錢。場所指定七十五錢。(兼營) 印刷業兼營し、南洋廳關係出版物を當社にて一手に印刷す。(特設) 本社内に同盟通信社ベラオ通信部あり。

■十五年一月は野球大會(參加チーム三十二)を主催す。(十五、十六)

■同七月一日南洋廳始政記念日に大運動會主催。

■十月廿一日より十一月十日迄ベラオ島に於て本社主催、南洋廳、南洋群島海軍武官府等の後援に依り官幣大社南洋神社御鎮座祭記念南洋博覽會を開催す。

南洋ラヂオ新聞

テニアン島、南洋興發會社の經營、日刊菊半截四頁。(活字) 八ホ、カロリン・タイムス ホナベ

(五) 支那

在支邦人

昭和十四年十月現在の在支邦人は、合計二十六萬一千二百十人、(内、内地人二〇九、九六一。朝鮮人四〇、二一五。臺灣人一一、〇三四)で事變前に比し約三倍、尙日に増加しつつある。されば事變の勃發と共に一時全滅となつた日系新聞も、今や殆んどその凡てが復活され、又長期建設の線に添ふて新らしく創刊せられたるもあり、爲めに日系支那新聞界は非常に活氣を呈してゐる。支那各地に於ける主要新聞中心地及び在留邦人は次の如くである。

北京 北支 三六、三一四

天津	(内半島人)	七、九二六
青島	(内半島人)	四二、九七一
濟南	(内半島人)	八、一九一
唐山	(内半島人)	二二、〇五九
張家口	(内半島人)	二、〇三四
石家莊	(内半島人)	一、〇八七五
大同	(内半島人)	一、六六〇
厚和	(内半島人)	一、五九四
太原	(内半島人)	四七九
中支	(内半島人)	七、三六七
上海	(内半島人)	六九八
南京	(内半島人)	七、二〇三
漢口	(内半島人)	二、二一一
蘇州	(内半島人)	三、八七三
	(内半島人)	五五九
	(内半島人)	二、〇三一
	(内半島人)	九、五二七
	(内半島人)	二、〇四三
	(内半島人)	四七、二八九
	(内半島人)	一、四二九
	(同臺灣人)	六五五
	(内半島人)	六、二〇二
	(内半島人)	三四七
	(内半島人)	四、六四五
	(内半島人)	七六九
	(内半島人)	八八八

蘇州 (内半島人) 八八八

(内半島人其他)

南支

廣東

廈門

香港

中心地と移入紙

日系新聞中心地としての輕重乃至大小は大體居留邦人の多寡に従ひ、北支では北京、天津、青島、中支では上海、南京、漢口、南支では廣東、廈門が主要な地點である。併し北支方面では各地に邦人の分布が比較的濃密なものと、又地理的、歴史的、其他種々の關係から、前掲都會地の外、山海關(邦人一、七六六)、徐州(二、三八六)其他にもそれ〴〵新聞が發行されてゐる。それ等の中最も有力とせられるのは、北支では十四年七月創刊の北京の東亞新報(日文)、新民報(華文)、天津の京津日日新聞(日文)、天津庸報(華文)、青島の青島新報(日文)、山東毎日新聞(日文)中支では上海の大陸新報(日文)、上海毎日新聞(日文)、張家口

の蒙疆新聞(日文)、蒙疆新報(華文)等であり、内地からの移入紙は大體に於て大朝、大毎を宗とし、それに東京新聞、及び場所によつては滿洲の新聞も入つてゐる。例へば、滿洲日日の如きは、今から十二三年前に出してゐた總發行部數だけが、そのまゝ現在北支方面に移入せられつゝあると傳へられる。その一例として冀東地區に於ては、十四年九月某新聞關係方面の推定によれば、滿洲日日最も多くして約一千、次は大朝、大毎各八百、東朝百、讀賣五十、又十五年春青島方面では朝日二千、大東日二千、滿日千、讀賣三百、次に十五年十月北京方面では朝日、毎日北京に各千五百、全華北に一萬と云はれ、同十月廈門方面では大朝百五十、大毎百二十、讀賣五十と推定される。但しこれ等の數字は何れもそのまゝ信ずべきではない。

支那の代表紙

次に日系外の支那新聞に就いて一瞥すると(但し中には日系乃至准日系と見做すべきものもあるが)、中心は何と云つても中支方面

で、上海に中華日報(大判八頁)あり、民國二十九年四月汪氏の機關として發行されたもので、今や中央新聞の位置を占め、全国的に配布され、發行部數二十萬と推定されてゐる。尙これと前後して二十九年五月上海に發行された國民新聞(大判四頁)、時代晚報(大判四頁)も有力とされる。次に南京には維新政府時代の機關紙として發行された南京新報(大判八頁)があり、また汪政府成立後國民黨機關紙として創刊された中報(大判八頁)がある。其他省政府所在地の蘇州に蘇州新報(大判六頁)、杭州に杭州新報(大判六頁)、其他蚌埠の蚌埠新報(大判四頁)等があり、共に政府直營の地方紙である。尙右の外支那紙として有力なものを挙げれば、香港の南華日報、廣東の中山日報、天津の庸報(日系)漢口の武漢報、大楚報、北京の北京新報(日系)、晨報、青島の青島新報(日系)、廈門の全閩新報、華南新報等がある。部數は中華日報の如きは別として、多いものでも五萬前後を出ない模様である。併し治安の恢復と共に、部

數は日に増加しつつある。新興支那新聞が概して親日紙たることは無論であるが、中には日本人が實際經營に參與してゐるものもあり、或は日支合辦のものもある。

事變勃發前の支那新聞通信界は非常に複雑で、その數も極めて多量であつた。例へば江蘇省一省について見ても、當時の調査によると、同省内の新聞、雜誌社は合計二百八十社に達し、通信社も九十社の多きを數へた。政府は自由放任主義で、それ等に對して何等統制を加へず、彼等も亦相互の間に何の聯絡もなく、各紙は各その黨派に屬し、軍閥の機關を以て甘んじ、輿論を代表して正義を支持せんとするの抱負もなく、單に團體または私人の舌喉たるに過ぎなかつた。それが事變と共に一時殆んど消滅の形となつたが、民國二十七年、中華民國維新政府の成立するに至つて、中支方面にも續々創刊或は復活を見、現在では南京管内に十四社、蘇州管内に九社、杭州管内に五社、上海管内に十二社、合計四十社が存立してゐる。通信

部數は

社は北支の蒙疆通信の外、民國二十七年二月(昭和十三年)、維新政府唯一の通信機關として中華聯合通信社が南京に創立され、日本の同盟通信と表裏一體の密接なる連絡の下に、日支兩國の親善、東亞新秩序の建設に貢献する處あつた。

現在の中華民國政府は、事變以前の自由放任主義を一變して、新聞統制の方針をとり、新聞の指導監督は悉く宣傳部が責任を以て處理してゐる。未だ滿洲弘報協會の如き機關は設立されてゐない。昭和十四年に柳町精氏により報業聯合會(弘報協會と同性質)の設立計畫案が提出されたが、實現に至らなかつた。而して現政府の新聞に對する補助は、一は經常費の補助であり、二は新聞用紙の配給である。そして一は専ら中央新聞に對して行はれ地方紙にまでは及んでゐない模様である。尤も地方紙は既に自給自足の状態にあり、政府の補助を必要としないものもあるが、新聞用紙は目下その價格が非常に騰貴し、且つ購入難なので、宣傳部が購買契約をなしこれを配

給してゐる。實際上には軍報道部に依頼してその後援を求めらる。

中央電訊社

維新政府當時唯一の機關通信であつた中華聯合通信社(中聯社)は、新中華民國政府の成立と同時に解散を宣言し、改組して今の中央電訊社となつた。その正式成立は昭和十五年五月である。同社は宣傳部も隸屬する政府機關であつて、株式會社の如きものではない。されば主腦者は大部分宣傳部々員が兼任し、社長は宣傳部長林伯生君の兼任である。また副社長には元中華日報總編輯趙慕儒君が在任し、社務は大體その管理の下にある。また十三名の理事があつて、中には同盟通信社交換派遣の日系理事も數名ある。中央電訊社と同盟との關係は、中聯時代と同じく依然として密接で、双方對等の協定をなし、通信方面の關係は同盟對滿洲國通信の協定と大體同じである。(現勢篇、滿洲國の項参照)人事方面では双方理事及び社員等の交換派遣を規定し、兩社人事の交流を約束してゐる。また社員の中に聯絡編輯と稱するものがあつ

て、編輯部に屬し、同盟社交換派遣の日系社員數名がそれである。彼等は一方に同盟社員であり、新聞編輯に對する指導をその職務となし、電訊社に對しては臨時的補助の性質を持つてゐる。此の外無電及び寫眞の兩部門にも同盟社交換派遣の技術指導員が數名あり、技術上の指導に従事してゐる。以下各地別に日系新聞の主なるものを挙げる。(但し中には特に日系と稱するには應はしからぬものもある)。

北京

東亞新報

北京東城錢糧胡同十一號。(電)北局二三三一—二三三六。株式。三十五萬圓拂込済。(社史)華北に於ける邦字紙を統制する爲先づ新支那日日新聞及北京新聞を買収して昭和十四年六月株式會社東亞新報社を創立し同七月一日第一號を發行十五年十月三十一日現在四百八十五號。朝刊八頁。夕刊四頁(版數)一版。(社長)德光衣城。(常務)黑根祥作。(現業重役)西池末彦、佐々木金之助。(編局)

告每十字一角、場所指定加倍。(十五、十一、二十五)

天津

京津日日新聞

天津日本租界旭街一九。(電)二局、〇二一五、二五七四。個人經營。約三十萬圓。(社史)大正七年十一月創刊、朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)二。(地方版)北京版。部數)十四年十月四日現在約一萬部。七千二百三十六號。(社長)森川照太。(副社長、主幹)永瀨三吾。(編輯)高橋登。(營業)立石秀吉。(東京支局)庸報辦事處內。(大阪支局)同。(社員)四十(華人を除く)(工場員)(華人共)百十。(機械)輪轉機一、平版三鑄造機、萬能三、手廻二、ステロ、完備。(活字)六、七、十五字、百二十行、十四段。一箇月一圓五十錢。(十四、十一)

天津日報

天津日本租界福島街。(電)二局三七六二。創刊明治四十二年十二月二十日。個人經營。朝刊四頁。夕刊四頁。(社長)眞藤葉生。(副社長)金田一良三。(營局)森田宇三郎。(東京

山東每日新聞

青島市。(電)三四三四一六、二〇二五、八五〇〇、八六〇〇、四八二二六〇六六、五一一六、二七九〇個人經營。八十萬圓。(社史)昭和三年六月一日山東新報支社を

青島

新天津報(華文)

天津租界大馬路。朝刊小型八頁。八字、八十行、十二段。

庸報(華文)

天津日本租界須磨街。(電)二局三一六六。朝刊八頁。(社長)大矢信彦。(營局)西山觀一。(東京支局)内海俊輔(大阪支局)武藤彪。(機械)マリノニ式輪轉二。ステロ、寫眞版あり。(活字)八、十三字、百三十三行、十三段。一箇月一圓

支局

松本七五郎。(大阪支局)金井勝三郎。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)七、十二字百五十五行、十四段。一箇月一圓三十仙。(廣告料)五十錢。

五年七月七日編輯局長吳菊癡氏殉職す。十五年十一月一日現在九百九十五號。(部數)二十五萬部。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)六版。(地方版)北京版、天津版、西北版、河北版、山東版、隴海版。(社長)武田南陽。(社長室構成)武田南陽、角田清彦、吉田善信、村上秀雄、本間徳治、徐日章、陳重光、金自任、蔡天梅。(主筆)武田南陽。(編局)陳重光。(社論委員會主筆)徐日章(顧問)田中教夫、劉孔璋。(新聞部長)蔡天梅。(編輯部長)陳重光。(營局)金自任。(發行)角田力。(廣告)戴宗乾。(會計)金自任。(東京支社長代理)岩瀨太平(大阪支社長)金井勝三郎。(名古屋支社)藤吉義治。(社員)九百名(工場員)三百名。(機械)獨逸製アルパード高速度輪轉機四、米國製高速度二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七半十三字、百四十五行、十五段。一箇月一圓三十錢。(廣告料)一圓。(兼營)新民報半月刊(綜合雜誌)發行、附設新民日語學校經營、附設新民印書局經營、事

業局一般社會事業及映畫部を有す。(十五、十一、一)

十五年七月七日編輯局長吳菊癡君狙撃され絶命す。

晨報(華文) 北京宣武門外大街一八行、十二段。一箇月一元半。(廣告料)一時六角。

實報(華文) 北京宣武門外大街五十六號。(電)南局七二七、七四。二十五萬部。(社史)民國十七年十月四日創立。朝刊一頁半(版數)八版。(社主)管翼賢(社長)同。(編輯)王志新。(整理主任)王維鈞。(採訪主任)汪家社。(編輯主任)王志新。(營業)顏寶賢。(廣告主任)趙錫珍。(發行主任)孫承福。(事務主任)揚仲華。(會計處主任)徐建侯。(工務)刈谷和正。(社員)三十二人(工場員)三十三人。(機械)輪轉機二、十六頁平面機四、鑄字機二、紙版機二、腳踏機二、裁紙機一、電力發動機三、十六匹半馬力)。(活字)新聞八字、廣告十字、八十行、十五欄半。一箇月外埠八角、本埠七角五分。(廣告料)大廣告每十字二角、小廣

獨立させて山東毎日新聞となす
十五年十一月十日現在八三四五
號。(部數)一萬部。朝刊六頁。
夕刊四頁。(版數)二版。(地方
版)一版は外地、二版、市内版
(社長)長谷川清。(副社長)宮崎
良藏。(編輯)桑木春一。(編輯
河野秀通。(同副部長)竹中茂。
(外勤)頼永五郎。(同副部長)佐
々木正始。(運動)野口安一。(文
藝)橋谷藤吾。(警備)宮崎良藏
(同副局長)小林卓。(廣告)小林
卓。(東京支局)松本七五郎。(大
阪支局)福井肇。(社員)四十五
名。(工場員)百名。(機械)東
京機械製高速度折疊式輪轉機
(色刷機附)一、平版三。活字鑄
造機、ステロ、寫眞版あり。(活
字)六、七十四字、百五十四行、
十四段。一箇月一圓五十錢。(廣
告料)八十錢、場所指定一圓五
十錢。(十五、十一、十)

君を社會部長に任命す。
■十五年二月購讀料を一箇月一
圓二十錢より一圓五十錢に値上
げす。
■同七月十四年七月以來二十五
萬圓を投じて新築中の六階建新
社屋完成す。
■同七月八日次の異動を行ふ。
營業局長 宮崎 良藏
副社長とす(營業局長兼務)
社會部長 河野 秀通
整理部長とす
政經部長 頼永 五郎
外勤部長とす 小林 卓
庶務部長とす 小林 卓
營業局次長とす
■同十月十二日附朝刊より濟南
沿線版の早刷りを開始す。
青島新報(日文) 大青島
報(華文) 青島新報社、大青島報
社發行。青島武定路四四。(電)
二一五三、二三五六、二〇六三
二〇三四。株式會社(社史)大正
四年一月十五日當時青島守備軍
治下に於ける唯一の新聞として
前總長鬼頭氏創刊、大正十四年
六月現社長により青島に於ける
各言論紙を統合して株式會社青

島新報及び大青島報社として今
日に及び。朝刊(日文)八頁。
(漢字)八頁。夕刊(日文)四頁。
十四年十月十日現在八千四百四
號。(社長)小谷節夫。(取締役)
同、國分社介。(監査役)村地卓
爾。(編輯、主筆)寺田壽夫。(政
治)遠藤武雄。(社會)瀬戸村伸
一。(校正)新時盛。(廣告)築瀬
順男。(販賣)高木登。(經理)守
屋英一。(相談役)齊藤友次郎。
(東京支局)杉本七五郎。(大阪支
局)金井勝三郎。(社員)九十名
(工場員)六十名。(機械)輪轉機
一、平盤十六頁型四。鑄造機四
基、ステロ、寫眞設備あり。(活
字)六、三、十五字、百七十五行
十五段。一箇月一圓五十錢。大
青島報一圓。(廣告料)八十五錢
場所指定特別料一圓七十錢。
■十五年二月購讀料を一箇月一
圓二十錢より一圓五十錢に値上
げす。

に改題在青華人指導の機關たら
しむ、十四年八月蘭山路の舊社
屋より移轉し十五年八月株式組
織とす。朝刊八頁。(社長)姚作
賓。(專務)尾池義雄。(取締役)
尹授一、安藤萬吉、長谷川眞三
郎。(監査役)呂振文、增田靜雄
(編輯)橋川凌。(論說主任)王效
古。(第一課長)山田春三。(第四
課長)名倉勇。(警備)尾池義雄
(廣告)林雄三。(販賣)石田外信
(庶務)島井足。(會計)小林克巳
(工場)日暮勇。(寫眞)片岡昇。
(印刷局)渡邊平藏。(同副局長)
長谷川眞三郎。(機械)マリノニ
式輪轉機二、平盤五、活字鑄造
機。ステロ、寫眞版あり。(活字)
九、十三字、百行、十三段。
一箇月一圓。(廣告料)一圓。
■十五年八月資本金五十萬圓日
支合辦の株式會社に改組し役員
を決定す。

濟南

山東新報 山東省濟南商埠三
大路。個人經營。五萬圓。(社史)
大正五年六月濟南に創刊された
る山東新聞と相前後して同じく

濟南に創刊されたる膠濟時事新
報とを合併し之を山東新報と改
題したるは大正十五年十月一日
十三年事變の爲め休刊す。朝刊
四頁。夕刊四頁。(社長)小川清
矣。(主幹)今井和次。(營業)林
田新次郎。(機械)平版三。活字
鑄造機、ステロ設備あり。(活字)
七、十五字、百五十行、十三
段。一箇月一圓。

山東新報 (華文) 濟南經三
路小緯六路。朝刊六頁。山東省
政府機關紙。(活字)十二字、百
十行、十二段。(廣告料)五角。
濟南日報 (華文) 濟南府署門門
外。(電)三五五。三萬圓。(社史)
大正七年九月一日故中西正毅氏
澁川支耳氏等より創刊、澁川氏
去り中西氏逝きて後、理事制度
と更め平岡小太郎。北支紡績聯
合會理事、立石登、戶塚易理事
に就任、平岡小太郎理事とな
り、戶塚易專務理事として社務
を總括す。十三年事變の爲め休
刊す。朝刊八頁。(社主)共有。
(理事長)平岡小太郎。(理事)立
石登。(專務)戶塚易。(機械)輪
轉機一、平盤二。活字鑄造機、

ステロ設備あり。(活字)十三字
六十八行、十段。一箇月九十仙
(廣告料)五十仙、特別面七十仙
北支各地
山海關日報 山海關南門外順
城街。(電)一二六、二二九。株
式。四萬一千圓。(社史)昭和九
年四月二十九日創刊滿支國境の
地に在り日滿支の提携親善、地
方の開發に努め來るも在留邦人
稀薄の地方として經營常に困難を
極め昭和十五年株式組織に改組
その更生を圖る。十五年十一月
一日現在二〇一三號。(部數)一
五〇〇部。朝刊四頁。(社長)大
川眞一。(常務)遠藤智雄。(編
局)木村白。(機械)平版二。鑄
造機一。(活字)九、十二字、
八十行、十三段。一箇月一圓二
十錢。(廣告料)五十錢、場所指
定一圓。(兼營)印刷業。(十五、
十一、一)

冀東日報 (華文) 華北唐山市大
學路五號。(電)二五、三二、三
三。(社史)民國二十六年八月冀
東防共自治政府機關紙として創
刊、同二十七年二月冀東政府が

臨時政府に合流と共に河北省公
署機關紙として同二十八年四月
迄發行、同年七月軍報道部機關
紙として小報復刊今日に至る。
十五年十一月七日現在八八六號
(部數)九五〇部。朝刊小型六
頁。(社長)保坂源一。(編輯)張文
照。(部長)周毓斌、王、羅、王、
民。(營業)早川久雄。(會計)武田
政次。(工務)王竹溪。(營業主任)
王知之。(社員)七十二名。(工場
員)五十五名。(機械)平盤五。
活字鑄造機、ステロ有り。(活字)
六號及九、九、九、九、九、十二段
一箇月七十五錢。(廣告料)一〇
〇字三圓。(兼營)印刷業として冀
東道管下一切の印刷物請負、月
額平均五千圓の上あり。(十五、
十一、七)

河北日報 (華文) 河北省保定縣
學街四十二號。(電)二四九、二
四八。河北省公署機關紙。十五萬
圓。(社史)民國二十八年七月一

石門東亞新報 東亞新報石門
支社發行。京漢線石家莊大同街
(電)一四、四六八。(社史)昭和
十二年十月十日皇軍入城後去就
に迷へる華人の指導機關として
華文石門日報を同年十一月創刊
十三年八月一日より邦字紙石門
日日新聞に改革し十五年四月現
在となる。又本社は天津庸報社
に於て經營發行されたるも東亞
新報發行後北支全邦字紙をこれ

に統合の目的を以て本紙も十五年四月一日より改題、東亞新報に一切の經營を移譲す、同時に前主幹五十嵐利吉君は庸報本社に歸社し保定支局長となる。部數)十四年十月五日現在四千部四十四號。(社長)大矢信彦。(主幹)池田茂三郎。(編輯)同。社員)二十名。(工場員)四十五名(機械)平版四。活字鑄造機、ステロ、寫眞版各一。(活字)八*十二字、百三十三行、十四段。一箇月一圓三十錢。(廣告料)五十錢。

正報(華文) 石家莊南大街六五號。朝刊四頁。十字、百十八行十三段。一箇月八角。

石門新報(華文) (北京新民報の經營) 河北省石門市。(常務理事)島崎辰美。十五年現在部數約四千。

蘇北新民報(華文及び日文) 徐州市公團前巷。(電)二六、三四三、五五。軍報道部機關紙。五萬圓。(社史)創刊、昭和十三年民國二十七年八月十五日、徐州陷落後軍部側に於て計畫せられ隴海新民報の名稱にて創刊十一

月一日東海自治新民報と改稱、昭和十四年九月一日蘇北新民報と改む。朝刊四頁。夕刊日文版二頁。(地方版)地方版として近く東海版を發行準備中(海州又は連雲港)(部數)十五年十一月一日現在七千五百部。(社長)黒川重幸。(主筆)葉復荊(華人)。(編輯)石英(華人)。(營業)常鎮瀛(華人)。(社員)五十七名。(工場員)三十一名。(機械)平盤三鑄造機、ステロ、設備あり。(活字)九*、十二字、九十行、十二段。一箇月八十錢。(廣告料)二十錢。(兼營)日文版二頁發行近く邦字紙、徐州日日新聞に改革。(十五、十一、一)

隴海東亞新報 東亞新報徐州支社發行。徐州市。

魯東日報(華文) 嶧臺履信路三號。朝刊六頁。十二字、百行、十段。

新聲報(華文) 河南新報(日文)(北京新民報の經營)。河南省新鄉。(社史)新民報の經營として十四年三月創刊の新聲報は同年六月一日より別に邦字紙河南新報を發行す。

蒙疆新聞(日文) 蒙古新聞(蒙文) 蒙疆新報(華文) 蒙疆新聞社發行。蒙疆。張家口市興亞大街。(電)二九〇一外十數本。株式。四十萬圓。(社史)蒙疆地區に於ける弘報宣傳の一元的統制機關として昭和十三年五月廿日創立純特殊會社、全株式は蒙古聯合自治政府之を所有す。昭和十五年九月新築社屋落成、敷地六千坪建坪一千八百坪十五年十一月三十日現在二箇年半第八三六號。(部數)三紙綜合十八萬部。朝刊八頁。(版數)二。(地方版)京津版。(理事長)細野繁勝。(常務理事)杉谷善藏。(他現業重役)三藤順記、韓運、伊德欽、波多野義熊(總務局)(兼)杉谷善藏。(經理)中宮忠一。(庶務)鈴木清幹。(用度)結城亘。(編局)竹内順三郎。(整理)山下登。(取材)綠川敬止。(華文)宮崎正二。(蒙文)德廣彌十郎。(大同支社)須藤勇雄。(厚和支社)松田博。(營局)福島義澄。(販賣)金輪英藏。(廣告次長)牧野滋。(印刷局)淺枝幹。(營業)寺井與

喜智。(新聞部)(兼)淺枝幹。(作業)瀧川義人。(東京支局主事)山崎豐。(大阪支局)上原隆利。(社員)三百十八名。(工場員)四百六名。(機械)高速度輪轉機一、リノニ式輪轉印刷機三、ローリングマシン其他附屬機械十二自動活字鑄造機九。手廻鑄造機四。活字母型二十餘種。(活字)六・三、十五字、百七十五行、十五段。一箇月一圓五十錢。(兼營)印刷事業。蒙疆年鑑。蒙疆晉北報(華文)大同支社發行。蒙古民聲報(華文)厚和支社發行。印刷機械二十三。(内オフセット四臺)(裝幀機械十三臺)。(十五、十一、三十)

十五年八月陣容を改め機械設備を一新す。

同九月八日工費四十五萬圓の新社屋落成社屋より移轉す。

同時に十五字十五段制となる

同時に職制の一部を改正し新開工場を蒙疆印刷局の所管に移し新聞部を新設す、尙同局長に常務理事淺枝幹君を起用し新聞部長兼務とし瀧川義人君を同局作業部長とす。

蒙疆晉北報(華文) 蒙新晉北報(日文) 蒙疆新聞社大同支社發行。大同帥府街。朝刊四頁。(支社長)須藤勇雄。一箇月五十錢。

蒙古民聲報(華文) 蒙新厚包版(日文) 蒙疆新聞社厚和支社發行。所在地厚和市文廟街五號。(電)二五八、二五九、二六〇、二一三、三四三、三四四。(社史)創刊十二年十二月二十二日。支那事變に際し皇軍の入城と同時に現蒙疆新聞社常務理事は軍の命に依り顧問として蒙疆日報社を創立せり。十三年三月蒙古聯盟自治政府機關紙として宣傳宣撫効果を擧げ、十三年六月蒙疆地域の全新聞が合同合併し蒙疆新聞社を設立し蒙疆日報社を厚和支社と改稱す、蒙疆日報を十四年九月より蒙古日報と改め更に蒙古民聲報と改題す。朝刊四頁。(部數)十四年十月十日現在五萬六千部。(支社長)松田博(總務部長)野口淳司(華文編輯)長)夏鐵漢。(印刷)石塚精一。(機械)輪轉機一、平版十六頁三(兼營)週刊蒙文蒙古週報。

太原新聞 太原市海子邊二四。

大陸新報(日文) 新申報(華文) 上海共同租界西華德路二八八。(電)五二二六〇、五二二六五、二一九。(社史)昭和十四年一月一日上海日報廢刊の後を受け創刊さる。四月華文紙新申報を併合し、五月武漢大陸新報を、七月南京大陸新報を發行す。初め社長木下猛君、十月現社長となる。上海に於ける國策新聞。日文。朝刊八頁。夕刊四頁。華文朝刊八頁。(社長)福家俊一。(副社長)尾坂與一。(理事)桐島龍太郎、森山喬、赤松直昌(編局)兒島博。(同次長兼政治、森春造。(整理)春泰雄。(經濟)永松博。(社會)鈴木英一。(調査)小林泰雄。(聯絡)岡山祐磨。(營局)桐島龍太郎。(同次長)平井節。(廣告)池澤梅治。(會計)谷口正。(庶務)米村英輔。(販賣)大石節。(事業)上野祝二。(工務局)鍋島雄輔。(工務部)石井民

吉。(顧問)木下猛。波多博。(東京支社)赤松直昌。(大阪支社)森山喬。(漢口支社)藏土延次。(南京支社)鈴木善一。(機械)ドイツ製高速機一、マリノニ式一活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)新報六・七、十五字、百六十三行、十四段。申報十二字、百二十二行、十三段。(兼營)武漢大陸新報、南京大陸新報。一箇月新報一圓五十錢、申報九十錢。(廣告料)一圓五十錢。

十四年十月中華日報と提携、同紙へ掲載する日本商品廣告は本社の一取扱ひとなる、但し實現は注政權誕生の後。

同十一月I N Fと寫眞特約を結ぶ。

同十二月二千六百年記念事業として大陸賞の設定、建國體育大會の開催、東亞新秩序早廻り飛行を發表す。

同十二月支那忠靈顯彰會に千五百圓を献金す。

十五年一月、毎年大陸年鑑を發行する事となる。

同一月大陸賞(副賞一千圓)を設定、過去一年間に日支兩國人

の最も社會的に貢獻せる者より選定する。

同一月江南戰跡巡りリレー競争を行ふ。

同三月より新申報社屋にて營業印刷局を設置一般印刷を引受く。

同三月二十八日新申報青年記者許申君出勤の途に狙撃され腹部貫通の重傷を受く。

同四月北京に支局を開催す。

同四月大陸經濟視察に大廣告主六名を中支方面に招待す。

同四月二十九日二千六百年記念として定期航空機により東亞早廻り競争を行ふ。

同四月二十九日ジャキノ、ドベサンジュ神父に第一回大陸賞を贈(副賞一千圓)。

同一月東朝編輯局參與尾坂與一君副社長として入社す。

上海每日新聞 上海湯恩路一號。(電)代表四二二九四。株式。銀七萬弗。(社史)創刊大正七年九月十五日、現社長深町作次君の獨立經營、最初「上海經濟日報」と稱し後株式に改め大正十三年九月三十日「上海每

日新聞」と改稱す、昭和元年現在
の地所に五階建鐵筋コンクリ
ートの社屋を建築す、第一次上
海事變及び今次支那事變に際會
せるも敢然と發刊を續け今日に
至る、東京、南京に支社。大阪、
杭州、蘇州、青島に支局を有す。
朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)一
(地方版)南京版。(部數)十四年
十月四日現在一萬八千部。七千
二百六十三號。(社長)深町作次
(取締役)角田芳太郎、深町スミ
(監査役)出光衛。(主筆)園田日
吉。(總務)上田巖。(編輯)田代
滿。(整理)今村勝三。(政治)山
下鐵次。(經濟)若菜正義。(社
會)星野一夫。(聯絡)佐野正元
(校正)吉田直義。(寫眞)田川高
次。(調査局主任)岡崎武。(營
局兼廣告)深澤竹吉。(同次長兼
販賣)森下喜久一。(經理)野中
勇。(用度)吉田濟藏。(印刷局)
松本亭一。(同部)久保正次。(東
京支社)西村虎一。(大阪支局)
原義一。(社員)九十四名。(工場
員)七十名。(機械)上野式平版
輪轉機三、マリノニ式輪轉機三
自動式活字鑄造機二、他動式活

字鑄造機三、ステロ、寫眞製版
設備あり。(活字)六・七、十五
字、百六十三行、十四段。一箇
月一圓五十錢。(廣告料)一圓、
場所指定二割増。(發行物)中支
に關する文獻の最高峯「華中現
勢」(四六二倍版一千三百頁)發
行 月刊上海通信。(兼營)代辦
公司。
■十四年十二月支那中靈顯彰
會に千五百圓を獻金す。
■十五年十一月二十六日祝典
に際し深町社長木杯を下賜さる
の機關紙、創刊民國二十九年
四月。大判八頁。
國民新聞 (華文)上海。大判四
頁。創刊民國二十九年五月。
時代晚報 (華文)上海。大判
四頁。創刊民國二十九年五月。
南京
南京大陸新報 大陸新報南京
支社發行。南京中山北路二五號
創刊、昭和十四年七月二十六日
朝刊四頁。(支社長)鈴木善一。
(同次長)西島五一。(編輯)岩田
鬼一。(營業)坂戸克己。(活字)

十五字、百六十三行、十四段。
一箇月一圓。(廣告料)一圓五十
錢。
南京新報 (華文) 南京晚
報(華文)南京市復興路一三五號。
(電)二一、八六九、二二、七八
四、二一、七八三。公益法人經
營。二十萬圓。(社史)民國二十
七年八月一日「南京民報」として
發行、後維新政府の新聞政策確
定と共に其の機關紙として改組
され同時に「南京新報」と改稱、
當時維新政府顧問秦學溎氏の社
長に就任、氏は事變直前まで上
海申報の南京支局長として中國
新聞界に重きをなした人、當時
南京中學校舎にあつた社屋の遷
移を計り特務機關と接渉八月
現在の社屋に確定、當時として
は最善の整備を整へ九月一日正
式遷移、爾後内部の整備に着手
輪轉機及字母、自動鑄造器等を
維新政府と協力購入し、二十八
年一月十一日朝刊六頁。夕刊(南
京晚報)二頁を發行、二十九年
三月一日夕刊(南京晚報)を小型
紙(兩折)四頁に改め亦二十九年
十一月一日より南京新報を十二

段制を十四段制に改め今日に至
る。昭和十五年十一月四日現在
第八一六號。(部數)朝刊一四四
五〇部。夕刊(南京晚報)三七〇
〇部。朝刊六頁。夕刊八型四頁
(朝刊一頁大)。(版數)國際記事
版、社論、地方版、南京市内版
經濟版、文藝版、新學版。(社長)
秦學溎。(編輯長)曹見微。(營
業)王敬姑。(文書責任)以下主
任)馬逢時。(會計)王浩餘。(庶
務)傅福山。(用度)陸韻笙。材
料管理)李德泉。(交際)鍾石若
(採訪)俞正燮。(新學版)朱仲祿
(特刊版)王顯階。(尚情編輯)張
頌曉。(譯稿)唐開礎。(校正)姚
雨農。(夕刊編輯)何士元。(秦准
一角編輯)朱先立(フヂオ聽受
銅版管理)王英。(廣告)鄭雨蒼。
(發行販賣)車耀珊。(收發)花家
新。(支社支局)三十二。(機械)
中國精製製造輪轉機一、(印刷能
力)一時間毎に一萬枚八頁大(平
版)三、魯麟平版一、(印刷能力
每一時間千六百枚)。活字鑄造機
ステロあり。寫眞製版は目下研
究中。(活字)十一字、百十七行
十四段。朝刊一箇月一圓五十錢

夕刊七十五錢。(廣告料)月極每
十行二版六十日、每二十行二版
月有 十日(經濟廣告)。(兼營)
新令月刊、二週年記念小冊文、
特刊號を發行。(特設)民國二十
九年八月中印刷部を擴張し一般
の利便を計り目下「國民政府同
報」「中央導報」小冊文並に宣傳
びら等々を印刷發行せり。十五
年十月頃印刷技術改進のため上
海日本タイプライター株式會社
上海支店より活字製造機二臺、
集合模倣型もの七組、紙型製造
機一臺購入すること相互約定し
たり。
■今期は恰も創刊二週年記念に
當り朝刊の外二週年記念號並に
特刊小冊文を發行したり、亦最
近國民政府遷都以來市内の商況
も漸時活氣を呈し其の後本社
の使命は重且つ大にして社同人は
一層時局に對應し以て新東亞建
設のために邁進せんとするもの
なり。
中報 (華文) 南京、國民黨の機
關紙、大判八頁。創刊民國二十
九年四月。

漢口
武漢大陸新報 大陸新報漢口
支社發行。漢口特二區南皮路五
號。(社史)大正七年一月二日創
刊の漢口日日新聞は支那事變の
爲め一時休刊となり、十四年三
月一日大陸新報社に買収され、
前社長字都宮五郎君支社長とし
て同日より再刊され、同年五月
二十七日より武漢大陸新報とな
る。(支社長)藏士延三。朝刊四
頁。(社員)十數名。(工場員)同
(活字)十四字、百五十行、十四
段。(廣告料)一圓五十錢。
武漢報 (華文)漢口路四八六
(電)二一〇九、二二一一九、
二一三八〇、二三八〇三。(社史)
昭和十三年十一月十日創立初め
は騰寫版、ついで二頁、四頁、
となり十四年三月輪轉機を据付
け六頁となり、七月八頁となる
十五年十一月十日現在七二五號
(部數)九萬二千部。朝刊八頁。
(版數)二。(地方版)一。(社長)
大串國夫。(編輯部長)莊渭川。
(整理司長)(以下司長)謝之江。
(翻譯)邱恩聰。(採訪)羅英。(校

正)金徳仁。(寫眞)韓石爐。(通
信)江潤余。(地方連絡)田村米
藏。(繪畫)唐林。(營業部長)小
寺彌作。(庶務課)吳清海。(會計
課)成富熊雄。(廣告課)池畑正
次。(用度發送課)眞崎熊次。(地
方課)小寺彌作。(東京辦事處長)
渡邊陸。分館辦事處、一六ヶ所
(社員)百五十六名。(工場員)七
十九名。(機械)マリノニ大型一、
平版四。萬能活字鑄造機二、カ
スチング活字鑄造機一、ステロ
設備一、寫眞製版設備、暗室三
(活字)九ボ、十字、八十八行、
十四段。一箇月金一圓八十錢。
(廣告料)一圓二十錢。(兼營)附
設印刷部(第一印書館)。(特設)
無電設備二。(十五、十一、一)
■大串社長は京大出身多年同文
書院教授たり、後縣議となり、
現在佐賀日日新聞社長。
■九江、南昌、安慶以西、湖北
湖南、江西、河南の占領全地域
を販路とす。

大楚報 (華文) 漢口市江漢路一
一號。(電)二、二二六〇、二、
一二七〇。(社史)民國二十八年
三月六日創刊、漢口市政府機關
紙。朝刊六頁。(社長)譚道南。
(編輯)張倫芳。(社員)編輯營業
各十八九名づつ。(機械)目下他
印刷所にて印刷中、十三段組。
百二行。一箇月一圓八十錢。(廣
告料)一圓二十錢。(兼營)半月
刊綜合文化雜誌「新生」、不定期
「新生叢書」、小學生新聞「武漢
小學生」。(十五、十一、十)
■譚道南社長は前武漢參議府參
議、申江實業監事たり。武漢一
流の要人。
■武漢三鎮を販路とす。
中支各地
蘇州新報 (華文) 蘇州。大報
六頁。創刊、昭和十一年十二月
二十一日。
江南日報 (華文) 蘇州東中市
創刊、昭和十三年十月十五日。
朝刊大判四頁。十二字、百十七
行、十二段。一箇月六角。
杭州新報 (華文) 杭州。大報
六頁。創刊、昭和十二年十二月
二十四日。
蚌埠新報 (華文) 安徽蚌埠華
昌街。(電)三四。社團法人(社
史)民國二十七年五月十五日創

刊爲「江社新報」は開式間日刊、迄八月十五日改名爲蚌埠新報日刊四開式、至二十八年三月改爲對開式四版。昭和十五年十一月三日現在八百二十一號。(部數)六千八百部。朝刊大判四頁。(社主)張益齡。(社長)同。(編輯)胡振興。(電訊科)沈育仁。(地方科)何亞民。(採訪科)楊秀崑。(副刊科)孫漢。(營業)林家松。(社員)六十九名。(工場員)四十名。(機械)對開平版機兩架。鑄造機兩臺、銅模全。(活字)十一字、九十二行、十四段。一箇月一圓二十錢。(廣告料)三百圓。(兼營)兒童旬刊。(十五、十一、三)

■最近一年間に擴充發行額數、添置輪轉機、紙版設備。

蕪湖新報(華文) 蕪湖。大報四頁。創刊、昭和十三年七月十七日。

新鎮報(華文) 鎮江。大報四頁。創刊、昭和十三年七月十二日。

南支各地

廣東日報 廣東、創刊十三年十月二日。

南支日報 廣州市長堤新填地一號。朝刊六頁。十一字、百二十行、十三段。一箇月一圓二十錢

廣東迅報(華文) 廣州長堤新填地一號。朝刊八頁。(社長)唐澤信夫。十一字、百二十行、十三段。

全閩新日報(華文)及日文 廈門市大漢路門牌二四六號。(電)社長室五〇五、營業部一一四、編輯部一八。(社史)明治四十年八月十日創立、三十三年の古き歴史を有す、爾來複雜多岐なる國際諸狀勢と支那特有の幾多の兵政變に遭遇しつゝ、海外施設事業新聞として其の使命遂行に最善の努力を拂ひ現地は勿論奧地及南支南洋各地の華僑に頒布し信用勢力あり。昭昭十五年十一月七日現在九八九四號。(部數)一萬部。朝刊漢文六頁。和文二頁。(社長)澤重信。(編輯)重見雅人。(漢文總編輯)曾文欣(和文同)黃菊次郎。(營業)高松啓吉。(印刷部主任)陳福欽。(社員)二十六名。(工場員)五十三名。(機械)新聞用折疊式平版輪轉機一、四六全版平版一、十六

頁四、十二頁一、八頁三、六頁一。手廻式鑄造機二、寫真版製版機一式。(活字)五號、十字、八十行、十三段。一箇月八十錢(廣告料)十五錢、場所指定三十錢。(兼營)書籍印刷業、經濟週刊「華僑日報」民聲。(十五、十一、七)

華南新日報(華文) 福建省編門市。(電)八一、八二、九六、(社史)皇軍廈門上陸後中國側の言論機關として創立され以來順調なる發展を遂げつゝ、今日に至る創刊日は昭和十三年九月一日昭和十五年十一月五日現在七五一號。(部數)七五〇〇部。朝刊八頁。(版數)一。(社長)林谷。(編局)李天章。(整理)林耕。(社會)楊清梨。(營業)林福桂。(廣告)莊水木。(大阪支局)金井勝三郎。(社員)三十名。(工場員)四十名。(機械)マリノニ式輪轉機一、平版大型二、小型四。活字鑄造機二、ステロ一、寫真版は目下購入中。(活字)五號、十字、七十行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)五十錢、場所指定七十錢。(十五、十一、五)

香港日報(日文及華文) 香港ニユース(英文)香港日報社。香港ニユース社發行。香港千禧道中二號。(電)三一二四三、三一二四四。個人經營。(社史)香港日報(日文)は明治四十二年の創刊、松島、井手の時代を経て昭和十三年十一月一日より現社長井手前社長より買収經營す、昭和十三年十二月より華文香港日報を發行、同十四年六月十八日より英文週刊紙香港ニユースを發行す。朝刊四頁。夕刊四頁。昭和十五年十一月十八日現在九千三百八十八號。(部數)華文三萬五千、日文二千。英文三千部。發行版數華文朝刊六頁。和文夕刊四頁。英文週刊四頁。(社主)衛藤俊彦。(社長)同。(支配人)生田幸榮。(主筆)東明行彦。(編輯總局)同。(日文編輯)島勝。(華文編輯)李添慶。(英文編輯長代理)小倉三郎。(營業)生田幸榮。(東京支社)永井省三。(大阪支局)八貝良郎。(社員)八十二名。(工場員)百三名。(機械)マリノニ式輪轉機一、平版三。ライノタイプ二。活字鑄造機二、

海外

以下は在外本邦人の經營にかゝる在外日刊新聞である。昭和十年十月一日現在在外内地人は次の如くである。(支那、滿洲を除く)

ブラジル 一七三、四二〇
ハワイ 一一〇、〇四〇
アメリカ 九八、三五七
フィリピン 二一、五二四
ペルー 二〇、八二七
カナダ 一八、八〇四
海峽殖民地及アレノ諸邦 六、九七七
蘭領インド 六、八七七

海峽植民地

南洋日日新聞 英領シンガポール・ミッドル路二四一號。(電)七五八七。銀五萬弗。(社史)一九一四年四月創刊。夕刊四頁。(部數)十二年十一月現在三千部(社主)手塚貞吉。(社長)同(東京支局)末廣清信。(機械)平盤二。(活字)八半、十五字、十一段。一箇月一弗五十仙。(廣告料)五十仙、場所指定三割増。(十二、十一、廿)

新嘉坡日報 英領シンガポール、スランゲン路一二三。(電)二七〇〇、五萬弗。(社史)創刊昭和六年二月十一日、夕刊四頁。(部數)十二年十月五日現在二千六百部。(社主)長尾正平、(主筆)社主。(編輯)木村二郎。(營業)櫻村徹志。(支局)十二。(社員)三十名。(工場員)十五名。活字鑄造機、ステロ、寫真版設備。(活字)七ボ、九十八行、十三段。一箇月一弗五十仙。(廣告料)五十仙、場所指定倍額。(十

比島

ダバオ日日新聞 比律賓・ダバオ市・クラベリヤ街。(電)一四五、株式五萬五千ペソ(社史)大正七年十月一日星篤比古ダバオ公論社創立、同八年六月一日ダバオ公論社より日刊「ダバオ毎日ニユース」刊行、同十年十月一日岡崎平治外二名にて日比新聞刊行、昭和十四年十一月一日兩紙合併して株式會社ダバオ日日新聞社創立同名紙刊行。昭和十五年十月二十六日二百五十三號。(部數)三千部。朝刊四頁。(社長)小川山三郎。(副社長)岡崎平治、星篤比古。(專務)岡崎平治。(常務)星篤比古。(支配人)岡崎平治。(主幹)星篤比古。(主筆)蒲原廣二。(編輯)蒲原廣二(邦文)、星篤比古(英文)。(會計課)川島正道。(營業課)大下岸松。(工場長)竹村春藏。(東京支局)鈴木喜一。(機械)平盤四。寫真版設備あり。(活字)九ボ、十二字、七十六行、十二段。一箇月一比八十仙。(廣告料)一

瓜哇

東印度日報 No. 6, Ron Malakka, Batavia, Java, 合資會社。三萬盾。(社史)大正九年創刊の瓜哇日報及び昭和八年創刊の日蘭商業新聞を合併し昭和十二年七月一日創刊す。夕刊四頁。(版數)一。(附錄)週刊和蘭語版(十二頁)。(部數)十三年十月一日現在六千部。(社長)齋藤正雄。(副社長)久保辰二。(主幹)谷口五郎。(領内部)近藤三郎。(内地部)林德藏。(外國部)吉住留五郎。(營業)上野寛。(東京支局)末廣清信。(支局)六。(社員)十一名。(工場員)二十名。(機械)平盤四、ステロ、寫真版設備あり(活字)七ボ、十五字、八十六行十三段。一箇月二盾五十錢。(廣告料)一圓、指定料二十錢。(兼營)一般印刷業並に一日三回の内地電報通信發行す。(十三、十一、)

メキシコ 五、二四五
アルゼンチン 五、一八五

二、十、十五)

吋角二ペソ。場所指定五割増。(兼營)一般印刷業、英字新聞 Davao Times Weekly 刊行(十五、十一、二十六)

加奈陀

加奈陀新聞 (カナダ・デーリー・ニュース) 晚香坡メーン街一八。創刊大正十二年九月九日。個人經營。夕刊八頁。(社長)鈴木重三。(編輯)杉山定香。(營業)古川繁雄。(東京代理人)笠原政一。(機械)輪轉機一。活字鑄造機、ステロあり。(活字)九ボ、十五字、百十行、十段。一箇月六十五仙。(廣告料)三十仙。

大陸日報 (コンチネンタル・デーリー・ニュース) 晚香坡、東、カドバ街。創刊明治四十年六月。株式。夕刊八頁。(社長)山崎寧。(主筆)岩崎與理喜。(營業)同(機械)平盤二。活字鑄造機、ステロあり。(活字)九ボ、十四字、百五行、十一段。一箇月七十五仙。(廣告料)十仙。

北米合衆國

羅府新報 加州ロスアンゼルス市。(電)TR0六六六。株式。五萬弗。(社史)千九百〇三年(明治卅六年)在留同胞發展に伴ひ伸長す。昭和十五年十月一日現

在一萬二千五百十五號。(部數)九千二百部。夕刊八頁。每木曜十頁。(版數)一。(社長)駒井豐策。(專務)駒井明。(編輯)鈴木博。(英文)田中董悟。(營業)永井伊太郎。(廣告)進藤虎龍。(東京支局)武藤省吾。(大阪支局)谷良男。(社員)二十八名。(工場員)卅五名。(機械)ゴス輪轉機。ステロあり。(活字)八ボ、十四字、八十二行、十三段。一箇月一弗(廣告料)一時、九十八仙。(兼營)羅府年鑑(年一回)。(十五、十、一)

加州每日新聞 加州ローサンゼルス市東二街。三三九番。(電)M、I、三一七。十五萬弗。(社史)創刊千九百卅一年十一月六日。(部數)六千部。朝刊八頁。(版數)一。(社長)藤井整。(社員)同。(機械)デユプレクス、プレス、メシン、一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。一箇月一弗(十五、十、一) 十五年東京支社を廢止す。 米國産業日報 羅府ジャクソン街三二七。創刊昭和十年。個人經營。朝刊六頁。(社長)村井

日米新聞 (ジャパニズ・アメリカン・ニュース) 桑港ラグナ・ストリート一八〇。創刊明治三十二年四月三日。株式。二十五萬圓。朝刊八頁。(社長)安孫子よな。(專務)川島伊佐美。(主筆)島内良延。(機械)輪轉機一、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)九ボ、十三字、十三段。一箇月一弗。(廣告料)一弗五十仙。

新世界朝日新聞 (THE NEW WORLD SUN) 米國加州桑港市グリー街一六一八番。(電)フルモア〇〇九五、〇一三四。株式會社。十五萬弗。(社史)明治廿六年桑港に於て發行された、日刊新世界新聞の後繼、新世界日々新聞と北米朝日新聞が昭和十年六月合併し新世界朝日新聞となる。朝刊八頁(邦文六頁、英文二頁)。(部數)十四年十月十日現在一三、五六〇部。(社長)阿部豊治。(副社長)高山喜久治。(取締役)阿部豊治、高山喜久治、

海老名一雄、岡垣吉太郎、三原時信、一九嘉久藏、太田敏夫。(支配人)一九嘉久藏。(主幹)海老一雄。(主筆)阿部豊治。(編輯)太田敏夫。(英文編輯)西田ケイ。(東京支局)鈴木龜之輔。(全米各地に支局あり)。(社員)日英兩部本社二十名。支社支局六十名。(工場員)日英兩部三十五名。(機械)デユプレクス一及ライノタイプ二、ステロ、寫眞版あり。(活字)九ボ、十二字、八十六行、十三段。一箇月一弗。(廣告料)一時一弗、日本廣告は特別割引あり東京支局に於て取扱ふ。特別面(三面)一時二弗、毎年一月書名『新世界朝日年鑑』として『在米日本人年鑑』を發行(日本にて印刷)。(十四、十、一)

櫻府日報 (サクラメント・デーリー・ニュース) 櫻府エム街六〇〇。(電)メーン六三六二。創刊明治四十一年三月二十四日。個人經營。二萬五千弗。夕刊四頁。(部數)十二年九月現在三千五百部。(社長)沖健二。(主筆)南部源哉。(東京支社)竹田文治郎。

(支社)三。(社員)四名。(工場員)七名。(機械)平盤一。(活字)舊、十四字、六十五行、十段。一箇月六十仙。(廣告料)一時二十五仙、場所指定三十五仙、特別四十以上十五仙、以下二十仙。(十二、十、一)

央州日報

(オレゴン・ニューズ) ポートランド西北第二街一三三。(社史)一九〇四年週刊その後日刊となる、前社主阿部豊治、現社主小山巖。夕刊六頁。(社長)小山巖。(社長)同。(主筆)中島勝治。(活字)舊、十三字、九十六行、十段。一箇月五十仙(廣告料)六仙。(十一、十、十)

大北日報

(グレート・ノーザン・デーリー・ニュース) ワシントンシアトル市メーン街四一四。個人經營。五萬弗。(社史)西曆一九〇五年、「あめりか」を週間新聞として發刊し、一九一〇年六月日刊新聞に變更新聞名を現在に改めて今日に至る。夕刊八頁。(版數)一。(部數)十三年十一月現在八一〇〇部。(社長)竹内コト。(社長)川尻慶太郎。(主筆)同。(營業)佐藤保

治。(東京支局)鷺谷精二。(支局)四。(社員)十四名(工場員)十五名。(機械)ミール極大機一活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)五號、十二字、六十二行、十三段。一箇月八十五仙。(廣告料)六十仙、場所指定一弗。(十三、十一、一)

北米時事

(ノース・アメリカン・タイムズ) 沙市南五番街二一五。創刊明治三十九年九月。株式三萬圓。夕刊八頁。(社長)有馬純清。(營業)同。(廣告)鈴木教二。(機械)平盤一、輪轉機一。(活字)舊、十二字、百八行、十二段。一箇月八十五仙。(廣告料)七仙。

南沿岸時報

(サウザン・コースト・ラルド) 米國加州サンピドロ市タミナル。(電)ザンビドロ七六、三六二六。個人經營。三萬弗。(社史)大正五年創刊、社會指導と第二世教養に盡す。朝刊四頁。(地方版)サンテゴ版、サンフランシスコ版、ガダルー下版。(部數)十一年十一月十八日現在約一萬部。(社長)平賀重昌。(社長)同。(取締役)原乙

滋。(監査役)濱口平三郎。(主幹)平賀重昌。(編輯)竹内幸助。(部長)濱原重太郎。平田露草。(營業)井戸太輔。(部長)平賀宗吉。(機械)輪轉機二臺(大小共)ステロ、寫眞版あり。(活字)舊、十五字、五十五行、九段。一箇年二弗五十仙。(廣告料)一段一時五十仙。特別面一段一時一弗。(兼營)代理部、各種印刷物、各事項法律手續、移民手續事項等。(十一、十一、廿)

布 哇

日布時事 米領布哇縣ホノルル市。(電)六〇九一、六〇九二、六〇九三、六〇九四。株式。五萬弗。(社史)「明治二十八年十月」創刊當初は「やまと新聞」と稱し石版刷小形四頁で毎週二回發行した、明治三十二年活版印刷となり間もなく日刊紙となる明治三十九年十一月日布時事と改題し逐年發展し大正八年英文欄を創始し現在四頁の英文欄を添ふ。昭和十五年十月一日現在一萬三千六百九號。(部數)一萬四千七十六部。夕刊十二又は十

四頁。(版數)一。(社長)相賀安太郎。(副社長)勝沼富造。(書記)河本勝一。(會計)米屋三代穂。(監査)古川茂生。(評議員)岸八郎、竹原寅之進、相賀重雄、淺海庄一、古川章。(支配人)河本勝一。(主筆)相賀安太郎。(編輯)淺海庄一。(英文部)相賀重雄。(營業)河本勝一。(廣告)古川茂生。(會計)竹原寅之進。(印刷)古川清。(東京支局)鈴木喜一。(東京特置員)山下草園。(社員)百八十名。(工場員)七十名(機械)デユプレクス大形廻轉機一、リノタイプ五、ミラー大形一、同中形一、超速機一、フット形各種四、マルチリス機一、エムボース其他數臺。ユニバーサル活字鑄造機二、電盤ステロ一、スコッチャー二。(活字)九ボ、十二字、八十行、十三段。一箇月一弗。(廣告料)一時一段七十仙、場所指定一弗。(兼營)各種印刷業、布哇年鑑年一回發行日本人電話帖年二回發行布哇風景寫眞帖。(特設)無電放送受信局を有し、米國アソシエーテドプレス及び國際通信社と特電の

契約をなす。(十五、十、一)
十五年七月慶應野球部を招聘す。

布哇報知

ホノルル市クニン街。個刊大正十二年二月。個人經營。夕刊十二頁。(社長)牧野金三郎。(主筆)寺崎定助。(機械)輪轉機一、平盤五。ステロあり。(活字)九ボ、十二字、百十三行、十三段。一箇月一弗。(廣告料)六仙五。

布哇每日

布哇毎日新聞社發行。布哇島ヒ號ブナハワイ街。(電)一八〇八、二二五〇。個人。四萬弗。(社史)明治三十九年五月十五日創刊。畫刊八頁。(英文四、和文四)。(部數)十四年十月四日現在四千部。八千四百五十二號。(社長)德城信二。(編局)比嘉武信。(營部)中島末子。(東京支局)鷺谷精一。(社員)二十六名。(機械)四頁刷りの平盤。ステロあり。(活字)九ボ、十三字、七十行、十二段。一箇月九十仙。(廣告料)一時三十五仙。特別面一時五十仙。(十四、十、四)火山新聞 米領布哇ヒロ市。(電)二九一〇。會社組織。二萬

五千弗。(社史)創刊千九百十四年(大正三年)最初山村幸八個人經營にて一週二回發行を千九百三十一年に改組して同年八月一日より日刊とす。昭和十五年十月一日現在三千八百七十三號。(部數)二千三百部。夕刊四頁。(社長)田中彌六。(副社長)田川靜馬。(支配人)同。(編輯)佐藤太一。(營業)西村壽一。(社員)二十名。(工場員)十二名。(機械)ミラー式とリ式各一、外に小型三、リノタイプ機一。ステロ設備。(活字)九ボ、十五字六十行、十段。一箇月七十五仙。(廣告料)一時五十仙。(兼營)比島人の雜誌、布哇耕地の小型新聞など印刷。(十五、十、一)

秘露

秘露時報 リマ市 Calle Cardiod 616 創刊一九二九年。日刊四頁。(主筆)池山壽夫。(活字)十四字、百四行、十段。(廣告料)四十仙。リマ日報 リマ市 Calle Zamudio. 661 創刊昭和九年十一月三日。夕刊四頁。(社長)田中重太郎。(主筆)櫻井進。(活字)九ボ、十

四字、百四行、十段。一箇月二ソリース。(廣告料)四十仙。

伯刺西爾

伯刺西爾時報(週二回刊)ブラシル・サンボロー Rua Felfel rdes. 196 (電)七一四六七〇。個人經營。(社史)一九一七年八月廿一日創刊、六頁週一回發行漸次八頁十頁となり一九三三年八月十二頁となり週二回、昭和十年七月より十四頁、水、土、週二回發行。水曜日八頁。土曜日六頁。(部數)十年十月一日現在九千五百部。(社長)石黒清市郎。(主筆)黒石清作。(編輯)中村雄吉。(社員)本社十五名、リンス支社十五名、ソロカバナ支社三名。(工場員)十八名。(機械)平盤二。(活字)明朝六號、十五字、六十行、十段。(購讀料)二銜五百レリス、日本行年四十銜(約八圓)。(廣告料)一段五十銜、場所指定日貨一銜五十錢、一段六圓。(發行物)月刊雜誌子供の園發行。

頁。(社長)三浦肇。(東京支社)鈴木喜一。(活字)十三字、百十六行、十二段。(廣告料)一圓五十錢。
十四年五月以來發行停止の處十五年六月二十日付より再刊許可となる。

日伯新聞 サンパウロ Rua Maestro Cardim. 1109. 日刊四

有保全國新聞數(府縣別)

昭和十五年九月末現在

(有保證紙計には月一回以下發行紙も加へあり)

Table with columns for newspaper types (種別), total count (總數), and counts by month (月刊, 月刊以上, 月刊以下, 月刊以下, 月刊以下, 月刊以下). Rows list various newspapers and their regional affiliations (e.g., 神奈川, 山梨, 埼玉, etc.).

紙妹姉大二



町山徳



市吳



創刊明治二十五年

社聞新國中

町川流上市島廣社本
ルビ寶七・四ノ五座銀區橋京社支京東
番〇五五四座銀話電

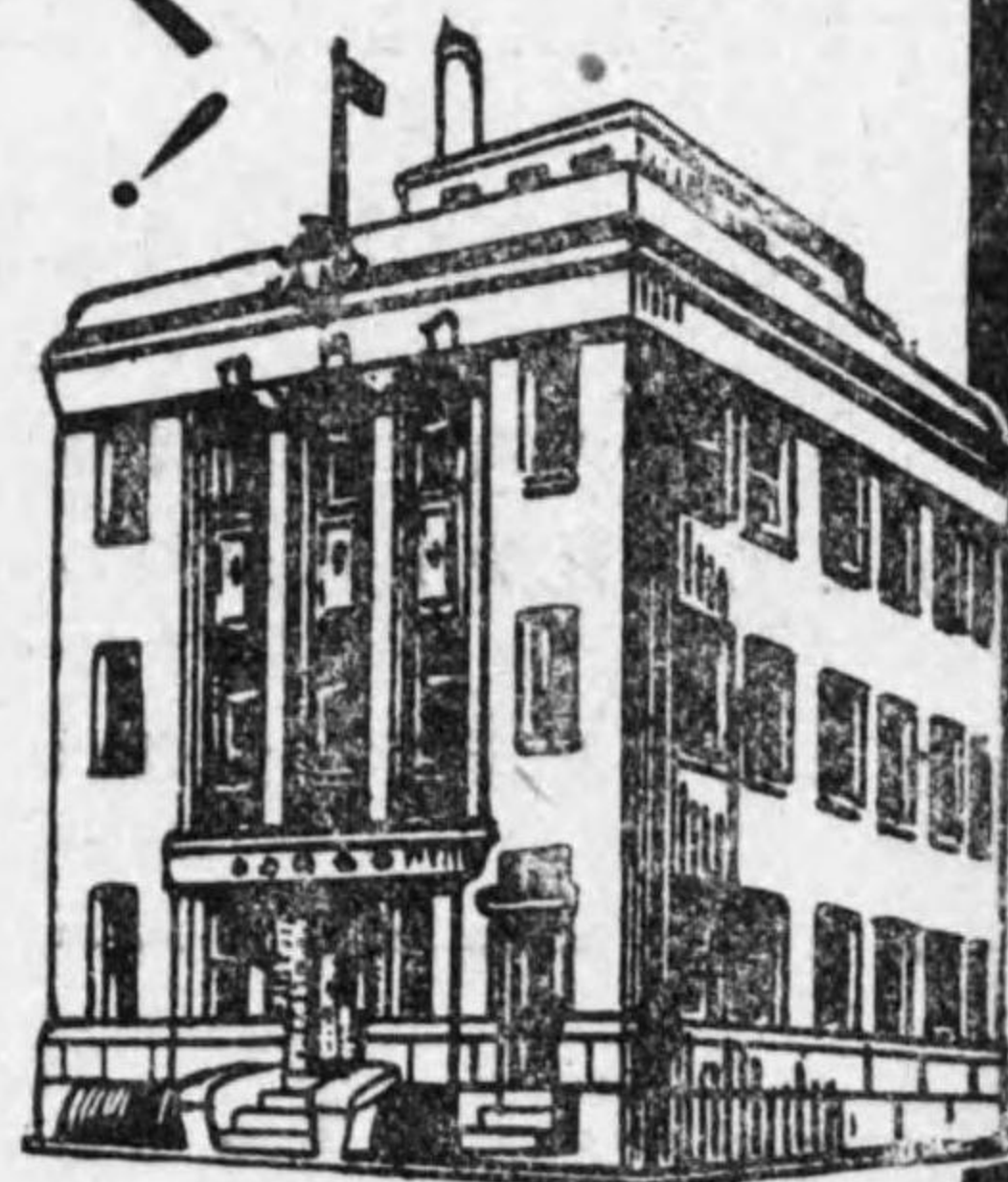
ADVERTISING AGENCY
SHOWJIKISHA

五十年の経験と奉仕

廣告代理業の

第一線をゆく!

活きた廣告進んだプランの製作に

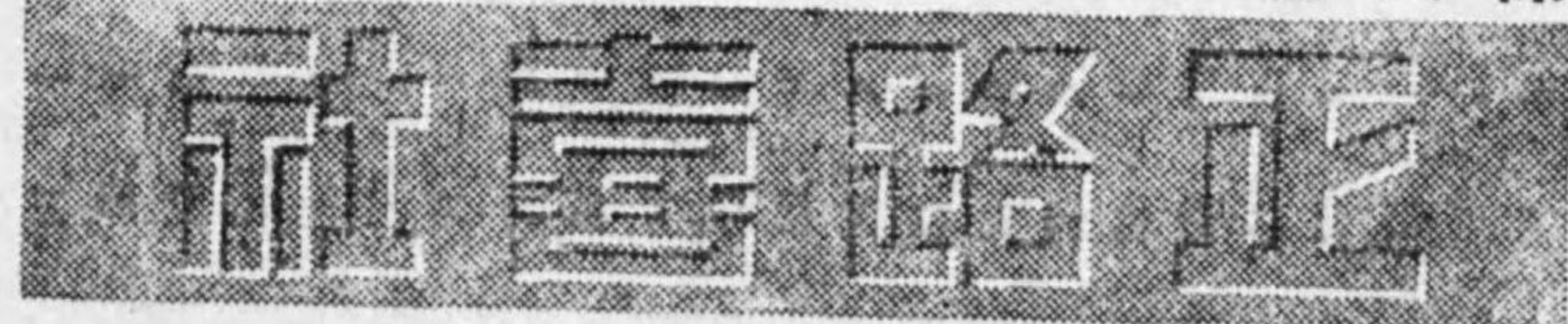


創立五十年の歴史を誇る
正路喜社には、常に廣告
主と新聞社、雑誌社との
間に在つて、兩者の爲に
最善の便宜と良心的な仕
事を以て奉仕すべく設置
された企画考案課が多大
の好評と実績を擧げて居
ります。ぜひ御利用下さ

- 廣告に關する一切の御相談に應じます。
- 新聞、雜誌廣告に關する御相談に應じます。
- 原稿作成に關する一切の事務を引受けします。
- 廣告市場調査の御相談も受けします。
- 廣告印刷物の作成と印刷を引受けします。
- 廣告造型物の設計意匠を引受けします。

業理代告廣

社會式株



地番五目丁七西座銀區橋京市京東
八六七五-一六六七五表代 八三八・七三八座銀話電

社主筆 長野依秀市

朝刊 四頁
定価一ヶ月五十錢 (地方郵税)
部 賣 二五錢

本社



東京市芝区芝公園五丁目
電話 芝一五五〇番
芝一五六一番
振替口座東京六一〇九

金力では

作れぬ何物も恐れぬ日本一の新聞

☆一代の碩學

☆三宅雪嶺先生

☆隔日執筆

本紙は金力・権力に屈せず、堂々たる筆陣を張り躍進又躍進帝都新聞界に特異の地位を築けり。
その「自由論壇」の天馬空を往く壯觀、「新聞戦線」の偉彩は、三宅先生の論説と相俟つて、断然他社の追従を許さず。読者と記者の「電話問答」天下一品。

題して「帝都の一隅から」を隔日執筆。その隨想は、感興に従ひ時に外交、財政、軍事、經國の政策を論討し、時に市井の些事にも及ぶ警醒絶句である。

△實業の世界

◇毎月一日発行・定価四十錢
◇實業之世界社發行

△眞宗の世界

◇毎月一日発行・定価廿錢
◇大日本眞宗宣傳協會發行

△佛教思想

◇毎月一日発行・定価十錢
◇佛教思想普及協會發行

△秀文閣書房

◇圖書出版及び販賣

△佛教眞宗會館

◇信仰求道の道場
◇東京市芝区芝公園五丁目

栄養豊かな一杯です
健康増進の一杯です

美味・滋強飲料

蜂ブード酒

味の素

登録商標

播り鉢
ゴリゴリ
まな板
トントン
鍋が
ブツブツ
味の素
バラバラ



味の素本舗 株式会社 鈴木商店

1-K

山本新聞インキ工場

山本忠次郎

大阪工場 大阪市此花区恩貴島南町
電話土佐堀三四五九番
東京工場 東京市品川区大井水神町
電話大森五二八八番

★ 本邦唯一の 日刊文化通信

事業種目

- ▼ 長篇小説
- ▼ 長篇講談
- ▼ 長篇論壇
- ▼ 時事解説
- ▼ 週間時事解説
- ▼ 國將棋通信
- ▼ 大政翼賛通信
- ▼ 漫畫通信
- ▼ 毎月の編輯資料
- ▼ 婦人家庭通信
- ▼ 文案圖案製作の引受
- ▼ 經濟通信

日本學藝通信社

合同各社

(順ハロイ)

東京文學藝社
 大東文藝系通信社
 現代文藝通信社
 文藝通信社
 帝國文藝通信社
 新聞文藝通信社
 新興文藝通信社

東京市本郷區湯島新花町三十四番地

電話小石川 (85) (編輯營業用) 二九二一番

(夜間宿直用) 二九二二番

振替口座東京八一四三番

東京市本郷區郵便局私書函第十一號



大日本印刷株式會社

本社營業所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 電話牛込 (34) 代表一五一〇番

櫻町營業所 東京市牛込區櫻町七番地 電話牛込 (34) 代表二四四〇番

銀座活字 東京市京橋區銀座七丁目四番地 電話銀座 (57) 代表〇〇七四番

大阪出張所 大阪市北區西堀川町三四

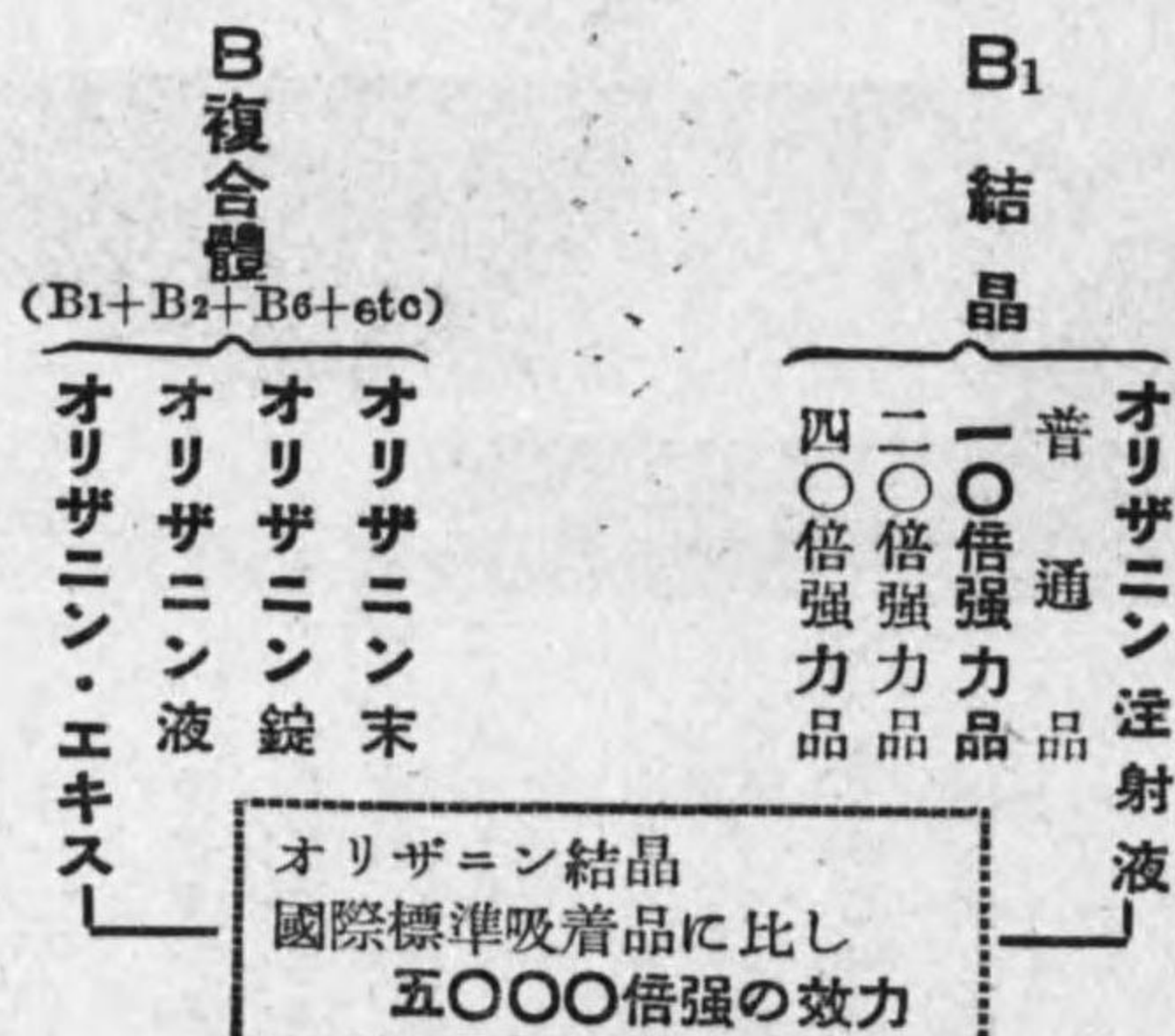
神戸代理店 神戸市神戶區榮町四丁目三六

滿洲國代理店 奉天市鐵西區嘉工街三段ノ一

結核に

—鈴木梅太郎博士発見—
米糠より抽出したるもの
にして合成品と自からその
性能を異にする

強力ビタミンB劑
オリザニン



- 脚氣の治療と豫防
- 疲勞の恢復と防止
- 肺結核、肋膜炎
- 妊娠・産褥・授乳時
- 食慾不振、便秘
- 乳幼児自家中毒
- 疫癘治療期等



東京・日本橋・室町 三共株式会社

ビタミン
V・B₂
複合體

結核諸症に……

多量に含有するフラビン及びV・B₆は結核菌の毒作用を抑へ、胃腸の活動を活潑にする。したがつて栄養は増進せられ、自然治癒力を強化する。

胃腸疾患に……

消化吸収容易にして、強力なる胃腸整調作用を有す。特に慢性胃腸障害を除き、着々機能を恢復し正常化を齎らす。

牛肝臓より抽出

濃厚にして

消化吸収良好

自然物中最も豊富なビタミンB₂含有物と稱される酵母に比して數倍の濃厚さであり、酵母の如く蛋白質と結合せざるが故に消化吸収頗る良好にして衰弱せる胃腸に負擔を與へず、機能恢復、營養補給を可能ならしむ。

【適應適】
結核疾患 胃腸障碍
腺病體質 酒害糖害

一〇〇錠：二圓五十錢
三〇〇錠：七圓
九〇〇錠：二十圓

理研
ビタビ
錠

店商置玉 社會式株 ① 店理代總

品製 所究研學化理 人法團財

齧齒を豫防
 するには食
 物が口中に
 残らない様に
 ライオン
 齒磨で丁
 寧に清掃
 する事です。



夜寝る前にも齒を磨く
 と更に有効です。それ
 は、睡眠中齒に溜つた
 食片に細菌が作用して
 乳酸の酸酵が著しいか
 らです。
 ライオン齒磨には獨自
 の吸着作用があるので
 食物の残滓や細菌を悉
 く吸着して口腔外に排
 出させます。
 従つてライオン齒磨で
 丁寧な清掃なせる事が
 最も理想的です。

ライオン齒磨本舗

ライオン齒磨本舗

磨齒ンオイラ

- 一、日刊通信及特種新聞一覽
- 二、廣告代理業者一覽
- 三、新聞製作材料業一覽
- 四、在東京地方新聞支局一覽
- 五、在阪全國新聞支局一覽
- 六、同盟加盟新聞社一覽
- 七、全國主要廣告主一覽
- 八、新聞關係諸機關一覽

第三篇 一覽

日刊通信及び特種新聞一覽

一、本表は東京、大阪、及び全国各地所在主要日刊通信及び特種新聞の一覽表である。表の諸項目は、一々各社について問合せたものであるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料によつた分も多少ある。

一、配列の順序は東京、大阪、地方及び滿洲の四種に分ち、大體イロハ順による。

一、各紙の記述は大體次の順序による。(括弧内の文字はそれらの略稱)

記述の順序

通信名、發行社名(社名の記入なきものはすべて通信名と同一名の社から發行される場合)、所在地、電話番号(電)、組織別、資本金額、通信の種類内容(種類)、社史、主要幹部(但し編輯局長又は編輯長は編輯)、營業局長又は營業部長は(營業)、販賣部數(部數)、支局數、全社員數(社員)、一箇月購讀料金、特別設備(特設)、兼營事業(兼營)、其他。右以外の特殊事項も必要に應じて記入す。(各項最後の括弧内の數字は調査の年月日を示す)

尚日刊通信及び特種新聞は普通新聞同様目下東京はじめ全國に亘り統合中に屬し多大の變化を見つゝあるも本稿締切までに確報に接せざる分は従來通り掲載しあり。

一、東 京

日露通信

總町區丸ノ内三ノ
二。三菱二十一館。(電)丸ノ内
四六四四一五、二七九二。個人
經營。(社史)大正七年十一月一

日本學藝通信

本郷區
湯島新花町三四。(電)小石川二
九一一、二九一二。組合。(種類)

日創刊(但創業は大正四年三月一日)當時月刊雜誌「日露兩文日露實業新報」を發刊此間現在の日刊「日露通信」を創刊兩者併行續刊せるも同十二年十月雜誌を廢刊、爾來専ら「日露通信」の發行を續け現在に至る。(社長)上田森治。(副社長)上田半治郎(編輯)金田常三郎。(社員)二十二名。一箇月十圓。(十三、十一、一)

日本通信

芝區今入町一五五
屋ビル内。(電)銀座八〇四一八
〇六。(社史)創立明治二十一年十月。昭和九年七月七日前社長漆間眞學君逝く。個人經營。五十萬圓。(種類)政治、經濟、社會、教育、宗教。(理事)水野源一郎、漆間一太郎、高橋眞雄、(支局)五。(特設)親展通信。
十五年四月十一日社長此經春也君逝く。享年七十二。

日本ニユース映畫

總町區
有樂町日本劇場五階。(種類)ニ
ユース映畫。

論說、時事解説、文藝、學藝、新聞小説、講演、圍碁、將棋、漫畫其他ニユース以外の新聞通信一切。(社史)昭和十五年九月一日當局の統制方針に準先して同業八通信社(東京學藝通信、大東文藝通信、大系社、現代文藝通信、文藝通信、帝國文藝通信、新聞文藝、新興文藝通信)自發的に合併して創立し同年十月一日より業務を開始すニユース以外の汎文化通信として本邦唯一の存在たり。(理事長)池田憲之助。(社長)川合仁。(編輯)池内祥三(業務)池田均。(同次長)片瀬愛三郎。(經理)片瀬濱治。(企畫)大沼敦。(發送)坂口藤太郎。(調査)三輪京之助。(宣傳)藤本捷治(支局)一。(社員)五〇名。(特設)紙型鉛版工場。活版整版工場。(兼營)原稿、寫眞、特別通信の提供、寫眞製版、紙型鉛版其他新聞發行用資材の供給。
十五年十月一日業務開始と同時に一流評論家二十氏を動員して「日刊時局論壇」を地方有力紙十社に配給を開始し新體制理念の徹底を期す。

同十一月十四日匝差少將始め七氏を以て「太平洋の諸問題を語る」座談會を開催し地方有力紙に對し同記事を提供す。
 十一月二十日昭和十六年新年資料を發表す。(十五、十一、二十)

日本聯合通信

麹町區一番町十五番地ノ五。(電)九段四八七三。個人經營。二十四萬圓。(種類)政治、經濟、社會、其他一般ニュース。(社史)大正四年三月十五日創刊。(社長)牧胤吉。(編輯主任)栗村太郎。(營業主任)君塚芳藏。(事業主任)佐々木源造。(外交主任)鈴木鶴雄。(部數)二百部。(支局)二十。(社員)二十五名。一ヶ月二百圓。(十五、十一、二十)

日本經濟通信

京橋區西銀座五ノ一。(電)銀座三一、三三、三一〇、三八八八、二二四五。個人經營。(社史)明治四十一年四月廣告社々長湯澤精司が我國經濟通信の必要を叫んで率先日刊創刊せるもの。(種類)政治、經濟。(社主)湯澤精司。(社長)湯澤清。(主幹)齋藤徳松。(編

輯幹部)築山九三、宇野晴雄、赤見長、日置謙一郎。(社員)四十七名。一箇月三十圓。(兼營)廣告代理業。(十五、十一、二十)

日本合同通信

芝區田村町一ノ三。(電)銀座六二〇二。個人經營。(社史)昭和元年二月創立。(種類)政治、經濟、社會。(部數)十三年六月一日現在五百部。(社長)安藤元節。(主幹)今石貞次郎。(臺灣支社)林武烈。(支局)一。(社員)三十六名。一箇月五十圓。(發行物)臺灣大觀及南支大觀。(十三、十、廿五)

日本演藝通信

京橋區銀座四ノ五。(電)銀座二六六八。個人經營。一萬圓。(種類)演劇映畫。及び音樂通信。(社史)大正十二年十月一日創刊。(社長)丸山耕。(部數)二百部。(支局)一。(社員)十名。(十四、十、十九)

日本實業興信所報

京橋區橫町三ノ五。(電)京橋二五五五。株式。三萬圓。(社史)明治三十九年創始。當時より土木建築業者専門の通信機關として、社長清水留吉氏經營、同氏死後株式

組織に變更岡品男氏經營の任にあり。(種類)土木建築工事及び材料、同上關係記事。(部數)十三年現在三千部。(社長)岡品男(支局)三。(社員)二十名。一箇年一千五百圓。(兼營)日本實業興信所。(十三、十、廿六)

日華通信

芝區明舟町一六。(電)芝三五三七。個人經營。創立昭和十一年八月。(種類)時事政治、經濟。(社長)伊藤輝堂。(營業)龜井秀雄。(編輯)井本幾次郎。(兼營)滿洲語學書刊行。

日東洋通信

東洋通信社發行芝區田村町二ノ一五。(電)代表銀座二九〇。個人經營。(種類)政治、經濟、社會、其他。(社史)創立明治四十一年十一月十日。原敬及成田榮信によつて創立され、十五年數社を合併す。(社長)成田榮信。(副社長)大野惣一。(編輯兼經濟)栗原光三。(政治、社會)前田禮二。一箇月一百圓(兼營)機關雜誌發行。(十四、十、廿三)

日刊東京米報

東京米報社發行。深川區佐賀町一ノ卅。(電)本所六〇二。個人經營。(社史)

明治十九年十二月正米市場の開始と共に市場に於ける取引値段を周知せしめる必要上、東京米況を題して日々發行同廿五年東京商報となり、同四十一年七月東京米報と改題今日に至る。(部數)十三年現在三千部。(社長)梅原保。(主幹)森川重幸。(社員)七名。一箇月四十五錢。(兼營)諸印刷業。(十三、十、廿五)

日刊千代田通信

京橋區銀座西八ノ七。(電)銀座三六〇三六九三〇。個人經營。五萬圓。(種類)宮内省關係記事、政治、經濟軍事、一般記事。(社史)大正二年九月九日創立。滿二十七年の歴史を有す。宮内省關係の日刊通信として今日に至る。(社長)吉田益三。(主幹)八幡博堂。(營業)小松崎重。(編輯)宮尾泰司(政治)徳永笹一。(顧問)頭山滿葛生能久、根岸寛一。(部數)八〇〇。(支局)支社二、支局二。(社員)四十名。一箇月五十圓。(兼營)廣告代理業。(十五、十一、一五)

日刊中央通信

中央通信社發行。京橋區銀座西七ノ五。(電)

銀座八三七一八、五七六六一八正路喜社經營。(社史)明治四十五年一月創刊。(種類)特別通信產業經濟特別通信。(部數)十三年十月現在百六十部。(社長)安田彦三郎。(主幹兼編輯)井上明夫(社員)三十五名。一箇月一百圓(兼營)正路喜社。

日刊大東通信

神田區東神田四。(社長)石和田八郎。

日刊藥業時報

神田區鎌倉町一三。(電)神田三二二四。(社長)武田信一郎。

日刊婦女通信

日本婦女通信社發行。牛込區市ヶ谷田町三ノ八。(電)牛込三三三〇。個人經營。一萬圓。(社史)明治四十五年六月創刊。(部數)十一年十月二十五日現在六十二部。(編輯)石井彰。(支局)一。(特設)社會事業婦人會館を別設。(兼營)結婚紹介。結婚調査。

日刊國策情報

國策情報社發行。麹町區内幸町二ノ二二。(電)銀座一四〇四、九二一。(社史)昭和十五年十一月十日新聞春秋新聞批判。新聞之日本、新聞時代、新聞改造の五社合併。(種

類)新聞事業關係。(社長)信山基重。(專務理事)宇都宮彰。(常務理事)寺南清一。(編輯幹部)中村勝治。

日刊演藝通信

東京時事通信社發行。麹町區内幸町二二。創刊昭和十三年十月。(東京時事通信の項参照)十四、十、一)

日刊公益通信

澁谷區神宮通り二ノ三六。(電)青山七四七。個人經營。(種類)政治、經濟。(社史)大正六年七月創刊、昭和七年より春口善吾經營となり、特に鐵道關係に特色を有す。(社長)春口善吾。(主幹)森三郎。(社員)八名。一箇月二百圓。(十四、十、廿三)

日刊情報新聞

情報新聞社發行。京橋區銀座西三丁目(電)八二〇六。(種類)新聞を中心とする(社史)新聞時報、新聞タイムス日本新聞情報、新聞公論、新聞情報を合併して昭和十五年十一月一日より改題。(社長)篠原貞

雄。(常務理事)宮尾安太郎。(同)市毛弘。(整理)森幹雄。(編輯監事)内村雄哉、樺田榮次郎。(部數)二千部。(支局)五。(社員)二十一。一箇月十圓。(特設)印刷引受。(兼營)廣告代理、出版。(十五、十一、十八)

日刊商業通信

日本商業通信社發行。京橋區銀座西七丁目三。(電)代表銀座七二二三。株式。叁拾萬圓。(全額拂込済)(種類)政治、經濟、時事ニュース。(社史)昭和十二年七月一日社團法人同盟通信の傍系として資本金二十萬圓を以て創立。同十三年十二月三十萬圓に増資今日に至る。(代表取締役)塚本義隆。(取締役)大川幸之助、川島信太郎、山本滋雄、吉川義章、折橋慶治。(監査役)石部幸次。(部數)一三〇〇部。(支局)二十三。(社員)一〇八名。一箇月五拾圓。(十五、十一、二〇)

日刊寫真通信

寫真通信社發行。京橋區銀座西五ノ二。(電)銀四五三、九三三。株式。(社史)創刊明治廿八年五月寫真通信は東洋の元祖にして專業としては

他になし。(種類)政治、經濟、通信並に寫真ニュース。(社長)大谷保。(取締役)井上慶之助。(監査役)井上不二男。(支局)三十五。(社員)三十六名。(特設)製版並に寫真印刷。

日刊新聞通信

新聞通信社發行。京橋區銀座六ノ三(電)銀座二四四五、二四五七、三九一六。匿名組合。二萬圓。(種類)一般新聞通信。(社史)昭和十五年十月新聞内外社、世界之日本社廣告資料調査會、新聞研究所報新聞解放社、新聞通信社合併。(社長)大西林五郎。(主幹)關豐作。(顧問)永代幹雄。(相談役)光用穆、吉野正平。(部數)三千八百。(支局)四。(社員)十三名。一箇月二百圓。(兼營)解放社(出版)。(十五、十一、二十四)

日蘇通信

麹町區丸ノ内、丸ビル三階。(電)丸ノ内一九七五二〇三三、三八一二。株式。五萬圓。(種類)ソ聯關係專門。(社史)創業大正十五年二月十一日、舊稱ロシア通信社(昭和九年改組改稱)。(社長)近藤義晴。(取締役)笠原直造、木曾茂。(監

查役) 黒沼利治。(編輯) 角谷健次。(支局) 六。(社員) 五十五名。一箇月刊雜誌二。(十四、十、十八) 十五年九月松方幸次郎社長となる。

保險日日通信

本郷區湯島一ノ九。(電) 下谷二六二、五〇二。六。個人。(種類) 生命、火災、運送、海上、信用保險に關する問題研究及社業報道。(社史) 明治四十一年創刊今日に至る。(社長) 鈴木啓次。(部數) 三〇〇〇。(支局) 十二。(社員) 十名。一箇月參圓。(十五、十一、二十五)

保險每日新報

牛込區本村町二。(電) 牛込二四六七。個人經營。(種類) 保險に關する通信。(社史) 大正三年七月十三日創刊(社長) 太田雅市。(支局) 十。(社員) 八名。(十四、十、十九)

東邦通信

神田區駿河臺三ノ三。(電) 神田六〇一。創刊大正十年三月十三日。匿名。(種類) 政治、經濟一切社會記事。(社長) 北崎房太郎。(編輯) 矢吉季。(支局) 五。一箇月百圓。

東政政經通信

赤坂區澁池三郎入社、取締役主幹として新刊に「日刊演藝通信」を併刊す。(社長) 山本孚。(主幹) 細井雀郎。(編輯) 秋葉肇。(演藝) 田卷敏夫(事業) 林啓市。(政治) 安吉英夫(部數) 日刊七百部。(支局) 三。(社員) 二十六名。(兼管) 演藝相談部。(十四、十、十一)

東京商業與信所日報

東京商業與信所發行。日本橋區江戶橋一ノ十一。(電) 日本橋四三六、四四〇。株式。二十萬圓。(種類) 財界資料。(社史) 明治四十四年二月十一日創立、同年九月十六日第三種郵便物認可。(社長) 永井房太郎。(日報部長) 小笠原幸彦(部數) 六千部。會員無料配布(支局) 五十八。(社員) 本社六十名。(兼管) 與信所。(十五、十一、十七)

特別通信

麻布區三河臺町一四。(電) 亦坂七五二、二三三〇。個人經營。七萬圓。(種類) 政治を主とし經濟、社會、文教、府政等。(社史) 大正十一年十二月二十三日創刊、昭和五年八月一日月刊雜誌「政界往來」創刊、同十五年五月一日政界往來會館

〇。(電) 赤坂二〇〇七、二二〇七。(種類) 政治經濟。(社史) 大正十三年。(社員) 十五名。一箇月五十圓。(特設) 號外月一回四頁新聞大。(十四、十、二十)

東海通信

京橋區橫町一丁目一。(電) 京橋一〇四五、四二九〇。匿名組合。四萬圓。(種類) 政治經濟、外地情報。(社史) 大正十四年一月二十日殖民地通信の使命を以て誕生す。同十五年調査部を設置し東海通信特輯號を發行。昭和十一年週刊東海通信日刊版發行。パンフレットその他刊行。(社主兼社長) 安達常助。(政治) 百武功。(編輯) 澤佐豐次郎。(外信、經濟) 大竹秀一(部數) 四二〇部。(社員) 十三名一箇月壹百圓。(兼管) 書籍刊行(十五、十一、廿)

東洋經濟通信

麹町區丸ノ内九有樂町二ノ七。(電) 丸ノ内一六七八、一〇二八。創刊昭和三年六月。(社長) 小川清舟。(支配人) 森小太郎。(編輯) 御子柴幸雄。(營業) 小林直道。(廣告) 林原清峯。(兼管) 廣告代理業小川報告堂。

建設往來俱樂部

建設往來俱樂部を開く(社長) 長木舍幾三郎。(主幹) 難波英夫。(編輯) 鈴木幸藏。(部數) 十五年十一月末現在七百部。(支局) 一。(社員) 十八名。一箇月甲百五十圓。乙五十圓。(特設) 年一回乃至二回「政界往來」發行。(兼管) 月刊「政界往來」發行、往來俱樂部經營。(十五、十一、二十)

同盟通信

社団法人同盟通信社發行。京橋區銀座西七ノ一(電) 代表銀座二二二一、六一六一。(種類) 一般通信(政治經濟社會スポーツ、外電その他を含む) 寫眞、特別、演藝、解説、英文、船舶放送、内國經濟、株式短期長期の各歩み通信、滿洲特産、生糸、人絹、砂糖、ゴム、油脂、地金、小麥、期米、綿糸、雜穀、海外經濟通信(棉花、小麥、生糸、油脂、爲替、船舶、株式、鐵鋼、金物、護謨、砂糖、埃及綿、上海爲替の各通信、特別情報)、海外經濟解説通信、東亞經濟通信。(社史) 昭和十年十一月七日創立、同十一年一月一日新聞聯合社の事業を繼承して

東京通信

京橋區橫町一丁目(電) 京橋九一四〇。個人經營。參萬圓。(種類) 政治經濟、化學工業。(社史) 明治二十年三月第一次伊藤内閣の時警保局長たりし清浦奎吾伯の發意により政府の發表機關として創設され、昭和十五年一月佐藤現社長の經營に移る。(社長) 佐藤藤一。(顧問) 山口恒太郎。(主幹) 平井勝利。(通信) 西川康。(營業) 佐藤藤一(兼)。(支局) 二。(社員) 二十二名。(兼管) 廣告代理業。(十五、十一、十八)

東京中央市場新聞

京橋區小田原町一ノ一〇。(電) 築地二〇七三。株式。二萬五千圓。(種類) 本紙版、魚類版、神奈川版、青果版。計二萬一千部を毎日發行す。(社史) 昭和五年十一月三日東京中央市場新聞の名稱に依り創刊同九年三月二十五日現在の題號に改稱し印刷工場を設く十四年九月二十五日東京市長より公認の指令を受く、十五年十月十一日同業中央市場買出人聯合新報、魚果新報の兩紙を吸収合併し株式會社となる。(取締役社

東京時事通信

麹町區内幸町二。(電) 銀座六二〇一。株式十萬圓。(種類) 政治、社會、經濟、演藝。(社史) 大正三年若尾璋八、櫻内幸雄、山本岩夫諸氏に依りて創刊、現社長山下孚經營に任じ昭和十三年十月細井雀

東京中央市場新聞

業務開始、同年六月一日日本電報通信社の通信事業一切を合して名實共にニュース通信の統一大機關たり。(社長) 古野伊之助。(常務理事) 山田敏行、上田碩三、堀義貴。(常務監事) 古賀傳吉。(參與) 伊藤正徳。(總務局) 山田敏行。(同次長) 石部幸次。(編輯局) 松本重治。(同次長) 大平安孝、岡村二一。(通信局) 鷹嘴壽。(同次長) 田村源二。(經濟局) 塚本義隆。(同次長) 稻本國雄。(調査局) 松本重次。(同次長) 加藤萬壽雄。(加盟新聞社) 十四年十月現在(以下同) 百七十七及び日本放送協會、朝鮮・臺灣兩放送協會。(支社局) 内地四支社三十四支局九十二通信部、滿洲一支社三支局、支那二總局十七支局、海外十七支局十二通信部(社員) 二千餘名。(特設) 東京福岡間専用電話二回線、東京札幌間、大阪金澤間、岡山高知間、福岡長崎間、福岡鹿兒島間、福岡京城奉天間、各専用電話一回線、以上總延長六千百軒、札幌東京名古屋、大阪、岡山、高知廣島、福岡、長崎に各固定寫眞

電送機

同報電話十八回線、市内専用電話東京大阪その他各地一〇五回線、日滿支三國間特設無線電信。(兼管) ニュース映畫映畫月報、國際經濟週報、國際寫眞新聞、同盟旬報、人絹年鑑時事年鑑、ジャパントレイド、ガイドの各定期刊行物、無線電信、寫眞、速記者養成の同盟講習所。

東京時事通信

同十二年合同、中國、福日、九日、河北、北海タイムス、信毎七社より社内へ整理部員を出向かしの事となる。

同十二月子會社日本商通の經營を委託繼承す。

同十五年一月經濟局參事川島新太郎君北支總局經濟部長となる。

同一月二十日日本商業通信社を直營す。

同二月第十八回理事會に於て十五年度豫算八百九十六萬一千

■(前年度に比し百五十七萬圓増加)を可決す。
 ■同三月次の異動を行ふ。
 企画部長 波多 尙
 出版部長兼務とす
 ■同三月特信部を擴張し伊藤正徳君を主査、佐藤喜一郎君を部長とす、内容は一般A月百五十圓、B同、C七十圓。
 ■同四月東京仙臺間専用電話成り寫眞電送も可能なる。
 ■同四月古野社長新國民政府慶祝使節新聞代表となる。
 ■同四月經濟局參事秋山操君大阪支社經濟部長となる。
 ■同四月次の異動を行ふ。
 外經部長 稻本 國雄
 經濟局次長兼外經部長とす
 業務部長兼映畫部長 折橋 慶治
 總務局參事とす
 庶務部長兼航空部長 大川幸之助
 業務部長兼務とす
 通信局參事兼英文部長 相良 左
 兼務を解く
 英文部長とす 渡邊 純一

■同四月二十七日古野社長汪精衛と會見す。
 ■同五月一日より内外地二十九ヶ所に對し同報無線通信開始する、更に六十ヶ所に増設の豫定。
 ■同五月編輯局長松本重治君精勤參與となる。
 ■同五月ニユース映畫部は日本ニユース映畫部に統合さる。
 ■同五月より特信部に於て地方紙連載小説の供給を開始す。
 ■同五月福岡誠一君を大阪支社長とし、次の異動を行ふ。
 經濟局内經部長 小松 利一
 商通部長兼務とす
 同商況部長 永松泰次郎
 市場部長とす
 ■同六月二十九日古野伊之助君通信代表として閑院宮殿下より賜謁の光榮に浴す。
 ■同六月次の異動を行ふ。
 經濟局外經部長とす 萩野 伊八
 外經部長 稻本 國雄
 中南支總局經濟部長とす
 同 業務部長とす 豊田 治助
 同 英文部長とす 村山 謙
 同 英文部長とす 村山 謙
 同 英文部長とす 村山 謙
 同 英文部長とす 村山 謙

經濟局外經部長とす
 經濟局長兼大阪支社長 塚本 義隆
 兼務を解く
 ■同七月總務局に文書部を新設す。
 ■同七月第三號機成る、三菱雁型單發低翼單翼機で二人乗。
 ■同七月次の異動を行ふ。
 庶務部長兼營業部長航空部長 大川幸之助
 北支總局長とす 船木 重光
 關門支社長 船木 重光
 文書部長とす 杉田 才一
 庶務部長とす 塚村 敏夫
 營業部長とす 塚村 敏夫
 北支總局長 神子島 悟郎
 總務局參事とす
 北支總局經濟部長 川島信太郎
 天津支局長兼務とす 倉田 正一
 經濟部長 倉田 正一
 シドニー支局長とす 大森吉五郎
 經濟部長とす 大森吉五郎
 出版部長兼企畫部長 波多 尙
 ハノイ支局長とす 波多 尙
 調査部長 内海朝次郎

出版部長兼務とす
 南京支局長 大平 安孝
 總務局參事とす
 ■同八月古野社長新政治體制準備委員會委員となる。
 ■同八月四日新嘉坡支局長兼東方通信社長小林猪四郎君英官憲に逮捕さる。九月一日釋放。
 ■同八月十六日福岡、京城、奉天等の専用電話線による寫眞電送開始さる。
 ■同八月三十日編輯局長松本重治君新體制準備委員會常任幹事となる。
 ■同九月一日前社長岩永君の爲めに社員一同多摩墓地に記念碑を建設す。
 ■同十月一日新體制實施を決定調査部を局に昇格、新たに企畫審査委員會を形成、政治經濟部を合併して政經部を設け、整理部を擴大強化し次の異動を行ふ。
 總務局參事 大平 安孝
 編輯局次長として企畫審査主任兼務とす
 外信局付參事 加藤萬壽雄
 調査局次長とす 加藤萬壽雄
 編輯局次長 岡村 二一

通信局長 田村 源二
 政治部長 田中正太郎
 整理部長とす 萩野 伊八
 政經部長とす
 北支總局通信部長 大岩和嘉雄
 東亞部長とす
 ついで二日付を以て企畫委員會其他總務、編輯、通信、調査各局の幹部を發表す。
 (企畫委員會)委員長 松本重治。幹事 大平安孝、加藤萬壽男。委員 塚本義隆、田村源治、岡本二一、萩野伊八、山口巖、岩本清
 ■同十月古野社長大政翼賛會常任總務とす。
 ■同十月新體制に即應し二十三俱樂部擔當を更替す。
 ■同十一月南京支局結核原測君第一回岩永賞受賞者に決定す。
 朝野通信 麴町區富士見町二ノ九。(電)九段一二八二、二〇

一、個人經營(種類)政治經濟產業、社會、日刊、日曜日祭日休刊。(社史)明治三十九年二月十三日、林貞次郎創立次で土屋貞彌繼承、昭和十年四月金子四郎繼承現在に至る。(社長)金子四郎。(副社長兼編輯長)木下章
 (政治)小松正己。(部數)三百部(社員)十二名。一箇月百圓。(兼營)廣告、代理業。(十五、十一、二十)
 中外通信 京橋區京橋三ノ四(社長)端山喜三郎。
 中外工業新聞 神田區松住町四。(電)下谷四五七七、五二二七、四五四八。個人經營。(社史)昭和七年三月週刊東洋鑄物新聞として創刊、十二年十月日刊斷行、翌十三年四月中外工業新聞と改題一般工業界に進出、十四年七月六日ポイント七分新鑄造活字十四段制採用。(社長)山本伊助。(營業)竹下榮治。(編輯)社長兼(廣告)分部孝雄。(支局)十五。(社員)百二十名。一箇月一圓。(兼營)出版(十四、十、十)一圓。(電)銀座一六二二三。合資。

晝夜通信 京橋區銀座西八ノ一。(電)銀座一六二二三。合資。十萬圓。(社史)大正五年九月一日創刊、十三年組織株式會社、昭和十一年合資會社に變更、支那事變に際し從軍記者三名派遣す。(種類)社會、政治、運動、海運貿易新聞 京橋區銀座西六ノ三。(電)銀座六二八九、七〇四〇、六二三〇、二二〇八。

株式。拾九萬圓全額拂込。(種類)日刊大阪紙發行。(社史)昭和十年十月創立、昭和十五年九月東京大勢新聞合併、同十五年十一月株式組織とす。(取締役會長)片桐源次郎。(同社長)片桐磯吉。(同主筆)古瀬長榮。(同編輯局)小林理策。(同總務局)片桐廣作。(同營局)加藤邦雄。(同秘書課)新村嘉平。(理事)大久保武雄、小野博道、宮武彦。(部數)一萬部。(支局)十五。(社員)百名。一箇月一圓七十錢。(十五、十一、廿)
 乾物雜穀新聞 澁谷區代々木西原町八五三。(電)四谷三四七四。個人。五萬圓。(種類)乾物雜穀、海産、鶏卵、銅糧、肥料、穀粉、砂糖。(社史)乾物海産新報を大正十三年十一月六日創刊昭和七年五月一日日刊とす。同十五年八月一日改題す。(社長)白川保榮。(副社長)白川久義。(部數)八五〇〇。(社員)三十名、一箇月壹圓。(特設)大型輪轉機外菊八頁外數臺。(兼營)業界參考書出版。(十五、十一、一)ダイヤモンド日報 株式會

社經濟雜誌「ダイヤモンド」社發行
 麹町區内幸町二ノ三。(電)銀座
 四一五五七。株式。三十萬圓
 (社史)創刊大正二年三月、石山
 賢吉個人經營にて經濟雜誌「ダ
 イヤモンド」を創刊し以後廿週
 年を期して株式會社(資本金十
 萬圓)に組織を改め(昭和八年五
 月)翌九年資本金三十萬圓とす。
 (種類)ダイヤモンド日報、(日
 刊)レポート・ダイヤモンド(週
 刊)(取締役會長)石山賢吉。(社
 長)阿部留太郎。(副社長)野崎龍
 七。(編輯)神長倉眞民。(廣告
 富永良太郎。(支局)一。(社員)
 二百名。一箇月日報五圓、レポ
 十圓、雜誌一箇月十三圓。(兼營)
 代理部。(洋服、萬年筆、靴、藥)
 ダイヤモンド雜誌(旬刊)、經濟
 マガゼン。
 十五年四月創業二十七年を迎
 (取締役會長)石山賢吉君、社
 長に阿部留太郎君就任す。
 同十月四日取締役皆川省三君
 逝く、享年五十五。七日關口天
 主教會に於て社葬を行ふ。

文通信社、小石川區宮下町七。
 (電)大塚四四四、五五一四、六
 九九〇。合資。五千圓。(社史)
 大正十一年五月十六日創刊。(種
 類)日本の政治、經濟、軍事の
 英文通信。(部數)十三年十月三
 十日現在特別號一萬餘、日刊通
 信約二百部。(社長)奥田美穂。
 (社員)十五名。一箇月十圓。(十
 三、十、廿)
 大日本通信 芝區今入町一〇
 (電)銀座六六〇〇、四〇〇七。
 個人經營。(社史)大正六年十二
 月四日創刊。(種類)政治、經濟
 各般。(社長)多田滿長。(主幹)
 浮田秀正。一箇月百圓。(兼營)
 廣告取次印刷。(十三、十、廿)
 第三通信 麹町區永田町二ノ
 一。(電)銀座六三三〇、二七三
 七。合資。五萬圓。(社史)創刊
 大正十三年一月十八日。昭和九
 年一月日本主義を強調すべく社
 名、通信名共「日本運動通信」と
 改稱したるも後舊名「第三通信」
 に復歸し現に「日本主義」の下に
 活動しつゝあり。(種類)日刊發
 刊、別に特種電話通信又は電
 報に依る。(部數)十三年十月廿

五日現在二百部。(社長)似鳥吉
 次。(政治)小田島清。(支局)三。
 (社員)十八名。一箇月五十四圓。
 (兼營)出版、廣告。(十三、十、
 廿五)
 聯合情報 日刊聯合情報社發
 行。麹町區丸の内二ノ一八昭和
 ビル。(電)丸の内二七九一、三
 八一七。(社史)創刊昭和七年二
 月十一日。個人經營。(社長)田
 中朝吉。(總務)田中辰志。(編
 輯)神永文三。(政治)後藤豊次。
 (經濟代理)宮西義男。(聯絡)麓
 登。(調査)島田眞策。(奉仕)有
 川重憲。(庶務、會計)田中久。
 (種類)一般情勢、經濟特報、特
 殊情勢調査報告。(支局)四。一
 箇月甲百圓、乙五十圓。
 内外通信 神田區錦町三ノ二
 二。(電)神田二一八一。株式。
 七拾萬圓。(種類)政治、經濟、
 學藝、產業、家庭。(社史)明治
 四十三年八月一日創刊。(社長)
 瀨木博信。(常務)瀨木博政。(取
 締役)土屋利八。(監査役)島田
 和三郎。(顧問)山根眞治郎。(編
 輯主事)植原武徳。客員(長谷川
 光太郎。(社員)九十三名。一箇

月百圓。(兼營)廣告取扱。(十
 五、十一、十七)
 無線時事海上版 無線時事通
 信社發行。麹町區内幸町二ノ二
 〇。同盟舊館内。(電)銀座四七七
 二、芝三九九〇。株式。四萬圓。
 (種類)郵船、商船の海外及近海
 航路船内に於ける日刊紙。(社
 史)昭和二年七月三日、時事新
 報社にて「時事新報海上版」とし
 て發行、郵船商船の船内にて
 配布、七年無線時事通信社創立
 され海上版を引繼ぎ、爾來無線
 時事海上版として今日に至る、
 現在契約航路郵船、シヤトル、桑
 港、臺灣線、商船、大連、臺灣
 線。(社長)伊藤正徳。(專務)湯
 澤重隆。(取締役)町田均、松本
 武雄、木村金三郎外二名。(編輯)
 湯澤重隆。(主幹)吉田義助。(遠
 洋版主任)佐藤嵩。(近海版主任)
 吉田義助(兼)部數三萬部。(支
 局)四。(社員)三十八名。一部
 五錢。(特設)平盤印刷機三、手
 働印刷機一。(兼營)一般印刷。
 (十四、十一)
 運輸日報 麹町區丸の内有樂
 町二ノ四。(電)銀座三五九、七

二六八。個人。十萬圓。(社史)
 明治四十三年一月二十五日創刊
 朝刊四頁。(版數)一。(部數)十
 四年十一月七日現在一萬二千部
 (社長)志賀岩夫。一箇月一圓。
 (十四、十一、五)

業。(十五、十一、十五)
 國探、國通 國際探訪通信社
 發行。麹町區永田町一ノ三〇。
 (電)銀座二三九、七五〇六。個
 人經營。五萬圓。(社史)大正十
 五年十月廿七日創立。(種類)人
 事、政治、經濟、社會問題、外
 交、國際關係。(部數)昭和十三
 年十月現在五百部。(社長)瀨尾
 榮太郎。(理事)北田正平、松永
 祐三、坂下徳道。(編輯)鷹野壽
 美雄。(營業)松永祐三。(支局)
 十五。(社員)百二十名。一箇月
 二百圓。(特設)探訪部、出版部
 社會部。(十四、十、廿)

十名。一箇月三十圓。(十四、十、
 二十)
 國際映畫通信 京橋區銀座一
 丁目五。(電)京橋七四二二。個
 人經營。十萬圓。(種類)映畫演
 劇。(社史)大正十三年十月日刊
 通信刊行、昭和二年旬刊國際映
 畫新聞を刊行、更に昭和元年よ
 り、映畫年鑑を刊行し來る。(社
 長)市川彰。(總務)山崎甚八。
 (編輯主任)橋本亥三郎、井關純
 (部數)六百部。(支局)三。(社員)
 三十名。一箇月十圓。(兼營)文
 化映畫部、大陸文化部。(十四、
 十、二十)

長)三木武吉。(副社長)木原七
 郎。(專務)富田彌平。(取締役)
 瀧脇宏光、中島守利。(監査)原
 玉童。(編輯)原村善吉。
 十五年六月九日社長長竹村良
 貞君逝く、享年八十。
 帝國興信日報 帝國興信
 所發行。京橋區新富町一ノ三。
 (電)京橋三一八一、三一八六。
 株式。五十萬圓全拂。(種類)日
 刊經濟新聞。(社史)明治三十三年
 創立、最初は「內報」と稱せら
 れるも震災後現名稱に改むると同時
 に普通新聞紙四頁大となし、名
 實共に純粹の經濟新聞として發
 刊す。(所長)後藤勇夫。(理事)
 長)藤田守一。(理事)岡本四郎
 九、田村庄平、太田勝久、本多
 紋平。(編輯長)赤壁徳三郎。(部
 數)約五萬部。(支局)六十四。
 (社員)一千名。年額五十圓。(特
 設)興信事業としての全機能な
 動員す。(兼營)興信事業、信用
 錄、會社要錄の發行。(十四、十、
 二十)

電氣新聞 株式。創刊昭和十
 五年十一月一日。
 十五年十一月一日より電氣日

合同通信 麹町區内幸町二丁
 目十。(電)銀座三〇一、七二七
 三、三三〇八。合資會社。十萬圓
 (種類)政經社各方面。(社史)大
 正五年創立。昭和五年十一月合
 資會社組織。(名譽會長)内ヶ崎
 作三郎。(代表社員)(社長)(理
 事)山口伊世。太田政弘(顧問)
 岡崎久次郎。(部數)三百。(支
 局)三。(社員)十五名。囑託三
 一箇月五十圓。(兼營)廣告代理

國際科學通信 杉並區堀之内
 一ノ五三。(電)中野一三五八。
 個人經營。(種類)内外の科學界
 に於ける新發見、發明、理論等の
 大衆化、普及のための通信。中央
 版(日刊)と地方版(週刊)の二
 種あり。(社史)昭和十一年三月
 創立、爾來本邦唯一の日刊科學
 通信として全國有力紙學藝欄に
 優秀記事を提供し今日に至る。
 (社長)松原宏遠。(編輯顧問)石
 原純。(編輯)廣重領。(部數)四
 百部。(支局)十五。(社員)百二

國民日報 神田區司町一ノ八
 (電)神田一三六。合資。(種類)
 土木建築、電氣工事等の機關紙
 (社長)飯塚傳。(專務理事)小林
 仁十郎。
 英文通信 京橋區銀座西五丁
 目。創立明治三十九年九月。個
 人經營。(種類)英文外交、政治、
 經濟。(社長)望月清侯。
 帝國通信 芝區田村町二ノ三
 櫻田ビル。(電)銀座六七一〇。
 創刊明治二十一年。株式。十萬
 圓。(種類)一般新聞通信。(社

電氣新聞 株式。創刊昭和十
 五年十一月一日。
 十五年十一月一日より電氣日

報、電氣新報、日本電氣新聞、電氣自由新聞の四社は、當局の勸奨により合併株式會社電氣新聞社を創立日刊發行す。

亞細亞通信

京橋區銀座五ノ四。(電)銀座一六七〇。創刊大正八年。合資。一萬圓。(種類)政治、經濟、時事問題、廣告。(社長)辻村與三郎。(副社長)辻村與一郎。(支局)三。(社員)三十名。一箇月三十四圓。(兼營)出版業。

愛國通信

麴町區內幸町二丁目六。(電)銀座三五九〇、三五九一。個人經營。五萬圓。(種類)各官廳及帝國議會、社會事業團體關係各ニュース。創刊大正二年十月三十一日。天長節祝日。(幹部)吉田文外、永友宗正、篠原榮一、牛窪操、島崎伊之助。外數名。(部數)二百部。(社員)十五名。一箇月百圓。(兼營)新聞廣告。(十五、十一、十八)

キング特稿

京橋區銀座四七ノ一。同盟通信社內。(電)銀座二二三。(種類)海外ニュース。(社長)昭和九年十一月内地營業權を一年六千弗を以て同盟に讓渡す。

基督教新聞 基督教通信社發行。豊島區池袋三ノ一五四三。(電)大塚一五八五。(種類)基督教界の動靜及論議。(經營者)兼主筆)村尾昇一。(十五、十一、十八)

協同聯合通信

芝區琴平町二虎の門會館。(社長)平野力三。(電)銀座六二〇三。(種類)政治、外交、經濟。(社長)大正六年十一月山田道兄氏の創刊、昭和十三年五月現社長就任事業一切を承繼。(社長)田村秀吉。(主幹)伊藤重憲。(主筆)長谷川光太郎。(幹部)堀川直吉、岡梯治、日高理四郎、下條光三。(支局)五。(社員)三十五名。一箇月百圓。(特設)研究機關として政策研究所を有す。(十四、十八)

民友通信

麴町區內幸町二ノ二。(電)銀座六二〇三。(種類)政治、外交、經濟。(社長)大正六年十一月山田道兄氏の創刊、昭和十三年五月現社長就任事業一切を承繼。(社長)田村秀吉。(主幹)伊藤重憲。(主筆)長谷川光太郎。(幹部)堀川直吉、岡梯治、日高理四郎、下條光三。(支局)五。(社員)三十五名。一箇月百圓。(特設)研究機關として政策研究所を有す。(十四、十八)

民衆通信

麴町區內幸町二ノ十。(電)銀座七三〇五、〇二四六、二三〇八。(種類)政治經濟一般。(社長)大正十四年六月一日創刊。民衆通信刊行の外、隨時各業界雜誌刊行、御慶事記念會。(兼營)出版業。(十五、十一、廿)

新聞同盟通信

麻布區飯倉町三丁目二十七。(電)赤坂五〇八八。個人經營。五萬圓。(種類)政治、經濟、外交、社會、通信、鐵道の資料を地方新聞社及官廳銀行、會社、政治家方面へ。(社長)原内閣の機關紙として創設當時(社長)曾木實彦氏、(二代社長)崎山武夫氏。大正七年四月創立。(社長)宇田國榮。(主幹)今石貞治郎、清水啓次郎、瀧戸口寅雄、(以上理事)(部數)五百部。(支局)三。(社員)十六名。一箇月甲百圓。乙五十圓。(特設)タイブ通信。(兼營)廣告、代理部、事業部、調査部、法律部、印刷部、製版部。(十五、十一、十八)

新聞同盟通信

麻布區飯倉町三丁目二十七。(電)赤坂五〇八八。個人經營。五萬圓。(種類)政治、經濟、外交、社會、通信、鐵道の資料を地方新聞社及官廳銀行、會社、政治家方面へ。(社長)原内閣の機關紙として創設當時(社長)曾木實彦氏、(二代社長)崎山武夫氏。大正七年四月創立。(社長)宇田國榮。(主幹)今石貞治郎、清水啓次郎、瀧戸口寅雄、(以上理事)(部數)五百部。(支局)三。(社員)十六名。一箇月甲百圓。乙五十圓。(特設)タイブ通信。(兼營)廣告、代理部、事業部、調査部、法律部、印刷部、製版部。(十五、十一、十八)

新聞合同通信

京橋區銀座一ノ五。(電)京橋六六五五。個人經營。五萬圓。(種類)政治、經濟、社會。特に外地事情を報道。(社長)大正十五年九月十五日創刊。(社長)古森貞久。(總務)小崎利明。(編輯主任)山本浩。(企畫部)中山敏胤。(部數)一千二百五十部。(支局)六。(社員)十六名。一箇月五十圓。(特設)亞細亞大陸協

日本労働通信

労働問題研究会發行。北區宗是町十、中の島ビル。(電)土佐堀四八二〇、五八五九。(社長)昭和三年二月一日創刊。個人經營。(種類)社會運動を主とす。(社長)山尾一太郎。(編輯)山口鐵弘。(營業)生野益太郎。(廣告)同。(支局)二。(社員)十七。一箇月五圓。(十一、廿)

博覽會、産業博覽會、婦人女子供博覽會、納涼博覽會等開催。(社長)竹本治三郎。(理事)野田武夫、中井川浩、東舜英(編輯)吉倉鐵雄。(政治)河野竹吉(經濟)滿吉通秋。(社會)關原春重。(部數)三七五部。(支局)二。(社員)十八名。一箇月百五十圓。(十五、十一、十七)

紙業日日新聞

神田區淡路町一ノ一三。(電)神田二三三四、五〇九一。(種類)紙業關係。(社長)大正七年月刊紙業世界發行。昭和八年九月紙業日日新聞を創刊して今日に至る。(社長)稻垣正明。(副社長)高津稔。(部數)約五千部。(支局)二。(社員)三十名。一箇月二十四圓。(十四、十八)

資料通信

小石川區原町一四四。(電)大塚四五六二。個人經營。(社長)大正十二年、月刊雜誌への原稿通信業資料社を創め昭和七年十月五日刊通信を發行。(種類)政治、經濟、時事一般、學藝、家庭(部數)十三年十月一日現在二百三十部。(社長)信定瀧太郎。(社長)同。(編輯)

難波玄太郎。(營業)住谷申一。(支局)大阪、臺北。(社員)二十二名。(十三、十一、一)

資料研究所報

資料研究所發行。京橋區銀座五ノ三。(電)銀座六三六五。匿名組合。(種類)政經社會一般。(社長)昭和七年五月十二日創刊、荒木武雄を代表者としてその同志と共に經營す。(代表者)荒木武雄。(主幹)鷲尾義直。外地駐在大陸代表、仁見登久。(支局)大陸辦事處奉天特設。(社員)卅名。一箇月拾圓。(特設)滿洲、支那に於ける資料通信員主要地特設。(兼營)出版及廣告代理業。(十五、十一、十九)

自由通信

京橋區銀座四三三丁目一。(電)京橋二四二、二四八二四九、四五三〇。個人經營。(種類)政治經濟。(社長)明治三十二年二月十一日創立。(相談役)島田俊雄、前田米藏、金子貞治。(主幹)岡田海南。(編輯)石崎健司。(廣告)金子錄朗。(外交)森川不二男(政治)古原美雅(印刷)不破野智一。(庶務會計)三村秀吉。(支局)臺灣支局一。

政治經濟通信

大同通信社發行。京橋區銀座四六ノ二。(電)四三〇二。個人經營。(社長)大正十三年二月十日創刊。(種類)政治、經濟を主とし其他各般に亘る。(部數)十三年十月末日現在四百二十部。(社長)川村あさ子。(同代理)神谷格一。(理事)山田豊、吉友住壹、高尾忠平。(編輯)大場英十郎。(營業)高尾忠平。(支局)大阪、横濱、樺太其他十六。(十四、十二、二十)

大阪

日本労働通信

労働問題研究会發行。北區宗是町十、中の島ビル。(電)土佐堀四八二〇、五八五九。(社長)昭和三年二月一日創刊。個人經營。(種類)社會運動を主とす。(社長)山尾一太郎。(編輯)山口鐵弘。(營業)生野益太郎。(廣告)同。(支局)二。(社員)十七。一箇月五圓。(十一、廿)

日刊土木建築時報

西區靱北通一丁目二六。(電)土佐堀四〇三二。個人經營。(種類)業界に限る。(社長)昭和六年八月創刊尙來週間發行より八年四月日刊小型四頁を發行。(社長)佐々

日刊土木建築新聞

北區天神橋四ノ三六。朝刊四頁。前大阪都新聞の姉妹紙たり。十五年九月二十一日大阪の高坂信次郎君主宰の日刊工業タイムスは日刊土木建築新聞と合併し高坂君は顧問となりまた工業タイムス編輯局須古三郎君は大阪機械工具商業組合の書記長となる。

波座中通一ノ三八

(電)新町五五二一三。五六〇〇一四。株式。二十五萬圓。(社長)明治三十九年三月村井基一創立。昭和十年一月株式となる。朝刊四頁(代表取締役)山岡米造(常務)速水勳慶、矢追房太郎、村井基次。(監査役)中江覺司、久代小忠。(編輯)新田直藏。(營業)速水勳慶。(社員)七十名。一箇月八十錢。(廣告料)一行七十錢。(十四、十一、四)

(社員)久我懋正外二。(兼營)印刷出版。(十五、十一、十五)

昭和特別通信

芝區今入町十五。(電)銀座六九二〇。個人經營。(種類)社會、政治、經濟。(社長)大正十三年四月三日創刊(幹部)福田實甫。(部數)百六十餘(支局)大阪、京城。(社員)八名。一箇月百圓。(十五、十一、十九)

社會事業通信

芝區田村町六ノ八。(電)芝三二〇五。理事制五萬圓。(種類)厚生事業一般。(社長)昭和八年留岡安男創設、十四年三月中央社會事業協會の外郭團體として社會事業ニュースを全國的に報道、同年從來の個人組織を理事制度に改む。(顧問)丸山鶴吉、赤木朝治。(相談役)相田良雄、生江孝之、原泰一。(監事)信木全三郎(常務理事)留岡安男。(理事)福山政一、吉川兼光、馬場龍海、今井信太郎、猪原久重。(部數)二千部。(支局)大阪、京都、北海道(社員)十五名。一箇月團體一圓新聞社十圓。(兼營)結核療養所經營。(十四、十二)

木武一。(編輯)牧浦定司。(營業)松城正治。(東京支社)松尾近二郎。(部數)五千五百部。(支局)六。(社員)二十七名。一箇月一圓二十錢。(兼營)土木建築、ボート。(月刊雜誌)(十四、二十)

日刊燃料新聞 港區辨天町五ノ一六。(電)西三七二八。個人經營。五萬圓。(社史)創刊明治四十五年二月廿八日元題號石炭コークス新報なりしを昭和十二年四月日刊燃料新聞と改題す。(種類)石炭、コークス、豆炭、煉炭、木炭等。(部數)十三年十月二十七日現在二萬四千部。(社長)天野秀太郎。(編輯)畔上佳文。(營業會計)柴田俊成。(支局)三。(通信部)十名。一箇月一圓五十錢。(十三、十一、一)

日刊每日通信 此花區上福島北三丁目。(電)福島二七三、二七四、四六九〇。(社史)大正七年五月二十日日刊として創刊、金屬地金類の東京、大阪に於ける市況、相場、海外状況等の報道機關。(社長)中川渡舟。一箇月二圓、三圓五十錢、五圓(兼

と同じ。(社員)十五名。一箇月五十圓、三十圓、十圓、五圓、二圓。(十五、十二、一)
藥石日報 西區江戶堀下通三丁目三五。(電)土佐堀五〇五〇(株式)拾萬圓。(社史)明治廿一年十一月藥石新報として創刊、大正五年二月藥石日報を併刊、昭和十四年七月より兩紙合同し藥石日報として今日に至る。(取締役)社長安東長義。(取締役)小西嘉兵衛、伊藤十太郎、松田卯之松。(監査役)瀧野勇、東代清次郎。(支局)一。(社員)三五。一箇月八十錢。(十五、十一、廿五)

營)旬刊大阪玩具新報、月刊大阪玩具新報。(十三、十、末)
日刊教育通信 教育通信社發行。北區都島本通四ノ三。(電)堀川九九五。個人經營。(種類)教育時事。(社史)昭和五年七月一日創刊。(社長)昭和五年七月一日創刊。(社長)富岡勝。(編輯)川西安一。(營業)石井英三郎。(部數)三千五百。(支局)二。(社員)二十一名。一箇月九十錢。(十四、十、二十)

日刊商業新聞 東區京橋二丁目十四。(電)東三五三八、四七一〇。個人經營。(種類)石鹼、化粧品、藥品、小間物に關する一切。(社史)大正十二年七月十五日創刊。(社長)山中懸治。(編輯)由田精一。(營業)山中公平。(東京支局)足立享次郎。(名古屋支局)成瀬義一。(京都支局)土佐榮市郎。(部數)二萬部。(支局)三。(社員)三十名。一箇月五十錢。(十五、十一、十八)

日滿工業新聞 大阪市西區江戶堀北通五ノ三七。(電)土佐堀八二九、四二二一三。個人。(社史)昭和十一年七月十七日創刊。朝刊四頁。(主幹)大西茂彦(編輯)堤松作。(營業、廣告)庄司俊一。一箇月五十錢。
日滿木材新聞 日滿木材新聞社。港區夕風橋電停前(本社)廣島市大手町六ノ一五。(電)西六六二七。(本社)中二六三。個人經營。(社史)昭和六年創刊、同十年小型日刊。十三年大型日刊現在に至る。(種類)木材關係。(部數)約六千五百(社長)石丸文男。(大阪營業所)島岡猷三。一箇月二圓(廣島本社の項参照)(十四、十、廿)

中央市場新聞 大阪市此花區大野町一。(電)土佐堀七七七、七八、二一六〇。個人。十一萬圓。(社史)創刊大正十五年二月。夕刊四頁。(社長)細谷鐵太郎。(社長)瀨尾竹雄。(支配人)富張平治。(編輯)守谷恒美。(營業)藤井治郎。一箇月五十錢。(廣告料)一行一圓。(十四、十一、一)

大阪滿鮮物產日報 西區幸町一ノ八。(電)櫻川二四七八。創立大正八年。個人經營。(種類)米雜穀に關する報道。(社長)刊。朝刊四頁。(主幹)大西茂彦(編輯)堤松作。(營業、廣告)庄司俊一。一箇月五十錢。
日滿木材新聞 日滿木材新聞社。港區夕風橋電停前(本社)廣島市大手町六ノ一五。(電)西六六二七。(本社)中二六三。個人經營。(社史)昭和六年創刊、同十年小型日刊。十三年大型日刊現在に至る。(種類)木材關係。(部數)約六千五百(社長)石丸文男。(大阪營業所)島岡猷三。一箇月二圓(廣島本社の項参照)(十四、十、廿)

高井保太郎。
大阪砂糖日報 南區鹽町通二丁目五。(電)船場四三二五。個人經營。(種類)内外砂糖事情及内地小麥、小麥粉、澱粉等。(社史)大正九年五月七日創刊、同十四年十二月一日大阪砂糖取引所創立と共に紙面を第一版(菊版四切四頁)第二版(同二頁)合計六頁に増刊。(主幹)廣山做康(編輯)楠照道。(部長)松尾豊。(部數)七百部。(社員)五名。一箇月七圓。(六箇月廿六圓)(十四、十、二十)

大阪肥料新聞 西區靱南上通二ノ二一。(電)土佐堀二六〇一。夕刊四頁發行。
金物聯合通信 南區長堀橋通二ノ二六。(電)南二九一六。社團法人同盟通信社と同じ。(種類)内外金屬を主として一般經濟。(社史)大正九年十一月十一日創刊、昭和十一年八月五通信社併合し今日に至る。(持主)同盟通信大阪支社福岡誠一(發行兼編輯印刷人)江川仁三郎(調査)余田文男。(通信)中野穰二。(部數)壹千部。(支局)同盟

〇四、四〇七七、六四三〇、六三三〇。株式。五十萬圓。(社史)創刊明治四十二年三月、信用告知事業を主とし新聞發行は其附屬業務たり、然して信用告知業は明治二十五年四月大阪の元老外山倫造氏の發企創設にして本邦事業の鼻祖なり、又興信所なる名詞は外山氏の案出たり爾來今日に至る。(種類)財界事項。(取締役)所長板原兵三郎(取締役)外山倫造、牧野元。(監査)藤田安一、三島政治。(理事)矢島雄雄、本田弘行。(支局數)支所出張所三十數箇所あるも信用告知事業なれば日報關係なし。

信用交換所報 東區備後町二ノ一。會員組織。創立明治四十二年。(種類)資産信用其他の調査及新聞發行。(大阪局長)中原貢。

三、地方
京都
日刊京染新聞 京都京染新聞社發行。京都市高辻大宮東入。

交通每日新聞 北區堂島北町十七。(電)北〇六八六、六〇二九、二八二一。株式。八萬圓。(種類)自動車、鐵道、電車、船舶、飛行機、自轉車。(社史)大正十二年六月創立。(代表取締役)意島久藏。(編輯)横山芳夫(營業)森田香乙郎。(部數)貳萬五千部。(支局)四。(社員)九十八名。一箇月五十錢。(兼營)各種出版、印刷。(十五、十一、十八)
合同輪界新聞 北區伊勢町六

帝國興信日報(關西版) 帝國興信所大阪本部。西區江戶堀南通一ノ三三。(電)土佐堀六三五五・三八〇〇一三。株式。五十萬圓。(社史)明治三十三年創刊前所長故後藤武夫の個人經營を大正十一年株式會社となし現在全國六十餘の本支所と一千の所員を有す。(種類)一般經濟市況並法人の營業狀態事業上の破信行為不動産の賣買讓渡抵當權の設定等を報道す。(社長)後藤勇夫。(編輯)井上忠隆。

商業興信所日報 株式會社商業興信所。東區北濱三ノ七ノ甲。(電)北濱六六三三五、一六

三、地方
京都
日刊京染新聞 京都京染新聞社發行。京都市高辻大宮東入。

京都通信 京都市左京區岡崎東天王町。(電)上二二〇六、三三四五、四一五七。個人。(種類)時事。(社史)昭和十四年七

月二十三日刊創。今より三十七年前京都言論界の雄後川文造氏社長(故人日出新聞社長)なりし後一時廢刊せるを復興したるもの。(副社長)永末明。(主幹)井上正之助。(顧問)山田久次郎。(部數)十一部(新聞關係以外販賣せず)。(社員)十五人。一箇月五十圓。(十五、十一、三十)

京都經濟新報 京都市中京區東洞院通四條上ル。(電)本局一六七。株式。十二萬圓。(社史)創刊大正十二年六月二十五日。

(社長)補田喜三。(主筆)岩佐英太郎。(營業)小酒井善之助。一ヶ月六十二錢。(十三、九、二十六)

京都市場新聞 京都市下京區朱雀分木町市有地。(電)下二一六〇。下二七五〇。個人經營。(社史)昭和七年十一月創刊、隔日版、夕刊二頁とす。日刊生魚版は十五年九月末日を以て本紙と合併。京都市中央卸賣市場、同小賣市場聯合會機關紙。(社長)大西章介。(副主幹兼營業)植田章夫。(編輯)高井克之。(廣告)伊藤博之。(販賣)野々村庄

次郎。(工場長)吉田増太郎。(部數)一萬二千部。(支局)東京。(社員)十八名。一ヶ月六十錢。(十五、十一、十八)

名古屋

日本材木新聞 名古屋市中川區西古渡町柳田五五。(電)南代表二九。個人經營。(種類)政治經濟、産業、時事其他普通一般新聞紙と同様全般的社會事象に及ぶ。(社史)大正三年の創立最初週刊、大正十三年より日刊、全國同種新聞紙中最古の歴史を有す。(社長)神野鐵逸。(副社長)神野左右一。(主筆)神戸一(大阪總局)長谷川留吉。(朝鮮支社)山口義己。(東京支社)綿引平。(部數)九千八百部。(支局)八。(社員)三十名。一箇月三圓。(十五、十一、廿)

(部數)三千七百。(社員)五人。一箇月五十錢。(兼營)各種印刷(十五、十一、十九)

名古屋證券日報 名古屋市東區榮町三四。創刊昭和二年三月八日。個人經營。(社長)小川善三郎。(編輯)河崎由太郎。一部十錢。

帝國菓子館公論 名古屋市西區上國町一ノ三三。(電)三六九〇。朝刊四頁。(社長)松本重。

愛知通信 名古屋市東區七小町四。(電)本局七九八〇。個人經營。拾萬圓。(種類)一般。(社史)大正十年四月十三日創刊、最初中區小林町に創立、東魚町に移轉、更に石町三丁目二、七小町現所に移轉す。(社長)小田莊二。(副社長)小田邦夫。(支配人)梅村喜六。(支局)五。(社員)廿五。一箇月二十圓。(兼營)名古屋日日新聞。(十五、十一、十八)

信用交換日報 信用交換所。名古屋市東區武平町四ノ三。(電)東二一三二。個人經營。(社史)明治四十一年商取引の改善化に資する爲め相互自動的共同調査

の通信機關として發行。(種類)纖維業と是れと密接の關係あるもの。(部數)十三年現在五千部(支局)四。(社員)四十二名。一箇月三十圓。(兼營)信用經濟調査。(十三、十、末)

日刊名古屋木材新報 名古屋市昭和區狭間町九。(電)千種二三八二。(社史)明治四十四年七月十五日名古屋材木商工同業組合を背景に創刊當初は組合機關新聞たりしもの。(種類)日刊及び週刊。(部數)十三年十一月一日現在日刊一千五百、週刊二千二百部。(社長)伊藤敬太郎。(主幹)有田幹藏。(編輯)中村清(大阪支局)笹川甫人。(支局)三(社員)十八名。一箇月日刊二十圓、週刊十圓(十三、十一、一)

中京毎夕新聞 名古屋市中區南伊勢町二ノ六。(電)中二一〇二。個人。(社史)大正四年十二月前店主川村金雄の創刊、大正七年頃日曜朝刊の發行を爲すも三年にして中止、印刷業を併營して今日に至る。十四年秋の新開統制の結果五社合併して發行部數萬餘を算す。十五年九月廿六日七三五號(部數)約一萬。夕刊小型八頁(版數)一版。(社主)川村照子。(社長)加藤一雄。(支配人)加藤孫次郎。(編輯)山田善衛。(營業)大橋徳一(社員)六名。(工場員)十五名。

(機械)平盤印刷機五。(活字)七半、十四字、八五行、九段。一箇月一圓廿錢(廣告料)六十錢。場所指定一圓。(十五、九、廿六)

中京經濟新聞 名古屋市中區矢場町一の切十。(電)中二四二三、二四八二。個人經營。(社史)昭和七年十一月創刊、相場指導機關紙、東京、大阪に支局を置く。(種類)株式專門。(部數)十三年十月二十六日現在四千部。(社長)箕浦博康。(支局)二。一箇月三圓。(十三、十、末)

名古屋通信 名古屋市中區新榮町二ノ十五。(電)中五五五。株式。十六萬圓。(種類)階寫印刷にして銀行、會社、官公署、其他一般、政治經濟社會一般詳錄。(社史)創業明治二十年三月。(社長)後藤清文。(專務)日比謙三。(支配人)田端才二。(編輯)高澤正彦。(支局)三。(社員)七五。(特設)製版(鉛版寫真銅版)。(兼營)廣告代理業。(十五、十一、十七)

名古屋米濱日報 合名會社。米濱日報社發行、名古屋市中區米濱町三。(電)南二〇二〇。合

史)元兵神日報と稱し明治三十年十月八日創刊、昭和十四年六月神戶海陸物產時報と合併現稱となる。(社主、主筆)島田淳郎(副社長、編輯)森本和一郎。營業)安阪米藏。(社員)七名。一箇月八十五錢。(十四、九、卅)

神戶油脂日報 神戶市神戶區榮町三ノ一六。個人經營。(社史)十四年六月關西油脂日報、(週二回刊)を合併す。(發行人)岸良輔。

實業報知日報 實業報知新聞社發行、神戶市神戶區榮町三。個人經營。(社史)十四年六月日刊大阪肥料日報、麥粉砂糖新聞阪神麥粉通信を合併す。(發行人)岸良輔。

橫濱合同通信 橫濱市中區南仲通一ノ一三。(電)本局二二二五、二二二六。個人經營。(種類)一般通信、經濟通信。(社史)昭和四年九月一日創刊、生糸市場機關通信、昭和十五年八月新聞通信統制により同業五社を合併、橫濱合同通信と改名今

名會社。一萬圓。創立明治四十二年七月。夕刊小型四頁。(代表社員)松本久三郎。一箇月五十錢。(兼營)證券日報、景氣日報(十三、九、二十)

名古屋株式日報 名古屋市中區南伊勢町一ノ三。五千圓。創刊明治二十八年五月。(種類)經濟通信。(部數)昭和十一年十月一日現在六千部。(社主)日下部純三。一箇月五十錢。(十一、十、二十)

名古屋經濟新聞 名古屋市中區住吉町。(電)中一〇三〇。(種類)政治經濟、株式市況。(社史)大正十年十一月十六日創刊(幹部)後藤新太郎、平野丈夫、村上庄太郎。一箇月五〇錢(十五、十一、十八)

名古屋綿絲布日報 名古屋市中區中ノ町三ノ三三。(電)本局五〇四。合資會社。壹萬圓。(種類)經濟(主として棉花綿布關係)其他一般記事。(社史)大正十一年九月一日創刊、昭和十一年九月個人經營より合資會社に變更。(社長)山内長幹。(支配人兼發行編輯人)早川鮎之助。

神戶 の通信機關として發行。(種類)纖維業と是れと密接の關係あるもの。(部數)十三年現在五千部(支局)四。(社員)四十二名。一箇月三十圓。(兼營)信用經濟調査。(十三、十、末)

貿易通信・英文貿易通信 神戶市神戶區北長狹通三ノ八九(發行人)矢部精一。(社史)十四年六月日刊貿易新聞、中外貿易通信、輸入日報、輸出日報、月刊實光、日本貿易新聞の五社合併せるもの。和英兩文を發行す

神戶米肥市場日報 神戶市兵庫區松屋町二四。株式。拾萬圓。(種類)米穀、肥料、雜穀、海產物、飼料、食料品其他。(社史)大正四年十一月四日、昭和四年十一月商業新聞社と合併今日に至る。(幹部)平松力松、有馬順二、直木太一郎、國廣藤五郎、徳山正雄。(社員)二十三名。一箇月壹圓。(十五、十一、廿)

神戶物產新聞 神戶市兵庫區江川町三五。(電)兵庫一〇一三二八九〇。個人。三萬圓。(社

日に至る。(社長)佐藤盛平、(常務理事)牧内龜雄。(理事)宮下愛作、河合三七雄。(部数)三百五十。(社員)十七名。一箇月二十四。(特設)月刊「蠶糸經濟」週刊「内外蠶糸」發行。(兼營)代理部事業經營。(十五、十一、十七)

廣島

日滿木材新聞 廣島市大手町六丁目一五。(電)中一二六三。(社史)昭和六年四月一日創刊。

(社長)石丸文男。(編輯)藤井宇一。(編輯次長)關彌三郎。(營業)杉村仁一郎。(會計)石丸大萩。(支局)十三。(社員)二十七名。一箇月二圓。(十五、十一、十九)

内地各地

北海經濟興信日報 小樽市夕刊四頁、創刊昭和五年六月二十日。(社長)五十嵐康二。(編輯)武田角藏。林檎日報 青森縣林檎移出商業組合聯合會、青森縣弘前驛前。(電)八四五、一〇二三。本聯合

會の事業的發行。(種類)リンゴの出荷並市況の速報等、又は他果實の動向、一般産業經濟界の事業報道。(社史)昭和七年九月廿四日第三種認可、本縣重要物産たるリンゴの市況並出荷速報を組合員に速報するを以て目的とされ爾來八星霜全國的に讀者を有す。(持主)本會理事長清藤唯七。(編輯印刷兼發行人)齊藤隣之助。(主幹)佐藤祥秋。(部数)三百五十部。(社員)二。一箇月一圓。(十五、十一、十八)金澤絹糸日報 金澤市博勞町八〇。個人。創刊明治三十六年。(主幹)土屋周吉。一箇月十圓。福井レーヨン特報 福井市佐久良上町九八。(電)二八四〇個人經營。(社史)昭和四年三月十五日創刊、當初隔日發行を昭和五年四月一日より日刊。(種類)人造絹絲機關紙。(社長)青木榮次郎。(社員)五名。一箇月五圓。(十一、十、二十)興亞織物新聞 濱松市北寺島町二二三。(電)濱松三二二二個人經營。(社史)輸出振興を要望し昭和二年五月創刊、月刊よ

り週刊、隔日刊をへて十三年日刊となし、十四年濱松織物新聞を興亞織物新聞と改題。朝刊四頁。(版数)一。(部数)十四年九月二十四日現在八千三百部。一千四百三十號。(社史)近藤茂一(社長)同。(社員)百三名。(工場員)三十名。十六頁平版二。(活字)舊五及六、十一字及十四字、百二十行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)二十錢。(十四、九、二十五)豐橋商業新報 商況社發行、豐橋市花田町石塚四〇。一。(電)三〇一二。個人。(社史)大正三年七月豐橋米穀取引所機關紙として創刊、十五年東三蠶糸電報を合併す、昭和十五年九月廿六日現在七七七二號。(部数)三千部、夕刊四頁。(社主)新井一。(主幹)石積通弘。(社員)一名。(工場員)二名。平盤二、活字舊十二字、三十行、五段。一箇月四十錢。(廣告料)五十錢。(兼營)一般印刷物。(十五、九、廿六)岐阜通信 岐阜市木造町六。(電)一二三四。個人經營。(社

史)大正五年三禁通信社として創立大正六年岐阜通信社と改稱し、同七年六月日刊通信となる(種類)政治、經濟、社會、寫真其他一般。(社主)水野俊八。(社長)同。(主幹)濱島潤三。一箇月十五圓。西日本交通新聞 福岡市渡邊通四。(社長)稻富稔人。佐賀商報 佐賀米穀取引所發行住賀市松原町。夕刊四頁、五段組。(廣告料)十錢。夕刊鹿兒島商報 (鹿兒島新開の經營)鹿兒島市山下町一七一。創刊大正六年十一月十四日夕刊小型二頁。(活字)九段。一箇月二十五錢。(廣告料)二十五錢。朝鮮 米肥日報 京城府南米倉町九。創刊昭和十五年八月十三日、日刊四頁。(社長)齊藤久太郎。(編輯)西本量一。四、滿洲 大連

日刊帝國通信 帝國通信社發行。大連市但馬町八〇。(電)二、三二三三、二、七七一三。個人。五萬圓。(種類)一般社會政治。

(社史)大正十三年五月廿三日創刊、東京に本社を有したる帝國通信社大連支社の分離獨立したるもの。(社長)高橋徳夫。(支配人)豊高春雄。(總務)村島寛次(營業)清末慶次郎。(部数)五千七百部。天津。(社員)十五名。一箇月五十錢。(兼營)印刷業。(十四、十、二十)

新 京

滿洲國通信 新京特別市中央通四三。(電)代表三三三四

一。株式。五十萬圓。(社史)創立昭和七年十一月三十日、當局の特別許可により全滿の通信聯絡を無電網にする、初代社長里見甫君、十一年九月一日株式會社滿洲報協会の直營となり十二年七月一日獨立經營となる同盟通信と姉妹關係にあり人事の交流、ニュースの交換を圓滑ならしむ。(種類)日、滿、英、露文通信、特別通信、經濟通信

寫眞ニュース、入札通信。(代表取締役社長)森田久。(取締役)三浦義臣、升井芳平、皆川豊治中島俊雄、和田日出吉、大石智郎、澤田敏治。(監査役)姚任、中川増藏。(編局)升井芳平。(同次長)高見達夫。(總務局)富田廣四。(同次長)則武登吉。(事業局)長澤千代造。(大連支社)宮崎司。(東京支社)田中寛治。(大阪支社)森久。(東京支社營業部顧問)山下敏男。(支社局)國內十四、内地二支那十三。(社員)五百十名。(兼營)圖書雜誌の刊行、寫眞頒布廣告取扱。十四年十二月同盟出向天野良和君を調査部長とす。十五年一月次の異動を行ふ。淺岡 六郎 總務局用度部長とす。郡司猪一郎 事業局販賣部長とす。守屋 吉夫 同入札通信部長とす。同六月次の異動を行ふ。滿支取材科長 李 効 時 滿支資料科長とす。政治部勤務 高見 達夫

整理部長とす。同六月月中村繁君事業局販賣部長となる。同七月刊行中の滿洲經濟全集は二十二卷の中五卷を發行して中止となる。同年七月總會に森田、皆川、澤田三取締役は重任となり村田染谷兩君退き、和田日出吉、大石智郎の兩君新たに選任さる。同八月新たに人事部及び英文部を設け外事係を廢止す。同九月次の異動を行ふ。總務局庶務部長 近藤 勇藏 同局人事部長とす。同局庶務部長 淺岡 六郎 同局庶務部長とす。同十月庶務部と人事部を廢し總務部として編輯局管理部を廢止して總務局に移管す。同十一月一日社内機構改革を斷行して次の室、局を置く、一社長室、二總務局、三編輯局、四事業局。同十一月次の異動を行ふ。編輯局次長兼政經部長 瀨沼 三郎 編輯局次長兼政經部長 大連支社長 竹内 悅郎

編輯參事とす。編輯局次長兼聯絡部長 帆足 升 社長附參事兼企畫部長とす。整理部長 高見 達夫 編輯局次長兼政經部長とす。宮崎 司 大連支社長とす。發信部長 藤川 佐吉 整理部長とす。發信部次長 高橋 榮一 發信部長兼聯絡部長とす。飯田 臺輪 泰東日報出向とす。編輯局長 升井 芳平 滿文部長事務代行とす。總務局次長 則武 登吉 庶務部長兼務とす。川島孝太郎 經理部長 川島孝太郎 社長室參事兼監察部長兼人事部長とす。經理部次長 井形 廣吉 經理部長とす。近藤 勇藏 人事部長 大連支社勤務とす。事業局販賣部長 中村 繁 入札通信部長兼務とす。

哈爾濱

哈爾濱商況通信 (日刊滿文)
 哈爾濱特產商況通信社發行。哈爾濱外國八道街七號。(電)二五八二、五九二〇、六六三八。二萬圓。創刊昭和五年十二月五日
 (種類)特產、鐵類、輸入商品、(社主)佐藤泉次郎。(社長)同。(社員)五名。一箇月十圓。

哈爾濱興信所報 (日刊日文)
 哈爾濱。

人事移動通信 (日刊日文)
 哈爾濱。

支那

蒙疆通信 張家口興亞大街。
 (電)二七〇七。蒙古政府機關通信社。(種類)日文。(社史)實體は滿洲國通信社蒙疆支社及支局で昭和十三年四月蒙疆通信總局の名稱で設立、十五年五月蒙疆通信社と改稱。(社長)三藤順記(編輯)青木啓。(連絡)茂木學惠(大同支局)結川不可止。(原和支局)長山一。(包頭支局)佐藤武美。(部數)百部。(支局)三。

(社員)三十五名。一箇月五十圓(十五、十二、一)

中央電訊社 南京。中國政府の機關通信社。(社史)新中國華民國政府の成立と同時に中華聯合通訊社民國廿七年二月創立維新政府機關は解散の形式をとり昭和十五年五月中央電訊社設立さる、中聯社を引継げるもの政府の宣傳部に隷屬す。同盟通信社との關係は大體滿洲國通信社と同じ。(社長)林伯生。(副社長)趙慕儒。(理事)十三名。(中數名の日本人あり)。(特設)無電。(現勢滿支那の項參照)關東京支社は京橋區銀座西七ノ二國民新聞社方にあり。

廣告代理業者一覽

一、本表は東京、大阪、京都、名古屋、其他各地所在、主として新聞廣告を取扱ふ主要廣告代理業者の一覽表である。表の諸項目は一々各社について問合せたものであるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料によつた分も多少ある。

一、各社配列の順序は東京、大阪及び地方の三種に分ち、イロハ順による。

一、各社の記述は大體次の順による(括弧内の文字は夫々の略稱)

記述の順序

代理業者名、所在地、電話番号(電)、組織、資本金額、社史、主要幹部(營業部長は(營業)、支店數、全社員數(社員)、主要取扱廣告種目(種目)、主要取引新聞雜誌名(取引新聞)、特別設備(特設)、兼營事業(兼營)、最近一年間の主要事項、其他。

右以外の特殊事項も必要に応じて記入す。(各項最後の括弧内の數字は調査の年月日を示す)

一、東京

五十嵐商店 日本橋區茅場町一ノ七。(電)茅場町八五八、一四九三。創立大正十四年二月。合名。(代表社員)福徳次郎。(營業)五十嵐巖男。(種目)新聞社、

出版、製菓、レコード、酒問屋
 ビール全般に渉る。(特設)空の宣傳、常備氣球十五、常備場十箇所、ロボット專賣特許自働宣傳機、獨逸製廣告投射機、十六ミリ廣告映畫出張映寫。

一新社支店 東京市小石川區上富坂町四。(電)小石川六六三

四。個人經營。(社史)創立昭和六年。(社長)西川隆造。(支店)長(德永宗亮)。(支店)一(種目)藥業、化粧品、工業方面。(取引新聞)全國新聞、一般雜誌、醫學新聞雜誌。(特設)協和、藥石日報、關西醫事一手扱。(十三、十三、十)

長谷部日弘社 京橋區銀座西二ノ一。(電)京橋二〇八五。(種目)案内廣告。(社長)笠原由太郎。

八報社 京橋區銀座一丁目。(社長)佐藤駒太郎。(種類)案内廣告。

八絃社 京橋區銀座一丁目皆川ビル内。(電)京橋七七一五。(社史)昭和二年十月一日創立(幹部)三澤豐。(種目)朝日新聞地方版廣告一手取扱。(十五、十一、十九)

博報堂 神田區錦町三ノ二二。(電)神田二一八一番外一〇。株式。七拾萬圓。(社史)明治二十八年創業、大正十三年株式組織に改め社名を株式會社内外通信社とし、廣告部を博報堂と稱す昭和五年三十五周年記念として

社屋新築、十五年秋四十五周年記念式を舉ぐ。(社長)瀨木博信(常務)瀨木博政。(取締役)土屋利八。(監査役)島田和三郎。(理事)與田富藏、星野輝雄、鈴木俊夫。(部長)金田一久、中島隆之。西垣武一、白井孝。(社員)九十三名。(種目)全國新聞、滿洲、中華民國、南洋其他主要雜誌全部。(兼營)内外通信發行。(十五、十一、十五)

十五年二月十九日取締役會長兼專務四條照信君逝く、享年六十五。

同十月六日創業四十五周年祝典を擧げ次の陣容を發表す。

書籍部長 星野輝雄
 雜誌部長 鈴木俊夫
 理事とす。

東京部長とす。 中島隆文
 地方部長とす。 金田一久
 連絡部長とす。 西垣武一

博通社 (本店)芝區田村町二丁目五。(支店)四谷區新宿一丁目七。(電)(本店)銀座二〇一〇、四〇一〇、二二六五、二二六六、(支店)四谷三九五二、八〇八二。(社史)昭和八年五月創業。(社

長)葛目成孝。(營業)松本太郎。(營業次長)齋藤律三郎。(支店)一。(社員)三十名。(種目)新聞廣告一般。(取引新聞)東朝、東日、讀賣、中外、都、報知、其他全國各新聞。(十三、十一、一)博生堂 京橋區銀座西一ノ五。(電)京橋三三三四。(支店)濱濱市常盤町二ノ一。(電)長者町一六八一。個人經營。(社史)創立明治三十五年。(社長)佐藤春造。(支店)一。(社員)十三名。(取引新聞)全國各社。(十四、二十)

白馬堂 淺草區淺草橋三ノ一(電)淺草四〇、八四二。(種目)看板廣告其他。(社長)龍瀨直藏。萬歲社 品川區五反田六ノ二〇(電)大崎三六〇六。個人。(社史)大正四年十一月三日創立(幹部)佐藤四郎。(支店)一。(十五、十一、十九)

日本電報通信社 京橋區銀座西七ノ一。(電)銀座一〇〇一三、一一一七八、一三〇一三、二二三三、四一一一四、五九一一八、六〇六七七八。株式。二百萬圓。(社史)明治三

十四年七月一日創立、三十九年十二月日本廣告株式會社を合併昭和十一年六月國策通信統制により通信部を同盟に譲渡、同盟廣告部を電通にて買収す。(取締役社長)光永星郎。(專務)光永眞三。(常務)不破瑛磨太。(取締役)木下源一郎、安藤彪雄、岩子龍太郎、古野伊之助、富安三郎。(監査役)曾我祐邦、原田徳次郎、島山敏行。(理事)十六名(總務局)光永眞三。(營業局)不破瑛磨太。(同次長)木下源一郎(事業局)光永眞三。(同次長)安藤彪雄。(支店)大阪、名古屋、小倉、上海、北京。(種目)藥品化粧品、圖書、食料品、服裝品、機器、雜品、會社、決算、官公署、病院、演藝、雜件、死亡、案内、記事等。(取引新聞)東京大阪、地方(外地を含む)日刊新聞並に著名雜誌。(特設)印刷工場、活字鑄造、ステレオ、タテ作業、製版、普通寫眞、活動寫眞、トキー映畫、肖像寫眞(兼營)出版、企畫宣傳、廣告統計、市場調査、廣告立案、廣告情報、一般印刷、之に伴ふ

附屬業務。十四年十一月古參社員十九名を參與す。十五年一月三十日光永社長は各社編輯幹部を帝國ホテルに招待す。同六月二十五日新聞總覽第三十二卷出づ。同七月二十三日より二十七日まで夏季廣告講習會を開催す。同八月池上電車線沿線運沼に映畫部スタヂオの建設に着手す放送文化通信社 芝區田村町一テキストビル。(電)銀座七〇七。(取引)放送出版協會一手扱

豐國通信社 京橋區銀座西五丁目四。(電)銀座一三七七、一三七八、一八一〇。個人經營二十萬圓。(社史)明治廿二年二月一日創立。(社長)谷口武雄。(理事)増田次雄、片山直文、鈴木悅三。大矢良太郎。(社員)卅五名。(種目)一般廣告。(取引新聞)内、外地の新聞雜誌。(十五、十一、十八)東京廣告社 神田區壺所町六(種目)案内廣告。東洋廣告取次社支店 麴町

區丸の内三菱二十一號館内(電)丸の内二六二四。(社史)創立明治四十年、株式。(支店長)伊藤吉太郎。東興社 京橋區銀座西三、菊正ビル。(電)京橋五〇〇七。(社長)關本義一。東亞通信社 麻布區筈町二九。(電)赤坂四七。(社長)濱田良。(種目)一般。東京通信社 京橋區橋町一ノ五。(電)京橋九一四〇。個人。三萬圓。(社史)明治廿年三月第一次伊藤内閣の發表機關として時の警保局長清浦奎吾の發意により創設せらる昭和十五年一月佐藤藤一現社長の經營に移る。(社長)佐藤藤一。(顧問)山口恒太郎。(主幹)平井勝利。(營業)兼佐藤藤一。(種目)會社、銀行、官廳。(兼營)通信部。(十五、十一、廿)小川報告堂 麴町區有樂町二ノ七。(電)丸の内一六七八、一〇二八。創立大正三年六月。(社長)小川津舟。(支配人)森小太郎。(兼營)日刊東洋經濟通信。折込廣告社 京橋區銀座六丁

其他一般。(取引新聞)日本全國滿洲、支那、南洋、北米の新聞雜誌。(兼營)日刊政治經濟通信(十五、十一、十九)同十五年二月社長代理神谷格一君應召す。同十一月七日同社出入の地方紙二十三社よりなる福貴會を解散す。宗田組 麴町區内幸町二ノ十。(電)銀座二四六。個人。(社史)大正八年八月創立。(店主)宗田新一郎。(十五、十一、十九)内藤一水社 神田區錦町三ノ一七、五反田一ノ一六〇。内藤町一。高圓寺四ノ五六二、北松山町四八。(電)神三四九〇、四一七、中五四〇七、淺七四〇六四谷七四〇六、大崎四〇八八。個人。(社史)昭和七年十月社主元結城盛報社在社五年後獨立。(幹部)櫻井久重他。(支店)四。(社員)廿名。(種目)案内廣告。(取引新聞)都下全紙並地方(新聞廣告專業)。(兼營)印刷、出版、醫師共濟。(十五、十一、廿)内外廣告社 麴町區丸の内二ノ一四。三菱仲九號館。(電)丸

の内四〇三、四七三三。創立昭和元年。(社長)五味秀也。上田三交社 麴町區有樂町二ノ七。(電)丸の内九三六、四九一三。個人。五萬圓。(社史)大正五年十月十五日創立。(社長)上田龜吉。(支配人)上田正次郎(社員)五名。(種目)一般。(取引新聞)一般。(兼營)東京美術社(芝區新橋七丁目十二所在)。(十五、十一、十九)大和通信社 神田區西神田一丁目一。(電)九段一五九六、三七二六、三七三八。個人經營。(社史)昭和十年四月八日創立。(社長)春原英喜。(支配人)宮澤漸。(外勤主任)小林政春。(内勤主任)猪瀨政二。(社員)十二名。(種目)案内廣告、地方新聞(十五、十一、十九)山元新光社 下谷區上野町二ノ一四。(外新報)京橋支店。(電)代表下谷七一。個人經營。(社史)昭和四年六月創立、主として案内廣告の取扱。(社主)山元國三。(社員)二十五名。(種目)案内廣告。(得意)電話營業者其他五百軒程度(取引新聞)讀賣、

目三番地五號。(電)銀座三〇九五、四七三一、四三七四。株式廿五萬圓。(社史)大正十一年四月齊藤岩次郎個人にて廣告代理業を創業す、昭和二年合資會社を組織す、七年十一月拾萬圓の株式會社に組織變更す、十一年十月資本金を廿萬圓に増資す。(取締役社長)齊藤岩次郎。(專務)渡邊杉治郎。(取締役)大野勝術、越智藤一、小峰庄作、三輪實、松本金重、田島光榮。(監査役)稻毛田安三、北野才五郎赤堀彌平。(支店)一。(社員)四十名。(種目)鐵道省、東京外全國大都市市電廣告、各社線電車及乘合自動車廣告、各種印刷、宣傳物製作、新聞折込浴場廣告配達小口もの裝飾一切。(取引新聞)兼營)メトロ時代(雜誌)發行。(十五、十一、十八)大河組 京橋區銀座西二丁目五(電)京橋五〇六五。合資。五千五百圓。(社史)明治四十年最初は個人經營なりしも昭和七年より合資組織とす。(代表社員)井上晉造。(取引新聞)全國各新聞雜誌。(十五、十一、二十)

粕谷三芳社 神田區多町一丁目六ノ一。(電)神田九六三、二二三〇。個人。(社史)祖父三代の歴史ある案内廣告の取次元祖(社長)粕谷俊雄。(支配人)豐島三吉。(種目)案内廣告専門及雜誌廣告。(取引新聞)東京大阪全國新聞直接扱。(十五、十一、廿)大日本通信社 麴町區内幸町二ノ二二。(電)銀座四〇〇七、六六〇〇。個人。三萬圓。(社史)大正六年十二月創立、同八年廣告代理業開始。(社長)多田滿長(主幹)浮田秀正。(廣告)多田實(社員)三十名。(種目)一般。(取引新聞)都下五大新聞、醫界誌(兼營)印刷業。(十五、十一、廿)大同通信社 京橋區銀座西六丁目二。(電)銀座四三〇二、個人經營。(社史)大正十三年十二月一日前社長川村源市に依つて創立す、昭和十年政治經濟通信社を合併し新に通信部を設く。(社長)川村朝子。(代)神谷格一(營業兼支配人)高尾忠平。(内勤主任)吉友重堂。(會計主任)松岡美。(編輯長)大場英十郎。(種目)賣藥、化粧品、醫院、書籍

其他一般。(取引新聞)日本全國滿洲、支那、南洋、北米の新聞雜誌。(兼營)日刊政治經濟通信(十五、十一、十九)同十五年二月社長代理神谷格一君應召す。同十一月七日同社出入の地方紙二十三社よりなる福貴會を解散す。宗田組 麴町區内幸町二ノ十。(電)銀座二四六。個人。(社史)大正八年八月創立。(店主)宗田新一郎。(十五、十一、十九)内藤一水社 神田區錦町三ノ一七、五反田一ノ一六〇。内藤町一。高圓寺四ノ五六二、北松山町四八。(電)神三四九〇、四一七、中五四〇七、淺七四〇六四谷七四〇六、大崎四〇八八。個人。(社史)昭和七年十月社主元結城盛報社在社五年後獨立。(幹部)櫻井久重他。(支店)四。(社員)廿名。(種目)案内廣告。(取引新聞)都下全紙並地方(新聞廣告專業)。(兼營)印刷、出版、醫師共濟。(十五、十一、廿)内外廣告社 麴町區丸の内二ノ一四。三菱仲九號館。(電)丸

の内四〇三、四七三三。創立昭和元年。(社長)五味秀也。上田三交社 麴町區有樂町二ノ七。(電)丸の内九三六、四九一三。個人。五萬圓。(社史)大正五年十月十五日創立。(社長)上田龜吉。(支配人)上田正次郎(社員)五名。(種目)一般。(取引新聞)一般。(兼營)東京美術社(芝區新橋七丁目十二所在)。(十五、十一、十九)大和通信社 神田區西神田一丁目一。(電)九段一五九六、三七二六、三七三八。個人經營。(社史)昭和十年四月八日創立。(社長)春原英喜。(支配人)宮澤漸。(外勤主任)小林政春。(内勤主任)猪瀨政二。(社員)十二名。(種目)案内廣告、地方新聞(十五、十一、十九)山元新光社 下谷區上野町二ノ一四。(外新報)京橋支店。(電)代表下谷七一。個人經營。(社史)昭和四年六月創立、主として案内廣告の取扱。(社主)山元國三。(社員)二十五名。(種目)案内廣告。(得意)電話營業者其他五百軒程度(取引新聞)讀賣、

東日、報知、中外、其他。(兼管)メツセンジャホイ部。(十五、十二、十一)

萬勉通信社

芝區愛宕町一ノ三五。(電)芝二四二〇、二七一〇。個人。(社史)創立大正六年六月廿四日。(社長)清水盛浩。(支配人)外務主任)谷口松尾。(營業)長洲六郎。(社員)八名。(種目)賣藥、新藥、書籍、化粧品其他一般。(取引新開)全國新聞並に雜誌。(十五、十一、廿八)

萬年社支店

京橋區銀座一丁目。(電)京橋三五三六三。八。(支店長)牧茂。(外務主事)三好克己。(次長)内田光造。(上級助役)幸福光次、寺井伊平。(十五、十一、廿)

十五年二月外務主事三好克己君理事となる。

滿洲國通信社支社

京橋區銀座西七電通ビル内(電)銀座五〇七五、八九六。株式。(社史)昭和十一年九月一日創立(東京支社長)田中寛次。(支社員)二十名。(取引新開)滿洲國各紙。

萬世通信社

神田區淡路町一

ノ二一。(電)神三三九、二六三九。創立大正六年三月一日。個人經營。(種目)案内廣告。(社長)等々力眞廣。

京華社支店

麴町區丸ノ内三三二一號館。(電)丸ノ内五〇三一五。創立明治廿三年一月。(社長)後川晴之助(東京支店長)井上忠次。

弘報堂

京橋區銀座西四五丁目二ノ一。(電)銀座二〇八三一六。(社史)明治十九年創立、大正九年五月五日組織變更、昭和十二年一月二十日創業者前社長江藤其三郎君逝去、同年二月現社長就任。株式。二十萬圓。(取締役)社長)高田廣爾(取締役)遠山源太郎、筑土次郎。(監査役)江藤直輔、岩田春之助。(營業)遠山源太郎。

十五年一月二十五日元常務取締役山下敏男君逝去、享年五十六。

廣報通信社

芝區新橋六ノ三(電)芝三三七二。(社史)創立明治四十三年。(社長)長瀬仲三郎(十五、十一、十九)

廣告社

京橋區銀座西四五丁目一。(電)銀座三一、三二、三一〇、二二四五、三八八八。個人經營。(社史)明治廿一年五月一日湯澤精司創立、氏は當時改進黨の沼間守一經營東京橫濱毎日新聞に入り、偶々沼間守一氏が歐米漫遊の際外國に於ける廣告代理業の隆盛を見て我國に於て將來必要なることを達觀し湯澤君に推めて創設されたもので實に我國廣告代理業の始祖である。(社長)湯澤精司。(代表者)湯澤清。(理事)佐藤良哉、宇野晴雄。(幹部)木村政雄、日置謹一郎、赤見長、魚住藤太郎。(社員)四十七名。(種目)官廳、銀行、會社、藥品、化粧品、食料品、病院、學校。(取引新開)全國新聞社並に雜誌社。(特設)廣告社を中心とする地方有力四十新聞社支局長、懇親機關湯茶話會あり。(兼管)日刊、日本經濟通信)發行。(十五、十一、廿)

弘告社

京橋區銀座五ノ三(電)一四七八、六六三七。合名。創立明治四十一年十一月二十日。(社長)堀田峻二郎。(種目)市電

氣局電柱廣告、一般電飾廣告。(兼管)電設工事。

興進社

牛込區市ヶ谷田町一ノ一五。(電)牛込五五一八、五八八。創立大正十二年。(社長)小田喜保治。(支店)杉並區高圓寺七ノ九八八。(電)中野五二七四。(種目)全國各新聞雜誌廣告取扱

告天社

麴町區霞ヶ關三ノ三。(電)銀座一六六〇、四一五五。個人經營。(社史)創立大正七年。(社長)富永良太郎。(外幹部)富永和夫、岩井芳雄、壽平八郎、小林森平、山本文雄、針谷通郎。(支店)一。(社員)三十三名。(種目)新聞、雜誌、ダイヤモンド。(取引新開)全國。(兼管)火災保險代理。(十三、十一、一)

愛國通信社

麴町區内幸町二ノ六。(電)銀座三五九〇一。創立大正二年十月三十一日。個人經營。五萬圓。(社長)吉田文外。(種目)官廳會社及個人(取引)東京、大阪及各地方有力新聞雜誌。(社員)十名。(十四、十、十八)

旭廣告株式會社出張所

京橋區銀座西六、數寄屋館内。

(電)銀座二六八六、四五二〇。(本社)大阪東區瓦町三ノ二八。(種目)新聞、雜誌、官報。

十五年二月十八日東京支店長取締役藤本田蒔君逝去、享年六十一。

產光社

京橋區銀座西三ノ三。(電)京橋六三八六。(取引)家の光)取扱。

金水堂出張所

京橋區銀座西二ノ三。(電)京橋三六五。株式(所長)山口弘義。

金蘭社

神田區錦町二丁目二。(電)神田二六九。個人。(社史)創立明治二十一年。(社長)二戸部利一。(取引新開)各新聞雜誌。(十五、十一、廿)

明信社

芝區新橋二丁目。(電)銀座一五七四、二八七五。合資(社史)大正八年四月。(社長)井上多平。(社員)七名。(種目)新聞廣告雜誌代理、電車内廣告取扱。(兼管)カーボン直輸入元。(十二、十一、十九)

自由通信社

京橋區銀座西三ノ一。(電)京橋二四二、二四八二四九、四五三〇。個人經營。(社史)創立明治三十二年二月十

一日。(社長)小高長三郎。(相談役)前田米藏、島田俊雄、金子貞治。(主幹)岡田巽。(廣告)金子録朗。(編輯)石崎健司。(支局數)一。(種目)新聞廣告、其他一般。(取引新開)東京全國各新聞社。(兼管)印刷、出版、日刊通信。(十五、十一、二十)

正路喜社

京橋區銀座西七丁目。(電)銀座八三七、八三八代表五七六六。株式。四十萬圓(社史)明治二十三年個人經營にて創立。三十六年合資に變更、大正十四年株式に改組今日に至る。(取締役社長)安田彦三郎。(常務)淺田源一。(取締役)福澤義男、宮澤源三郎。(監査役)小池義雄。(理事)小森源四郎、林雅也、高橋三吉、原田幸衛。(社員)八十名。(兼管)中央通信社。(十五、十一、廿一)

新進社

京橋區銀座西八ノ九。(電)銀座二〇四七。個人經營。(社史)昭和十三年四月三日創業(社長)黑崎雅雄。(社員)五名。(十三、十一、一)

新興社東京支店

京橋區銀座西七ノ三。(電)一八六二、三三八二。(支店長)倉光喜代藏。(取引)大毎、東日。

進恒社

牛込區富久町十四。(電)四谷六五四。個人經營。(社史)大正五年七月一日創業。(社

廣告)取扱となる。同八月企畫部長野元伊太郎君退社す。

同十一月三日創立五十年式典を行ひ勤続社員を表彰す。

尚弘社

京橋區銀座西一ノ三。實業ビル。(電)京橋二二二四。(社長)吉井友春。

春光堂

京橋區銀座西八ノ三。(電)銀座五三五四、三九九八、三九一六。(社史)昭和十年三月創立。(店主)倉光喜代藏。(支店)一。(社員)二十二名。(種目)日案内專屬代理業、諸案内廣告代理業。(取引新開)東日、東朝、讀賣。(十五、十一、十九)

新生社

京橋區銀座西八ノ九。(電)銀座二〇四七。個人經營。(社史)昭和十三年四月三日創業(社長)黑崎雅雄。(社員)五名。(十三、十一、一)

新進社東京支店

京橋區銀座西七ノ三。(電)一八六二、三三八二。(支店長)倉光喜代藏。(取引)大毎、東日。

進恒社

牛込區富久町十四。(電)四谷六五四。個人經營。(社史)大正五年七月一日創業。(社

(主)佐藤恒民。(社員)二名。(種目)あらゆるもの。(取引新開)婦人之友其他、雜誌廣告のみ。(十五、十一、廿)

センデン社

京橋區築地一丁目五。(電)京橋七四五二。個人經營。(社長)古谷國太郎。(社員)三名。(種目)新橋演舞場プログラム廣告)取扱。(取引新開)都、中外。(兼管)温泉案内。(十三、十一、一)

船廣社

淺草區向柳原一ノ一七(電)淺草六六八〇。(社史)創立明治二十年、昭和八年春小山船廣社を現名に改稱す。(社長)小山幾三。(社員)十名。(種目)屋外廣告其他。

青年社

神田區多町一ノ九。(電)神田二九二、四一一一。大正九年六月創立。(社長)伊藤春水。(内勤)伊藤武。(外勤)村上吉藏。(種目)雜誌廣告。

二、大阪

一新社 西區京町堀上通一丁目二五。(電)土佐堀九三九。(社長)西川隆造。(東京支店)徳永

宗亮。(種目)藥業、化粧品、工業方面。(取引新聞)全國新聞、一般雜誌、醫藥新聞雜誌。(特設)協和、藥石日報、關西醫事一手扱。(十三、十、二十)

日華社 北區堂島濱通一ノ四四
(電)北五三二〇。(社長)金井勝三郎

日新社 北區堂島濱通一ノ二二
(電)北一三三七。(社長)德永壽明

東洋社 西區阿波座通三丁目
(電)新町二三四六。(社長)平山米藏

傲蟻社 西區京町堀通二丁目
(電)土三三二七、三七五三、七一七。二十萬圓。(社長)創立明治三十五年。(社長)金子音次郎。(社員)二十名。(十五、十一、廿)

中央廣告社 西區江戶堀通
一丁目。(社長)小田惠之助。

大阪一成社 西區京町堀通
三丁目三四。(電)土佐堀五八六五。個人。(社長)社長南部利貴松、大時社員、大阪新聞通信營業部長、神戸新聞大阪支局長、等永年歴任し明治四十五年八月

同六月一日創業滿五十年を
迎へ社員一同伊勢神宮に參拜し
記念として廣告論叢特輯號を發
行す。

同十一月二十二日社長高木貞
衛君は基督教界の用務を帯びて
上京中急病の爲め長逝す、享年
八十七。

同十一月五日臨時株主總會に
於て新體制を布き社長を廢し會
長制を採用する事となる又前社
長の令息高木貞二君は相談役と
なる、異動次の如し。

專務取締役營業部長 中川 秀吉
取締役會長とす。
專務取締役 古谷 昭
取締役會長代理考察部長とす。
監査役 松村爲治郎
常務取締役經理部長兼保險部長
とす。

常務取締役東京支店長とす。
社長秘書 國米 洋一
常務取締役兼總務局參事兼庶務
課長とす。
京都支店長 豐田 富雄
常務取締役兼內務部長とす。

大阪一成社を創業、關西方面に
て雜誌廣告取扱代理業創始。(社
長)南部利貴松。(營業)南部光
正。(社員)六名。(種目)一般雜
誌其他新聞及ホスター。(取引新
聞)全國諸新聞、諸雜誌。(十
四、七、十九)

大阪廣告社 北區堂島中一ノ
一八。(電)北二二七五。(社長)
前田儒宏。

大阪弘業通信社 北區堂島
中一ノ八。(電)北一一一三、八
一八〇。創立明治二十八年十月
昭和十年十月日本弘業通信社解
散に際し伊藤君獨立經營す。(社
長)伊藤數太郎。

大阪電報通信社 大阪
市北區中之島二ノ二〇。(電)代
表北濱五五、九一、一九八。株
式會社日本電報通信社大阪支局
株式。二百萬圓。創立明治三十
九年四月。(社長)光永星郎。(取
締役營業)岩子龍太郎。(外幹
部)澤邊保雄、田代實助、武藤
駿次、小田民造、岡本榮一、瀧
村昇、藤島隆範、高木謙一、平
井圭三郎、藤井眞須男、米田兵
二。(種目)全國新聞、雜誌、廣

告代理業。(設備)活字鑄造機一
式、寫眞、製版機一式、他日本
電報通信社と同じ。(兼營)印刷
製版。
十五年十一月二十七日創立、
三十五周年を迎へ大阪ホテルに
記念宴會を催す。

大同社 西區阿波座一番町四。
(電)新町四九四五。(社長)安岡
龜造。

太平廣告社 東淀川區十三東
ノ町一丁目。(電)北五七二〇。
(社長)平田靜生。

第一廣告社 東區今橋二
丁目二五。(電)北濱二八二六、三
一六〇、五六一一。株式。拾萬
圓。(社長)大正十三年十月三十
日岡田辰次郎個人經營の下に創
立、昭和十三年四月一日株式組
織とす。(社長)岡田辰次郎。(支
長代理取締役)岡田誠一。(支
店)一。(社員)二十九名。(取引
新聞)朝日(大阪、東京、西部)大
毎、新愛知、福日、北海タイム
ス、中國等。(特設)紙型、鉛版
設備。(十五、十一、十)

萬年社 東區高麗橋五丁目三
五。(電)北濱四二七一、三、六

京華社大阪支社 大阪
市東區北濱四ノ一四。(電)北濱
三七五一、三三七一。株式。
五十萬圓。(社長)本店京都、支
店所在地東京、大阪、神戸、大
阪支店設置、明治三十四年一月
廿七日。(社長)後川晴之助。(支
店長)池田一藏。

福田商店廣告部 東區京橋三
ノ七。(電)東七三三四。醫學雜
誌を専門とす。

弘知社 北區樋上町三八。(電)
北二四〇五。(社長)昭和二年九
月創立。(幹部)菊池健、富阪喜
三郎。(取引)講談社、主婦之友
中央公論社、實業之日本社。(社
員)四名。(十五、十一、十九)

興亞通信社 東區北濱五丁目
十二。(電)北濱五九二〇(代表)
個人經營。(社長)昭和十四年六
月一日滿支の販賣購買の連絡
を主として創立されたるも其後
時局の進展に供へ國防産業、鐵
山事業の廣告機關として活躍、

九〇一二。株式。百萬圓。(社
史)明治二十三年六月一日創業
大正九年九月二十六日株式組織
に變更。(取締役會長)中川秀吉
(會長代理考察)古谷昭(常務經
理兼保險)松村爲治郎(常務東
京支店)牧茂(常務總務局參事
兼庶務課)國米洋一(常務營業
內務)豐田富雄(常務營業外務)
濠川敬雄(取締役)吉川三夫。
(監査役)栗原伸。(理事)京都支
店)和田菊次郎。(理事)三好克
己、大伏美明、中川鐵三郎、出
口郁郎。(支店)二。(社員)百八
十名。(種目)新聞雜誌廣告(特
設)圖案文案作成、製版、印刷
紙型作成、活字、鑄造。(兼營)
損害保險代理。(十五、十一、廿)
十五年一月二十二日專務取締
役米澤龍之進君逝く享年六十八
二月四日長柄齋場に於て社葬を
營む。

同一月二十七日取締役中川秀
吉君は專務取締役營業部長とな
り同栗原伸君は經理部長兼保險
部長となる。
同二月東京支店長牧茂君取締
役となる。

一般新聞紙にも特に有要の商品
を取扱ひつゝあり。(社長)前川
市郎。(專務理事)竹村貞(外務
主任)前川計三。(顧問外務)榊
田廣光。(支店)一。(社員)十二
名。(種目)國防、防空、鐵山、
藥品、機械器具。(取引新聞)中
部軍司令部監修國民防空廣告部
大阪地方鐵業報聯合會發行鐵
山之友廣告部、華北經濟新聞。
家庭新聞支局、其他(特設)出版
部あり。(兼營)調査、通信代理
事務。(十五、十一、廿)

告天社大阪支社 北區堂島中
一丁目二三三。(電)北五四七七
個人經營。告天社東京本社。(社
史)告天社大阪支社は昭和十四
年六月一日創設。(支社長)天羽
義雄。(社員)八名。(種目)全國
各地新聞。(取引新聞)講談社も
の、主婦之友、朝日出版物(週
刊朝日、婦人朝日)等、全國雜
誌特に「ダイヤモンド」一手取扱
(十五、十一、十九)

榮行社 南區安堂寺橋ビル。
(電)船場三九〇七。創立昭和七
年。個人經營。(社長)夷佐一(種
目)講談社雜誌廣告專門取扱。

外務主事 濠川 敬雄
常務取締役兼營業外務部長とす。
監査役 吉川 三夫
取締役とす。
取締役 栗原 伸
濠川千之助
顧問とす。
內務事務主事 和田菊次郎
理事京都支店長とす。
理事東京支店外務主事とす。
理事營業部次長とす。
理事印刷課長とす。
理事秘書とす。
出口 郁郎

滿洲國通信社大阪支社
北區堂島八階。(電)北七二六
〇、七二六一。株式。(社長)滿
洲建國直後大同元年(昭和七年)
十二月一日、政府の一國一通信
主義の大方針に基いて創立され
た國策通信社。(取締役社長)森
田久。(取締役)中島俊雄。(同
編輯局)升井芳平。(總務局)長
深千代造。(廣告)土橋清秀。(支

旭廣告株式會社

東區五町三丁目。(電)北濱七一八。六二五〇。株式。五十萬圓。(社史)大正十三年三月創立。(取締役社長)奥野幾次郎。(監査役)奥野正一。(取締役)奥野信一、小池譽太郎、木村徳太郎。(支店)一。(社員)五十八名。(種目)新聞、雜誌、官報。(取引新聞)全國新聞、雜誌。(兼營)文案、圖案、廣告統計。(十五、十三、十)

三元社

北區堂島濱通一丁目八〇。(電)北五一七〇。個人經營(社史)社長中谷精志(舊名清治)の亡父清一が主婦之友大阪支社經營時代に父の事業を授ける傍ら、廣告研究と實務に興味を持ち、常に廣告計畫に參照し、廣告主に好評を博し父歿後雜誌廣告專門三元社を創立し立案本位の異色ある代理店として今日に及ぶ、名古屋事務所あり(社員)七名。(種目)藥品、化粧品、雜貨、學校、飲食料、電氣、會社、圖書、出版、その他(取引新聞)主婦之友、講談社各雜誌、朝日出版物、其他有名雜誌、專門雜誌、尙新聞は朝日新聞專屬。(十五、十一、一)

金水堂

東區平野町二丁目。(電)北濱五六五〇。株式。(社史)明治廿八年創業、大阪朝日取引の創始。(社長)福井晃。(取締役支店)竹尾幸平。(取締役)末政仁三。(常任監査役)鈴木辰三。(營業次長)山田盛一(支店)一。(取引新聞)朝日、東日、大毎其他日滿支各社。(十五、十一、廿)

昭和廣告社

西區江戶堀北通一丁目二。(電)土佐堀四六七一。(社史)昭和八年二月十一日創立。(社主)松井靜雄。(外部主任)竹田勝雄。(内部主任)能勢吾一。(顧問)辰巳善次郎。(支店)東京。(社員)十七名。(種目)大朝廣告專屬取扱、其他地方紙(取引新聞)大朝出版局廣告取扱、天理時報。(兼營)私の手帳社。(十四、十、廿)

新興社

北區堂島町中一ノ二五(電)北五七〇、七七八、三六二五。合資。十萬圓。(社史)創立

三、地方

京都

萬年社京都支店

中京區堺町三條。(電)本局二八一、二二八五。(支店)長兼外務主任、和田菊次郎。(次長)齋藤莊二郎。(十五、十一、廿)

京華社

株式會社。京都市中京區三條通烏丸東入梅忠町。(電)代表本局三一。株式。五拾萬圓。(社史)明治廿八年十二月一日故後川文藏氏創業し卅

名古屋

日本電報通信社名古屋支局

名古屋市中區南大津通二ノ一。(電)中二五一、一三、三五〇〇。株式。二百萬圓。(社史)明治三十四年七月創立。(社長)光永星郎。(名古屋支局長)理事每木一八。(支局營業課長)理事上羽恒雄。(社員)三百數十名。(特設)出版、企畫宣傳、廣告統計、市場調査、寫眞、印刷製版。(十五、十一、廿)

中央通信社

中區西川端町一ノ二。(電)中一六六〇。(社長)水野銆一。

中央廣告社

東區東新町二〇(電)東一一五七。(社長)西村與七。

中外通信社

中區鐵砲町廣小路ビル。(電)中二七九〇。個人二萬圓。(社史)昭和四年十月一日創立。(代表者)伊藤幸太郎。(幹部)飯田和夫、水野市太郎、加納寛一。(支店)二。(社員)十三名。(種目)藥品、雜貨。(取引新聞)大朝及地方有力新聞、大陸殖民地地方。(兼營)仕入案内社經營。(十五、十一、十九)

中京通信社

名古屋市中區丸田町二ノ五。(電)中二〇〇一二。創立大正二年六月。個人經營。

太陽通信社

東區小川町二七(電)東局五六〇六。個人。(社史)昭和七年三月創立。(幹部)松本利勝、吉田顯義、松本幸一、森久一。(顧問)塚本三、辻龜一(支店)五、出張所二。(社員)二十名。(種目)交通關係、請負人關係、鐵道方面。(兼營)鐵道朝

愛知通信社

東區七小町四。(電)本局七九八〇。個人經營。十萬圓。(社史)創立大正十年四月十三日。(社長)小田莊二。(副社長)小田邦夫。(支店)一。梅村喜六。(支店)五。(社員)廿五名(種目)官廳及銀行會社。(取引新聞)全國諸新聞。(兼營)名古屋日日新聞。(十五、十一、十八)

名古屋通信社

名古屋市中區新榮町二ノ一五。(電)中五五一八。創立明治二十年三月。(社長)後藤清文。(專務)日比謙三(支店)田端才二。(支局)三。(社員)五十八名。(種目)新聞雜誌、電車廣告。(取引)市内新聞其他。(特設)製版設備あり。(兼營)日刊通信。(十五、十一、十七)

有功社

名古屋市中區東區大津町三丁目。(電)代表東八一。合資會社。五萬圓。(社史)創立大正十四年。(代表社員)淺野末吉。(支店)二。(社員)百六名。(種目)新聞廣告、電車廣告。(取引新聞)全國新聞。(兼營)保險代理部。(十五、十一、十八)

鮮滿通信社

名古屋市中區新榮町八ノ一九。(電)中局八四五。個人經營。三萬圓。(社史)昭和元年四月廿八日創立以來個人經營。(社長)岩本次雄。(營業主任)淺野芳雄。(外交主任)武田善弘。(社員)十一名。(取引新聞)大阪毎日西部版、滿日、京城日報、毎日新報、青年、中部日本に於ける廣告一手取扱、其他全國新聞雜誌廣告取扱。(特設)製版部。(十五、十一、十八)

神戸

勉強社

神戸市神戶區榮町通五丁目。(電)元町三一六五。個人(社史)明治二十七年創立以來神戸市に本店を有する取扱店は本社のみにして官衙、學校、日本郵船、大阪商船支店、各銀行會社等を得意とし信用厚し。前社主關本總太郎氏より大正十一年白紙源四郎が譲受け後大正十五年向井長兵衛入社共同經營。(社員)六名。(種目)縣市内務省土木出張所公告カガシ本舖其他(取引新聞)大毎、朝日、其他全國諸新聞雜誌、官報。(兼營)火

東洋廣告取次社

神戸市海岸通一ノ二。創立明治四十年。(社長)ドーグラス・エム・ヤング(幹部)山下要助、矢野伊三見、渡邊金一。(東京支店)伊藤吉太郎。(支局)三。(倫敦支局)エス・エチ・パイウオーター。

太陽廣告社

神戸市神戶區北長狹町五ノ七六ノ三。(電)元町一三六九。創立大正十一年五月。(社長)藤見淺一。

京華社神戸支店

神戸市榮町通五丁目五五。(電)元町二五七七八。(支店)長原田健男。(十五、十一、廿)

文信社

神戸市湊區神田町四七八。(電)元町三三七〇。個人。(社史)大正八年十月創立。(社長)文谷利泰。(外交主任)田中勇三。(社員)四名。(種目)辯護士案内及醫院案内會社決算。(取引新聞)大朝、大毎、神戸新聞(十五、十一、廿)

橫濱

橫濱合同通信社

橫濱市中區南仲通一ノ一三。(電)本局二二

二五十六。創立昭和四年九月一日、十五年八月五社を合併す。(社長)佐藤盛平。(兼管)日刊通信。(十五、十一、十七)
京濱通信社 横濱市中區蓬萊町二ノ六〇。(電)長者町三〇三〇。創立大正十三年二月。個人(社長)松崎末吉。

福岡

入江廣告社 福岡市行町五十七。(電)東一六一三、五一〇四株式。五萬圓。(社史)創立大正三年九月十日。(專務取締役)長尾勝也。(取締役支配人)春日政治。(取締役)入江靜一。(社員)十名。(種目)新聞廣告。(取引新聞)福日、九州日報外九州各地新聞。(十五、十一、廿)
波多江廣告部 福岡市新川端七二。
川丈廣告部 福岡市東中洲五〇。(電)東二三七五。創立明治四十四年四月。個人經營。十萬圓。(社長)長尾寅吉。(專務)長尾勝也。(支配人)緒方煤島。(種目)新聞廣告。(取引)福日、九日、其他九州各新聞。

滿洲

滿洲國通信社廣告部 新京特別市中央通り四三。(電)代表二一八、四三一。株式會社。(社史)昭和七年十二月一日創立滿洲國獨立後統一されたる通信機關なき爲、一國一通信の原則により創立せるもの、廣告部は其の一部なり。(社長)森田久。(事業局)長澤千代造。(廣告部長)土橋清秀。(支店)二十三。(社員)八百名。(種目)新聞、雜誌、ラヂオ。(取引新聞)全滿新聞及雜誌。(特設)全滿各新聞社への送稿は「ニュース」發送と同封直送の爲迅速なり。(十五、十二、二)
支那

中央報業經理處 南京。中華聯合通訊社は十五年五月中央電訊社となりその廣告部は同年十一月發展の解消をなし中央報業經理處に吸収さる。
中華廣告公司 上海。株式。百萬圓。

新聞製作材料業一覽

一、本表は日本全國に於ける主要新聞製作材料品業者を、その供給材料品目によつて分つた一覽表である。表の諸項目は一々各業者について問合せたものであるが、締切期日までに回答を得なかつた分は手許の材料によつた。(イロハ順)
一、各業者についての記述は大體次の順序による。(括弧内の文字はそれらの省略)

記述の順序

社名、所在地、電話番号(電)、組織別、資本金額、社史、主要幹部、社員數、工場員數、營業科目又は商品名、一箇年の製産高又は販賣高(販賣高)、主要供給先(供給先)其他(各項最後の括弧内の數字は調査の年月日を示す)。

用紙

服部紙店 東京市日本橋區本町二ノ四ノ十。(電)茅場町四一三一七、三〇六七。株式。二百萬圓。(專務)西澤榮藏。(従業員)一三〇名。和洋紙販賣業。(販賣高)約一千五百萬圓。(供給先)專賣局各新聞社、市内同業者、各需要家。(沿革)明治年間創業、明治十三年紙業組合已

卯組を起し斯業の先覺をなし明治三十四年組織を合資會社に改め大正七年更に株式會社に變更(一百万圓)、昭和十二年六月資本金を二百萬圓とす。(十二、十廿八)
博進社 株式會社。神田區駿河臺三丁目六ノ一。(電)神田代表一一七一、自一一七〇、至一一七九。株式。貳百五十萬圓。社史)明治三十三年合資會社博進

堂洋紙店創立、明治四十四年株式會社に改組博進社と改稱す、資本金逐次増加し昭和十二年現在額に達す。(社員)山本留次。(常務)中村孝吉、須佐敢、大島久吉、山本博。(取締役)中村松太郎、佐久馬義三。(監査)長沼恒次郎、九里誠一。(營業科目)和洋紙、板紙、クロロス、レザー、セロファン、製紙原料。(供給先)陸海軍部、官廳、公衛、同業者一般雜誌、出版、印刷所(十五、十一、十九)

大橋新太郎、山口政治。(社員)二百五十名。(工場員)一千七百二十八名。(營業科目)板紙、洋紙、ファイバー、及バルブの製造販賣。(販賣高)製紙年額一億五千六百萬封度。(供給先)專賣局、逓信局、鐵道省各官衛、陸海軍工廠、有力日刊新聞社四十六社、書籍雜誌、國定並に中等教科書、紡織、電氣工場用ケーンズ、其他各種ファイバー製品(十四、十二)

北越製紙株式會社 新潟縣長岡市藏王町八〇〇。(電)長岡(代表)二二一〇一二二、一三九一。株式。一千三百十五萬圓。(社史)明治四十年五月資本金七十五萬圓を以て創立し、其間増資を重ねること五回工場、六ヶ所に達し、抄紙機十二臺外に亞硫酸バルブ、碎木バルブ、年額四萬八千噸の裝置を設備す(專務)田村文吉。(取締役)覺張義平。(常務)田村文之助、大橋武雄、小川清一郎、中村恒、小林宗作。(監査役)山本留次、山口誠太郎、山口健造。(相談役)

王子製紙株式會社 (本社)東京市王子區王子町六〇。(營業所)麴町區有樂町一ノ一〇、三信ビル内。(電)銀座代表五五〇一、五七三一、五七四一。株式。(公稱)三億圓。(拂込)二億二千四百九十九萬四千圓。(取締役會長)藤原銀次郎。(社長)高島菊次郎。(專務)松本弘造、田中治朗、井上憲一、足立正。(従業員)職員二、五〇〇餘名。職工一三、八〇〇餘名。(營業科目)紙類及其原料製造販賣、電氣供給、木材賣買、植林、鑛業、運送業。(十三年上期製産高)紙類七億七千二百七十一萬九千八百二十八封、

バルブ二億六千四百九十萬八千六十一円。(供給先)内地、滿洲支那、南洋、シヤム、其他。(特設)抄紙機百二十八臺、塗工機四臺、バルブマシン十一臺。(沿革)明治六年二月設立抄紙會社と稱し資本金十五萬圓、同八年七月王子工場に於て操業開始、本邦洋紙製造の嚆矢となり同二十六年十一月商法の實施に伴ひ王子製紙株式會社と改稱、爾來國運の伸張に伴ひ社業亦發展を加へ昭和八年五月富士製紙會社及樺太工業會社を合併す、現在に於ける工場数は三十三ヶ工場なり。(十三、十一、調)

十五年一月前社長藤原銀次郎君米内内閣の商工大臣となる。同十月高島社長は結核豫防會へ事業資金として三十萬圓を寄附す。

同十一月紀元二千六百年祝典に際し社長高島菊次郎君は正六位に叙さる。

大倉洋紙店

株式會社。日本橋區通一丁目二ノ五。(電)日本橋代表一一三一、三一五一。株式三百萬圓。(社史)明治二十二年

川島洋紙店

(株式會社) 日本橋區小傳馬町一ノ三。(電)茅場町四一八一―一五。株式。一百萬圓。川島庄之助。(常務)小倉清助、國貞善市。(監査)井上憲一。(従業員)五十八名。(營業科目)洋紙販賣。(供給先)市内。

柏原洋紙店

東京市京橋區京橋一ノ四。(營業科目)洋紙一殿。

大同洋紙店東京支店

(株式會社) 京橋區銀座三丁目四ノ一(電)京橋四一四〇、四一四三一四一四九。株式。三百萬圓。(取

高田商會

(株式會社) 麴町區丸ノ内二ノ六。(電)代表丸ノ内三三二一。株式。三百萬圓。(會長)高田軍三。(專務)和田勝郎。(營業第三部長)野田隆良。(十五、十一、十九)

中井商店

東京市日本橋區室町三丁目四ノ三。(電)日本橋一〇〇一―一〇〇九。株式。三百萬圓。(社長)中井三之助。(專務)島田林太郎。(常務)岡本經紀。(取締役)安達祐四郎、關根國之助、松本良吉、山田惣一郎、棚橋昌雄、鹽山豐藏、海本嘉十郎。(監査役)赤松市雄、田中傳太、井上憲一。(従業員)二百五

印刷機械

十名。洋紙問屋。(販賣高)六千萬圓。(供給先)同業者、官廳方面、著名出版業、印刷業者。(十三、十一、末)

野澤組 麴町區丸ノ内二ノ十。(電)丸ノ内一三一一―一三三四。個人經營。(社長)野澤源次郎。(營業科目)洋紙。(沿革)創業明治六年。(十三、十一、末)

共同洋紙株式會社 京橋區銀座四丁目三ノ一。(電)京橋八〇九五―一七。株式。五百萬圓。(社史)大正十四年六月一日(前身)共同洋紙會社明治三十四年十月創立。(社長)高島菊次郎(專務)井上憲一。(社員)六名。(營業科目)王子製紙會社新聞用卷取紙委託配給。(供給先)各問屋を経て新聞社。(十五、十一、廿)

池貝鐵工所 (株式會社) 麴町區有樂町一丁目一。(電)丸ノ内五一六一―一八。株式。二千萬圓。(社史)明治二十二年十一月、個人創業、三十九年合資會社、大正二年四月株式會社設立

濱田印刷機製造株式會社

城東區龜戸町一ノ九八。(電)墨田一二八、三七一八。東京第二工場墨田一八五八。株式。一百萬圓。(社長)濱田初次郎。(營業科目)新聞社用高速度輪轉機、活版印刷機、グラビア印刷機、オフセット印刷機、多色刷オフセット等。(沿革)昭和九年十月資本金一百萬圓の株式組織とす十年十二月四百坪の新工場を竣工、十一年一月更に三百坪の工場増設を行ふ。(十三、十一、末)

十五年四月三年越しの時速十八萬刷名古屋新聞社超重高速機成り十日試運轉を行ふ。

同十一月紀元二千六百年祝典に際し社長濱田初次郎君は綠綬褒章を下賜さる。

東京機械製作所 (株式會社)

芝區三田四國町十五。(電)三田三八〇―一二。株式。七百萬圓(社史)明治七年の創業大正五年株式に改組、同十三年本邦に始めて高速度輪轉機を製作す、昭和五年十三萬高速機完成朝日新聞に納入す、同十二年川崎に工場新設。(取締役社長)芝義太郎(專務)芝周平。(取締役經理)岡村安一。(同設計)西濱廣太郎。(同營業)青木一郎。(同計畫)淺羽大三郎。(社員)一二〇名。(工場員)八五〇名。(營業科目)高級工作機械、高級印刷機械、煙草製造機械。(供給先)陸、海軍、各航空機會社、諸官廳、各新聞社。(十五、十二、五)

中島機械株式會社

芝區三田豐岡町一。(電)四八二〇、四八二一、二九四九、一五七三。株式。二百五十萬圓。(社史)明治十八年三月四日創業、二十八年より工作機械並に内燃機關の製作をも開始、爾來主として印刷機械製作に力を盡す昭和十三年三月株式會社に組織を變更し芝區三田豐岡町に東京工場を設

インク

日新堂インキ製造所 京橋區木挽町二丁目六。(電)京橋一九一六、七三六三。合資會社。五萬圓。(社史)大正元年十一月創立。(幹部)室山貞一、野川新藏、井崎經矩。(社員)十二名。(工場員)二十三名。(營業科目)印刷用インキ製造。(販賣高)三九五、〇〇〇疋。(供給先)讀賣報知新聞外。(十五、十一、廿一)

西川求林堂 (株式會社) 豊島區西巢鴨三ノ七〇六。(電)大塚四七二四、五五九五、五六九五。株式。三十萬圓。(社史)明治十五年八月創業、昭和九年十一月株式に變更。(專務取締役)馬場

山本新聞インキ工場

(山本インキ株式會社) 大阪市此花區恩貴島南町。(東京工場)品川區大井水神町二〇〇九。株式。百五十萬圓。(專任常務)山本忠次郎。(従業員)百二十名。(營業科目)新聞用インキ、大印印刷インキ、一般印刷材料品、KY式紙型壓搾機。(製産高)新聞インキ二百五十萬ポンド。(供給先)大毎、讀賣、新愛知、名古屋、福日、滿日、京日、河北。(沿革)明治十六年印刷材料店開業、明治三十四年一般印刷インキ製造に着手、昭和四年十二月より新聞用インキを製造昭和十三年三月、新聞インキの増産を目して合資十萬圓を以つて同部を獨立諸設備の充實と製産の擴大を行

ふ。(十三、十一、末)
帝國インキ製造所 芝區三田南寺町十五。(電)三田三二一六八五。合資會社。五十萬圓。

三。(計理)大鶴眞。(工務)佐藤英太郎。(企劃)阪田三佐夫。(東京支店長)野田眞一。(門司支店長)大中幸三。(社員)七十五名。(工場員)八十五名。(營業科目)新聞インキ、印刷ワニス、體寫版、工業藥品、切削油(販賣高)インキ及ワニス年産五百萬圓。體寫版年産壹萬臺。輪轉機二千臺。(供給先)朝日、大毎、讀賣、名古屋新聞、新愛知、合同、中國、福日、北海タイムス、臺灣日々、京城日報、大陸新報他全國一流紙。(十五、十一、廿)篠崎インキ製造株式會社 本所區綠町三ノ十六。(電)本所二一九、二二〇、三四七二、七〇六七。株式。四十五萬圓。(社史)明治十七年六月十五日創業(日本に於けるインキ製造の開祖)大正元年株式組織に變更、昭和十五年販賣會社(地方別)を設立し綜合資本金百貳拾貳萬五千圓となり世界屈指のインキ製造會社を形成せり。(取締役社長)篠崎又兵衛。(專務)篠崎清三郎。(營業兼宣傳)權田昇平。(販賣)村田義輝。(工場)篠崎徳

昌。(技術)篠崎眞藏。(何れも取締役)。(社員)八十五名。(工場員)貳百貳拾名。(營業科目)ライトインキ、チャムピオンインキ、各種事務用並に特種インキ一切。(販賣高)三百七十萬圓。(供給先)内地全部、滿洲支圖アロツク、佛印、蘭印、南洋諸島、澳洲、印度、アフリカ、中南米歐洲其他世界各國。(十五、十一、廿五) 岩田活版母型製造所 大森區新井宿六丁目六一。(電)大森三七五五、五三五六。個人。(社史)大正九年創立。(幹部)岩田百藏。(社員)四名。(工場員)四十八名。(營業科目)活版母型製造、原彫影刻。(販賣高)二十五萬圓(三十萬圓)。(供給先)東京、外各地大新聞社、日本タイプライター、外各地印刷所活字製造所各地官廳印刷部。(十五、十一、十五) 千代田母型製造所 (千代田印刷材料株式會社經營) 神田區鎌倉町三。(電)神田二一六四一二七四。株式。(代表者)古賀

三。(計理)大鶴眞。(工務)佐藤英太郎。(企劃)阪田三佐夫。(東京支店長)野田眞一。(門司支店長)大中幸三。(社員)七十五名。(工場員)八十五名。(營業科目)新聞インキ、印刷ワニス、體寫版、工業藥品、切削油(販賣高)インキ及ワニス年産五百萬圓。體寫版年産壹萬臺。輪轉機二千臺。(供給先)朝日、大毎、讀賣、名古屋新聞、新愛知、合同、中國、福日、北海タイムス、臺灣日々、京城日報、大陸新報他全國一流紙。(十五、十一、廿)篠崎インキ製造株式會社 本所區綠町三ノ十六。(電)本所二一九、二二〇、三四七二、七〇六七。株式。四十五萬圓。(社史)明治十七年六月十五日創業(日本に於けるインキ製造の開祖)大正元年株式組織に變更、昭和十五年販賣會社(地方別)を設立し綜合資本金百貳拾貳萬五千圓となり世界屈指のインキ製造會社を形成せり。(取締役社長)篠崎又兵衛。(專務)篠崎清三郎。(營業兼宣傳)權田昇平。(販賣)村田義輝。(工場)篠崎徳

昌。(技術)篠崎眞藏。(何れも取締役)。(社員)八十五名。(工場員)貳百貳拾名。(營業科目)ライトインキ、チャムピオンインキ、各種事務用並に特種インキ一切。(販賣高)三百七十萬圓。(供給先)内地全部、滿洲支圖アロツク、佛印、蘭印、南洋諸島、澳洲、印度、アフリカ、中南米歐洲其他世界各國。(十五、十一、廿五) 岩田活版母型製造所 大森區新井宿六丁目六一。(電)大森三七五五、五三五六。個人。(社史)大正九年創立。(幹部)岩田百藏。(社員)四名。(工場員)四十八名。(營業科目)活版母型製造、原彫影刻。(販賣高)二十五萬圓(三十萬圓)。(供給先)東京、外各地大新聞社、日本タイプライター、外各地印刷所活字製造所各地官廳印刷部。(十五、十一、十五) 千代田母型製造所 (千代田印刷材料株式會社經營) 神田區鎌倉町三。(電)神田二一六四一二七四。株式。(代表者)古賀

和佐雄。(商品)各種本母型及千代田新母型。(従業員)三十名。(供給先)東京大會社、新聞社、官廳、地方新聞等。(活字の部にもあり) 千代田印刷材料製造株式會社 神田區鎌倉町三。(電)神田二一六四、一二七四、四八七四。株式。(代表者)古賀和佐雄。(營業科目)活字部、母型部、木具部、鄧輪部、寫真製版部自動鑄造機、印刷機。(沿革)明治三十五年東京欄製製作所の創立。新聞業者を得意に分業に立脚、總業的事業の經營を目的とし東京府下立川に工場を設立、(字母の部にもあり) 岡本活版製造所 大阪市北區小松原町七三。(電)北三七〇一三。個人經營。(代表者)岡本萬二。(従業員)三十名。(營業科目)活字製造販賣。(供給先)印刷業並に各新聞社。(沿革)明治二十六年十月創業。 大日本印刷活字部 京橋區銀座七ノ四。(電)銀座七四、七五。(營業科目)活字の鑄造販賣(美術印刷の部にもあり) 佐藤保商店 (株式會社) 神

活字及地金

字母長活版母型製造所

和佐雄。(商品)各種本母型及千代田新母型。(従業員)三十名。(供給先)東京大會社、新聞社、官廳、地方新聞等。(活字の部にもあり) 千代田印刷材料製造株式會社 神田區鎌倉町三。(電)神田二一六四、一二七四、四八七四。株式。(代表者)古賀和佐雄。(營業科目)活字部、母型部、木具部、鄧輪部、寫真製版部自動鑄造機、印刷機。(沿革)明治三十五年東京欄製製作所の創立。新聞業者を得意に分業に立脚、總業的事業の經營を目的とし東京府下立川に工場を設立、(字母の部にもあり) 岡本活版製造所 大阪市北區小松原町七三。(電)北三七〇一三。個人經營。(代表者)岡本萬二。(従業員)三十名。(營業科目)活字製造販賣。(供給先)印刷業並に各新聞社。(沿革)明治二十六年十月創業。 大日本印刷活字部 京橋區銀座七ノ四。(電)銀座七四、七五。(營業科目)活字の鑄造販賣(美術印刷の部にもあり) 佐藤保商店 (株式會社) 神

活字鑄造機械

日本タイプライター株式會社 京橋區寶町一丁目二。(電)

京支店長)中村良太郎。(取締役)小島藤吉。(監査役)諸星太郎、安田憲。(従業員)一五〇名(營業科目)孔雀印各種印刷用インキ製造販賣並に印刷諸材料。(製産高)貳百萬圓。(供給先)全國新聞社、印刷業者滿洲、支那、印度、南洋、中南米。(特設)新聞インキ自動製造。最新式高速度練肉機設備。(十五、十一、末)

岩田活版母型製造所 大森區新井宿六丁目六一。(電)大森三七五五、五三五六。個人。(社史)大正九年創立。(幹部)岩田百藏。(社員)四名。(工場員)四十八名。(營業科目)活版母型製造、原彫影刻。(販賣高)二十五萬圓(三十萬圓)。(供給先)東京、外各地大新聞社、日本タイプライター、外各地印刷所活字製造所各地官廳印刷部。(十五、十一、十五) 千代田母型製造所 (千代田印刷材料株式會社經營) 神田區鎌倉町三。(電)神田二一六四一二七四。株式。(代表者)古賀

京橋四一六一一五、九八二六一九。株式。五百萬圓。(社長)櫻井兵五郎。(專務)城森省三。(常務)川畑光志、大脇胖、橋利雄。(營業)脇本義信。(社員)六〇名。(従業員)三五〇名。(營業科目)タイプライター、カーボン紙、膠寫原紙、附屬品、モノタイプ、鑄造機、印刷機械器具材料。(販賣高)四百萬圓。(供給先)内地、滿洲、支那、印度。(沿革)大正四年六月創業京橋區寶町に七層樓建坪約一千三百坪の本社建築、澁谷區幡ヶ谷原町に敷地約一萬坪の工場を有す、支店八、出張所十、營業所九。(十三、十一、末) 林榮社 澁谷區中通一ノ一五。(電)青山二八六三、八三一二。個人。(社史)大正十四年七月創立特許硬質萬年活字製作販賣昭和二年以降特許高速度萬年自動鑄造機製作販賣、昭和六年以降特許萬年活字製作販賣現在に至る。(工場長兼支配人)津田藤吉(技師長)物部延太郎。(社員)十

田區須田町二ノ一三。(電)浪花〇八九一、四四一五、四四一六四四九二、三〇〇二。株式。五十萬圓。(社史)大正十二年十一月十五日、錫、鉛、アンチモニ、亞鉛、電氣銅等の地金類並びに活字用、輪轉機用、羅線用紙型用等の合金地金の販賣。(社員)三十名。(營業科目)印刷用、地金類販賣業。(供給先)通信、鐵道、陸海軍、其他。(十四、十八) 共同印刷株式會社 小石川區久堅町一〇八。(營業科目)活字鑄造販賣。(美術印刷の部にもあり) 民友社鑄造部 京橋區銀座西八ノ五。(電)銀座六六八。(代表者)渡邊宗七。(従業員)十五名。(營業科目)ポイント式活字其他一般活字、附屬品。(供給先)各地新聞社、印刷所。(沿革)明治卅六年の創業。(十三、十一、末)

名。(工場員)四十三名。(營業科目)特許萬年自働鑄造機、萬年字母及萬年活字。(販賣高)二十萬圓位。(供給先)全國新聞社及活字業者並に印刷業者。(十五、十一、廿五)

紙型及地証紙

奧村製紙場

小石川區音羽町五ノ二。個人經營。(代表者)奧村金一。(従業員)三十五名。(營業科目)紙型用地証、輪轉用膠張紙、雁皮紙。(産額)十萬圓(供給先)各新聞社、出版業者、大商店等。(沿革)明治十九年創業。(十三、十一、末)

田中製紙工場

岐阜縣美濃町(長)六一、六八。株式。三十萬圓。(社長)田中治助。(幹部)田中福太郎。(東京支店長)山田長三。(營業)田中次郎。(廣告)田中利三。(従業員)百四十名。(營業科目)紙型壓排紙、雁皮紙、紙、膠張紙、印刷材料其他和紙一般。(販賣高)四十萬圓。(供給先)全國、朝鮮、滿洲、樺太南洋、臺灣、南支、北支各新聞社、出版業者、大商店。(沿革)

大正二年創業。

萬谷商店

京橋區新富町一ノ九。(電)築地一三九二。(社史)明治三十年創業。(店主)萬谷祐滋。(支配人)萬谷喜一。(社員)廿名。(工場員)卅名。(營業科目)新聞インキ、紙型材料、輪轉機、平版機並に附屬品他印刷材料一般。(供給先)全國、滿洲支各新聞社。(十五、十一、十九)町八〇二。(電)足立三八四四。

化學製紙研究所

葛飾區小菅町八〇二。(電)足立三八四四。(社史)昭和十三年一月(研究十ヶ年間)隆盛に赴き今や世界に誇る新製品を賣出中。(幹部)吉田梅太郎。(工場員)二五名。(營業科目)紙型原紙、ドライマツト、吉田タイプ。(供給先)朝日讀賣、報知、中外商業、滿洲日々、大連日々、天津庸報社、大陸新報社、凸版印刷、三省堂、有恒社、日刊工業、新愛知、新潟毎日、京都日出、中國、小樽毎日新報、滿洲新聞。(十五、十二、二)

福田工業研究所

大阪市東淀川區十三東之町一ノ一三二。(電)北二九四〇。(工場)大阪市

淀川區野中北通三ノ二一。個人經營。(社史)大正九年頃より印刷用紙型版原紙創製の研究に着手し同十四年專賣特許を得同十五年東淀川區野中北通に工場を新設し最初は東京、大阪、名古屋、神戸等の大都市の大印刷工場のみ供給したるが全國一流日刊新聞社に於ても紙型室の準備完了と共に壓排式紙型を採用するもの急増し其供給をなすつ、ある、本邦に於ける壓排式紙型原紙の創始なり。(幹部)福田寅治、福田三郎、菅市郎。(工場員)十一名。(營業科目)印刷用紙型版原紙(スピードマツト)製造販賣。(販賣高)三萬圓。(供給先)全國大印刷工場及日刊新聞社。(十四、十、二十)

竹中紙型鉛版工業所 豐町區有樂町二ノ七。(電)丸ノ内四七三〇。(店主)竹中。(従業員)十二名。(營業科目)紙型、鉛版製造。(販賣高)一萬圓。(供給先)廣告主。(沿革)創業大正十

製版(寫真、凸版)

井澤寫真製版所

京橋區桶町三〇。個人經營。(代表者)井澤善也。(従業員)五十名。(營業科目)寫真製版一般並攝影(製産高)二萬圓。(供給先)出版業及新聞其他印刷關係。(特設)寫真平版及び特許單式印刷の第二工場を川崎に有す。(沿革)大正元年創業。

同盟通信社寫真部

京橋區銀座西七丁目。(電)代表銀座二二一。社團法人。(代表者)古野伊之助。(寫真部長)牛腸五郎(従業員)百二十名。(本支社共)(營業科目)寫真通信事業。(販賣高)約四十萬圓。(供給先)内地

廣告用紙型及鉛版

竹中紙型鉛版工業所

豐町區有樂町二ノ七。(電)丸ノ内四七三〇。(店主)竹中。(従業員)十二名。(營業科目)紙型、鉛版製造。(販賣高)一萬圓。(供給先)廣告主。(沿革)創業大正十

新開社、雜誌社百八十社、海外通信社三十社。(沿革)創業昭和十一年一月一日。(十三、十一、末)

辻村製版所

京橋區銀座五ノ四。(電)銀座一六七〇、一六七一。合資。五萬圓。(代表者)辻村與三郎。(幹部)小椋力知、青木作次郎、都甲駒吉、田邊保太郎。(營業)青木作次郎。(従業員)三十名。(營業科目)寫真製版、亞鉛凸版印刷。(製産高)七萬圓一十萬圓。(供給先)雜誌社新聞社、出版社。

明治製版所

京橋區銀座西三ノ三。(電)京橋四五四三、四五四四。個人經營。(従業員)三十名。(營業科目)寫真銅版、亞鉛凸版、寫真攝影等。(製産高)五萬圓。(供給先)新聞雜誌印刷社(沿革)明治三十八年創業、昭和九年十一月創業三十年を迎へ舊敷地跡に本建築完成す。

昭和製版

京橋區銀座一ノ五(電)京橋三二五〇。(營業科目)組版、紙型鉛版、寫真版、凸版電氣銅版、木版、圖案、修整、製版用寫真。

十一屋製版所

京橋區銀座西二ノ五。(電)京橋二四一六、五六八二、六六二七。個人經營。十萬圓。(社長)齋藤橋之助。(支配人)岡田儀作。(營業)大橋喜義。(従業員)四十三名。(營業科目)寫真製版、電氣銅版、鉛版、亞鉛凸版。(製産高)八萬五千圓。(供給先)三越、長瀬花王養生堂、富山房、平尾、中山太陽堂、井筒香油、明治書院、東京電氣、服部時計店、森永、明治製菓、ユニオンビール日本ビル鐵泉、帝國生命。(沿革)明治四十三年創業。

木版

堀野精美堂

京橋區銀座西六ノ五。(代表者)堀野頑一。(營業科目)廣告木版。

勉強堂

京橋區銀座西三ノ三。(電)京橋三七六七。(營業科目)木版、金版。(代表者)奥田滋一

東山堂彫刻所

京橋區銀座西二ノ五。(電)京橋五六四一。(營業科目)廣告用木版。

小倉木版所

神田區神保町一ノ六一。

鈴木長古堂 京橋區銀座西二丁目五。(電)京橋六七四〇。(代表者)鈴木芳夫。(十三、十一、末)

寫真機械及寫真製版機

オリエンタル寫真工業株式會社

淀川區落合二ノ四三〇(電)大塚三四二五。株式。四百三十萬圓。(社史)大正八年九月二十二日設立、前社長菊地學治氏滯米中感光乳劑を完成し歸朝するや、澁澤翁の委囑を受け植村澄三郎氏之を後援し大正八年九月資本金六十萬圓にて本社を創立し印畫紙製造に着手す昭和四年第二期事業として資本金百五十萬圓として、プロマイド印畫紙、乾板製造に着手す、次いで昭和八年第三期事業としてフィルム製造に着手す現在に到る(幹部)膳桂之助、菊地久吉、中鉢直綱、安藤國之助、菊地政治、淺沼龍吉、小泉壽太郎。(社員)百四十名。(工場員)六百七十七名。(營業科目)寫真用印畫紙同乾板

フキルム同藥品器具の製造。(販賣高)八百七十四萬五百二十圓(供給先)軍需、民需。(十四、九末)

富士寫真フィルム株式會社

京橋區銀座西二ノ三。(電)京橋五九六一。株式。一千萬圓。昭和九年一月創立。本社は日本セルロイド株式會社寫真フィルム部として、フィルム用セルロイド生地を研究すること約十五年、其完成により當社創立せらる。(専務取締役)社長淺野修一。(常務)作間政介。(營業)小林節太郎。(社員)三百名。(工場員)二千五百名。(營業科目)映畫用フィルム、ロールパツクフィルム、乾板、印畫紙の製造販賣。(十四、十二)

小西六(株式會社)

日本橋區室町三ノ一。(電)日本橋四一八一(九)。株式。七百萬圓。(社長)杉浦六右衛門。(専務)杉浦千之助。(常務)渡邊由三郎、杉浦勇。(従業員)二百名(營業科目)寫真器械、同材料。(製産高)五百萬圓。(供給先)内地、滿鮮

支、南洋外。(創業)明治初年。淺沼商會 (合資會社) 日本橋區室町三丁目三。(電)日本橋三四七、五四八、五五〇、一九〇〇、三九二九、四七六七。合資。五十二萬圓。(社史)明治四年先代淺沼藤吉個人にて寫眞材料商を創む本邦斯業の創始、明治卅五年三月合資組織に改め、昭和四年病歿、嗣子淺沼治一切を承繼。(代表者)淺沼治。(支配人)菅保男。(大阪支店長)富留宮直亮。(同支配人)田村寅之助(營業)淺沼治一。(地方)加藤士之夫。(市内)永井政吉。(官省)佐藤市郎。(經理)吉井壽。(社員)二〇〇名。(工場員)五〇名(營業科目)寫眞機械、同製版機械、理化學用機械、藥品、度量衡、各材料。(販賣高)二千萬圓(供給先)宮内省、陸海軍省各關係官廳、外各省、官立學校、病院、大會社、全國寫眞材料商店其他各府縣、官公私立學校及病院等。(十五、十一、十九)

吉松商會 大森區上池上町一〇七三。(電)荏原三七八一。個人。(社史)昭和三年五月創業。(代表者)吉松貞彌。(營業科目)特許吉松式腐蝕機械同ルーチングマシン二個の指定工場に於て製作。(販賣高)四十萬圓。(供給先)全國並に滿洲、支那各地新聞社、現在新聞社に於ける使用數八十一社百九臺。(十四、十二、十)

大村鐵工所 京橋區八丁堀二ノ一。(電)京橋一九二二。個人經營。(代表者)大村宗孝。(營業科目)腐蝕機械製本機械製造(沿革)製本機械製造大正六年、腐蝕機械昭和八年。

附錄用美術印刷

凸版印刷株式會社 下谷區二長町一。(電)下谷〇一九一。一九八。株式。一千萬圓。(社史)明治三十三年一月創業、同四十一年株式會社となし資本金四十萬圓、同年内外印刷を合併資本金五十萬圓とす。大正九年

十二月資本金三百萬圓に増加、同十五年東京紙器と合併小石川工場となす。昭和十二年八月資本金を一千萬圓に増加す、外に大阪工場、滿洲工場等あり。(取締役社長)井上源之丞。(常務)米田久能、鴨居二三、黒瀬正彌(取締役)高島菊次郎、松本新太、高木義賢、三輪竹次郎、山田三郎太、河合勝夫。(社員)三四〇名。(工場員)四千二百七十六名(營業科目)各種印刷、製本、紙器製造。(販賣高)一千七百四十萬六千九百十圓七八錢。(供給先)諸官廳及諸會社。(十五、十末)

共同印刷株式會社

小石川區久堅町一〇八。(電)小石川一一一、一一九、二一一、二二一四。株式。六百萬圓。(社史)明治二十九年當時博文館主京橋竹川町に創設、同三十一年十一月現在の地に移轉、同三十八年四月工場新設博文館印刷所を改稱す、當時理事たりし現社長將來平版印刷物の需用多大なるに着眼し、同年四月精美堂印刷所を創立、大正十四年四月社長業態視察のため歐米各國を漫遊し同年歸朝するや、同年十二

月精美堂印刷所博文館印刷所を合併して共同印刷株式會社となし今日に至る。(社長)大橋光吉(專務)大橋松雄、(常務)古川一郎。(取締役)大橋勇吉、吉谷專吉、松本義保。(監査役)武藤安五郎、大橋芳雄、木村淵之助。(社員)三七五。(工場員)二三八五名。(營業科目)印刷、製本、活字鑄造、紙器加工、金屬ブリキ印刷、同製罐。(販賣高)八百萬圓。(供給先)各官廳、各出版書店。(十五、十一、十九)

輪轉機用ローラー及諸材料

本間商會 横濱市中區太田町一丁目一五。(電)本局四九〇〇合資會社。一萬五千圓。(社史)昭和十一年九月創業、ホンマ式輪轉機用ブランケットはオフセット絶無耐久性に富み各新聞社に於て好評なり。(代表社員)本間榮一。(營業)松本齊。(會計)高木洋。(倉庫)鈴木博。(社員)十名。(工場員)十四名。(營業科目)新聞及一般印刷用ブランケ

ット、機械並附屬品一式。(販賣高)約五十萬圓。(供給先)全國的。(十五、十一、廿一)中田瑞穂堂 大阪市東區牛入町七四七。(電)東一二二〇、一二四〇、八八九。株式。二十萬圓。(社長)中田守雄。(專務)西岡音次郎。(常務)中田昌義(營業)專務兼任。(廣告)常務兼任。(従業員)五十五名。(營業科目)新聞輪轉機及附屬品一切、中田式ローラー、印刷機械、斷裁機械、活字、製本用機械、印刷用材料品。(供給先)印刷業者及新聞社、支那、滿洲、印度、南洋。(特設)印刷材料陳列館の設置あり。(沿革)明治二十七年大阪朝日の希望により先代中田守雄翁、ローラーの研究に没頭し、明治二十九年新聞輪轉用ローラーを發明、更に印刷用ローラーを創製し、明治三十年中田瑞穂堂を創業す、大正六年機械部、活版部を並設し、昭和八年株式に改組。

九。株式。十九萬五千圓。(社史)昭和五年十二月二十日創立(社長)山本魁介。(取締役)長里豐、橋本潤躬。(監査役)井川雪藏、石崎佐門。(營業科目)印刷用ゴムローラー、ゴムブランケット、製造販賣。(供給先)内地外地、滿洲、支那、香港、布哇等、諸官衙、新聞社及印刷業界(十五、十一、廿)十四年十一月四萬三千圓の増資を行ひ膠ルラーの代りにゴムローラー、ゴムブランケットの製作に盡す事とする。

金陽社 (株式會社) 品川區東大崎五丁目三百三十四。(電)大崎一五一四、一五一五、四八二

在東京地方新聞社支局一覽表

次は昭和十五年七月一日現在に於ける全國新聞(海外を含む)東京支局である。配列の順序は各紙のいろは順による。

(新聞名) 電話番号 所在地 支局長

Table listing newspapers in the Tokyo region with columns for newspaper name, phone number, location, and branch chief. Includes entries like 日刊工業, 新報, 朝日新聞, etc.

Table listing newspapers in other regions with columns for newspaper name, phone number, location, and branch chief. Includes entries like 朝日新聞, 読売新聞, 毎日新聞, etc.

在東京地方新聞社支局一覽表

Table listing newspapers in the Tokyo region (continued from page 38) with columns for newspaper name, phone number, location, and branch chief. Includes entries like 北米新聞, 北安日報, 平壤每日, etc.

Table listing newspapers in other regions (continued from page 38) with columns for newspaper name, phone number, location, and branch chief. Includes entries like 朝日新聞, 読売新聞, 毎日新聞, etc.

沖繩日報 (五七)三二二七 横須賀日日ニ同シ
 沖繩朝日 (五七)三六五二 大阪、北、堂島中二丁目 石原 健藏
 大泊毎日 (五七)一三〇九 函館日日ニ同シ
 鴨江日報 (五七)一三〇九 室蘭毎日ニ同シ
 和歌山日日 (五七)三二二五 鹿兒島新聞ニ同シ
 (カ)
 關西中央 (五七)四七一〇 麴、有樂、二ノ四 渡邊 陸
 關西日日 (五七)一八〇六 大阪日日ニ同シ
 關東日日 (五七)三二七七 横須賀日日ニ同シ
 關東新聞 (五七)三二七七 小、大塚仲町三六 奥宮 謙介
 關東日日 (五七)五九五〇 京、銀、西六、交詢ビル 牧野 昇三
 關東新聞 (五七)四四〇三 芝、田村、四ノ六 清水 彌一
 關東日日 (五七)三二二七 山梨日日ニ同シ 河村峰太郎
 關東新聞 (五七)六〇七〇 京、銀、二ノ四ノ三
 關東日日 (五七)五九五〇 長崎民友ニ同シ
 關門毎友 (五七)〇五五九 京、銀、八ノ八都ビル 松浦 信八
 鹿兒島新聞 (五七)三二一五 京、銀、西七ノ五 河内 時申
 鹿兒島朝日 (五七)五二九三 京、銀、西八ノ五 山田壽惠吉
 鹿兒島日日 (五七)六〇一三 十勝新聞ニ同シ
 樺太日日 (五七)三二二七 十勝新聞ニ同シ
 樺太日日 (五七)〇四七八 名古屋日日ニ同シ
 樺太日日 (五七)一三〇九 室蘭毎日ニ同シ
 樺太日日 (五七)二七三〇 佐渡日日ニ同シ
 樺太日日 (五七)〇二〇〇 臺灣日日ニ同シ
 加東日日 (五七)二〇〇〇 麴、大手、日清生命ビル藤野 保三
 河北日日 (五七)六四〇七 吉林新聞ニ同シ
 横濱貿易新報 (五七)五二四三 芝、新櫻田一九 坂崎 靜馬

横須賀日日 (五七)三二二七 京、銀、西八ノ九州ビル 青山 朝滿
 米澤新聞 (五七)四二一八(呼)門司新聞ニ同シ
 庸報 (五七)六四〇七 銀座西八日吉ビル 内海 俊輔
 (タ)
 多摩日日 (五七)〇六六八 京、銀、西八ノ五 秋山 力子
 高田新聞 (五七)一五七四 芝、新橋、二ノ二 井上 進
 高田日日 (五七)六八三〇 芝、濱松、二ノ二五 石川 敏夫
 高岡新聞 (五七)三九四四 澁橋、戸塚、一ノ三〇四 志賀 政嘉
 大邱日日 (五七)一八七七 麴、大手、二丁目 日清ビル 篠木 桑藏
 臺灣日日 (五七)三二七七 平壤毎日ニ同シ
 臺灣新民報 (五七)二八四四 京、銀、三ノ三、豊玉館 永井 省三
 臺灣日日 (五七)七二七〇 丸、三ノ三、通三號館 祖上 祐三
 臺灣日日 (五七)七二七〇 芝、沙留、一ノ一 德富 迪
 高嶺新聞 (五七)七二七〇 京、銀、西四ノ三 大西隆之助
 高嶺日日 (五七)七二七〇 數寄屋橋ビル
 大北新聞(樺太) (五七)六四〇七 吉林新聞ニ同シ
 大北新聞(滿洲) (五七)六四〇七 弘報協會日本總社内
 大北新聞(滿洲) (五七)六四〇七 四國民報ニ同シ
 大原新聞 (五七)六四〇七 庸報ニ同シ
 大陸新聞 (五七)四四七〇 麴、町、有樂町一ノ二 森山 喬
 大楚報 (五七)〇二〇六 朝鮮毎日ニ同シ
 (セ)
 宗谷新聞 (五七)一五五六 京、銀、西六ノ六鐵工ビル佐久間新吾
 蘇州新聞 (五七)一〇〇〇 電通地方部内
 蘇北新聞 (五七)六四〇七 吉林新聞ニ同シ
 (ソ)
 鶴岡日日 (五七)四七一〇 麴、六番、六ノ一 村瀬 米華

根室新聞 (三三)一三〇九 室蘭毎日ニ同シ
 根室日日 (六六)六二九六 釧路新聞ニ同シ
 (五)
 南信日日 (五七)六〇四五 芝、櫻田、太左衛門町三宮澤 滿吉
 南信毎日 (三三)一〇五九 群馬新聞ニ同シ
 名古屋新聞 (五七)七三三三 京、銀、四、教文館ビル 三浦 修治
 名古屋工業新聞 (五七)七七〇一 京、銀、四、教文館ビル 吉岡寛一郎
 名古屋毎日 (四〇)三七八七 赤坂、福吉一 藤本 治隆
 名古屋日日 (五七)六〇一三 樺太日日ニ同シ
 名古屋新聞 (五七)〇四七八 京、銀、西七ノ五 古川文次郎
 名古屋新聞 (五七)三二二七 十勝新聞ニ同シ
 奈良新聞 (五七)一五五六 大阪今日ニ同シ
 南嶺時事 (五七)一五五六 京、銀、西六、鐵工ビル 山浦利喜衛
 長崎日日 (五七)二〇七〇 麴、永田、二ノ一 岩瀬 陸
 長崎民友 (五七)〇五五九 四谷、傳馬、一ノ三三 清原 茂樹
 南鮮日日 (三三)二〇一一 麴、町、富士見、二ノ九 平野 三郎
 南京新聞 (五七)一〇〇〇 電通地方部内
 南京大陸新聞 (五七)四四四六 大陸新聞ニ同シ
 南支日日 (五七)〇一四九 臺灣日日ニ同シ
 南洋日日 (五七)八一五 神、仲町二ノ四萬世ビル末廣 清信
 南洋新聞 (五七)〇二〇六 朝鮮毎日ニ同シ
 南洋朝日新聞 (五七)三四九五 羅府新聞ニ同シ
 (ハ)
 羅府新報 (五七)三四九五 京、横、二ノ三 渡邊 司朗
 室蘭日日 (三三)一三〇九 麴、上二番町三 赤松彦太郎
 室蘭朝日 (三三)二七三〇 佐渡日日ニ同シ
 室蘭タイムス (五七)〇三五八 北海タイムスニ同シ

羽後新報 (五七)三二二七 横須賀日日ニ同シ
 (イ)
 群山日日 (五七)七三六六 牛、新小川町一ノ十一 中山 正重
 群馬新聞 (三三)一〇五九 麴、丸ノ内、三ノ一二 稻垣四方雄
 吳日日 (五七)六四〇七 四國民報ニ同シ
 軍港新聞 (五七)二三四〇(呼) 京、木挽、八ノ四 藤田進一郎
 釧路新聞 (六六)六二九六 本、駒込、上富士前三 原田 柳二
 釧路大東新聞 (三三)一三〇九 室蘭毎日ニ同シ
 (ヤ)
 山形新聞 (五七)六九八〇 芝、新櫻田、一九 渡部彦四郎
 山形日日 (五七)四二一八 門司新聞ニ同シ
 山梨日日 (五七)三二二七 京、銀、西八ノ九州ビル 林 省三
 山梨日日 (五七)〇五五九 四谷、傳馬、一ノ三三 清原 茂樹
 山梨民報 (五七)二三八八 銀座西六ノ五鍋町ビル 渡邊 肇
 大和日日 (五七)〇二七一 芝、愛宕、一ノ二 高島萬太郎
 (ウ)
 每朝新報 (三三)〇七三八 麴、元園、一ノ四七 藤野 優
 每日新報 (五七)六六五八 銀座八ノ二出雲ビル 郷 寅翼
 滿洲日日 (五七)六六〇一 弘報協會日本總社内 中澤不二雄
 滿洲商工日報 (五七)三二二七 十勝新聞ニ同シ
 滿洲政府公報 (五七)七五一六 京、西八丁堀一ノ六 羽生 道俊
 滿洲新聞 (五七)六六〇一 弘報協會日本總社内 西部 健而
 滿洲日日 (五七)〇八九六 弘報協會日本總社内 平澤 洵
 滿洲國通信社日本總社 (五七)〇八九六 京、銀、七ノ四 田中 寛次
 弘報協會日本總社 (五七)〇八九六 京、銀、七ノ四 田中 寛次
 (ケ)
 藝備日日 (五七)六〇一三 銀座西八ノ五日吉ビル 宮本 孝吉
 京城日日 (五七)六六〇五 京、銀、西五ノ二 熊谷 寛一

新潟毎日新聞	北區高垣町一六(自宅) 豐中市新免四五	豐崎一〇七三	岡本 太郎
大分新聞	東區五町五ノ三二	北濱 六二九	大津 龍雄
函館タイムス、旭川タイムス、日勝毎日	北區中ノ島三、朝日ビル四一三、旭區左喜道町七三	北濱 一四八六 四五〇一 19)	大林 茂雄
東京朝日新聞	北區中之島三、大阪朝日新聞社内(自宅) 住吉區田邊東町五丁目(平野一六七一七)	代表 北濱三五〇一	小田中幸三郎
山形新聞	北區堂島中一丁目三	北 二五七八	小川 光三
静岡民友新聞	北區小深町二五	北 五五五八	大石 繁男
東京大勢新聞	北區東野田町九ノ一	堀川四五六七	若林 一夫
日本新聞	北區堂島中一丁目三	北 八九三	渡邊 清治
新潟毎日新聞	北區堂島中一丁目三	北 九一〇	加藤 安雄
國民新聞	北區堂島中一丁目三	北 六七六〇	片岡 房太
大牟田毎日新聞	北區堂島中一丁目三	北 六二九	金井勝三郎
日本經濟新聞	北區堂島中一丁目三	北 五三二〇	陰山 又吉
群山日報	北區堂島中一丁目三	北 三六六	龜島 哲男
北京新民報	北區堂島中一丁目三	北 五三二〇	朝 鮮 民 報
中央新聞	北區堂島中一丁目三	北 三六六	河 北 新 報
福岡日日新聞	北區堂島中一丁目三	北 五三二〇	京 城 日 報

臺灣日報	西區江戶堀南通一丁目九	土 六〇〇二	辻 覺次郎
中國新聞	北區堂島船大工町五	北 六六〇七	築藤 朝一
海南新聞	北區茶屋町三三	豐崎 六〇五	永井 米逸
德島毎日新聞	東區川區十三東ノ町一丁目一五八	北 七一〇〇	永田格太郎
土陽新聞	東區本町一丁目二七(自宅) 府下濱寺羽衣六(濱寺二二七)	本町 七七八	永田 正明
九州新聞	北區堂島濱通一丁目二	北 五七六〇	永嶺 信恒
松陽新聞	北區堂島濱通一丁目八〇	北 五一七〇	中谷 清治
函館新聞	北區堂島濱通一丁目八三(自宅) 兵庫縣伊丹市伊丹野田宮町	北 五二一〇	中島常太郎
都新聞	北區梅ヶ枝町八九(自宅) 府下豐能郡箕面村櫻井五番地(大阪櫻井三三九)	北 七七〇	那須 法道
北陸毎日新聞	東區備後町二丁目六〇(自宅) 中河内郡柏原町市村三五六	本町 一三七五 一三七六	長江甚太郎
福井新聞	北區堂島濱通一ノ四	北 二六九九	武藤 彪
上毛日日新聞	北區神山町一番地	豐崎 七二六	村松 賀
惠須取毎日新聞	旭區赤川町四丁目一	堀川 三八七	上村 弘
蒙疆新聞	住吉區平野流町八三(平野一七五六)	土 五五〇 五五〇(連絡)	上原 隆利
神戶新聞	西區京町堀上通一(彌生ビル)	土 一四九	浦戸 宏藏

平壤每日新聞	東區瓦町五丁目三二 (自宅)東淀川區十三 西ノ町二ノ八八	北濱 六二九	松本 三郎
奉天每日新聞	北區曾根崎新地三丁 目三四	北 七六一〇	深田龜太郎
東亞新報	北區木幡町六一(自 宅)老松町二丁目 (北五五六六)	北 一〇四三	福井 薫
やまご新聞	北區天神橋筋三丁目 五九	堀川六一六〇	福田 常藏
山陰新報	北區堂島濱通一ノ四 四(自宅)尼崎市湖 江前田一ノ三	北 五三二〇	藤上 四郎
鴨江日日新聞	天王寺區石ヶ辻町三 二	天 五七〇〇	藤野竹二郎
天津日日新聞	北區堂島濱通一ノ三 九(自宅)旭區赤川町 六八六(堀川六八〇)	北 七四	藤原 修
伊勢新聞	北區曾根崎上四丁目 三九	北 七〇〇九	木暮 仁輔
上海每日新聞	北區曾根崎上四丁目 一五	北 二六一〇	小山 政夫
福島民報	天王寺區伶人町五三	天 八一五	小作 嘉彦
合同新聞	天王寺區筆ヶ崎町一 七(自宅)天王寺區 筆ヶ崎町二九	天 七〇一〇	青山 欽一
北門日報	西區江戶堀上通二丁 目昭とビル内 (自宅)東淀川區國次 町二四七	土 八三三三 八一六三 八一六四	雜賀 武雄
名古屋日日新聞	西區京町堀上通一丁 目京ビル四階十三 (自宅)東淀川區十三 東之町一ノ一八五	土 一八五〇 一八一三	宮谷 睦彌
佐賀日日新聞	北區堂島、大阪毎日 新聞社内(自宅)兵 庫縣武庫郡瓦木村下 新田甲子園口二二八	代表北 五五〇〇 五六〇〇	水野 信之
香川新報	東區北濱三丁目一〇 七(自宅)東區伏見町五 丁目三五(北濱六七 〇七)	北 四五九〇 三五五六	清水 宗吉
東京日日新聞	東區瓦町五丁目三二 (自宅)東淀川區十三 東之町一ノ一六三 (北六二一〇)	北 六二九	東田 信男
名古屋工業新聞	北區堂島北町一七	北 三二九六	平井 義彦
和歌山日日新聞	北區高垣町一六	豐崎一〇六三	日比野良三
鹿兒島朝日新聞	西區京町堀上通一 京ビル三階(自宅) 東成區大今里町七五 九(南五七五〇)	直通二七〇七 長四三七 土自七九五〇(6) 至七九五五	森下 禎三
秋田魁新報	東區伏見町五ノ二 (自宅)府下高槻町大 字西五百住六五ノ二 (富田九番)	北濱 二九一 一七一七 六八八〇	森 矯
小樽新聞	北區堂島北町一七 一	北 五八九〇	森山 喬
讀賣新聞	北區堂島濱通一丁目 二三(自宅)兵庫縣 武庫郡芦屋笠ヶ塚	北 六一一〇	瀬戸保太郎
大陸新報、南京 大陸新報、武漢 報、中華日報			
盛京時報			

滿洲新聞
北區梅田新道、太平
ビル(自宅)住吉區
昭和町中三丁目九

北 九八六 杉森與志也

東區瓦町五丁目三二 (自宅)東淀川區十三 西ノ町二ノ八八	北濱 六二九	松本 三郎
北區曾根崎新地三丁 目三四	北 七六一〇	深田龜太郎
北區木幡町六一(自 宅)老松町二丁目 (北五五六六)	北 一〇四三	福井 薫
北區天神橋筋三丁目 五九	堀川六一六〇	福田 常藏
北區堂島濱通一ノ四 四(自宅)尼崎市湖 江前田一ノ三	北 五三二〇	藤上 四郎
天王寺區石ヶ辻町三 二	天 五七〇〇	藤野竹二郎
北區堂島濱通一ノ三 九(自宅)旭區赤川町 六八六(堀川六八〇)	北 七四	藤原 修
北區曾根崎上四丁目 三九	北 七〇〇九	木暮 仁輔
北區曾根崎上四丁目 一五	北 二六一〇	小山 政夫
天王寺區伶人町五三	天 八一五	小作 嘉彦
天王寺區筆ヶ崎町一 七(自宅)天王寺區 筆ヶ崎町二九	天 七〇一〇	青山 欽一
西區江戶堀上通二丁 目昭とビル内 (自宅)東淀川區國次 町二四七	土 八三三三 八一六三 八一六四	雜賀 武雄
西區京町堀上通一丁 目京ビル四階十三 (自宅)東淀川區十三 東之町一ノ一八五	土 一八五〇 一八一三	宮谷 睦彌
北區堂島、大阪毎日 新聞社内(自宅)兵 庫縣武庫郡瓦木村下 新田甲子園口二二八	代表北 五五〇〇 五六〇〇	水野 信之
東區北濱三丁目一〇 七(自宅)東區伏見町五 丁目三五(北濱六七 〇七)	北 四五九〇 三五五六	清水 宗吉
東區瓦町五丁目三二 (自宅)東淀川區十三 東之町一ノ一六三 (北六二一〇)	北 六二九	東田 信男
北區堂島北町一七	北 三二九六	平井 義彦
北區高垣町一六	豐崎一〇六三	日比野良三
西區京町堀上通一 京ビル三階(自宅) 東成區大今里町七五 九(南五七五〇)	直通二七〇七 長四三七 土自七九五〇(6) 至七九五五	森下 禎三
東區伏見町五ノ二 (自宅)府下高槻町大 字西五百住六五ノ二 (富田九番)	北濱 二九一 一七一七 六八八〇	森 矯
北區堂島北町一七 一	北 五八九〇	森山 喬
北區堂島濱通一丁目 二三(自宅)兵庫縣 武庫郡芦屋笠ヶ塚	北 六一一〇	瀬戸保太郎

滿洲新聞
北區梅田新道、太平
ビル(自宅)住吉區
昭和町中三丁目九

北 九八六 杉森與志也

松陽新報社 勝部本右衛門 松江市殿町
 日本海新聞社 米原章三 鳥取市西町

四國
 德島毎日新聞社 多田爲太郎 德島市寺島町
 德島日日新聞社 松島 同 富田浦町
 香川新報社 小田榮次 高松市濱ノ丁
 四國民報社 東山半之助 同 西内町
 伊豫新報社 大本貞太郎 松山市大手町
 海南新聞社 香川熊太郎 同 南堀端町
 南豫時事新聞社 井上雄馬 宇和島市丸ノ内
 土陽新聞社 野村茂久馬 高知市本町
 高知新聞社 野中楠吉 同

九州

福岡日日新聞社 阿部暢太郎 福岡市渡邊通六丁目
 九州日報社 小林光政 同 天神町
 豐州新報社 長野 潔 大分市荷揚町
 大分新聞社 大津征夫 同 碩田橋通
 佐賀新聞社 中尾都昭 佐賀市松原町
 佐賀日日新聞社 大串國夫 同
 長崎日日新聞社 牧山耕藏 長崎市大村町
 長崎民友新聞社 西岡竹次郎 同 出島町
 軍港新聞社 長醫秀夫 佐世保市天満町
 九州新聞社 中野猛雄 熊本市花畑町
 九州日日新聞社 伊豆富人 同 上通町
 日向日日新聞社 安山圭三 宮崎市南廣島通三丁目
 鹿兒島新聞社 兒玉實良 鹿兒島市山下町

北海道、樺太

北海タイムス社 柏岡清勝 札幌市大通
 小樽新聞社 遠藤清一 小樽市港町
 函館新聞社 長谷川淑夫 函館市末廣町
 函館日日新聞社 佐藤勘三郎 同 鶴岡町
 室蘭日日新聞社 鈴木要吉 室蘭市海岸町
 室蘭タイムス 的場利貞 同
 十勝毎日新聞社 佐々木友三郎 帶廣市東一條八丁目
 旭川新聞社 田中秋聲 旭川市三條通九丁目
 樺太日日新聞社 太田 眞雄 樺太町豊原南大通六丁目
 函館タイムス 菊地吉治郎 函館市
 旭川タイムス 松波辰次郎 旭川市

臺灣

臺灣日日新報社 河村 徹 臺北市榮町四丁目
 臺灣新民報社 林呈 同 末廣町五丁目
 臺灣新聞社 松岡富雄 臺中市明治町一丁目
 臺灣日報社 宮本一學 臺南市北門町二丁目
 高雄新報社 杉本三郎 高雄市山下町一丁目
 東臺灣新報社 吉村佐平 臺灣花蓮港街高砂通

朝鮮

理事會會長 中外商業新報社 田中都吉
 同 副會長 高知新聞社 野中楠吉
 同 副會長 北海タイムス社 柏岡清勝

(理事) (秋田魁)井上廣居。(旭川)田中秋聲。(中外商業)田中都吉。(中國)山本實一。(福岡日日)阿部暢太郎。(合同)杉山榮。(日出)後川晴之助。(報知)三木七郎。(北海タイムス)柏岡清勝。(北國)林政武。(河北)一力次郎。(鹿兒島朝日)藤安新之助。(關門日日)末光鐵之助。(京城日報)御手洗辰雄。(神戸)進藤信義。(高知)野中楠吉。(國民)田中齊。(九州日日)伊豆富人。(名古屋)森一兵(新潟毎日)小柳調平。(大阪朝日)原田讓二。(大阪毎日)高石眞五郎。(新愛知)大島一郎。(信濃毎日)小坂武雄。(臺灣日日)河村徹(東京朝日)美土路昌一。(東京日日)高田元三郎。(東奥日日)山田金次郎。(讀賣)柴田勝衛。(日本放送協會)小森七郎、清水順治、關正雄、荻野元太郎、築田欽次郎。

監事(常務) 日本放送協會 古賀傳吉
 同 都新聞社 福田恭助

朝鮮新聞社 金甲淳 京城府太平通二丁目
 朝鮮日日新聞社 齊藤五吉 同 黄金町二丁目
 京城日報社 御手洗辰雄 同 太平通一丁目
 毎日新聞社 崔麟 同 同
 朝鮮毎日新聞社 後藤一 仁川府濱町
 釜山日報社 芥川浩 釜山府大倉町四丁目
 朝鮮時報社 今川廣吉 同 西町四丁目
 朝鮮民報社 河井戸四雄 大邱府東雲町
 大邱日報社 河谷不二男 同 東城町
 中鮮日報社 富士平 大田府本町
 光州日報社 福田有造 光州府明治町一丁目
 木浦新報社 福田有造 木浦府仲町一丁目
 元山毎日新聞社 西田英二 元山府幸町
 平壤毎日新聞社 稻葉善之助 平壤府紅梅町
 鴨江日報社 加藤鐵治郎 新義州府常盤町
 北鮮時事新報社 烟本逸平 咸興府中央町
 黃海日報社 上野淺吉 黃海道海州邑中町
 群山日報社 九田一 群山府淺山町
 清津日報社 廣幡謙太郎 清津府浦項町

放送協會

日本放送協會 小森七郎 東京市麴町區内幸町
 朝鮮放送協會 甘蔗義邦 京城府貞洞
 臺灣放送協會 深川繁治 臺北市本町

社團法人同盟通信社役員

社長 古野伊之助
 常務理事 島山敏行

全國主要廣告主一覽

一、本表は全國に於ける主要廣告主を其の廣告の品目種類に従つて分類した一覽表である。表の諸項目は、各各廣告主について問合せられたものであるが、締切期日までに回答を得なかつた分は手許の材料によつた。

一、各店配列の順序はイロハ順。
一、各店の記述は大體次の順による。(括弧内の文字はそれらの略稱)

記述の順序

商店名、所在地(東京は東京市を略す)、電話番號(電)、組織別、資本金、營業科目又は商品名、主要幹部、廣告部長(廣告)、營業部長(營業)、支店數、新聞廣告費年額(新聞廣告費)、其他の廣告費、使用新聞名、廣告取扱(代理業)、創業沿革(沿革)、其他。各項最後の括弧内の數字は調査の年月日を示す)

藥品、醫療器械

伊藤長兵衛商店 (七ふくや)
大阪市高津表門筋松屋町西。
(電)南七二九。七福ひへ藥。(代表者)伊藤長兵衛。(廣告)伊藤廣光。元祿三年創立。
伊藤千太郎商會 (合資會社)

大阪市東區道修町三ノ二四。
(電)北濱二八八二。眼鏡肝油製造元。合資。五十萬圓。(代表者)伊藤千太郎。(營業)野田次郎。(廣告)同。(十一、十、一)
岩里天然堂 別府市鶴水園。
(電)八七九。一四四九。個人商店。二十萬圓。製藥製劑業。(幹部)岩里由雄。秋月乾五、後藤高。(廣告)江藤利夫。(新聞廣告費)

十萬圓。(他廣告費)二萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、地方有力紙、雜誌各種。(代理業)旭廣告、萬年社、弘知社、關西通信社。(沿革)大正十三年創業。(十五、十一、廿二)
今津化學研究所 (株式會社)
大阪市西淀川區大仁本町三丁目七〇。(電)(代表)福島三三三。株式。卅萬圓。イマヅル蠅取粉殺虫劑、芳香油、リキシ「イマヅル」イマヅミン。(代表取締役)今津亮三、永江千代吉。(取締役)今津一郎、今津二郎、今津三郎。(廣告)今津亮三。(新聞廣告費)廿萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)朝日、(東京大阪、名古屋、九州)大毎、東日、讀賣、報知、國民、中外、其他地方新聞約八十社。(代理業)電通、旭廣告、萬年、京華、第一廣告。(沿革)大正十四年合資會社今津化學研究所設立、昭和七年株式會社に變更す。(十五、十一、一)
六大製藥研究所 (株式會社)
杉並區高圓寺二ノ三八一。(電)中野二〇二二。株式。百卅五萬圓

藥劑製造販賣、クリマダ。(取締役社長)西勝造。(同副社長)鹽田智章。(同事務)前川好一。(支配人)山下二郎。(新聞廣告費)二萬五千圓。(他廣告費)三萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、其他隨時。(代理業)大阪電通。(沿革)昭和十年一月西武健康法創始者西勝造の創業にかゝり、十二年一月資本金八十五萬圓(全額拂込)の株式組織に變更、同年三月資本金を金百三十五萬圓に増加今日に至る。
バイエル藥品合名會社
神戸市神戶區榮町通一丁目十一(住友ビル内)。(電)三宮四一三二、三六三九。合名。十五萬圓。獨逸バイエル社製藥藥品輸入販賣。(支配人)ア・ゲ・エ・ツエルトリンダ。(廣告)エ・シヤロウ。(同係)榎本達郎。(使用新聞)全國都市發行主要紙。(代理業)一新社(大阪)。(沿革)創業昭和二年。(十五、十一、廿二)
原澤合名會社 東京市芝區高輪北町二。(電)高輪三九七一、二六三。合名。六萬圓。化粧品、藥品製造販賣。(代表者)原澤福

康。(廣告)小栗銀次郎。(新聞廣告費)六萬圓。(他廣告費)一萬圓。(使用新聞)東朝、大朝、大毎、東日、讀賣、報知、新愛知、名古屋新聞、京城日報、毎日新聞、河北、其他十五社。(代理業)電通、博報堂。(沿革)大正七年合資會社として創業し、昭和五年合名會社となる。(十五、十一、廿)
林源十郎商店 (株式會社)
岡山市紙屋町八九。(電)二〇二六、二二二六、四三三〇、五三〇三。株式。五十萬圓。藥種商。(事務)林源十郎。(取締役)高戸猷、馬場潔、林桂二郎、林平三郎。(監査役)高野容吉、石田豊太郎。(支店)一。(創業)明曆三年。(十四、十一、十)

佛骨。(事務)池上龍。(營業)北村欣也。(常務)岡田清治郎。(新聞廣告費)十八萬圓。(他廣告費)六萬圓。(使用新聞)大朝、大毎。他六十紙。(代理業)金水堂第一廣告、電通、其他。
日本曹達株式會社藥品部
麴町區大手町二丁目八。(電)丸ノ内五四一四。殺虫劑日曹腦發賣元。

日本醋酸製造株式會社 本所區横川橋五ノ四。(電)隅田三四八三、三五三八。藥品及染料の製造販賣、理研ソックス及理研衛生酢。株式。百五十萬圓。(代表)植村澄三郎。(廣告)森下虎吉。創立明治三十五年七月。
日本生化學研究所 東京市牛込區若松町一一二。(電)個人經營。製藥販賣、強精劑タン。(幹部)譽田誠司。(新聞廣告費)三萬圓。(他廣告費)三萬圓。(使用新聞)東日、都、中外、朝日(東京、大阪、西部)大毎、大毎西部、福日、新愛知、其他朝鮮臺灣各紙。(代理業)弘報堂、新興社、八昭堂、其他。(沿革)昭和九年創業。(十五、十一、廿)
日本水産理化學研究所 日本橋區江戸橋二丁目一。(電)日本橋一〇五九。賣藥業。部外品オコソリオン發賣元。(代表者)森田德榮。

堀内伊太郎商店 神田區鍛冶町二ノ一〇。(電)神田二二三二。個人經營。淺田館。(店主)堀内伊太郎。(支配人兼營業)堀内卓時。(宣傳)大久保謙吾。(販賣)瀨尾秀雄。(支店)二。(使用新聞)全國約百社。(代理業)電通、正路喜社、博報堂、旭廣告、京華萬歲社、金水堂、日新社、昭和廣告。(十三、十一、十)
蓬萊製藥株式會社 大阪市住吉區昭和町中三丁目。(電)天王寺八六七。うがひ原液ザルモンド本舗。
北海道水産工業株式會社 四谷區新宿二丁目十二。(電)四谷五四七三。株式。廿五萬圓。製藥、水産(やつめホルゲン球)。(幹部)田中清輔、田中清之、町田新之助、荒木時三郎、須藤芳壽。(廣告)山下幸藏。(新聞廣告費)十二萬圓。(他廣告費)三千六百圓。(使用新聞)内地殆んどの新聞及び朝鮮、臺灣、滿洲有力新聞。(代理業)大同通信(沿革)昭和十年より北海道拓殖株式會社の經營に係るものなりしを昭和十五年十月より當社に

橋本製藥株式會社 京橋區築地一。(電)京橋五五二四。新藥、賣藥類、白美化粧品。(代表者)橋本德次郎。(廣告)山口石治。(化粧品)の部にもあり)
日本理化學工業株式會社
大阪市南區安藤寺橋通二。(電)船場四四〇二。オンソ生裝置。株式。十五萬圓。(代表者)松永

日本藥品洋行 (株式會社)
大阪市東區道修町四丁目二九。(電)北濱二九二四、三八二二、四一九四。株式。五十萬圓。醫藥品製造販賣。柏木ゲアスタ一七、アルワゲン其他。(幹部)森下日出雄、森下玉仙、橋本久一郎、宮田勤次、玉川芳之助。(廣告)玉川芳之助。(新聞廣告費)五萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、新愛知、名古屋、北海タイムス、福岡日日、其他。(代理業)大阪電通、旭廣告、其他。(沿革)大正八年創業、昭和十年株式會社に組織變更。同十四年社屋竣工により伏見町より道修町に移轉。(十五、十一、廿)

日東製藥合名會社 芝區三田通新町一三。ケンゴール。(沿革)昭和九年春、舊名日東理化學研究所を合名組織を爲し日東製藥合名會社と改稱す。

於て引續き經營中。(十五、十一、廿五)

星製藥株式會社 品川區大崎、星胃腸藥。其他(社長)星一都南莊 大森區新井宿五四六。オソ本舖。

鳥居商店 日本橋區本町三ノ三。(電)日本橋二一六一九。藥種貿易。コロンエキス、グラビン、ダイモール、カルニン。

株式。百五十萬圓。(代表者)島井孝一郎。(廣告)林四郎。創立大正十年。

東方和漢藥研究所 淀橋區諏訪町六三。(電)牛込五三三二

東亞藥園 大阪市天王寺區東平野町三ノ二〇。スヘルマチン。

東京和漢藥研究所 東京市淀橋區諏訪町六五。(電)牛込五三三二。個人經營。賣藥、東研ホ

ルゲン錠、六寶散、ゴルト。幹部坂本藤四郎。(廣告)徳山清一郎。(新聞廣告費)六萬圓。他廣告費)雜誌其他五萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、中外、報知、毎夕、大朝、大毎、地方各紙。(代理業)旭廣告、正路喜

社、博報堂、青年社。(沿革)創業昭和六年十月。(十五、十一、廿)

東京超短波醫療器株式會社 芝三島町一八、濱松町一丁目赤十字路。(電)芝八八二。株式。二十萬圓拂込済。ラゲオレイヤー。超短波ライフ。賣藥エキ

スピ。幹部)飯田敏文、大海正(新聞廣告費)三萬圓。(他廣告費)三萬圓。(使用新聞)全國主要新聞三十紙。(代理業)電通。

東京芝一八七四。個人。皮膚病良藥テム水、毛生劑フミナイ

東京藥院 芝區田村町四丁目四

吉。(廣告)山岸順三郎。(新聞廣告費)約十萬圓。(他廣告費)一萬圓。(使用新聞)東京、大阪

地方、鮮、滿、北支、中支、約一五〇紙。(代理業)電通、豐國萬年、廣告、八昭堂、弘報堂、京華、直接。(沿革)大正三年創業。(十五、十一、廿)

特殊榮養研究所 東京市四谷區傳馬町一丁目卅三。(電)四谷四一五六。個人經營。和黃錠本舖。(幹部)淺野松次郎、金田正照、松本三良。(新聞廣告費)十

二萬圓。(他廣告費)一萬二千圓(使用新聞)朝日、毎日、日日、讀賣、國民、報知、新愛知、北海タイムス、福日等。(代理業)廣告社、電通、大同通信。(沿革)創業昭和十年。(十五、十一、末)

德林寺藥品部 布施市下小阪(電)布施三四五。個人。治肺藥明光丸。(經營者)松永佛骨。(支配人)日備野利三。(廣告)犬伏真人。(新聞廣告費)十二萬圓(他廣告費)三萬圓。(使用新聞)朝日、毎日、他六十紙。(代理業)金水堂、電通、他十數社。(沿革)創業昭和二年三月。(十五、十一、廿四)

友田合資會社 日本橋區本町三ノ一。(電)日本橋二八〇一、七四七一九。ラアゴール、ウラ

ルゴール、オトスプレローロール、ワキン、オレキミン、其他。合資。三十萬圓。(代表者)友田貞吉。(營業)友田銈三郎。(廣告)

柿沼源吉。創立明治四年。

中外新藥商會 東京市豐島區池袋一丁目七二〇。(電)大塚一六〇三、二七六一、五一四九、七六六一。個人。製藥、藥種業

プロカノン、ザルソプロカノン各種、チセブタール、ゲセロンネオゲセブタール、レトラン。(店主)上野十藏。(使用新聞)東朝、大朝、東日、大毎、讀賣、其他主要新聞及地方有力紙。(沿革)大正十三年九月一日創業、獨逸ゲーへ株式會社製の新藥新製劑總販賣元として營業、大正十五年以來自家製新藥の製造發賣を爲す。(十五、十一、廿)

中京日藥本家 名古屋市中區古澤町九ノ四一。(電)南三四五三、三六一一。個人。外用中京目藥、クリン藥、内服中京目藥。(廣告)藤井喜三。(新聞廣告費)十三萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、讀賣、九州朝日、中國新聞、九州日日、鹿兒島新、松陽、北海タイムス、北國毎日

靜岡新報。(代理業)大朝、大毎、東朝、東日、九州朝日は直接、

他は新興社、三元社、大阪青年社、中央廣告社。(沿革)創業昭和四年三月。(十五、十一、廿)

オキシヘーラー獎勵會 牛込區神樂町一丁目一。(電)牛込二二〇四。個人。家庭治療器オキシヘーラーの販賣。(幹部)矢部泰造、木村又四郎。(廣告)矢部泰造。(代理業)豐國、正路喜社。(沿革)創業大正四年。(十五、十一、廿)

大阪藥物研究所 大阪市天王寺區生玉町六。(電)南七四〇三。賣藥業結核諸病の免疫元デルモツペリン發賣元。

大木合名會社 神田區鍛冶町三ノ三。(電)神田一一〇五一九。賣藥、藥品、新藥、醫療補助品製造卸問屋、大木五藏圓、大木耳鼻藥、神靈水、ママー、下田式純肝油、パロール、コアチン、オーカ、ママープラスチック、ストマツゲル、トリブアール。(代表者)大木良輔。(廣告)寺西憲一。(使用新聞)約九十紙。(代理業)正路喜社、電通、中外通信、豐國、博報堂、日進通信。(沿革)明治元年創業。

太田信義藥房 小石川區水川町五九。(電)大塚四三三三四。一太田胃散發賣元。株式。百萬圓。(代表者)太田信義。(廣告)宮島精一。創立大正九年六月八日。近江セールのズ株式會社 滋賀縣八幡町魚屋町。東京出張所芝區琴平町二、不二屋ビル。建築金物、洋家具、塗料、ピアノ及雜貨輸出入及メンソレータム。株式。二十萬圓。(代表者)吉田悅藏。(藥品部支配人)佐藤安太郎。(廣告)諸川稔。(主要幹部)M.W.ツォーリス、村田幸一郎、宮本文治郎。(新聞廣告費)十萬圓。(他廣告費)十萬圓。(使用新聞)都會紙及地方紙共五十紙。(廣告取扱)萬年、電通、正路喜社、新興社等々。

わかもと本舖 (株式會社)榮養と育兒の會。芝區芝公園第十一號地二。(電)芝一一七五其他株式。四百六十五萬圓。製藥業わかもと、錠劑わかもと、其他(取締役社長)長尾欽彌。(文化)

(廣告部を改稱せるもの)上田良一。(經理)利根川珪介。(營業)古谷伴。(監査役)川田又治郎。(出張所)大阪、天津、北京、濟南、福岡、京城、上海、南洋(新聞廣告費)百二十萬圓。(他廣告費)二百五十萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、讀賣其他都市紙地方紙合せて約二百紙、一箇月一新聞最低四段から最高六十段位。(代理業)直接及び電通、博報堂、中外通信、弘報堂、豐國、廣告社、新聞合同、日華社其他。(沿革)昭和四年二月個人にて創業、同年九月合資會社に八年一月株式に改組。(十五、十二、五)

和光堂 (株式會社)本店東京市神田區鍛冶町二丁目十二、支店大阪市東區南久太郎町一丁目。(電)神田三三七八、三三七九。株式。二百萬圓。藥品、乳製品滋養榮養品、製造販賣、キノミール、シツカロール、外十數種(取締役社長)大賀彌二。(取締役支配人)手島康夫。(常務取締役)吉田熊太郎。(廣告)關野弘。(使用新聞)讀賣、朝日(各社)、大毎、東日、外地方紙合計五十餘紙。(代理業)電通、正路喜社外五店。(沿革)創業大正七年三

後授會)

月。(十五、十一、廿)

渡邊輝綱藥房 麻布區霞町二

製藥。株式。五十萬圓。(代表者) 渡邊輝綱。(廣告)飯田良助。昭和六年一月二十六日創立。

龜井藥品研究所 (合名會社)

淀橋區下落合一丁目四〇。(電) 大塚三八一九。合名。十六萬四千圓。製藥一般。(新聞廣告費) 二萬六千圓。(他廣告費)二萬六千五百圓。(代理業)電通其他直接。(沿革)昭和三年開業。(十三、十一、十)

神戸衛生實驗所 神戸市林田

區二番町二ノ一。ピオフェルミソ本舗。

河合洋行 本郷區菊坂町五二

(電)小石川五一二。海貴來、安來散、パウル氏散。個人經營。(新聞廣告費)二十萬圓。(使用新聞)全國一般。(代理店)大同通信。大正十年一月創立。

養命酒本舗出張所 澁谷區

上通四ノ三五。養命酒。吉松仁平商店 牛込區原町三ノ二。(電)牛込一六〇八、一九七六。製藥業。小兒解毒散、エ

ス球本舗。(代表者)吉松啓陽。

田邊五兵衛商店 (株式會社)

大阪市東區道修町三ノ二一。(電)北濱六〇一五、二八一一。四。藥種、卸、輸出入、製造。株式。五百萬圓。(代表者)田邊五兵衛。(專務)篠田祐。(元賣部長)上島繁光。(第一)鈴木衛。(第二)久保佐一郎。(第三)片岡嘉太郎。(廣告)梶野政太郎、大野敬一。(使用新聞)二十二種。(代理業)電通、日本弘業。

田邊元三郎商店 (株式會社)

日本橋區本町三ノ七。(電)日本橋五一六一一五。一百萬圓。藥品製造販賣、ハリバ、エビオス、サロメチール、チミツシン、ユメラ、さんぼん、その他日本藥局方品。(幹部)田邊金次郎、內藤豐次、中川清博、杉野茂。(廣告)內藤豐次。(使用新聞)全國一二流紙全部。(代理業)電通、博報堂、萬年、正路喜社、其他。(沿革)明治三十四年先代故田邊元三郎の創業になり日本藥局方品新製劑賣藥の製造販賣をなし現在に到る。(十四、十一、三)十四年十二月十九日田邊新製

會の發會式を行ふ。

十五年三月廣告獎勵審査に、ハバは藥品部に一等賞を受く。同六月常務兼支配人内藤豐次君約三ヶ月の豫定で鮮滿視察の途につく。同十一月前支書課長岡隆善君と原勳夫君とが廣告事務を執る事となる。

大日本除蟲菊株式會社 大

阪市西區土佐堀通三丁目廿九。(電)土三〇一、六二六一七、八二八。株式。三百萬圓。天産物直輸出業、除蟲菊、薄荷製品。(社長)上山英一郎。(副社長)上山英夫。(支配人)川島正一(支店)十四。(沿革)明治十八年創業。上山商店として經營、大正八年組織變更現在に到る、我國除蟲菊の創製取線香創製、除蟲菊海外輸出開拓に努力、今尙我國除蟲菊の大牛を取扱ふ。十五年十一月紀元二千六百年祝典に際し社長上山英一郎君從六位に叙さる。

大日本製藥株式會社 大阪

市東區道修町三ノ二五。(電)北濱七七、一九〇七八、三一〇四五七、四五八。株式。健胃固腸丸本舗。(取締役社長)谷新助(廣告)幡地正五郎。(使用新聞)大朝、大毎五十社程度。(代理業)萬年、旭廣告、外十社。(沿革)創業明治五年。(十五、十一、廿五)

高橋盛大堂 大阪市東區川

十三南之町一ノ九三。賣藥、新藥。株式。二十五萬圓。(代表者)高橋富吉。(廣告)太田千貞。創立昭和十二年三月十六日。高木藥品部 日本橋區元大阪

町八。清熱湯、清心丹販賣元。(代表者)高木與兵衛。(代理店)電通其他。

寶製藥株式會社 京橋區寶町

一ノ七。製藥發賣。玉置文治郎商店 (株式會社)

日本橋區兩國二番地一。(電)浪花五一〇。株式。二十萬圓。賣藥新製劑發賣、壯眼水、ヒロ一ゲンダーブ水。(幹部)玉置熊雄、横山末吉、寺澤定治、鶴巻青山秀雄。(廣告)玉置忠雄。(新聞廣告費)二萬六千圓。(他廣告費)四千圓。(使用新聞)東朝、國民、報知、讀賣、靜新、靜民報

大興製藥合名會社 城東區龜

戸町一丁目一二七。(電)墨田三三四三。賣藥、ロモス發賣元。七四三。株式。五十萬圓。除蟲菊輸出貨、除蟲菊粉、蚊とり線香、各種殺蟲液。(取締役社長)御前七郎右衛門。(常務)小高保吉。(取締役支配人)福島正一。(出張所)東京、神戸。(新聞廣告費)三萬八千圓。(他廣告費)一萬五千圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、讀賣、新愛知、名古屋、福岡、河北其他。(代理業)大阪電通、第一廣告。(沿革)大正八年十二月八日御前小高兩人の事業を合せて創立す(十三、十一、十一)

大正製藥所 (株式會社) 日本

橋區堀留町二ノ八ノ一。(電)浪花三一九五一六。株式。百萬圓。

三。(東京支店)日本橋區本町二

ノ七。株式。二百萬圓。新藥、ワクチン、血清類、寫眞藥品、工業藥品其他。(代表者)瀧野勇(廣告)岡田幹夫。創立明治三十年。

大正除蟲菊株式會社 和歌

山縣箕島町。(電)箕島二三、二〇〇。株式。五十萬圓。除蟲菊輸出貨、除蟲菊粉、蚊とり線香、各種殺蟲液。(取締役社長)御前七郎右衛門。(常務)小高保吉。(取締役支配人)福島正一。(出張所)東京、神戸。(新聞廣告費)三萬八千圓。(他廣告費)一萬五千圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、讀賣、新愛知、名古屋、福岡、河北其他。(代理業)大阪電通、第一廣告。(沿革)大正八年十二月八日御前小高兩人の事業を合せて創立す(十三、十一、十一)

大正製藥所 (株式會社) 日本

橋區堀留町二ノ八ノ一。(電)浪花三一九五一六。株式。百萬圓。

各種藥品製造販賣並に輸出入。

(取締役社長)石井絹治郎。(常務)高木好彦。(營業)同。(廣告)林鋼一。(支店)大阪。(新聞廣告費)三十萬圓。(他廣告費)十萬圓。(使用新聞)全國六十紙。(代理業)新生社、大同通信。(沿革)約三十年前創業、大正元年現名に改む。昭和三年三月組織を株式に改む。(十三、九、三十)

太陽製藥株式會社 品川區西

大崎一ノ六八。(電)大崎三六五八。皮膚病藥エノフイラキシンの他發賣。

泰昌製藥株式會社 日本橋區

室町三共ビル内。(電)日三九八、三二三一、九。株式。五十萬圓。藥品化粧品製造販賣、ヨウモトニツク、パバコロン、ゴルフ胃腸藥外。(社長)鹽原又策(常務)福井藤吉。(廣告)坪井進之助。(代理業)電通外數社。(三共廣告部經由)。(沿革)大正三年、本邦民間藥の向上と海外發展を期して創立され、三共とは姉妹の關係に立つものなり。近年は藥効的化粧品に着手、殊に養毛料の始祖ヨウモトニツクは

第一工業製藥株式會社 京

都市下京區七條千本南。(電)下八五五一四。石鹼及工業藥品。株式。百萬圓。(社長)小野茂平。(營業)柳定雄。(廣告)折田重彰。(新聞廣告費)十萬圓。(他廣告費)二萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、新愛知、名古屋、福日、臺日、滿日、京日、益日、外數紙。(代理業)大阪電通、萬年、京華。(沿革)創業明治四十二年、大正七年株式に改む。(十二、十二、一)

第一製藥株式會社 東京市日

本橋區江戸橋三丁目。(電)日本橋八五〇。株式。三百萬圓。醫療用、工業用藥品、染料、ネオ、ネオ、アーセミン)スカポール、テラポール、アペリイ其他。(社長)津村重吉。(專務)池田文次、(總務)高谷善三郎。(販賣)西野延治郎。(廣告兼新藥)日南田義治。(使用新聞)全國各新聞、滿支、邦、華字紙。(沿革)創業大正七年。(十五、十一、廿)

谷回春堂 (株式會社) 大阪市

東區伏見町二丁目一。(電)北濱

さなる。

武田長兵衛商店 (株式會社)

大阪市東區道修町二ノ二七。(電)北濱五〇二一八。局方藥品新製劑の製造並に販賣。株式。千八百萬圓。(代表者)武田長兵衛。(支配人)竹田義藏。(廣告)伊藤正夫。(使用新聞)約百紙。(代理業)金木堂、旭廣告、大阪電通、合同通信、中央廣告社(沿革)創業天明三年。昭和十二年を距る百五十四年。

丹平商會

大阪市南區順慶町通三。賣藥、新藥、化粧品。個人經營。(代表者)森平兵衛。(支配人)張田徹郎。(營業)同。(廣告)室谷久光。(幹部)堀江常介、柴井光藏。(使用新聞)約七十紙。(代理業)萬年、京華、電通、旭、其他。

津村敬天堂

豐島區池袋七三三。製藥、賣藥。(代表者)津村嘉吉。(兼營)森田製藥所。

津村順天堂

日本橋區通三ノ八。株式。中將湯、童丸、ツムラ體溫計。(代表者)津村重吉。(沿革)昭和十一年五月從來個人經營の本店を株式會社に改む。内外除蟲菊株式會社 和歌

山縣箕島町。(電)箕島三五。株式。百萬圓。月虎かきりせん香月虎殺蟲液。(社長)上山薫。取締役)玉置傳三郎。(支配人)玉置萬壽三。(廣告)宮本八東。(支店)大阪一。(沿革)明治四十二年創業の上山靜藏商店を大正七年九月組織變更。同九年七月大日本物産貿易株式會社を合併す(十四、十、卅)

成毛英之助商店

東京市日本橋區本町三丁目。(電)日本橋二八一〇、三七六四、四八四二。個人經營。殺鼠劑猫イラズ、白毛染わかやなぎ、其外藥品製造(營業主任)羽二生毅。(工場長)北條耕作。(廣告)羽二生毅。(新聞廣告費)五千圓。(他廣告費)約一萬圓。(使用新聞)地方新聞及大朝、大毎、東日、朝日、讀賣、都、雜誌。(代理業)直接及中外通信社。(沿革)創業明治四十年。(十五、十一、廿)

中西商店 (株式會社)

大阪市東區道修町三丁目二。綜合ビタミン劑ますらを發賣元。

中嶋佐一藥房

大阪市天王寺區下寺町四丁目九二。(電)戎四三五。胃腸藥征露丸發賣元。

南洋藥物研究所 (株式會社)

神戸市神戶區北野町四丁目三九(電)葦合二七〇七。株式。五十萬圓。諸物産の賣買各種工業品の製造販賣並に各種工業の投資賣藥及び養毛液ノールポールド、ノールハート、ヘルスキン、ヘルスキン美顏水。(取締役社長)井上正夫。(監査役)伊藤富二郎。(廣告)長井種一。(新聞廣告費)二萬圓。(他廣告費)一萬圓。(使用新聞)全國各地發行新聞。(代理業)大阪電通。(沿革)創業昭和九年九月十六日。(十五、十一、廿八)

南信堂新藥店

麻布區筈町一七三。アンチベリベリン、ワカ末。(代表者)宮崎三治郎。ラヂウム製藥株式會社 京橋區京橋一ノ一。(電)京橋四七六七。醫藥藥品製造販賣。株式。百萬圓。(代表)守田保太郎。(營業)羽賀源四郎。(廣告)今井遠樹。創立大正元年九月六日。

宇都宮商店 (株式會社)

大阪市東區淡路町一ノ一七。(電)北濱八四一六。醫藥品卸商。株式。二十五萬圓。(代表者)宇都宮宇作。(支配人)寒川信三。(廣告)加藤岩男。(使用新聞)大毎、大朝、東日、報知、讀賣等。(代理業)電通、萬年、旭廣告。(十二、十二、一)

濱八四一六。醫藥品卸商。株式。二十五萬圓。(代表者)宇都宮宇作。(支配人)寒川信三。(廣告)加藤岩男。(使用新聞)大毎、大朝、東日、報知、讀賣等。(代理業)電通、萬年、旭廣告。(十二、十二、一)

内海合名會社

神田區小川町三ノ二八。(電)神田四一一〇四七九四。合名。十九萬圓。醫療器、藥品、自力健康器、乳酸菌劑「カルド」。(代表社員)内海養内。(新聞廣告費)六十萬圓以上。(他廣告費)十五萬圓以上(使用新聞)大毎、大朝、東日、東朝、讀賣、其他全國各社。(代理業)電通、博報堂、廣告社、正路喜社等。(沿革)昭和三年創業同八年國民保健振興會の名稱にて「自力健康器」發賣、同十四年合名會社組織となる。(十五、十一、廿)

歌橋製藥所 (株式會社)

品川區品川五丁目一三。(電)高輪一一五五一六。株式。三十五萬圓。歌橋ビツク、絆創膏類、ロイヒ膏、コロンプラスター、其他膏劑。(專務)歌橋憲一。(廣告

主任取締役)山本鐵市。(使用新聞)大朝、東朝、報知、都、國民、北海タイムス、新愛知、名古屋、九州日報。(代理業)電通、廣告社、正路喜社。(沿革)昭和九年組織變更、創立大正六年。(十三、十一、十一)

宮内善進堂 (合資會社)

大阪市東區南久留幸町二ノ一五。(電)船場五四五、三四五九。合資。二十萬圓。賣藥及び部外品、新製劑の製造販賣其他。(支店)東京、小倉。(新聞廣告費)十萬圓(他廣告費)同。(使用新聞)全國滿洲、支那百社位。(代理業)數店。(沿革)大正十三年廣島市に於て創業、昭和四年現住所へ移轉。(十四、十二、八)

工藤商店藥品部 (株式會社)

深川區佐賀町一ノ一。(電)深川一一三一四五〇二。株式。三十萬圓。屑鐵、鑽石、食料品、化學工業藥品輸出、内地一手販賣品、滋養強壯劑「鐵肝油」(社長)工藤義厚。(取締役兼支配人)時田成三。(廣告)菅一雄(支店)内地一。(大阪)海外六(シヤ、南米)(新聞廣告費)三萬圓。

(他廣告費)一萬圓。(使用新聞)讀賣、北海タイムス、福日、九日、臺灣日々、新民報、毎日新聞、滿日。(代理業)電通、八昭堂、一新社。(十四、十、末)

黒田市の助商店

日本橋區本町二ノ三。(電)日本橋二六三七三三三〇、二六九六。個人。染料塗料工業藥品、一金蚊取線香仁王(んのう油)。(幹部)黒田市之助、黒田市三郎、黒田市三郎。(廣告)黒田市三郎。(支店)一。(代理業)正路喜社。創業明治十五年。(十四、十、廿八)

黒田藥品商會

大阪市今橋一ノ一。(電)北濱五五二、二七四九、五六五九。新製製造販賣輸出入。株式。百八十萬圓。(代表者)黒田重平。(廣告)永田左門。創立大正十一年九月五日。

山川製藥株式會社

麴町區丸ノ内一丁目六ノ一。(電)丸ノ内二八五一、四八六三。株式。百萬圓。製藥業、局方藥品、化學工業藥品、中間體香料等。(取締役社長)原安三郎。(專務)本多重造。(取締役)太田半六、堀明三郎。(監査役)長崎英造、野間四

郎。(支店)一。(使用新聞)業界新聞を主とす。(沿革)創立昭和六年八月。(十三、十一、十)

山田安民藥房

大阪市東區區猪飼野大通。(電)南二五三六(代表)個人。ロート目藥。胃活、外製劑。(社長)山田輝郎。(理事)須藤尚邦。(專務)小山伊三郎、經田二郎、宮下政雄、飯守勳一。(廣告)飯守勳一。(新聞廣告費)二十萬圓。(使用新聞)内地八十社、外地六十社。(代理業)萬年、電通、旭廣告、京華、金水、新興、合同、國通、外。(沿革)胃活(明治三十二年創業)、ロート目藥(明治四十二年創業)、直系會社山田製藥株式會社(上海)、滿洲山田製藥株式會社(奉天)。(十五、十一、一)

山之内藥品商會

大阪市東區高麗橋五。丹毒、新藥アルパジル錠發賣元。(支店)奉天、東京、北京、廣東。

山崎帝國堂

神田區花房町二番地丸本舖、一般賣藥。(代理店)萬年、電通、博報堂。

山彦除蟲菊株式會社

和歌山縣有田郡保田村。(電)箕島三

六、七三。株式。五十萬圓。ライオン蚊取線香、エキライオンライオン除蟲粉、製造販賣。(社長)上山甚三郎。(常務)松本平次。(支店)大阪。(新聞廣告費)二萬圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)大朝、大毎、東日、東朝、河北、名古屋、福日、京城、釜山、滿日、新京、上海、天津、臺日、臺灣、臺南其他。(代理業)京華、大同、電通、萬年、旭廣告。(沿革)明治三十年創業。(十三、十一、十)

安川晃榮堂

麴町區永田町二ノ七〇。安川コロダイン、猿島印しもやけ藥販賣元。(代表者)安川榮次郎。(代理店)電通、弘報堂、萬年。

マルキイースト菌研究所

京都府宇治郡宇治村五ヶ庄。(電)宇治一六九、二四八。マルキ株式會社ノ一部門。百萬圓製藥並に食品工業、主要製品イースト、マルシユリン、熱量食等。(社長)水谷政次郎。(所長)(取締役)水谷清重。(廣告)太村與三次。(新聞廣告費)十二萬圓(他廣告費)十三萬圓。(使用新

聞廣告費)十三萬圓。(使用新

開朝日、大毎、東日、福日、名古屋、中國、讀賣、北海タイムス、旭川、小樽、京城日報、其の他。(代理業)直披並に萬年、京華、旭廣告、昭和廣告、弘報堂等。(沿革)本社明治廿八年、研究所昭和三年共に現在宮内省御用達、陸海軍御用達として食糧報國に邁進しつゝあり。(十五、十一、廿)

丸茂商會東京營業所 神田區岩本町五。(電)浪花二九四八長生枕陶枕發賣元。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、都其他若干使用す。

萬有製藥株式會社 日本橋區本町二ノ十。(電)日本橋一〇六二三。醫藥品製造。株式。百五十萬圓。(代表者)岩垂享。支配人)松田吉雄。(廣告)鈴木駒吉。創立大正四年六月。

二巴合名會社 大阪市東區道修町二。(電)本局一五五九。エキホス、グアヤコールエキホス。十萬圓。(代表者)竹田義藏、鹽野義三郎。(使用新聞)大毎、大朝、東日、中外、報知、讀賣、國民。

藤井得三郎商店 神田區豐島町三ノ二。(電)浪花八〇五、九二〇。龍角散本舖。五十萬圓。(代表者)藤井得三郎。(廣告)藤井勝之助。(使用新聞)百四十社。

藤澤友吉商店 大阪市東區道修町二丁目。(電)代表北濱一〇八〇。株式。三百十五萬圓。醫藥、製藥、工業藥品、精製樟腦。(社長)藤澤友吉。(常務)原田藤太郎。(廣告)中田房次郎。(支店)六。(新聞廣告費)約百萬圓。(他廣告費)約二十三十萬圓。(使用新聞)全國各紙。(代理業)各店。(沿革)創業明治二十七年。(十三、十一、十一)

藤本商店 (合名會社) 神田區旭町七。(電)神田九二五、九二六。賣藥玉盛シンセン、日曹腦其の他。

福井對開堂 大阪市東區高麗橋詰町四八。(電)東六〇九。外用塗藥「不可飲」。個人經營。(代表者)福井忠次郎。(支配人)越智正。(廣告)同。(新聞廣告費)三萬圓。(代理業)十數店。(沿革)創業明治初年。

物心療法普及の會 小石川區東青柳町一。(電)大塚七二四七二五。個人經營。福徳陶枕、快晴陶バンド、健康用福徳セラシ。(會主)田村繁祥。(支配人)田村茂期。(廣告)秋葉和夫。(新聞廣告費)三萬圓。(他廣告費)二萬圓。(使用新聞)東日、大毎、朝日、讀賣、ほか地方紙數十。(代理業)博報堂、新興社、昭榮社。(十五、十一、廿)

古醫學研究所 東京市京橋區京橋一ノ九。(電)京橋二五八四二六三八、四四七八。個人經營賣藥營業種商、フルチ錠、ヒコナ胃腸藥。(所長)三田秀太郎(廣告)輕海一男。(新聞廣告費)廿五萬圓。(他廣告費)十萬圓。使用新聞)大阪系四社、其他一流新聞、一流雜誌以下、約七八十社位。(代理業)電通、豐國、博報堂、告天、弘報堂、八昭堂等(沿革)昭和九年六月創業。(十五、十一、廿)

小林大藥房 大阪市西區京町堀通二丁目。(電)土佐堀五〇一、一〇六三、一六九一一。株式。五十萬圓。賣藥類問屋業並に製藥、タムシチンキ、ぬれ

つばめ。(幹部)二宮夜城。(支店)一。(新聞廣告)五萬圓内外。(他廣告費)一萬圓。(使用新聞)五十五社。(代理業)直接。(沿革)明治二十三年創業、内地及臺灣、朝鮮、滿洲、支那方面に販賣網擴充。(十三、十一、十)

小林腦行 日本橋區本町三ノ七。(電)日本橋九四、四九七、三〇四一。一般賣藥、製藥、煙だし片腦油本舖。(代表者)白井米次郎。(廣告)市川正吉。

國民保健振興會 神田區一ツ橋帝國教育會館内。(電)九段四一五一。自力健康器「發賣(幹部)内海養内。(十四、十二、五)

後藤デシン本舖 (株式會社) 神戸市葺合區八雲通町一。(電)葺合三一、四〇八三。株式。二拾萬圓。デシン、クレソール外八種。(幹部)後藤泰助、京田幾藏。(廣告)京田幾藏。(新聞廣告費)一萬五千圓。(他廣告費)二千圓。(使用新聞)大朝、大毎外地方紙。(代理業)京華社支店(沿革)創業明治三十四年。(十五、十一、廿)

駒場製藥所 澁谷區櫻丘町十六。(電)澁谷二九六五。耳の藥オートミン、鼻の藥ピオトミン(新聞廣告費)三萬圓。(使用新聞)全國主要都市。(代理業)電通、萬年、大同通信、弘信社、昭榮社。(沿革)創業二十八年。(十五、十一、廿)

榮養化學工業株式會社 日本橋區通二大同ビル。強壯劑ピセットの發賣元。(使用紙)大阪系四紙、讀賣、報知等。

帝國除蟲菊株式會社 和歌山縣箕島町。(電)三一、一三一、二二一。株式。百萬圓。除蟲菊干花、蚊取線香、殺蟲劑等。(代表者)森川仙太。(支配人)石井孝次。(廣告)中西靜司。創立大正九年四月六日。

帝國臟器藥研究所 川崎市大宮町。賣藥部外品エナホルモン發賣元。(使用新聞)大阪系四紙、讀賣、都、地方約十社。

アルゼールトミー合資會社 牛込區市ヶ谷富久町六〇。製藥、賣藥。

アルス 神田區神保町三。(電)九段二一七五一六。藥品。個人經營。

營。(代表者)北原鐵雄。(藥品)佐藤政壽。(廣告)小山進。(沿革)創業大正四年四月。(兼營)出版業。(圖書の部にもあり)

安住大藥房 大阪市西淀川區大仁町西一ノ四三。(電)福島四四四一六。安住除蟲粉、安住蚊取線香。株式。百五十萬圓。(代表者)安住悦太郎。(廣告)同。創立明治二十六年五月。

有田ドラッグ商會 大阪市天王寺區石ヶ辻町五〇。(電)天王寺七一、七二、九五五。個人。製藥賣藥業。(會主)有田音松。(專務)有田二郎。(支配人)井川廣文。(廣告)專務兼務。(新聞廣告費)三十萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)東日、國民、都、大毎、新愛知、福日、河北九州日報、合同、中國、九州日日、日田、北國毎日、其他。(代理業)新興社、新聞合同、電通、旭廣告。(沿革)明治四十一年創業。(十五、十一、廿)

荒川長太郎合名會社 名古屋屋市東區京町二。藥種貿易商、賣藥卸問屋、ノーション本舖。百五十萬圓。(代表者)荒川長太郎。

(支配人)加藤鐵治郎。(廣告)久保田芳雄。

齋藤萬平藥局 麴町區麴町二丁目四。(電)九段六〇八、一八八六。個人經營。藥品、賣藥、化粧品、製造販賣。(支店)四。(代理業)正路喜社。(沿革)明治二十五年創業。(十三、十一、十)

濟生堂製藥所 京橋區築地一ノ四。(電)京橋一〇二七、五五二。新藥、賣藥、化粧品。合資。三十萬圓。(代表者)橋本弘。(營業)山田謙平。(廣告)山内竹太郎。

■姉妹會社に橋本製藥株式會社あり。

三共株式會社 日本橋區室町二ノ二。(電)日本橋三三三二(代表)醫療用品及衛生材料一般工業、農業、醸造及理化學用藥品、醫療器械、化粧品、ベークライト等。株式。千五百萬圓。(社長)鹽原又策。(營業第一部長)同。(第二)古田宗二郎(常務取締役)。(第三)福井源二郎。(同)(廣告課)矢野重弘。(廣告課次長)大日方吳外。(廣告係主任)小林友藏外六名。(新聞廣告

費)十八萬圓。(他廣告費)三十萬圓。(使用新聞)全國主要紙。(代理業)電通、豐國、弘報堂、萬年、正路喜社等。

■十五年十一月紀元二千六百年祝典に際し社長鹽原又策君に勳五等を下賜せらる。

三信株式會社 神田區須田町一ノ一九。(電)神七二五。ゴム製品、醫療器械等。(代表者)小柳貞次。(支配人)田代茂穂。(廣告)鈴木武四郎。創立大正九年八月。(沿革)初め小柳ゴム製作所と稱す。

參天堂株式會社 大阪市東區北濱一ノ二三。(電)本局一〇四一三、五五八五。大學目藥。ヘアリン丸、健通丸、參天セキ藥、サンア。株式。百萬圓。(代表者)三田忠幸。(沿革)明治二十三年田口謙吉の個人經營として創業、大正四年田口を代表社員にする資本金二十萬圓の合資會社に變更、同十四年三田を社長とする資本金百萬圓の株式會社となる。

蔘精元賣捌株式會社 京城府黃金町三井物産内。賣藥業。

朝鮮總督府專賣局製造人蔘エキ
ス「蔘精」發賣元。(支店)東京、
大阪。
笹岡省三藥房 京橋區新榮町
四ノ一。命の母本舖。(代表者)
笹岡省三。
ざんれい堂 小石川區西原町
一ノ一。(電)大塚五九一二。賣
藥製造發賣元。ムサシヨソ其
の他新藥數種。
木澤脚氣研究所 京都市島原
口。(電)下二九六九。ネオクラ
イエキス、クライエキス。(使用
新聞)朝日、毎日。(代理業)京
華社。(沿革)二十五年前。(十
五、十一、廿)
喜谷市郎右衛門商店 京橋
區京橋一ノ九。(電)京橋五五、
五六。喜谷實母散、スポットル
個人經營。(支配人)小林誠之助
(廣告)岡菅實。(使用新聞)十五
紙。(代理業)電通、博報堂等。
(沿革)正徳三年創業。

中唯一郎。(新聞廣告費)八萬圓
(婦人雜誌)五萬五千圓。(他廣告
費)三萬圓。(使用紙)大朝、大
毎、東日及び地方紙。(代理業)
東京一正路喜社、大阪一旭(沿
革)家傳藥「弘授貴命丸」を「惠
乃玉」に改稱、昭和三年十月會
社組織となる。
木村製藥所 (株式會社)兵庫
縣赤穂郡坂越町。(電)一、一五、
三〇、四三。二百萬圓。殺蟲劑
アリス、アリスタム、ペリラ、
萬人油、炭酸マグネシヤ。(社
長)木村秀藏。(事務)木村利一。
(常務)木村英次郎。(廣告)同。
(支店)五。(代理業)博報堂、旭
廣告、昭和廣告、直接。(十四、
十、三十)
驚護社 大阪市東區備後町一丁
目三〇。(電)本町一七二六。賣
藥ドラミン、その他發賣す。
金星商店 芝田村町三ノ一
四。賣藥ホドヤン發賣元。(製造
元)橫濱市保土谷曹達株式會社
雄工社製作所 (株式會社)
(東京營業所)本郷區赤門前。
(電)小石川八八、九三〇、二二
〇〇、三八五一。(本社)板橋區

志村清水町六二三。(電)板橋二
七三。書類金庫、醫療機械自の
魂。
三田村商店藥品部 神田區
西神田町。(電)神田三七五、三
七六。造血強壯劑バンビ、フ
エーバー體溫計發賣元。
三星藥品株式會社 札幌市
外翠似村一〇九。(電)札幌三三
一、二七三二。株式。二十萬圓
(拂込濟)。新藥製造。コロンエ
キス、チモフオーゲン、フスゲ
ン、クルベオール、オスミン、
パチルジン、其他三十種餘。(幹
部)濱中榮作、三ツ野得二、谷黒
莊平、鳥居三郎、横山佳司、安
村四郎、岡文藏。(新聞廣告費)
三萬圓。(他廣告費)一萬二千
圓。(使用新聞)北海タイムス外
北海道内發行及棒太發行全新聞
(代理業)東京及内地方面扱島居
商店。(沿革)大正九年現社長濱
中榮作の個人事業を資本金十萬
圓の株式組織にて繼承昭和十年
事業の進展に依り資本金二十萬
圓となし、一般醫藥のみならず
家畜藥をも併せ三十種餘を製出
す。(十五、十一、卅)

峰岸淋丹本家 日本橋區通三
ノ一。(電)日本橋二三五。
柴崎仁壽堂 下谷區御徒町三
ノ九〇。(電)下谷六三二七。個
人。ゴノモト、ひろ喘息藥、セ
ーピン、ヘルニーベン。(廣告)
店主。(新聞廣告費)五萬圓。(使
用新聞)東朝、東日、讀賣、報
知、大朝、新愛知、名古屋、福
日、臺日、京城、臺灣日報、其
他十五社。(代理業)電通、博報
堂、豐國、萬勉社。(沿革)大正
六年創業。(十五、十一、廿)
鹽野義商店 (株式會社)大阪
市東區道修町二丁目十二。(電)
四〇九〇一三、五八二一四。外
六。株式。藥種製造販賣。(幹
部)鹽野義三郎。(支店)十一。創
業。明治十一年。(十四、十、二
八)
十五年十一月大陸進出の爲め
廣東出張所を獨立せしめ株式會
社鹽野義廣東大藥廠を創立す、
代表者五百旗貴一君。
昭和製藥株式會社 日本橋區
小舟町二ノ四。プロフエジン。
篠原保命堂 品川區南品川八
九九。婦人藥保命湯、保命球、

齒痛頭痛藥、ホケン散。個人經
營。(店主)篠原久五郎。(新聞
廣告費)十二萬圓。(其他)二萬
圓。(使用新聞)大毎、大朝、東
日、東朝、國民、毎夕、新愛知
福日、北海タイム、小樽、其他八
十六紙。(代理店)全部直接。
守隨彦太郎 日本橋區本町四
ノ三。(電)日本橋八八、三七六三
化學藥品及新藥スベルミン其他
個人經營。(代表者)守隨彦太郎
(使用新聞)主として東日、東朝
地方は別。(廣告取扱)正路喜社
(沿革)度量衡の創業は遠く天正
十年江戸秤座、藥品は大正六年
より、度量衡器以外主として化
學工業殊に染料爆藥原料の製造
をなす。
順和商會 大阪市東區清水谷西
ノ町三六五。胃腸藥アイフ、ハ
ロ、清血丸。(代表者)谷口作
治郎。(代理店)旭廣告、新興社。
美成堂 (株式會社) 京橋區新
川町一。(電)京橋六八四一。賣
藥部外品白毛染ヒナス發賣元。
(使用新聞)大毎、東日、讀賣等。
師岡天然堂 神田區末廣町三
一。(電)下谷一二三。個人。八

萬圓。賣藥、實効散、一二三。
(幹部)師岡花枝。(新聞廣告費)
六萬圓。(他廣告費)四千圓。(使
用新聞)大朝、大毎、東朝、東
日外、福日、新愛知、北海タイム
ムス、名古屋、(代理業)博報堂
大同通信。創業明治二十二年二
月。(十四、十、三十)
森下仁丹株式會社 大阪市
東區玉堀町。(電)東三三一〇、
三一五。懷中藥仁丹、同仁丹ハ
ミガキ、仁丹體溫計、驅微劑毒
滅。株式。二百五十萬圓。(代表
者)森下博。(營業)伊藤良一郎。
(廣告)谷本弘。創立明治二十六
年。
守田寶丹本店 東京市下谷區
池之端仲町二十二。(電)下谷五
三九、七一三。個人。賣藥寶
丹、守妙、立効丸、ヒンター外
(店主)守田治兵衛。(廣告)水島
香須美。(沿革)延寶八年當主に
て十二代業業繼續す、寶丹發賣
は文久三年なり。(十五、十一、
卅)
セールモン製藥合資會社
日本橋區浪花町一。(電)浪花二
〇九四、五〇八九。合資。五萬

圓。セールモン、TBセールモ
ン、ピタミン劑、ネオセールモ
ン。(代表社員)後藤松之助。(支
配人)北村義七。(技師長)沼田
素雄。(廣告)後藤松之助。(新聞
廣告費)九萬圓強。(他廣告費)
二萬圓弱。(使用新聞)東朝、東
日、讀賣、河北、北海タイムス
小樽、旭川、信濃毎日、北越、
新愛知、名古屋、大朝、大毎、
神戸、中國、福日、京城日報、
臺日、其他各縣代表新聞。(代
理業)博報堂。(沿革)昭和十二
年十一月創業。(十五、十一、廿)
須美商店 大阪市東區北濱四
ノ四〇。(電)小濱三二八六。個
人經營。人結核アロー、牛結
核アローBOA。(代表者)穴
織卯一郎。(新聞廣告費)十二萬
圓。(他廣告費)五萬圓。(使用
新聞)大朝、大毎、東朝、東日、
讀賣、福日、新愛知、河北、タ
ィムス外地方紙全部。(代理業)
萬年、金水、第一、新興社。(沿
革)昭和二年三月開業。(十三、
十、十)
鈴木日本製藥社 日本橋區濱
町二ノ五二。(電)茅場町八〇。個

人。賣藥製造業(ベルツ丸本舖)
(社主)鈴木清二。(支配人)鈴木
重雄。(廣告)一。(新聞廣告費)
十萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使
用新聞)各地一流紙全部。(代理
業)電通、萬年、大同、第一、國
通。(沿革)大正六年一月創業。
(十五、十一、廿)
化粧品
伊東胡蝶園 麻布區本村町一
四五。(電)三田二一三七一九。
御園白粉外化粧品一般。(代表
者)伊藤榮。(營業)北村秀夫。
(廣告)荒木八郎。創立明治三十
七年六月。
井田京榮堂 本所區野川町二
ノ六。(電)本所五二二九、六五
一八。メヌマ化粧品製造所。個
人商店。(代表者)井田友平。(支
配人)井田良平。(廣告)井田康
司。(新聞廣告費)二十萬圓。(使
用新聞)全國五十紙。(代理店)
正路喜社、廣告社、電通。
井筒屋商店 日本橋區人形町
三一。株式。「あづ」油發賣元
其他香油一般。(代表者)金原巳

三郎。(廣告)服部榮次郎。
十五年三月組織を改め株式會社并簡屋商店なる。

橋本製藥株式會社 京橋區築地一ノ二四。(電)京橋五五二四。白美液、白美白粉、ビクト、つばきボマード、新藥、賣藥類株式。百二十萬圓。(代表者)橋本德次郎。(支配人)橋本英一。(營業)杉山文雄。(廣告)山口石治。(藥品の部にもあり)

日本油脂株式會社 芝區田村町一ノ二日産館。(電)銀座七一八一。九、七七二一。五。株式。五千五十萬圓。油脂工業、塗料、大豆工業、火藥工業、水産工業。(社長)二神駿吉。(副社長)藤田政輔。(專務)村山威士。(常務)久保田四郎。(重役)廿二名。(廣告)藤田篤。(支店)十五(新聞廣告費)五十萬圓。他廣告費)三十萬圓。(使用新聞)全國百社。(代理業)電通、正路喜社、告天、豐國、其他。(沿革)昭和十二年三月日本食料工業株式會社の魚粉、魚粕、魚肥、魚油、大豆に屬する部門にベルベツト石鹼株式會社、不二塗料製造所等

を併せ資本金七百五十萬圓(拂込済)の日本油脂株式會社を設立す、十二年六月合同油脂株式會社に合併、資本金一千八百五十萬圓(拂込済)となり社名を日本油脂株式會社と改稱、十三年一月資本金を四千五百萬圓に増資、同年六月帝國火藥工業株式會社を合併、資本金五千五十萬圓となり現在に至る。(十三、十一、十)

千代田山岸商店 (株式會社) 豐島區池袋一丁目七六八。(電)大塚二二三〇。株式。十五萬圓

千代田整髮料本舖。(代表取締役)山岸徳治郎。(沿革)明治三十九年開業、昭和十四年四月株式組織。(十三、十一、十)

リール商會 日本橋區本石町三ノ一四。ベジリン香水、其他

小川潮華園 日本橋區桶町三ノ八。(電)浪花八〇七、一〇三二。無香染毛劑王冠、黒染ボマード、さざ波石鹼、ブリリアントクリーム。(代表者)小川和一郎。(支配人)小川武久助。(營業)小川博。(廣告)小田龍男。(幹部)今川五郎。(代理業)豐國

宇野達商店 (株式) 大阪市東區南久寶寺町三。タンゴドール、風鳥化粧料本舖。

野村外吉商店 大阪市南區鹽野二丁目。金鶴ボマード、香油、洗粉、其他。(代表者)野村外吉。(代理店)電通、京華、旭廣告、新興社、萬年。

久保政吉商店 世田谷區烏山町二一九。(電)四谷五九六八一。ウテナ化粧品製造。株式。百五十萬圓。(代表者)久保正吉。(營業)渡邊伊策。(廣告)久保伸進。(代理業)電通、萬年、弘信株式會社を設立す。

花王石鹼株式會社長瀬商會 日本橋區馬喰町二丁目。(電)浪一一一五。花王石鹼、花王シャンプー、ビーズ、花王パース、クレンザーホーム、花王粉石鹼、花王水石鹼、月星グリセリン、其他。株式。四百萬圓。(社長)長瀬富郎。(副社長)山崎高晴。(使用新聞)全國主要各新聞。(沿革)明治二十三年創業、同四十四年合資組織とし、大正十四年株式組織に變更、昭和五

レオン商會 (株式會社) 神田區小川町一丁目三、小川町ピル内。(電)神田一八三七、三五四三。レオン洗顏クリーム。(代表者)原敏三郎。(代理業)八昭堂、電通、正路喜社、博報堂、弘信社、弘報堂、新興社。(十二、十一)

中山太陽堂 大阪市浪花區水崎町四〇。(電)戎三七〇一五、五七〇〇一。東京支店、京橋區横町二ノ七。クラブ化粧品、家庭石鹼、プラトン文具。(代表者)中山太一、中山豊三。(支配人)小林正義、橋本芳彦。(廣告)室田庫造。

十三年十一月從來傍系的に經營した三晃社の外新たに東京に太陽製藥株式會社(代表取締役中山豊三)、大阪に太陽堂藥品製造株式會社(取締役社長中山太一)の二社を創立し本格的に製藥界に乗り出す。
十五年十一月生活新體制指導映畫の筋書を懸賞募集し入賞品及び映畫製作費を國家に獻納を發表す入賞一篇二千圓、次席二篇各五百圓。

萬年、廣告社、新興等、及直接明治二十六年創業。

岡本信太郎商店 東京市京橋區京橋二丁目十三。(電)京橋六〇七七、四三三三。株式。十八萬圓。化粧品、雜貨、ボンジー發賣元。(社長)岡本信太郎。(專務)一木範。(常務)中村吉直。(廣告)同。(新聞廣告費)三萬圓(使用新聞)東朝、讀賣、東日、都、福日、新愛知。(代理業)電通、正路喜社、萬年。(沿革)大正八年六月創業、昭和十五年二月株式會社に改組。(十五、十一、十)

カガシ化粧品本舖 大阪市東區淡路町三丁目二四、二五。(電)北濱三三七一一。化粧品製造販賣。個人經營。(代表者)丸屋七郎。(支配人)山本現救。(營業)東與市。(廣告)柏井太一(新聞廣告費)十萬圓。(他廣告費)三十萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東日、名古屋、新愛知、福日、北海タイムス、其他地方紙。(代理業)旭廣告。(創業)明治三十二年六月十七日。(十一、十二、十)

年新裝花王石鹼發賣、同九年原料自給策を樹立、同十年三月四百萬圓に投資し更に大日本油脂株式會社(資本金六百萬圓)設立同十四年十一月硬水用石鹼を陸軍へ八萬打、海軍へ二萬打獻納す。
十五年三月廣告獎勵會審査にエキセリンは服裝器其他の第五部一等賞を受く。
同六月新裝品花王藥用石鹼を發賣す、又企畫部長岩崎邦太郎君は販賣部長、鯉淵健造君は支配人次席となる。
同八月同社製品並に一般化粧品販賣の長瀬商會株式會社を設立、會長に長瀬公平君、常務に林章次君、監査役に秋元直君就任す。
同十月十三日發賣五十周年記念の修養園花王部發會式を行ふ
同十一月支配人次席鯉淵健造君發賣五十周年を機會に圓滿退社す。

角倉商店 大阪市東區南久寶寺町一ノ四三。(電)船場一六六四一五、二九九四一五。内外化粧品石鹼齒磨問屋。株式。百萬圓(代表者)角倉秀雄、小牧淺次。(營業)岡部熊雄。(廣告)島中正房。創立明治三十二年十二月。

ダイナー本舖 (株式會社) 京橋區築地一丁目十六。(電)京橋二二三六。化粧品製造販賣。(社長)醫學博士内田美穂。(取締役支配人)飯島歳雄。(工場長)二摩重夫。(廣告)飯島歳雄。(新聞廣告費)二萬五千圓。(他廣告費)二萬五千圓。(代理業)博報堂、新興社、金水堂。創業昭和十一年九月。(十四、十、世)

田中善株式會社 大阪市博勞町一。ニード化粧品料。
高橋東洋堂 牛込區東五軒町三五。(電)牛込六七〇、六八〇。アイデアル化粧品。株式。五十萬圓。(代表者)高橋三四郎。(營業)會川賢三。(廣告)永田宗太郎。(廣告主任)坂本貞章。(代理業)正路喜、萬年、廣告社。(沿革)創業明治二十六年十月。(十一、十、二〇)

八五九。個人。柳屋ボマード。(幹部)外池五郎三郎。(廣告)岡仁三郎。(新聞廣告費)五萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)大毎、大朝、東日、東朝、讀賣中外、報知、福日、北海タイムス、新愛知、名古屋、外地方紙。(代理業)正路喜社、電通。(沿革)天正年代徳川家康に扈從し來り許されて營業を初め今日に至る(十五、十一、廿)

マスタート化粧品株式會社 尚美堂 麻布區霞町一。(電)代表赤坂四六〇〇。株式。二十五萬圓。マスタート化粧品製造販賣(代表取締役)阪本一郎。(廣告)竹内孝。(新聞廣告費)十萬圓。(他廣告費)十萬圓。(使用新聞)全國、滿洲四十五社。(代理業)新興社、新生社、博報堂、告天社。(沿革)創業大正十五年六月(十五、十一、廿一)

丸見屋商店 東京市日本橋區兩國廿。(電)浪花二二二一。七個人。ミツワ石鹼、セオラ藥用

葛原工業所 下谷區竹町一二一。モダン、シャンプー。
柳屋本店 東京市日本橋區通二丁目。(電)日本橋二〇一、一

同十五年四月代表取締役阪本一郎君及び宣傳部長竹内孝君は約十日間の豫定で渡滬す。

商標、ミツヲ肝油ドロップス。
ミツヲ各種葡萄酒。(店主)三輪善兵衛。(廣告)衣笠静夫。(使用新聞)全國有力紙全部。(代理業)電通、萬年、博報堂、正路喜社、告天社。(沿革)萬延元年創業。(十五、十一、廿)
■十四年九月三輪店主は衣笠廣告部長等と渡滿す。
松浦商店 大阪市北區富田町二七。ピタオール石鹼、同ホマード其他。
福田號商店 日本橋區馬喰町四ノ九。(電)浪花一三三二。ランランボマード、ランラン香油其他。(代表者)東野芳三郎。(營業)東野芳一。(支配人)見島勉一。(使用新聞)東朝、讀賣、靜岡民友、小樽。
小林商店 蒲田區梅屋敷。ライオン齒磨、ライオン齒刷子。株式。三百二十五萬圓。(社長)小林喜一。(相談役)小林富次郎(專務)神谷市太郎。(常務)山崎麻吉。(取締役)吉田武夫。(代理店)電通、京華、萬年、旭廣告其他。(大阪支店)大阪市東區博勞町。(支店長)山崎麻吉。

■十五年七月新たにライオン商標臺灣有限會社を創設し、社長に小林喜一君、營業部長に山崎精一君就任す。
■同九月本所區厩橋一丁目にライオン製菓株式會社を創設す、取締役社長小林喜一君、常務山崎麻吉君。
■同十月二十一日ライオン販賣會社業務開始、幹部は取締役會長小林喜一、同社長田中吉兵衛、專務桑原啓造、山崎麻吉の諸君、同十一月小林富次郎君縁綫褒章を下賜さる。
近源商店 (株式會社) 日本橋區横山町六。(電)浪花八六三、五〇六四、三五二五。株式。百萬圓。小間物雜貨、有名化粧品問屋、ヘチマ化粧品製造販賣。(社長)天野源七。(常務)天野陸良。(廣告)齋藤壬夫。(庶務)中澤七郎。(工場)飯沼光太郎。(販賣)近藤一男。(經理)天野平次郎。(新聞廣告費)三十萬圓。(他廣告費)二十五萬八千圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、河北、北海タイムス、臺日、京日、滿日、中國、合同、

福日、他一市一紙程度。(代理業)正路喜社、博報堂、電通、豐國、廣告社。(沿革)元祿十五年小間物業を以て創業。(十三、十一、十)
安藤井筒堂 (株式會社) 日本橋區水天宮前。(電)茅場町二四四五一六。原料香水オリザナル、オリザナル化粧品、安福石鹼、カオール。(社長)安藤福太郎。(專務)安藤金平。(十二、十一、十)
ユゼ商会 麻布區霞町二十一(電)赤坂二六二七八。化粧品販賣業。秋田縣特産天然洗粉「ユゼ洗粉」發賣元。
資生堂 (株式會社) 京橋區銀座四七丁目。(電)銀座七六四一。株式。百五十萬圓。化粧品、藥品、石鹼、齒磨製造販賣(會長)福原信三。(社長)杉本昇(廣告)白川慶三。(使用新聞)東朝、大朝、大毎、東日、讀賣、其他約百紙。(代理業)電通、豐國、萬年、正路喜社、新生社。(沿革)創業明治五年。(十五、十一、廿)
■十五年三月藥品界への進出を

決す。
ビーマン研究所石澤商店 下谷區二長町二〇六。(電)下谷二四七。白毛染並に賣藥製造卸業。(使用新聞)東日、大毎。(沿革)昭和二年下谷區竹町に開業、同六年現在所在地に移轉。(十五、十一、廿五)
平尾贊平商店 (株式會社) 日本橋區馬喰町四丁目。(電)浪花一一五五八。株式。百八萬二千圓。化粧品製造卸業、主要製品レイトクリーム、レイト白粉、レイトフールド、レイトメリー、レイトコールドクリーム、レイトホ、紅、レイト口紅、レイトマユズミ、レイトボマード等。(代表取締役)板倉安兵衛。(廣告)勝田重太郎。(同次長)母袋五六。(使用新聞)全國全紙。(沿革)明治十一年初代平尾贊平によつて創業、始て歐風化粧品小町水を發賣。三十九年レイト乳白化粧品を發賣。爾後相續レイト化粧品を發賣す。大正七年組織を株式會社となす。昭和十二年五月全國代理店を招集してレイト躍進大會を開催、同年

十一月レイト號海軍機關を獻納す。(十三、十一、十八)
■十五年三月廣告獎勵會審査にレイトクリームは最高賞及び化粧品部に一等賞を受く。
平尾喜三郎商店 大阪市淀川區中津本通一ノ八。オカツパ化粧品本舗。(代表者)平尾喜三郎(東京支店長)武井紋次。
モンココ洗粉本舗 牛込區余丁町一二二。モンココ化粧品
桃谷順天館 大阪市港區市岡町五丁目。(電)西六五七七八、三一四八、三八二七、四一四七。美顔白粉、白色美顔水、美顔クリーム、美顔クリーム、其他化粧品一般。株式。百五十萬圓。(代表者)桃谷順一。(支配人)塚本好三。(廣告)永野隆太郎。(販賣)楠本政太郎。
壽毛加社 大阪市西區川區御幣島町三五三。(電)福島二一四七五〇八二。スモカ。株式。五十萬圓。(代表者)湯淺守平。(廣告)片岡敏郎。創立昭和七年十一月。

アモンババヤ、ババヤ洗粉、ババヤ化粧品、二回水。(代表取締役)杉田杉吉。(廣告)高橋東江。(使用新聞)全國四十八紙。(代理業)電通、博報堂、正路喜社、内外廣告、豐國。(沿革)昭和八年十月一日創業。(十五、十一、廿)
井上通信英語學校 麴町區富士見町三ノ三。(電)九段二七一六、三四八一。株式。七萬圓。英語講義録其他。(校主)柴山格太郎。(新聞廣告費)四萬圓。(他廣告費)六萬圓。(使用新聞)大阪系四社、讀賣、地方四社其他。(代理業)電通、博報堂。(沿革)大正十三年一月創業、昭和四年株式組織。(十五、十二、十二)
岩波書店 神田區一ツ橋通二ノ三。(電)九段一八七。雜誌「思想」「生活者」及各種書籍出版。(代表者)岩波茂雄。(支配人)堤常。(廣告)宮澤勝二。
郁文堂書店 本郷區森川町大學正門前。(電)小石川六一八、二一五八。獨逸語教科書、參考

圖書

書出版。合資。五萬圓。(代表者)大井久五郎。(代理店)博報堂、電通。
一元社 本郷區弓町一丁目二五各種經濟書籍、關係講座の發行
一誠堂書店 神田區神保町一丁目七。(電)神田七五、七五〇合名會社。拾五萬圓。和、漢、洋古書籍一般賣買。(幹部)酒井宇吉。(新聞廣告費)三千圓位。(他廣告費)五百圓位。(使用新聞)東朝、東日、讀賣。(代理業)山本新光社。(沿革)創業明治廿六年。(十五、十一、廿)
白揚社 神田區美土代町一。(電)神田二二八五、四七七五。個人經營。書籍出版卸業。(廣告)木村武夫。(新聞廣告費)貳萬圓位。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、帝大、滿日、其他。(代理業)博報堂。(沿革)創業大正十三年壹月。(十五、十一、廿)
白水社 神田區小川町三丁目八。(電)神田三五九八、四八六二。株式。貳拾萬圓。圖書、雜誌出版。(幹部)福岡清、草野貞之、寺村五一。(廣告)同。(新聞廣告費)四萬圓。(他廣告費)壹

萬圓。(使用新聞)東朝、東日、大朝、大毎、京城日報、滿日、滿洲新聞。(代理業)博報堂。(沿革)大正四年福岡島之助個人創立、昭和五年株式會社に組織變更す。(十五、十一、廿)
博文館 日本橋區本町三ノ九。(電)日本橋一三〇一六、三〇三。各種圖書及雜誌數種出版發行。株式。百萬圓。(代表者)大橋進一。(專務)古谷專吉。(廣告)渡邊明義。創業明治二十年六月。
■十五年五月社長大橋進一君精勵參與なる。
日本通信大學法制學會 澁谷區神宮表參道。(電)青山六四一五。普通文官講義録發行。(代表者)澤野民治。(營業)小西忠雄。(支配人)大嶺詮松。(廣告)豊島案左衛門。
日本放送出版協會・ラヂオ科學社 芝區田村町一丁目テキストビル。(電)銀座七〇七、六二六六、七三二三。株式。拾九萬五千圓。日本放送協會編輯のラヂオテキスト發行、無線工學に關する圖書。(幹部)柴田寛。

杉田商店 四谷區花園町六四。(電)四谷三一三一。株式。

(新聞廣告費)參萬八千圓。(他廣告費)貳萬圓。(使用新聞)東朝、東日、大毎、大朝、西部朝日、西部毎日、北海タイムス、河北新愛知、中國、福日。(代理業)放送文化通信社。(沿革)昭和六年創立。(十五、十一、廿)

日本普文大學出版部 下谷區上野櫻木町三九。(電)下谷一〇八。各種講義録刊行、受験參考書出版。(幹部)中西熊三郎(廣告)同。(新聞廣告費)五萬圓。(他廣告費)三萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、報知、大朝、大毎、地方五十社。(代理業)博報堂、電通、青年社。創業昭和六年十月。(十四、十、廿八)

日本國際協會 麴町區丸ノ内二丁目十二。(電)丸ノ内四六六。社団法人。雜誌、書籍。(會長)千野石井菊次郎。(廣告主任)佐伯正雄。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、中外。(代理業)博報堂、正路喜社。(沿革)創立大正九年四月。(十五、十一、廿)

日本評論社 京橋區京橋三ノ四。(電)京橋六一九一四。株式。十九萬圓。圖書、雜誌の出版。

版。(幹部)鈴木利貞、室伏高信町田竹次郎、御園喜久松、兼作太郎、下村亮一、彦坂竹男。廣告)中尾正幹。(新聞廣告費)十五萬圓。(他廣告費)一萬二千圓。(使用新聞)東朝、東日、大朝、大毎、京城日報、滿日、滿洲新聞、臺灣日々、福日、名古屋、讀賣。(代理業)博報堂、電通、創業大正八年。(十四、十、廿八)

寶文館 日本橋區室町四ノ五。教育圖書出版並に雜誌、令女界「少女界」若草」發行。(社長)大葉久治。

北隆館 (株式會社) 京橋區橫町三丁目三。(電)京橋七一四一八。株式。六十萬圓。新聞、書籍、雜誌、元賣捌(取締役社長)福田金次郎。(事務)福田良太郎(取締役)中田清兵衛、磯野小兵衛。(監査役)廣井長十郎。(沿革)現社長福田金次郎が京橋區南紺屋町に北國組出張所として明治廿四年創業同三十一年合資會社に改め大正八年資本増大株式に改組し、昭和九年更に資本を倍額増資して現所に移轉。(十三、十一、十三)

平凡社 (株式會社) 日本橋區吳服橋三ノ五。(電)日本橋二一五七一九。株式。三十萬圓。圖書、出版。(社長)下中彌三郎。(新聞廣告費)十二、三萬圓(他廣告費)二萬圓。(使用新聞)東西五社及地方十社。(代理業)博報堂、新興社。(沿革)大正七年創業、同十二年株式。(十三、十一、十)

十四年十二月下中社長は教育關係書籍出版打合せの爲め北支に出張す。

東邦經濟社 麴町區内幸町二ノ二大阪ビル。(電)代表銀座三三五七。個人經營。月刊東邦經濟。(社長)漆島參治。(編輯)漆島廣士。(總務)漆島巖男。(廣告)同。(新聞廣告費)三萬圓。(他廣告費)一萬圓。(使用新聞)東朝、東日、中外、大毎、昭和六年八月一日創業。(十四、十一、一)

東洋圖書株式會社 神田區神保町一丁目六十七。(電)神田三七一一、三七四五。拾萬圓。書籍雜誌。(代表者)永田與三郎(監査役)關信太郎、永田耕作、

岩田倉三郎。(廣告)佐野健之丞(新聞廣告費)三千圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)朝日。(代理業)内外通信。(沿革)大正十三年一月創業。(十五、十一、廿)

東洋經濟新報社 日本橋區本石町三ノ二。(電)日本橋八一三株式。三十萬圓。雜誌圖書出版(主幹)石橋湛山。(同副兼營局)神原周平。(編局)内山德治。(總務局)山田秀雄。(新聞廣告費)四萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、讀賣、中外、他重要地方新聞。(代理業)博報堂、電通。(沿革)明治廿八年十一月創業。(十三、十一、廿)

東苑書房 麴町區下六番町三。(電)九段四七三九。教育參考圖書。個人經營。(代表者)千葉春雄。(新聞廣告費)一萬圓位。(他廣告費)一萬圓位。(使用新聞)東京、大阪代表紙。昭和三年創業。(十二、十二、八)

東亞聯盟協會 赤坂區溜池町五、富士ビル内。(電)赤坂五〇七四。雜誌機關誌、「東亞聯盟」其他パンフレット。(幹部)木村

武雄、宮崎正義、中山優。(廣告)中村勝正。(新聞廣告費)一萬五千圓。(他廣告費)一萬五千圓。(使用新聞)東朝、日日、滿日、滿洲新聞。(代理業)博報堂其他。(沿革)創業昭和十四年十月。(十五、十一、廿)

東京堂 (株式會社) 麴町區九段一ノ七。(電)九段四一一一。株式。三百萬圓。出版並取次業。(事務)大野孫平。(常務)大橋達雄。(廣告)増山新一。(新聞廣告費)五萬圓。(他廣告費)六千圓。(使用新聞)東朝、大朝、東日、大毎、讀賣、都、中外、滿日、滿新、北海タイムス、福日、新愛知、名古屋、九州日報、京城、臺灣日々、其他。(代理業)博報堂、電通、告天社。(沿革)創業明治廿三年。(十五、十一、廿五)

東京社 (株式會社) 芝區南佐久間町二ノ一〇。(電)芝一三五、三三五二。株式。二十萬圓。雜誌圖書出版、婦人畫報、コドモノクニ、洋裝クラブ、スタイルブック、化粧品類。(社長)柳沼次介。(廣告)近藤善勝。(編

輯)中村正利。創業明治四十四年。(十三、十一、十)

東京高等商業學會 神田區一ッ橋教育會館内。(電)九段四一五一。高等商業講義。(幹部)金井英治。(新聞廣告費)一萬五千圓。(他廣告費)二千圓。(使用新聞)大朝、大毎、東日、東朝、讀賣、滿日、京日、滿洲新聞、福日、北タイ、中國、小樽、新愛知、名古屋、信毎、其他。(代理業)電通。(沿革)創業大正十三年一月。(十五、十一、廿)

塔影社 麴町區二番町十一。美術雜誌塔影其他。

同盟出版社 神田區神保町一ノ四。

刀江書院 神田區駿河臺三ノ六。(電)神田三二七一、三一八五。株式。拾萬圓。圖書出版。(社長)尾高豊作。(支配人)鎌田末吉。(編輯)梅田道之。(營業主任)田中米作。(廣告)鎌田末吉。(新聞廣告費)約二、三萬圓(他廣告費)約五千圓。(使用新聞)朝日(東京、大阪、西部)東日、大毎、讀賣、京城日報、臺灣日

日、滿日、大陸新報、信毎、福日、北海タイムス、九州日報。(代理業)電通、博報堂、第一通信、八昭堂、田中太陽社。(沿革)「刀江書院」ハ尾高社長ノ先代ノ書齋ニ濂澤子爵ガ名付ラレタ名前ア、尾高社長出版業創始ニ際シ、先代ノ書齋ノ延長トシテ出版報國ノ理想ノ下ニ大正十二年ニ創業。(十五、十一、廿)

讀書新聞社特賣部 神田區神保町一ノ三〇。各種出版物の大最特賣をなし全國有力紙に送稿す。

千倉書房 京橋區第一相互館。(電)京橋三七一六。合資會社。圖書出版。(幹部)千倉豊。(沿革)創業昭和四年。(十五、十一、廿)

中央公論社 麴町區丸ビル五八八區。(電)丸ノ内五三五一八。株式。十五萬圓。雜誌圖書出版業。(社長)島中雄作。(沿革)明治十九年創立。(十三、十一、十二)

十四年十一月陸海軍及び軍事保護院に各一萬圓を献納す。
十五年二月元廣告部長牧野武

夫君出版業を創始す。
同五月社長島中雄作君精勤參與となる。
同十一月紅葉館に創立五十五周年記念祝賀會を開く。

中外印刷株式會社出版部 小石川區東古川町一〇。(電)牛込三四九、七一二六。經濟書籍並に關係法令集、其他。

良書普及會 小石川區大和町十三。(電)小石川一〇三五、一三二八一九。個人經營。法律出版、定期「自治研究」、「警察研究」、「公法雜誌」(會主)河中俊四郎。(營業主任)山手泰五郎。(廣告)大谷忠三。(新聞廣告費)三千七百圓。(他廣告費)二萬五千圓。(使用新聞)東朝、東日、大毎、大朝、帝大(東京)、早大、官報。(代理業)博報堂、朝日商工。創業大正五年十一月。(十四、十一、十二)

大倉書店 日本橋區南茅場町。辭典教科書其他圖書出版。(代表者)大倉章雄。

大阪屋號書店 日本橋區吳服町二ノ五。圖書出版、滿鮮臺支樺卸賣業。株式。(代表者)濱井

松之助。(支配人)長野重治。(出版)林三郎。(新聞廣告費)三萬五千圓。(使用新聞)東朝、東日國民、讀賣、中外、報知、大毎大朝、新愛知、名古屋、北海タイムス、小樽、河北、信毎、中國、福日、京日、満日、大連、臺日等。(代理店)博報堂、電通直接。

早稻田大學出版部 澁橋區戸塚町一ノ五八。(電)牛込三四六、三七八一。各種講義録及法律、政治、經濟、文學に關する圖書出版。(代表者)東清重(廣告)淺羽文二。

改造社 芝區新橋七ノ一一。(電)芝一三二一。個人。書籍、雜誌。(社長)山本實彦。支配人)山本三生。(出版)佐藤實。(改造編輯)大森直道。(販賣)桑崎昭義。(廣告)平田貫一郎。(新聞廣告費)約四十萬圓。(使用新聞)東西朝日、東日、大毎、讀賣、其ノ他。(代理業)電通。(沿革)創業大正八年一月。(十五、十一、廿)

偕成社 京橋區寶町。出版。河出書店 日本橋區三ノ一。圖書出版。ワグナー全集、文學物其他。

株式の研究社 日本橋區本町一ノ九。(電)日本橋六九五。月刊「株式の研究」發行(使用新聞)東朝、中外、都其の他。考へ方研究社 神田區一ツ橋二ノ三。(電)九段一五四三。圖書出版。(代表者)北原秀一。(代理店)博報堂。

巖松堂書店 (株式會社) 神田區神保町。(電)九段四一三五。八拾萬圓。出版、新刊書古書、洋書、和書販賣。(幹部)波多野一、波多野完治、後藤浩次、流多野三夫。(廣告)茂木堯秀。(新聞廣告費)三萬圓(他廣告費)一萬圓。(使用新聞)各日刊大新聞、各大學新聞。(沿革)明治三十四年十月二十日創立。(十五、十一、廿)

養賢堂 (株式會社) 本郷區森川町七拾。(電)小石川六五九。六三三四。圖書雜誌の出版(主として理・農・工關係)。(社長)及川伍三治。(使用新聞)東朝、

東日、讀賣、大朝、大毎、北海タイムス、河北、新愛知、福日廣中、満日、臺日、京城日報等(代理業)博報堂、電通。(沿革)創業二十年、昭和十年三月株式に。(十五、十一、廿六)

タイムス出版社 (株式會社) 麴町區有樂町二ノ四。(電)銀座三四一二、七四四八。株式。五萬圓。國際パンフレット通信(會員制度)の刊行及主として語學の單行本出版。(取締役社長)小野俊一。(取締役編輯)高梨菊二郎。(營業)青野弘。(取締役)高橋禎二。(監査役)朝倉貞七。(代理業)博報堂、大明通信其の他。(沿革)以前ジャパン・タイムス社出版部なりし昭和二年株式會社として獨立。(十五、十一、廿)

ダイヤモンド社 麴町區霞ヶ關三丁目。(電)銀座四一五五。株式。四拾五萬圓。出版及印刷。(幹部)石山賢吉、阿部留太、野崎龍七。(廣告)石山賢男。(新聞廣告費)二十萬圓。他二萬圓。(使用新聞)全國。(代理業)告天社。(沿革)大正二年五月十日

ダイヤモンド創刊、同七年十一月十五日ダイヤモンド日報を同十年二月五日ダイヤモンドレポーター創刊。(十四、十一、一)

第一書房 麴町區三番町一。(電)九段一四一五、三三四四。合資會社。二十五萬圓。書籍。(社長)長谷川己之吉。(總務)金享燦。(セルパン編輯)大島豐、(營業主任)伊藤壽一。(編輯事務主任)木下嘉文。(廣告)富士原清一。(新聞廣告費)二十萬圓。(他廣告費)六萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、中外、都、大朝、大毎、他地方五十社。(代理業)博報堂、告天社。(沿革)創業大正十二年六月。(十五、十一、廿)

太陽堂書店 神田區神保町二ノ五。(電)九段一九四四。個人。壹萬圓。圖書出版業。(幹部)照井健伍、味水賢八郎。(廣告)照井昇。(新聞廣告費)參萬圓。(他廣告費)貳萬圓。(使用新聞)東朝、東日、大朝、大毎、満日。(代理業)博報堂、大明通信。(沿革)創業大正六年三月。(十五、十一、廿)

大日本法令出版株式會社 芝區田村町二丁目十三。(電)銀座六四一九。各種法令集を初め一般圖書を發行す。

大日本圖書株式會社 京橋區銀座一ノ五。(電)京橋二四〇七、二七三、二四七。教育圖書並に雜誌文部省編纂教科書發行所。株式。六十萬圓。(代表者)杉山常次郎。(總務主任)坂詰眞(營業主任)田島藤太郎。(廣告主任)河村敏雄。(編輯主任)大村弘毅。(十二、十一、一)

大日本國民中學會 澁谷區代々木驛前。(電)四谷一一一三四。中學、女學講義録發行。

大日本雄辯會講談社 小石川區香取三ノ一九。(電)小石川八〇八〇一八〇九四。(營業科目)月刊雜誌雄辯、講談俱樂部、少年俱樂部、現代、婦人俱樂部、少女俱樂部、キング、幼年俱樂部、富士。單行本約三百種。全集一修養、講談、落語、喜劇、評判講談、少年少女教育講談。代理部「シリ」の、パミール、イノール、トラシン、療眼器、プレグロール、ワカミズ、

其他キングレコード數百種。個人經營。(營業)赤石喜平。(廣告)同。(編輯長)淵田忠良。(會計部長)高木義賢、長谷川卓郎、館内元。(新聞廣告費)三百萬圓、其他百萬圓。(使用新聞)全國全紙、諸外國邦字新聞殆全部、外字新聞若干。(廣告取扱)電通、博報堂、正路喜社、萬年、弘業通信、外敷社。(沿革)明治四十二年二月十一日創めて雜誌「雄辯」を發行したるを創業とす。十五年五月取締役淵田忠良君精勤參與となる。

大法輪閣 麴町區内幸町。月刊大法輪、佛敎關係書籍發行。

大同館書店 神田區一ツ橋武の三。(電)九段一〇七一。個人教育歴史地理國漢文書類。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、報知(代理業)博報堂。(沿革)創業大正三年。(十五、十一、十)

大同書院 大阪市北區曾根崎上三ノ八。(電)北一六五三、五七五二。政治、法律、經濟、社

會、商業、出版販賣。株式。十萬圓(拂込済)。(代表者)松本善次郎。(廣告)水谷義民。(新聞廣告費)一萬圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)朝日、毎日、東日、東朝、中外其他。(代理業)旭廣告、新興社(直接)。(沿革)創業大正七年、組織變更、昭和七年。(十二、十、二八)

大明堂 (受驗生社) 神田區小川町三ノ二。(電)神田二三二九。圖書出版、雜誌、受驗生、教員受驗生、文檢受驗生。個人經營。(代表者)神戸文三郎。(代理業)博報堂、電通。

創元社 四谷區愛住町一九。(電)四谷八三八一。出版業。(代表者)小林茂。各種圖書出版。

叢文閣 麴町區九段四ノ八。(電)九段二五六八。出版。個人。(代表者)西村豊吉。(營業)西村常雄。(廣告)坂原達雄。(新聞廣告費)約八千圓。(他廣告費)二千圓。(使用新聞)東朝、讀賣、中外、帝大、早大、一橋、三田、京大。(代理業)全部本社直接。(沿革)創立昭和八年九月二十一日足助たつより本社及び一誠社

の營業を譲受く。(十二、十二、一)

釣之研究社 (株式會社) 神田區錦町一ノ十一。(電)神田四九九七。株式。十八萬圓。雜誌圖書出版、釣具製作販賣、其他釣に關するもの一切。(幹部)奥川榮。(廣告)同。(新聞廣告費)壹萬七千圓。(他廣告費)六千圓。(使用新聞)東朝、讀賣、東日、中外、國民、大朝、大毎、其他官報。(代理業)衆報社、博報堂。(沿革)奥川榮個人經營八年、昭和十五年十一月株式を公募して株式に改組し同業數社を買收合併す。(十五、十二、五)

内田老鶴園 日本橋區大傳馬町一ノ四。(電)茅場町五五九一。高級圖書出版業。個人。(代表者)内田作藏。(支配人)内田篤治。(新聞廣告費)一萬五千圓乃至二萬五千圓位。(他廣告費)專門雜誌二萬二千圓位、その他三千圓位。(使用新聞)東京大阪各新聞、地方有力社。(代理業)大體電通その他直接。(沿革)明治十一年創業、高級科學圖書專門出版。他に中等教科書發行にて同協會

員たり。(十二、十二、五)

外交時報

麴町區丸ノ内三ノ十、仲五號館。(電)丸ノ内一〇四五、五〇四八。個人。出版業

(常務)八田庄治。(支店)十三。(使用新聞)東朝、東日、大朝、大毎、讀賣、福日、北タイ、小樽、新愛知、報知、都外五十餘種。(代理業)正路喜社。(沿革)創業明治十三年三月(十三、十一、一)萬里閣 日本橋區吳服橋二ノ三(電)日本橋二四三七。出版、合資。三萬圓。(代表者)小竹重雄。(支配人)八木澤清。(廣告)市川

萬里閣

鐵造。(外幹部)小竹即一、高島末吉、松浦長治。(使用新聞)東日、東朝、大毎、大朝、讀賣、報知。(廣告取扱)博報堂。

經濟知識社

麴町區丸ノ内。丸ビル三四八、雜誌發行。

經濟情報社

麴町區丸ノ内二ノ一八(昭和ビル)。(電)一六九二、二八六五、二九〇六。經濟情報「政經篇」「產業篇」「會社篇」(幹部)金原賢之助、田川大吉郎、加田哲二、落合久次。(廣告)井田桂一。(新聞廣告費)約二萬圓(使用新聞)東朝、中外、大朝、其他。創業大正十五年十二月。(十四、十、三十)

慶應出版社

芝區三田通義塾正門前。(電)三田二七九一。大

警醒社

(株式會社) 京橋區銀座西八ノ九。(電)銀座一五八七。圖書出版、及販賣業。株式。十五萬圓。(代表者)福永文之助。(新聞廣告費)二千圓。(代理業)電通其他。(沿革)創業明治二十年、昭和三年三月株式。(十二、十二、一)

學講座「經濟學」その他圖書の發行。大毎、東日、中外等。

慶文堂書店

神田區錦町一ノ三。(電)神田一四七〇。個人。拾萬圓。書籍出版並取次卸賣業(幹部)風間是宏、齋藤正一、加藤晴好。(廣告)川端清吉。(新聞廣告費)壹萬圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)東朝、東日、大毎、大朝。(代理業)博報堂、大明通信。(沿革)大正二年創立取次販賣業開始、大社六年出版業開始、學生參考書を發行「學粹」の登録あり、今日迄百數十種を發行。(十五、十一、廿)

藝能科研究會 東京市豐島區堀の内三〇。月刊雜誌藝能科研究、其の他。

研究社

(株式會社) 麴町區富士見町六丁目。(電)九段四〇二一三。株式。百萬圓。印刷、出版。(社長)小酒井五郎。(廣告)佐藤文二。(沿革)創業明治四十年。(十五、十一、廿)

富山房

神田區神保町一ノ三。(電)神田二一七一八。合資會社。百萬圓。圖書出版及販賣。(社長)坂本守正。(總務)島内俊三。(編輯)楠山正雄。(營業)大井紀。(新聞廣告費)約六萬圓。(他廣告費)約七萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、報知、都、國民、大朝、同九州支社、大毎、同九州版等。(代理業)博報堂、電通。(沿革)明治十九年三月創業、明治二十九年六月會社組織トナル。(十五、十一、廿)

國民圖書株式會社

麴町區內幸町一ノ六。圖書出版。株式。五十萬圓。(代表者)中塚榮次郎。(代理店)博報堂。

國民文庫刊行會

神田區小川町一ノ六。漢文圖書。支那史籍關係圖書發行。

帝國地方行政學會

京橋區銀座西七ノ一。(電)銀座六六〇一三。各種法令書出版。株式。五百萬圓。(社長)大谷仁兵衛。(廣告)仲田耕。(沿革)明治二十六年創立、大正十四年四月株式會社に組織變更。

帝國綜合學院

下谷區上野櫻木町三九。(電)下谷一二〇八。個人。通信講義刊行、受験參考書出版。(幹部)中西三郎。(新聞廣告費)八萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)東京五社、大阪二社、地方四十社。(代理業)博報堂、電通、八昭堂、青年社。(沿革)昭和六年十月創業(十五、十二、十)

光明思想普及會

赤坂區榎町五(乃木坂)。(電)赤坂三八二一三。株式。百二十五萬圓。谷口雅春氏の著述による一切の光明書籍、「生命の實相」等。(社長)服部仁三郎。(專務)辻村彦次郎。(常務營業)原田民治。(重役)西村陽吉、山本慶治、湯澤陸雄。(廣告)伊東種。(新聞廣告費)約九萬圓。(他廣告費)約十萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、新愛知、名古屋其他少數の地方新聞。(代理業)博報堂。(沿革)昭和九年十月

厚生閣

麴町區六番町六の一。(電)九段三二一八。個人。學藝科學、教育、天文、醫學その他(店主)岡本正一。(編輯)百田宗治。(廣告)志賀正路。(新聞廣告費)二萬五千圓。(他廣告費)年額六千圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、報知、國民、大朝、大毎、福日、植民地三紙。(代理業)博報堂、電通、品田廣告社新進堂。(沿革)創業大正十一年六月。日刊雜誌、教室、文章發行。(十五、十一、廿)

工業圖書株式會社

神田區旅籠町三ノ四。(電)下谷二八三四八一七。株式。十五萬圓。出版。(代表取締役)倉橋藤治郎。(經理)早川延治。(編輯)水谷三郎。(雜誌)島榮一。(販賣)萩原誠三郎。(廣告)水谷三郎。(使用新聞)朝日、東日、大毎等。(代理業)博報堂。(沿革)大正十四年創立の工政會出版部を昭和十年改組。(十五、十一、廿)

弘道館

神田區神保町二丁目四ノ十。(電)九段一三六八一九。株式。十萬圓。教科書、參考圖書(專務)辻本卯次。(廣告)辻本利雄。(新聞廣告費)一萬圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)朝日、東日、讀賣、地方新聞。(代理業)廣告社、萬才社。(沿革)創業明治三十八年十月。(十五、十

婦女界社

麴町區九段四ノ一三。(電)九段四一七一三。雜誌「婦女界」其他婦人物書籍出版。(代表者)都河龍。(廣告)多田勳生。

文藝春秋社

麴町區內幸町大坂ビル。(電)銀座五六八一五出版業。株式。十五萬圓。(代表

發表す。完結は十七年九月の豫定。

同十月前社長の功績を記念すべく坂本記念會文化事業部を設け眞摯な學者、學會等に援助する事となる。

富民協會

(財團法人) 大阪府濱寺公園内。(電)濱寺二〇二八法人組織。月刊農民雜誌「富民」講義録日記事項讀本其他。(理事)長高石眞五郎。(理事)西村健吉。(出版係長)清水浩男。(新聞廣告費)約四千五百圓内外。(他廣告費)五百圓内外。(使用新聞)大毎、東日、其他地方新聞等。(代理業)弘知社、萬年、八紘社、電通其他。(沿革)創業大正十三年富民創刊、農業博物館も經營、故本山彦一氏の創立。(十五、十一、廿五)

丸善株式會社

日本橋區通二丁目。(電)代表日本橋二一二。五百萬圓。外國書籍新聞雜誌輸入販賣、圖書出版、洋物文具の販賣、インキ製造其他。(代表者)金澤末吉。(專務)荒川實。

富民協會

(財團法人) 大阪府濱寺公園内。(電)濱寺二〇二八法人組織。月刊農民雜誌「富民」講義録日記事項讀本其他。(理事)長高石眞五郎。(理事)西村健吉。(出版係長)清水浩男。(新聞廣告費)約四千五百圓内外。(他廣告費)五百圓内外。(使用新聞)大毎、東日、其他地方新聞等。(代理業)弘知社、萬年、八紘社、電通其他。(沿革)創業大正十三年富民創刊、農業博物館も經營、故本山彦一氏の創立。(十五、十一、廿五)

婦女界社

麴町區九段四ノ一三。(電)九段四一七一三。雜誌「婦女界」其他婦人物書籍出版。(代表者)都河龍。(廣告)多田勳生。

文藝春秋社

麴町區內幸町大坂ビル。(電)銀座五六八一五出版業。株式。十五萬圓。(代表

者)菊池寛。(專務)佐々木茂索(他重役)鈴木氏亨等。(新聞廣告費)二十五萬圓。(代理業)電通内外通信。(十二、十、二四)

同十五年三月日本雜誌協會の雜誌文庫建設基金に三千圓を寄附す。

工業圖書株式會社

神田區旅籠町三ノ四。(電)下谷二八三四八一七。株式。十五萬圓。出版。(代表取締役)倉橋藤治郎。(經理)早川延治。(編輯)水谷三郎。(雜誌)島榮一。(販賣)萩原誠三郎。(廣告)水谷三郎。(使用新聞)朝日、東日、大毎等。(代理業)博報堂。(沿革)大正十四年創立の工政會出版部を昭和十年改組。(十五、十一、廿)

弘道館

神田區神保町二丁目四ノ十。(電)九段一三六八一九。株式。十萬圓。教科書、參考圖書(專務)辻本卯次。(廣告)辻本利雄。(新聞廣告費)一萬圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)朝日、東日、讀賣、地方新聞。(代理業)廣告社、萬才社。(沿革)創業明治三十八年十月。(十五、十

婦女界社

麴町區九段四ノ一三。(電)九段四一七一三。雜誌「婦女界」其他婦人物書籍出版。(代表者)都河龍。(廣告)多田勳生。

文藝春秋社

麴町區內幸町大坂ビル。(電)銀座五六八一五出版業。株式。十五萬圓。(代表

一月より事業開始、谷口雅春氏の著述大小各版合して四百萬部突破の販賣をなす。(十四、十、二八)

國民圖書株式會社

麴町區內幸町一ノ六。圖書出版。株式。五十萬圓。(代表者)中塚榮次郎。(代理店)博報堂。

國民文庫刊行會

神田區小川町一ノ六。漢文圖書。支那史籍關係圖書發行。

帝國地方行政學會

京橋區銀座西七ノ一。(電)銀座六六〇一三。各種法令書出版。株式。五百萬圓。(社長)大谷仁兵衛。(廣告)仲田耕。(沿革)明治二十六年創立、大正十四年四月株式會社に組織變更。

帝國綜合學院

下谷區上野櫻木町三九。(電)下谷一二〇八。個人。通信講義刊行、受験參考書出版。(幹部)中西三郎。(新聞廣告費)八萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)東京五社、大阪二社、地方四十社。(代理業)博報堂、電通、八昭堂、青年社。(沿革)昭和六年十月創業(十五、十二、十)

光明思想普及會

赤坂區榎町五(乃木坂)。(電)赤坂三八二一三。株式。百二十五萬圓。谷口雅春氏の著述による一切の光明書籍、「生命の實相」等。(社長)服部仁三郎。(專務)辻村彦次郎。(常務營業)原田民治。(重役)西村陽吉、山本慶治、湯澤陸雄。(廣告)伊東種。(新聞廣告費)約九萬圓。(他廣告費)約十萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、新愛知、名古屋其他少數の地方新聞。(代理業)博報堂。(沿革)昭和九年十月

厚生閣

麴町區六番町六の一。(電)九段三二一八。個人。學藝科學、教育、天文、醫學その他(店主)岡本正一。(編輯)百田宗治。(廣告)志賀正路。(新聞廣告費)二萬五千圓。(他廣告費)年額六千圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、報知、國民、大朝、大毎、福日、植民地三紙。(代理業)博報堂、電通、品田廣告社新進堂。(沿革)創業大正十一年六月。日刊雜誌、教室、文章發行。(十五、十一、廿)

工業圖書株式會社

神田區旅籠町三ノ四。(電)下谷二八三四八一七。株式。十五萬圓。出版。(代表取締役)倉橋藤治郎。(經理)早川延治。(編輯)水谷三郎。(雜誌)島榮一。(販賣)萩原誠三郎。(廣告)水谷三郎。(使用新聞)朝日、東日、大毎等。(代理業)博報堂。(沿革)大正十四年創立の工政會出版部を昭和十年改組。(十五、十一、廿)

弘道館

神田區神保町二丁目四ノ十。(電)九段一三六八一九。株式。十萬圓。教科書、參考圖書(專務)辻本卯次。(廣告)辻本利雄。(新聞廣告費)一萬圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)朝日、東日、讀賣、地方新聞。(代理業)廣告社、萬才社。(沿革)創業明治三十八年十月。(十五、十

婦女界社

麴町區九段四ノ一三。(電)九段四一七一三。雜誌「婦女界」其他婦人物書籍出版。(代表者)都河龍。(廣告)多田勳生。

文藝春秋社

麴町區內幸町大坂ビル。(電)銀座五六八一五出版業。株式。十五萬圓。(代表

一月より事業開始、谷口雅春氏の著述大小各版合して四百萬部突破の販賣をなす。(十四、十、二八)

國民圖書株式會社

麴町區內幸町一ノ六。圖書出版。株式。五十萬圓。(代表者)中塚榮次郎。(代理店)博報堂。

國民文庫刊行會

神田區小川町一ノ六。漢文圖書。支那史籍關係圖書發行。

帝國地方行政學會

京橋區銀座西七ノ一。(電)銀座六六〇一三。各種法令書出版。株式。五百萬圓。(社長)大谷仁兵衛。(廣告)仲田耕。(沿革)明治二十六年創立、大正十四年四月株式會社に組織變更。

帝國綜合學院

下谷區上野櫻木町三九。(電)下谷一二〇八。個人。通信講義刊行、受験參考書出版。(幹部)中西三郎。(新聞廣告費)八萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)東京五社、大阪二社、地方四十社。(代理業)博報堂、電通、八昭堂、青年社。(沿革)昭和六年十月創業(十五、十二、十)

光明思想普及會

赤坂區榎町五(乃木坂)。(電)赤坂三八二一三。株式。百二十五萬圓。谷口雅春氏の著述による一切の光明書籍、「生命の實相」等。(社長)服部仁三郎。(專務)辻村彦次郎。(常務營業)原田民治。(重役)西村陽吉、山本慶治、湯澤陸雄。(廣告)伊東種。(新聞廣告費)約九萬圓。(他廣告費)約十萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、新愛知、名古屋其他少數の地方新聞。(代理業)博報堂。(沿革)昭和九年十月

厚生閣

麴町區六番町六の一。(電)九段三二一八。個人。學藝科學、教育、天文、醫學その他(店主)岡本正一。(編輯)百田宗治。(廣告)志賀正路。(新聞廣告費)二萬五千圓。(他廣告費)年額六千圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、報知、國民、大朝、大毎、福日、植民地三紙。(代理業)博報堂、電通、品田廣告社新進堂。(沿革)創業大正十一年六月。日刊雜誌、教室、文章發行。(十五、十一、廿)

工業圖書株式會社

神田區旅籠町三ノ四。(電)下谷二八三四八一七。株式。十五萬圓。出版。(代表取締役)倉橋藤治郎。(經理)早川延治。(編輯)水谷三郎。(雜誌)島榮一。(販賣)萩原誠三郎。(廣告)水谷三郎。(使用新聞)朝日、東日、大毎等。(代理業)博報堂。(沿革)大正十四年創立の工政會出版部を昭和十年改組。(十五、十一、廿)

弘道館

神田區神保町二丁目四ノ十。(電)九段一三六八一九。株式。十萬圓。教科書、參考圖書(專務)辻本卯次。(廣告)辻本利雄。(新聞廣告費)一萬圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)朝日、東日、讀賣、地方新聞。(代理業)廣告社、萬才社。(沿革)創業明治三十八年十月。(十五、十

婦女界社

麴町區九段四ノ一三。(電)九段四一七一三。雜誌「婦女界」其他婦人物書籍出版。(代表者)都河龍。(廣告)多田勳生。

文藝春秋社

麴町區內幸町大坂ビル。(電)銀座五六八一五出版業。株式。十五萬圓。(代表

一月より事業開始、谷口雅春氏の著述大小各版合して四百萬部突破の販賣をなす。(十四、十、二八)

國民圖書株式會社

麴町區內幸町一ノ六。圖書出版。株式。五十萬圓。(代表者)中塚榮次郎。(代理店)博報堂。

國民文庫刊行會

神田區小川町一ノ六。漢文圖書。支那史籍關係圖書發行。

帝國地方行政學會

京橋區銀座西七ノ一。(電)銀座六六〇一三。各種法令書出版。株式。五百萬圓。(社長)大谷仁兵衛。(廣告)仲田耕。(沿革)明治二十六年創立、大正十四年四月株式會社に組織變更。

帝國綜合學院

下谷區上野櫻木町三九。(電)下谷一二〇八。個人。通信講義刊行、受験參考書出版。(幹部)中西三郎。(新聞廣告費)八萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)東京五社、大阪二社、地方四十社。(代理業)博報堂、電通、八昭堂、青年社。(沿革)昭和六年十月創業(十五、十二、十)

光明思想普及會

赤坂區榎町五(乃木坂)。(電)赤坂三八二一三。株式。百二十五萬圓。谷口雅春氏の著述による一切の光明書籍、「生命の實相」等。(社長)服部仁三郎。(專務)辻村彦次郎。(常務營業)原田民治。(重役)西村陽吉、山本慶治、湯澤陸雄。(廣告)伊東種。(新聞廣告費)約九萬圓。(他廣告費)約十萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、新愛知、名古屋其他少數の地方新聞。(代理業)博報堂。(沿革)昭和九年十月

帝國工業教育會 麴町區內

幸町一ノ五。建築講義録の外建築、土木關係書籍の發行。全國有力紙。

帝國書院(株式會社) 神田區西

神田一ノ三。(電)九段四一二六。一。中等學校用教科書一般。株式。十萬圓。(社長)守屋紀美雄。(廣告)吉川鶴雄。(沿革)大正十五年創立。(十二、十、三十)アトリエ社 牛込區原町三ノ七九。(電)牛込六四二一。(代表者)北原義雄。(營業)天田文雄。(廣告)住友秀川。

アルス 神田區神保町三。(電)

九段二一七五、三四二九、七一。合資會社。出版部、寫真雜誌、短歌雜誌、兒童文庫ナチス叢書外單行本。藥品部、ネオスエー、ザオキン其他、寫眞器アルゼン、現像藥。(社長)北原鐵雄。(出版)中村正爾。(藥品)佐藤政壽。(經理)佐藤賢三(廣告)小山進。(新聞廣告費)六拾萬圓。(他廣告費)參拾五萬圓(使用新聞)朝日、大毎系、其の他日滿支に互り約七十社。代理業)博報堂、新興社、弘報堂、

八昭堂、電通、新生社其他約十社。(沿革)出版部は創業以來二十五週年に及び藥品部は昭和六年創業。(十五、十一、廿)

朝日新聞社出版局 東京市麴

町區有樂町、大阪市北區中の島(電)東京丸の内一三一、一四一。大阪北濱三五〇一、六三〇一。朝日新聞社の經營。各種定期刊行物及臨時出版物。(局長)飯島幡司。(編輯)小倉敬二。(營業)大塚貞三。(代理業)東興社その他。(十四、十二、五)

三教書院 神田區神保町二ノ

十三。(電)九段二一〇八。個人書籍出版業。(幹部)鈴木種次郎。鈴木初雄。(廣告)同。(新聞廣告費)一萬圓位。(外廣告費)三千圓。(代理業)博報堂。創業。明治四十年三月。(十四、十、二五)

三省堂 神田區神保町一ノ一。

圖書出版。株式。百五十萬圓。(社長)龜井實雄。(專務)龜井豐治。(支配人)永井茂彌。(營業)末次保。(廣告)河西三吉。(使用新聞)東京、大阪十社、地方二十社、其他臨時。(代理店)博報堂、萬年社其他。

山海堂 神田區神保町二ノ四五

(電)九段一三一〇。工業關係圖書出版。個人。(代表者)來島捨六。(支配人)渡邊壽富。(營業)岡部啓太郎。(廣告)風間正輔。(會計主任)藤田德彌。(使用新聞)東日、東朝、大毎、大朝、讀賣、各大學新聞、工業新聞、滿日、北海タイムス、新愛知、福日、九日等。(代理店)博報堂。創業明治二十九年一月。(十一、十、三十)

共立社(合資會社) 神田區駿河

臺三ノ九。(電)神田一五一八、二六二四。五萬圓。圖書出版部。(代表者)南條初五郎。(廣告)岡本房三。(新聞廣告費)二萬圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、他地方紙。(代理業)内外通信、八昭堂。(沿革)創立滿十四年、會社に變更二年。(十四、十、二八)

金星堂 神田區神保町三の二

(電)九段四〇六八。個人。圖書出版。(店主)福岡益雄。(使用新聞)東西朝日、東日、大毎(代

理業)博報堂。(沿革)創業大正

七年。(十五、十一、廿五)

有朋堂(株式會社) 神田區錦

町一ノ七。(電)神田二二八〇、四一三一。株式。八萬五千圓。書籍出版業。(代表取締)和多田素介。三浦正。創業。明治三十五年。(十四、十、三十一)

有斐閣 神田區神保町二ノ一七

(電)九段三二二三。書籍出版及小賣。個人。(店主)江草重忠。(支配人)山野金藏。(廣告)鈴木正次郎。(使用新聞)東朝、東日、中外、大朝、大毎、其他。(代理業)博報堂、電通、其他。(沿革)明治四十一年先代江草芥太郎創業、専ら法律、政治、經濟書の出版を主とす。

雄山閣(株式會社) 麴町區富士

見町二ノ八。(電)九段五七七、二三一四。圖書出版。(代表者)長坂金雄。(新聞廣告費)六萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、新愛知、福日、名古屋、廣中、九日、報知、讀賣。創業大正五年九月二十三日。

目黒書店 神田區駿河臺三ノ

一。(電)神田一〇五八一。個人。圖書出版並に專賣所。(幹部)目黒甚七、目黒四郎、大澤吉直、寺尾信。(支店)一。(沿革)明治二十二年二月十一日創業。(十三、十一、十)

明治書院(株式會社) 神田區錦

町一丁目一六。(電)神田二一四七。株式。三十萬圓。中等諸學校教科書及國漢文歴史宗教等參考書類。(社長)三樹退三。(專務)森下松衛。(常務)三樹良知。三樹愛二。(廣告)文人宗義(新聞廣告費)七八萬圓。(他廣告費)八、九千圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、報知、中外、大毎、大朝、新愛知、名古屋、福日、九日、河北、北海、臺灣日々、滿日等。(代理業)博報堂(沿革)明治二十九年一月故三樹一平創立、大正三年個人經營を株式に變更三樹一平社長となる。大正十三年三樹一平死去鈴木友三郎社長となり、昭和七年十二月病氣の爲め辭し故一平長男三樹退三社長となる。昭和八年四月徳富猪一郎經營の民友社發行出版物を繼承翌九年五月高島米峰經營の丙午出版社を合併し引

續き經營す。(十四、十、三十一)

三笠書房 神田區西神田二ノ

二。(電)九段四〇一三。個人經營。出版。(新聞廣告費)一萬二千圓。(他廣告費)千二百圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝大毎他大學新聞。(代理業)電通、新興社。(沿革)創業七箇年。(十三、十一、十)

至文堂 牛込區拂方町二七。(電)

牛込四四五。中等學校教科書學術單行本出版。個人經營。(代表者)佐藤正史。(廣告)同。(新聞廣告費)一萬八千圓。(他廣告費)一萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、其他地方新聞。(代理店)電通。

至誠堂(株式會社) 日本橋區本

町四ノ一五。(電)日本橋九〇五。圖書出版業。株式。五千圓。(代表者)加島ミネ。(沿革)加島虎吉明治二十年創業五十圓の資を以て開始し資産廿八萬圓まで進展せしが大震災の爲め昭和六年倒産す。次女幸子昭和七年舊店員に保護せられて至誠堂再起す。(十二、十二、一)

自然療養社 神奈川縣小田原

町(電)小田原二四八。個人。雜誌「療養生活」健康ニュース其他書籍。(社長)田邊一雄。(大阪支社)吉木三郎。(廣告)同。(新聞廣告費)一萬五千圓。(使用新聞)各新聞。(代理業)各社。(沿革)大正十二年三月創立。(十五、十一、廿一)

小學館 神田區一ツ橋通三。

(電)九段代表四一八一。雜誌書籍出版。個人。(代表者)相賀正期。(支配人)相賀正行。(新聞廣告費)五萬圓。(他廣告費)二十萬圓。(使用新聞)七十紙。(代理店)電通、博報堂、萬年。(沿革)大正十一年八月創業、同時に八大學習雜誌創刊、十五年三月六大教育雜誌創刊、昭和三年ユーマア全集刊行、四年學年別小學生學習全集五十冊刊行八年一ツ橋に新館落成と共に移轉。

昭和圖書出版社 麴町區富

士見町二丁目一。(電)九段三二九二、三二九三。工業、鑛業關係書籍出版元。

松柏館(株式會社)日本橋區吳

服橋二の五。(電)日本橋二六二

實業之世界社 芝公園五號地

十ノ三。(電)芝五一五、一六、一五五〇。個人經營。月刊「實業の世界」發行並に圖書出版。(社長)野依秀市。(新聞廣告費)三萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、中外、帝都日、大毎、大朝、外全國主要新聞。(代理業)博報堂。(沿革)明治四十一年五月、「三田商業界」を改題し

〔「實業の世界」をなし、獨來三十一年間、野依秀市獨特の經營方針を續く。〕(十三、十一、十一) 新日本社 京橋區銀座西七丁目。文學圖書出版。

新潮社 牛込區矢來町。(電)牛込八〇五一九。書籍雜誌出版。個人經營。(代表者)佐藤義亮。

(支配人)中根駒十郎。(廣告)佐藤義夫。(新聞廣告費)四十八萬圓。其他十二萬圓。(使用新聞)東京大阪の主力紙及び地方紙。(廣告取扱)博報堂、電通、萬年正路書社。(沿革)明治二十九年新報社を創立、明治三十七年新報社を改稱。

十五年五月社長佐藤義亮君精勤參與なる。

人文書院 京都市河原町二條下ル。文藝、藝術等の研究圖書發行。(使用紙)大朝、東朝、京都日日、新愛知等。

主婦之友社 (株式會社) 神田區駿河臺一の六。(電)代表神田一一六一。株式。三百萬圓。「主婦之友」發行。單行本出版。賣藥化粧品、家庭用品取次販賣。(取締役社長) 石川武美。(專務)八

代登。(編局)本郷保雄。(會局)中村豊彦。(廣告)同。(新聞廣告費)四十萬圓。(他廣告費)三十萬圓。(使用新聞)東西五六新聞、外總數二百社。(代理業)博報堂、電通、萬年、外約二十社(沿革)創立大正五年九月十八日「主婦之友」創刊大正六年二月十四日、同十三年十一月一日株式會社に組織變更。(十五、十一、廿一)

修教社書院 (有限會社) 神田區錦町二の九。(電)神田四四二八、四四三七。(資本金)十八萬圓。工業圖書出版。(取締役社長) 杉山純太郎。(沿革)會社設立昭和十五年四月。(十五、十一、廿一)

男、今井扶。(廣告)猪原勇。(新聞廣告費)三萬圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)大毎、大朝、東日、東朝、讀賣、その他重要地方紙。(代理業)博報堂、新興社。(沿革)明治十一年和田篤太郎創業和田むめ、和田静子、和田利彦相つぎ、株式會社組織に改む。(十五、十一、廿一)

十五年四月創刊十周年事業として政界往來會館開設、同館内に往來俱樂部を設け一般に開放。(十五、十一、廿五)

誠文堂新光社(株式會社) 神田區錦町一の五。(電)神田二二六一九。株式。三十萬圓。小學生の科學、子供の科學、科學畫報、無線と實驗、世界知識。(社長)小川菊松。(現業重役)小川誠一郎、倉本長治、飛田義正。(廣告)倉本長治兼任。(新聞廣告費)三十六萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)主力紙に全三段主義。(代理業)博報堂一手(沿革)明治四十五年創業、後新光社を合併す。(十四、十一、一)

同八月用紙對策として年四回の特別號を一回とし普通號は減頁せざる事なる。

食料品

乾卵食料品株式會社 大阪市東區伏見町二ノ一八。(電)五九八七一九。ラクトーゲン其他の食料品。株式。百萬圓。(支配人)乾卵一。創立大正十一年十二月一日。

石崎株式會社 大阪市東區平野町一丁目。深の醗造元。(代表者)石崎喜兵衛。

パール飲料株式會社 淺草區山川町一。(電)淺草三五三七、四一〇五。清涼飲料水、果實蜜類の製造販賣。株式。十萬圓。(代表者)瀧田初太郎。(廣告)君塚茂太郎。創立昭和八年九月二十日。

日魯漁業株式會社 麴町區丸ビル七階。鮭蟹罐詰、冷凍生鮭、新巻鮭、鹽鮭。株式。四千萬圓。(代表者)川上俊彦。(支配人)佐野滋。(營業)宮城敬。(廣告)同。(新聞廣告費)二十萬圓。其他八萬圓。(代理店)電通。

日本砂糖工業株式會社 芝區西芝浦四丁目。(電)三田三〇五四。專賣特許飲料エースの發賣元。

日米水産株式會社 芝區芝浦町二ノ二。日本橋區吳服橋二ノ一。(電)三田三一五。日本橋三一六。水産業。株式。五十萬圓。(代表者)五十嵐與野。(新聞廣告費)一萬五千圓。(使用新聞)各紙。(代理業)正路喜社。創業大正十三年四月。

日清製油會社 京橋區新川町二ノ二。(電)京橋三一九一。製油一般。株式六百萬圓。(代表)松下外次郎。(支配人)津川兼吉。(廣告)山岸謙助。創立明治四十年三月。

新高製菓株式會社 大森區大森三ノ三七〇。(電)高輪一九〇四。新高ドロップ其他。(代表者)森芳一。(廣告)新野辰雄。創立明治三十七年一月。

表)寺田虎次郎。(支配人)藤原利明。(廣告)市川貞夫。創立大正十四年三月。

本嘉納商店 京橋區銀座西三路喜社、明進社。

逸見山陽堂 (株式會社) 日本橋區本町二丁目四ノ八。(電)茅場町一二七(3)代表。食料罐詰。乳製品。株式。五十萬圓。(代表者)逸見斧吉。(營業)島慶三。(新聞廣告費)一萬圓。(他廣告費)一萬五千圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣其他他數紙。(代理業)電通、正路喜社。(沿革)明治十七年創業、大正七年株式會社に變更。(十三、十二、一)

東京食品株式會社 麴町區丸ノ内二、昭和ビル(電)丸ノ内二八四五。水菓子容器、一般食品販賣。株式五十萬圓。(代表者)渡邊源藏。(支配人)土屋茂三郎。創立昭和九年四月。

チキンソース株式會社 本所區堅川町一ノ一六。(電)本所一八六五、七六〇七。チキンソース其他。株式五十萬圓。(代表者)荒井長治郎。創立大正六年

一月。中央製菓株式會社 城東區北砂町三丁目。(電)本所代表三

部)本多眞一。(新聞廣告費)十萬圓。(他廣告費)十五萬圓(使

用新聞)全國五十社。(代理業)五社。(沿革)創立大正七年。(十

三、十一、十) 銚子醬油株式會社 千葉縣銚子町若宮町。(東京)日本橋區

小網町三ノ三。ヒゲタ醬油製造販賣。株式、三百五十萬圓。(廣

三十七。カルピス、ゴロナ(567)株式。(社長)鈴木三郎助。

(專務)三島海雲。(支配人)岸田公平。(廣告)井上成意。(十四、

十一、二十) 嘉納合名會社 兵庫縣御影町上東七九七。(白鶴製造發賣元

(代表者)嘉納治兵衛。 同東京支店 京橋區木挽町五

丁目二。(電)銀座八九、五八六、六四四三。銘酒白鶴發賣元。合

緒を開く。(十五、十一、廿五) 龜屋鶴五郎商店 京橋區銀座七丁目二。(電)銀座七七二

五。和洋酒食料品商。(店主)杉本幸子。(支配人)齋藤泰三。(新

開廣告費)約一萬圓。(使用新聞)東朝、東日、ジャパニタイ

ムスエントアドバタイザ。 (代理業)同盟通信社、正路喜社

(沿革)創業明治三年二月。(十五、十一、廿) 大日本麥酒株式會社 目黒

寅次郎。(廣告)石川良平。(新聞廣告費)六萬圓。(他廣告費)三

萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、讀賣、報知、都

國民、中外其他全國、一流紙。(代理業)電通、正路喜社、萬年

京華、弘治社。(沿革)明治十年創業、昭和九年組織變更。(十四

(十、廿八) 臺灣合同鳳梨株式會社 (本社)臺灣高雄市堀江町。(出

十二)

野田醬油株式會社 東京出張所日本橋區小網町三ノ十一。

(電)茅場三一五五九。株式、三千萬圓。醬油味淋ソース製造販賣。(社長)茂木七左衛門。(廣

告)福島一郎。(使用新聞)東京大報、地方有力紙。(代理業)電

通、弘報堂、萬年、内外廣告社正路喜社。(沿革)大正七年一月

一日一族八家合同資本七百萬圓にて營業開始、大正十四年四月一日萬上味淋、日本醬油を合併資本三千萬圓にて今日に至

る。(十五、十一、廿一) グリコ株式會社 大阪市西淀川區御幣島五三。(電)福島四五

五五六一九。グリコ、ビスコ。株式、百萬圓。(代表者)江崎利一。(副社長)江崎誠一。(支配

人)古藤仙藏。(營業)同。(廣告)逸見羊。(經理、庶務課長)細見豐。(販賣)吉武武。(工務)高島靖。(工場長)橫平政一。(代理業)電通。(沿革)大正九年四月大阪西堀江に創業、後昭和六年十二月現在にうつる。(十一、十、廿)

ヤマサ醬油出張所 日本橋區繩場町一ノ四。

圖十五年十一月紀元二千六百年祝典に際し濱口儀兵衛君は從六位に叙さる。

柳屋商店 日本橋通三丁目二ノ一。(電)日本橋六五二。四〇

八九。海苔、饅頭、江戸の華。(代表者)外池誠一。(新聞廣告費)二萬圓。(他廣告費)二千圓

(使用新聞)大毎、大朝、東朝、東日、讀賣、新愛知、福日、京城日報。(代理業)正路喜社、萬年。(十二、十二、一)

山邑酒造株式會社 兵庫縣魚崎町魚崎四五二。(電)代表御影二一〇一。神戸葦合七四五。

株式、五百萬圓。清酒櫻正宗釀造、其他酒類製造賣買。(代表取締役社長)山邑太左衛門。(專務)山邑英一郎。(廣告擔任)小金丸勝次。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、其他全國主要紙廿社。(代理業)大阪東京電

通。(沿革)享保二年の創業、大正八年八月株式會社に組織變更す。(十三、十一、一) 丸金醬油株式會社東京出

店 麴町區丸ノ内三ノ二、二十一號館。(本店香川縣小豆島)。

ブルドック・ソース(食品)株式會社 日本橋區兜町二ノ三

一。(電)茅場町二四二〇一。ブルドックソース發賣。二十萬圓。(代表者)小島伸三郎。(營業)城倉忠美。(支配人)鈴木金次郎。

不二家菓子舖 (合名會社) 横濱市伊勢佐木町一、外銀座二ケ所、新宿、大森。洋菓子、チョコレート、キャンデー、喫茶、食堂。合名。四十萬圓。(代表者)藤井林九衛門。(支配人)藤井要。

(營業)藤井誠司。(廣告)江藤嘉克。(主要幹部)藤井一族。(使用新聞)ジャパニタイムス、東日、朝日、讀賣。(代理業)電通。(沿革)明治四十三年開業。(十一、十、三十)

古谷商店製菓工場 札幌市北六條東十一丁目三九二。(電)三七九〇、一〇八、二〇八。株式、百萬圓。菓子、水飴、製造。(幹部)古谷辰四郎、古谷忠司、古谷譽。(廣告)梅村舜造。(使用新聞)讀賣、都、大朝、大毎、

東奥、秋田魁、新岩手、八戸、北海道タイムス、其他各紙。(代理業)電通、正路喜社。(沿革)創業大正六年。(十五、十一、廿) 小網商店 日本橋區小網町三

丁目五。(電)茅場町一九一八、五四二四一五。合資會社。百五十萬圓。酒、醬油、食料品、問屋、菊華。(社長)笹田傳左衛門。(常務)高梨仁三郎、中野武四郎、中野榮三郎、高崎徳之助。(廣告)小山田亥子三。(支店)二。

(使用新聞)東朝、東日、讀賣、中外、都、國民。(代理業)電通、弘報堂、富士通。(沿革)昭和三年七月一日合資會社改組。(十四、十、廿八) 壽屋 大阪市東區住吉町五二。

洋酒、食料品及齒磨類。株式、二百萬圓。(社長)島井信治郎。(使用新聞)全國約三百社。(代理店)全國知名取扱店全部。 興真牛乳株式會社 小石川區水川下町三四。(電)大塚三五

五、四三四八。牛乳。株式五十萬圓。(代表者)古谷精一。(營業)草刈宗太。(廣告)太田英雄 創立昭和九年五月。

近藤商事株式會社

日本橋區室町二ノ一。(電)日本橋一〇、一三二一四。株式。一百五十萬圓。蜂アード酒外飲食料品數種。(幹部)近藤利兵衛、小山佳兄、清水時松、諸橋心一、土肥尚義、草野豐、淺野綱吉。(廣告)草野豐。(使用新聞)朝日、日外約八十社。(代理業)電通外數社。(沿革)創業明治十四年(十五、十一、廿)

國分商店

日本橋區通一ノ二。利久、洋酒、食料品。(代表者)國分勘兵衛。(代理店)電通、告天社。

江井ヶ嶋酒造株式會社

兵庫縣明石郡大久保町江井ヶ嶋。(電)江井ヶ嶋四、五。株式。百萬圓。酒類釀造販賣。清酒日本魂合成酒天兵、白玉ホワイトワイ、白玉燒酎、白玉味淋、ホーリーウキスキー。(社長)卜部豐太郎。(專務)卜部退三。(支配

愛知トマト製造株式會社

愛知縣知多郡上野町。(電)荒尾三、三六。株式。百萬圓。カゴメケチャップ、カゴメソース、グリーンピース、アスパラガス。(取締役社長)蟹江一太郎。(廣告)川口仲三郎。(新聞廣告費)三萬圓。(他廣告費)二萬圓。(使用新聞)各一流新聞。(代理業)電通、旭廣告、有功社、新興社、其他。(沿革)明治三十二年創業(十五、十二、一)

佐久間製菓株式會社

豐島區池袋一ノ五〇七。サクマドロップ製造販賣。

祭原商店

大阪市東區安土町四丁目。(電)本町五九三(代表)株式。百萬圓。洋酒、和酒、醬油、食料品、罐詰。(社長)祭原邦太郎。(振興部長)水野光太郎(營業)比留田直次。(廣告)野村博。(支店)東京、天津。(新聞廣告費)二萬圓。(他廣告費)一萬圓。(使用新聞)大毎、東日(主として掲載せしめ、罐詰、煉乳統制の結果現在星ソースのみ掲載す。(沿革)先代祭原伊太郎創業今日に到る。(十四、十、末)

麒麟麥酒株式會社

横濱市鶴見區生麥町明神前一七。(電)神奈川三四三一。(出張所)京橋區京橋二ノ四。(電)京橋六一二一。株式。一千萬圓。麥酒、清涼飲料、酵母劑の製造販賣。(社長)伊丹二郎。(專務)磯野長藏。(十三、十一、十)

明治屋東京支店

京橋區京橋二ノ四。(電)代表京橋六一一。和洋酒食料品販賣店。株式。五百萬圓。(社長)磯野長藏。(支配人)相原理作。(營業)同。(廣告)同。(使用新聞)都下全新聞。(廣告取扱)正路喜社、電通、廣

明治製菓株式會社

東京市京橋區京橋二ノ八。(電)京橋四一二四、五一四三。株式。一千一百萬圓。菓子、乳製品、食品(會長)相馬半治。(社長)有島健助。(專務)植垣彌一郎。(常務)福島四一郎、小出義男。(廣告)内田誠。(使用新聞)全國各主要紙。(代理業)電通、東亞、告天社、博報堂、萬年社、弘報堂、正路喜社、八昭堂。(沿革)大正五年創立せる東京菓子株式會社と同年創立の大正製菓株式會社とが大正六年一月合併し、大正十三年九月明治製菓株式會社の資本下に入り明治製菓と改稱、今日に及ぶ、現在販賣機關に明治商店を有す。(十五、十一、廿)

松竹梅酒造株式會社

兵庫縣魚崎町魚崎四〇六。(電)御影三二七七。株式。百萬圓。酒類製造販賣。松竹梅、進軍。(社長)四方卯三郎。(專務)大宮庫吉。(常務)井上信次郎、井上彌兵衛(支店)東京、京都、大阪、神戸、名古屋。(使用新聞)日、滿、支、

各地新聞。(代理業)萬年、大阪電通、創立昭和八年五月。(十三、十一、十)

正田醬油株式會社

群馬縣館林町二二二。(電)二五、二九。株式。百萬圓。(代表者)正田文右衛門。(廣告)多田民次郎。創立大正六年十二月。

森永製菓株式會社

芝區田町二丁目二。(電)三田一一〇一、二九。株式。一千萬圓。菓子及食料品の製造と販賣、ミルクキャラメル、ビスケット、ミゼット、チョコレート、ドロップス、キャンデー他數百種。(社長)松崎半三郎。(常務)大串松次、辻清次郎、白川順。(取締役)渡邊安雄。(配給)齋藤武。(廣告課長)新井靜一郎。(次長)安瀨六郎。販賣會社三十餘社。(使用新聞)東京、大阪、地方百數十社、一箇月最高三頁。(代理業)電通、東亞通信、京華、萬年、正路喜社等。(十五、十一、廿二)

十五年七月森永藥品株式會社を創設、營業劑、ごもスタウトソフト等を發賣す。

同十月營業部長兼廣告課長山崎晴晴君は東海製菓株式會社の常務取締役として轉出し前課長代理新井靜一郎君その後任となる。

鈴木商店

京橋區實町一ノ七。(電)京橋一一三一九、六一七一。味の素、沃度及化學工業藥品、肥料製造販賣、直輸出入商。株式。二千二百萬圓。(社長)鈴木三郎助。(廣告)高木清茂。(廣告部員)東京本社六名、大阪支店五名。(十五、十一、十九)

服裝・雜貨

伊勢丹

四谷區新宿三ノ八。(電)四谷七〇五〇一四。百貨店。株式。四百萬圓。(代表者)小菅丹治。(營業)小菅千代市。(廣告)小沼昇。(新聞廣告費)數萬圓。(代理店)正路喜社、廣告社電通。

服部時計店

(株式會社)京橋區銀座四ノ二。(電)代表京橋

二二一一。株式。二千萬圓。時計製造及販賣。(取締役社長)服部玄三。(取締役)服部正次、篠原三千郎、河田源三、服部武三郎、栗本吉太郎、土方省吾(監査役)松山陸郎、渡邊喜助。(廣告)大塚英史。(使用新聞)東京及大阪にて發行の日刊新聞。(代理業)電通、正路喜社、廣告社。(沿革)明治十四年服部金太郎氏個人經營にて時計販賣業を創め同廿五年時計製造工場精工會を創立、大正六年十月資本金一千萬圓の株式會社となし、昭和十一年六月資本金二千萬圓。(十五、十一、廿一)

伴傳兵衛商店

日本橋區通一丁目九。(電)日本橋二二一七。蒲團、蚊帳、吳服、毛布、雜貨卸小賣。株式。三十五萬圓全額拂込。(取締役社長)山口佐助。(專務)柄澤正三。(常務兼營業)小串勝治(廣告主任)山添美俊。(監査役兼庶務)奥村利一。(外販主任)竹田秀吉。(蒲團主任)藤橋一雄。(吳服主任)大原軍司。(計算主任)山添美俊(使用新聞)東日、東朝、讀賣、中外、報知、

都。(代理業)電通。(沿革)創業文祿年間、三百八十有餘年間現在の所に店舗を構へ蚊帳、寢具の外に吳服を加へ、陸海軍諸官衙、會社銀行工場等の用命を受く。(十二、十二、四)

日本ゴム株式會社

久留米市洗町。(電)代表四五四一。ゴム底履物一切。株式。二千萬圓(社長)石橋正二郎。(廣告)石原亮。(沿革)創立明治二十五年、昭和十二年四月日本足袋株式會社を現稱の如く改む。(十三、二、十四)

西川商店

日本橋區通一ノ七。

(電)日本橋五七一五八〇。蚊帳、蒲團、麻絲、布、モスリノめいせん、子供用品。個人經營(社長)西川吉太。(營業)小西昇六。(廣告)同。(新聞廣告費)五萬圓、其他七萬圓以上。(使用新聞)都下各新聞外全國各新聞。(廣告取扱)正路喜社。(沿革)永祿九年開業。

東横百貨店 澁谷區上通二丁目五五。(電)青山七三五〇。(東横電鐵株式會社)の一部門。衣食住各商品に亘る(百貨店部長兼營業部長)山本知太郎。(庶務)千葉英雄。(營業次長)天春虎一高橋禎二郎。(十三、十一、十)タイガーターラー(合名會社)本店麹町區丸ノ内二ノ二。丸ビル二階。(電)丸ノ内一〇二〇

支店 神田小川町二ノ四。(電)神田二五五。羅紗と洋服商。合資。十萬圓。(代表者)喜多川恒夫。(支配人)奥田宗孝。(營業)同。(廣告)喜多川恒夫。(使用新聞)東日、東朝、讀賣。(代理業)電通、正路喜社。創業大正十二年(十二、十二、三)

大丸 大阪市南區心齋橋筋一。

(電)代表南一三一。百貨店。株式。一千五百萬圓。(社長)下村正太郎。(專務)里見純吉。(取締役)支店 安田孝次郎。(宣傳部長)支店 東條久壽馬。(新聞廣告費)三十五萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、其他。(廣告取扱)萬年、京華、電通。(沿革)創業寶永三年、當初伏見にて吳服を商ふ。享保十一年大阪店開業、同十三年名古屋店開業、同十四年伏見より京都に移轉、元文三年江戸に支店開業、明治四十一年京都と分離して大阪店は株式合資となり神戸店開業、百貨店組織となる。大正五年株式會社となり、昭和六年七月再び京都、大阪、神戸三店を合併し株式會社大丸となる。

高島屋京都支店 京都市下京區丸通り松原上ル。(電)代表下八五七一、一〇。千四百萬圓。百貨店。(支配人)由良一郎(副支配人)八木政太郎。(代理業)京華、萬年、其他。(十五、十一、廿)

同大阪支店 大阪市南區長堀橋筋。代表者)飯田新七。(支

配人)川勝堅一。(營業)倉橋反四郎。(廣告)齋藤菊三。

同東京支店 日本橋區通二ノ五。(支配人)川勝堅一。百貨店(宣傳)松浦英吉。

(電)南代表三三一。株式。四百萬圓。百貨店。(使用新聞)大朝、大毎、夕刊大阪、大時、其他。(代理業)大阪電通、旭廣告、新興社。(沿革)天保初年大和の人十合伊兵衛氏に創まり古着屋より明治六年三代伊兵衛氏の代に心齋橋筋澁谷通に新店舖開きて吳服店を營ふ明治廿九年百貨店式に改む、同四十四年合資會社となり、大正八年株式とし、昭和四年洋式建築に改め八年更に現在の新築に着手し十二年第三期工事を完了。(十三、十一、十)つちやたび株式會社 久留米市白山町六〇。(電)四四二一五。つちやたび。つちや地下足袋、月星靴各種、月星地下足袋。三百萬圓(佛込濟)。(專務)取締役)内海軍治。(支配人)田中龍二。(沿革)明治六年の創業大正六年三月合名會社に組織變

更、次で昭和六年三月株式會社に變更。(十一、十、廿七)

山梨水晶株式會社 甲府市春日町。(電)甲府二〇八一、三六八八。十五萬圓。水晶其他寶石裝身具印章等。(幹部)水澤良知。(廣告)同。(新聞廣告費)約五千圓。(他廣告費)五萬圓(代理業)萬年其他。創業昭和三年七月。(十四、十、卅)

松屋吳服店 京橋區銀座三丁目。(電)京橋代表三一、四一、五一、五一一。株式。五百萬圓。百貨店。(社長)古屋德兵衛。(常務)古屋德太郎、山本龍造。(營業)小松清剛。(廣告)宮崎彦治郎。(使用新聞)日刊東京各紙。(代理業)有名取次六社。(沿革)明治二年創業、大正八年株式に改組、同十四年銀座開店(十三、十一、十二)

松山合名會社 名古屋市東區清水三丁目三五。(電)東六二一九。合名會社。八萬圓。新古洋服靴雜貨。(幹部)松山圓彌、圓屋藤美、阿波才一郎、渡邊數馬。(廣告)松山圓彌。(新聞廣告費)五萬圓。(他廣告費)三萬圓。(使

用新聞)全國各新聞。(十四、十、廿八)

松坂屋 上野廣小路。(電)下谷一〇一一。百貨店。株式。一千五百萬圓。(社長)伊藤松之助。(專務)小林八百吉。(上野店)牧野長兵衛。(上野店宣傳部長)飯田美稻。(新聞廣告費其他)上野店のみで三十萬圓。(使用新聞)東京全紙。一箇月總契約一萬二千行。(代理業)電通、博報堂。(沿革)慶長年代創業。(十一、十、卅)

同大阪支店 大阪市南區日本橋筋三丁目。(電)戎三〇〇三。百貨店。(支店長)塚本鉢三郎。(營業)松岡正禮。(廣告)白根富(新聞廣告費)二十萬圓。(使用新聞)大阪六紙、大朝、大毎、各一箇年七萬行。(代理業)電通、萬年、京華、旭廣告。(沿革)名古屋本店慶長十六年創業、大阪支店大正十二年創業。(十三、十一、十)

萬崎洋服店 神田區神保町一ノ一一。(電)神田一八九二一四。洋服生地輸入販賣製造。株式。十萬圓。(代表者)矢幡健五。(廣

告)武智基。(新聞廣告費)二萬五千圓。(使用新聞)東朝、東日、報知、毎夕、タイムス其他。(代理店)正路喜社。

福助足袋株式會社 堺市南安井町二丁目五〇。(電)堺二八五、一五五〇一二。五百萬圓。佛込濟。福助足袋、福助地下足袋、福助靴下、エンパイアミシン(社長)辻本英一。(營業)辻本幸治。(沿革)明治十六年創業大正八年株式組織。(十四、十、卅)

三越 日本橋區室町一丁目。百貨店。株式。三千萬圓。(取締役)會長)中村利器太郎。(專務)北田内藏司。(常務)櫻井信四郎。(仕入)飯野三三。(營業)豊泉益三(販賣)茂木作太郎。(廣告)宮崎博。(使用新聞)本店及銀座新宿支店は東京新聞全紙、地方の支店は地元有力紙。(廣告取扱)電通、廣告社、豐國、博報堂。

三越大阪支店 大阪市東區高麗橋。(電)北濱三五四一、五五〇一、五五五一。株式。三千萬圓。百貨店。(支店長)瀧長良直(次長)三輪邦太郎。(廣告)井口榮藏。(使用新聞)大阪市内發行

機器

の各日刊新聞。(代理業)萬年、電通、京華。(十五、十一、廿二)

イリス商會 (株式會社) 麴町區丸ノ内一ノ一帝國生命館。(電)丸ノ内二二六一九。株式。二百萬圓。諸機械器具、其他の輸出入並に之に關する業務。(社長)ルードルフ、ヒルマン、ワルテル、ベツケル。川路俊徳。(沿革)遠く安政年間より貿易に従事し明治初年イリス商會を創立し、大正十一年五月株式會社となれり。(十五、十一、廿)

岩谷冷蔵株式會社 京橋區銀座一ノ三。(電)京橋五四五〇一三、四八〇〇、四九〇〇。株

式。四十萬圓。冷蔵庫、冷凍機、理容椅子、學校用品、ストロブ、運動具、衛生工事。(專務)長田源一。(支配人)守屋伯雄。(廣告)南波全正。(支店)三。(新聞廣告費)約二萬圓。(他廣告費)約八千圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、中外、都、報知、國民、大朝、大毎、他地方紙。(代理業)直接、電通、博報堂、豐國、萬勉、廣告社。(沿革)明治四十年四月創業、(岩谷松平)大正十五年九月株式組織に變更。(十三、十一、十)

池貝鐵工所 (株式會社) 麴町區有樂町一ノ十一。(電)丸ノ内五一六一八。株式。二千萬圓。工作機械並に燃機關の製造販賣。(專務)取締役社長)池貝庄太郎。(取締役)副社長)千葉恒次郎。(使用新聞)中外商業。(代理業)電通。(沿革)明治二十二年故池貝庄太郎個人創業、大正二年四月一日、株式組織。(十五、十一、廿五)

伴野貿易株式會社 京橋區銀座六ノ四。(電)銀座二二一九、二八二四。小型活動寫眞機製造

販賣、化粧品雜貨の輸出入。株式。五十萬圓。(社長)伴野文三郎。(營業)山田豐志知。(使用新開)朝日、日日、讀賣。(廣告取扱)電通。

日本ポリドール蓄音器株式會社

日本ポリドール蓄音器株式會社。日本ポリドール販賣株式會社。大森區堤方町二一五。(電)大森九五〇一四。株式。百萬圓。五十萬圓。レコード製造販賣、ポリドールレコード。(社長)鈴木幾三郎。(監査役)岩崎久雄。(取締役)河野通視、勝間外次郎、鈴木ゆき子、田中繁雄。(廣告)笹井壽雄。(使用新開)主要新聞全部。(代理業)電通、正路喜社、京華其他。(沿革)創業昭和二年五月十四日。(十五、十一、廿一)

日本蓄音器商會

日本蓄音器商會。神奈川縣川崎市久根崎。(東京事務所)麴町區内山下町一ノ一。蓄音機一般、コロムビアレコード、リガールレコード、ラツキレコード。(代表者)三保幹太郎。(營業)武藤與市。(廣告)内本政男。(新聞廣告費)五萬圓。(使用新開)東日、東朝、報知、國民、地方有

力紙。(代理店)電通。

日本樂器製造株式會社

日本樂器製造株式會社。濱松市中澤町二五〇。(電)濱松代表三六五〇。株式。八百七十五萬圓。山葉ピアノ、オルガン、蝶印ハーマニカ、ヤマハ、アコーデオラ。(社長)川上嘉市。(常務)林慶吉。(業務)萩原貞司。(代理業)電通、正路喜社、萬年。創業明治二十年。(十四、十一、三)

日本タイプライター株式會社

日本タイプライター株式會社。京橋區實町一ノ二。(電)京橋四一六一五。(營業科目)邦文タイプライター、其他。株式。五百萬圓。(代表者)櫻井兵五郎(廣告)田中熊次郎。(廣告費概算)二萬圓。(廣告取扱)電通、廣告社。(沿革)大正三年發明、同四年日本書字機商會設立、同七年株式組織に變更現在に至る(新聞製作材料業一覽にもあり)(十一、十、三十)

日本ナショナル金銭登錄機販賣株式會社

日本ナショナル金銭登錄機販賣株式會社。京橋區銀座三丁目。(電)京橋五一六七一九五一六〇。七十五萬圓。(代表者)R.W.バーマン。(廣告)山

本鶴之輔。

日本ビクター蓄音器株式會社

日本ビクター蓄音器株式會社。本社、橫濱市神奈川區守屋町。(電)代表神奈川二七二一(廣告部所在)神田區今川橋際太平ビル五階。(電)神田二一三一一九。株式。一千萬圓。ビクターレコード、蓄音器、ラヂオトーンキー、發聲裝置、テレビジョン(社長)山口喜三郎。(事務)伊東亮。(常務)岡庄五。(廣告)峰村幸三。(使用新開)全國有力紙五十紙殖民地紙二十紙。(十四、十一、三)

日産自動車販賣會社

日産自動車販賣會社。麴町區丸ノ内、永樂町岸本ビル。(電)丸ノ内四四〇一一九。自動車販賣。株式。五百萬圓。(會長)村上正輔。(事務)朝倉每人(使用新開)東京八紙、大阪二紙、地方百餘紙。(廣告取扱)電通、他二。(沿革)昭和八年十二月創業東洋唯一最大の自動車大量生産設備を有し、國產自動車を生産する日産自動車の販賣機關として昭和十二年創立。ハウスオーガニ「自動車」を月刊す。(十五、十二、一)

堀井膽寫堂

堀井膽寫堂。神田區鍛冶町二ノ二。(電)神田四二二一六。堀井膽寫版一般輸出入業。(代表者)堀井新治郎。創立明治二十七年七月。

東西電球株式會社

東西電球株式會社。麴町區有樂町一ノ三。(電)丸ノ内四五二一、五一四五。五百萬圓。電球(トウランプ)電氣機械器具、工業用諸材料、化粧品(取締役社長)益田元亮。(取締役營業)森松藏。(同次長)工藤達一。(宣傳)富島一夫。(使用新開)東朝、東日、讀賣、大朝、大毎、新愛知、名古屋、福日、北海タイムス、函館、河北、中國、京日、毎日新聞、臺日、臺日報、臺新民、九日、土陽、其他。(代理業)電通、萬年、博報堂、豐國。(沿革)昭和十年七月一日創業。(十五、十一、廿一)

東京電氣株式會社

東京電氣株式會社。川崎市掘川町七二。マツダ電球、積算電力計、電流制限器、配線材料、配線器具類、外照器具、ラヂオ用機械器具、家庭用電氣器具、醫療用器械類、キバ體溫計等。株式。四千二百萬圓。(事務取扱

締役社長)山口喜三郎。(營業)清水與七郎。(廣告)小西秀麿。(使用新開)日本全國百新聞。

東京ミシン製造株式會社

東京ミシン製造株式會社。京橋區京橋一ノ三。(電)京橋九七八九一九八二。國產ミシン製造並に販賣。株式。百五十萬圓。(事務)前田郁。(營業)寺崎憲太郎。(廣告)村上義雄。(新聞廣告費)五萬圓。(使用新開)中外讀賣、都、朝日、東日、大朝、大毎、北海タイムス外。(代理業)博報堂、電通、中外廣告。(沿革)創業四ヶ年。(十二、十二、一)

東京自動車工業株式會社

東京自動車工業株式會社。品川區東品川五丁目六一。(電)高輪三二一〇一五。薪炭瓦斯自動車「いすゞ」製作所。株式三千五百萬圓。

大倉金庫本店

大倉金庫本店。日本橋區本町二丁目七。(電)日本橋八三二、二七八二、二七八五。合名會社。十萬圓。金庫、防火扉。(代理業)豐國。創業明治五年。(十四、十、廿八)

岡崎工業株式會社

岡崎工業株式會社。京橋區銀座五ノ一。(電)銀座九〇八、

九〇九。富士自轉車發賣元、其外自轉車並附屬品卸商。株式。二百萬圓。(代表者)岡崎久次郎(支配人)守屋千里。(本店は直接販賣に當らず)(總務)菅野健介(廣告)菊島菊丸。(使用新開)全國。(廣告取扱)電通、廣告社、正路喜社、告天社、京華。(沿革)昭和十五年十月日米商店を岡崎久治郎君社長とし岡崎工業株式會社と改稱す。

川北電機企業社

川北電機企業社。大阪市旭區今福町二〇三。各種電機機器具製造、電氣土木工事設計監督請負、電氣企業投資。(代表者)岩崎。

竹内金庫店

竹内金庫店。日本橋區馬喰町二ノ一。(電)浪花五一六〇一二。竹内式金庫。(代表者)竹内太郎

七歐無線電氣商會

七歐無線電氣商會(株式會社)。(本社)麴町區内幸町大阪ビル内。(營業所)麻布區東町二六。(電)三田三二七七八、三五七六。ラヂオ受信機及無線機器材料。株式。廿萬圓。(社長)七尾菊良。(新聞廣告費)七千五百圓。(他廣告費)五千圓。(使用新開)東朝、東日、讀賣。(代

理業)博報堂。(十一、十、廿八)野村商會。芝區田村町四ノ六合資會社。(電)芝三五五六、六八六。ミトクホイラー發賣元。東日、東朝、讀賣其他。

山岡内燃機株式會社

山岡内燃機株式會社。大阪市内北區茶屋町六二(工場)兵庫縣神崎驛前。(電)大阪豊崎一〇、一三一六、東京銀座四〇、五〇株式。八百萬圓。ヤンマーガゼルエンジン、ヤンマー石油發動機。(社長)山岡孫吉。(事務)村上廣三。(取締役)仲松太郎、前川眞一、更谷眞清。(廣告)本社、大井永。(新聞廣告費)參萬圓。(他廣告費)一萬圓。(宣傳費)十萬圓。(使用新開)大朝、大毎、東朝、東日、讀賣、地方有名新聞。(代理業)東京豐國、大阪旭廣告。(沿革)創業明治四十五年一月。(十五、十一、廿一)

山口自轉車工場

山口自轉車工場(工場)向島區吾嬬町西五ノ一七。(電)墨田二四五三。(營業所)日本橋區小傳馬町三ノ一。(電)浪花四三三五、四七七二。鋼鐵製全廻轉部防水式、山口自轉車、製造販賣。個人經營。百萬圓。(代表者)山

口重彦。(支配人)市來政光。(廣告)石川正治。(新聞廣告費)十二萬圓。(他廣告費)六萬圓。(使用新開)全國。(代理業)電通、旭廣告、新興社、京華、豐國。(沿革)創業廿五年全國に七十餘の配給所を設置、その管轄に全國五千軒の代理店を有す。(十四、十一、一)

小西六(株式會社)

小西六(株式會社)。日本橋區室町三丁目一。(電)日本橋四一八一九。株式。七百萬圓。寫真器械材料。(社長)杉浦六右衛門。(事務)杉浦千之助。(常務)杉浦勇、渡邊由三郎。(廣告)小石龜次郎。(代理業)電通。創業明治初年。(十四、十、廿八)

後藤金庫本店

後藤金庫本店。京橋區西八丁堀二丁目六。(電)京橋一〇五八。個人。十萬圓。金庫、防火扉、御眞影奉安庫、鋼鐵家具。(廣告)後藤儀三郎。(新聞廣告費)六千圓。(他廣告費)四千圓。(使用新開)東日、讀賣、朝日、一欄六十行位。(代理業)電通。(沿革)明治二十一年四月創業。(十四、十、廿九)

帝國蓄音機株式會社

京橋

區木挽町一丁目三。(電)京橋五
六九、七〇一〇。(吹込所)杉並
區堀の内一丁目二〇五。レコー
ド製作販賣。

帝國ミシン株式會社

日本
橋區江戸橋一ノ二。(電)日本
橋四六九四、四八五六。國産蛇
の目ミシン。株式。一百萬圓。
(社長)小野連三。(專務)小瀬與
作。(取締役)小宮山武嘉。
(廣告)島田卓彌。(新聞廣告費)
十萬三千圓。(他廣告費)四千圓
(使用新聞)東京、大阪各紙其他
地方紙。(代理業)電通、博報、
内外、八紘其他。(沿革)大正十
年創業本邦最初の世界標準型足
踏ミシンの製作を創始し、年額
輸出五千臺國內販賣七千一萬
二千臺に達す。

淺沼商會

日本橋區室町三ノ
三。寫眞機械、活動寫眞機、理
化學用機械、賣藥及製藥。度量
衡。合資。五十萬圓。(代表者)
淺沼治。(支配人)菅保男。(營業)
加信藤夫。(廣告)寺井小七郎。
(新聞廣告費)三千圓。(代理店)
正路喜社。(新聞製作材料業一
覽)にもあり。

新聞の廣告掲載は仕入先にて
營商會の名義を掲げて廣告す。
佐倉金庫店 京橋區西八丁堀
二ノ六。高級金庫販賣。

宮田製作所

蒲田區東六郷二
ノ一九。(電)蒲田三九二一—三
自轉車、自動自轉車、自動車、
航空機、其他一般車輛。株式。
五百萬圓。(取締役)宮田榮
太郎。(販賣)宮田敏夫。(支配
人)岡本英。(沿革)創業明治十
四年、分工場千葉縣大多喜町。
十字屋 (株式會社) 京橋區銀
座三ノ二。(電)京橋代表六二一
六。株式。四十八萬圓。樂器。
(幹部)倉田菊次郎、高部永吉。
(廣告)倉田菊次郎。(使用新聞)
朝日、日日、讀賣、報知、國民
部、毎夕。(代理業)電通、正路
喜社、八紘社、清水新報社。(沿
革)明治六年創業、昭和十二年株
式會社に改組。(十五、十一、廿)
日立製作所 (株式會社) 丸ノ
内二ノ二〇。(電)丸ノ内二三六
二(八)、三一三二(六)、二五九
一(八)、三五一一(六)。株式。
二億四百五十萬圓。製品概目發
變電所用、鐵道車輛用、土木建

築用、鐵山炭坑用電氣諸機械、
船舶用、化學工業用、通信用諸
機器、家庭用諸器、電線及電纜
鐵管繼手類、ロール及ロール機
可鍛鐵鑄鋼、特殊鋼鍛鋼。(會
長)鮎川義介。(社長)小平浪平。
(專務)高尾直三郎。(常務)馬場
兼夫、秋田政一。(廣告)江野島
尚二郎。(支店)九。(代理業)電
通。創業明治四十二年。(十四、
十、廿八)

森田製作所

大阪市港區池田
町四ノ一。森田式消防用ガソリ
ン自動車ポンプ。起重機、消火
器、噴霧器、其他。(代表者)名
和陽一郎。

守谷商會(株式會社)

日本橋區
吳服橋三丁目三。(電)代表日本
橋三二五一一六。株式。百五十萬
圓。各種機械、電動機、調革、ゴ
ム製品、電氣工事請負。(幹部)
守谷正毅、須藤輝一、久野正吉、
渡邊藤一、井上與三郎、太田保
當千治、松茂松之助、守田節見。
(新聞廣告費)千五百圓。(使用新
聞)業界紙。(沿革)明治三十四
年。(十四、十一、一)
ゼブラ工業株式會社 荒川

區三河島町四ノ三三二七。(電)
下谷一五二〇、三一〇九。株式。
二十萬圓。自轉車製造及軍需品
下請。(幹部)高橋長吉、北川角
藏、島海勝太郎、島海角太郎。
(廣告)植松保。(代理店)三百有
餘店。(新聞廣告費)六千圓。(他
廣告費)四千圓。(使用新聞)東
日、讀賣、中外。(代理業)電通
衆報社、豐國。(沿革)大正七年
南千住町ゼブラ自轉車製作を初
め同十一年現地に工場を新築株
式會社とす。(十四、十、廿八)

杉山商店

大阪市西區立賣堀
南通二丁目。(電)新町九〇一—
四、三一二七。農、工、鑛、土
木用諸機械、セメント、諸雜貨。
二十萬圓。(代表者)杉山武夫。
(廣告)吉坂泰太郎。(新聞廣告
費)五萬圓。(使用新聞)大朝、
大毎、東日、東朝、國民、讀賣
其他、地方新聞全般。(代理業)
大阪電通、旭廣告、萬年、本社
直接。創業明治五年。(十二、十
二、一)

演藝

日本活動寫眞株式會社

京
橋區京橋三ノ一。(電)京橋二
一二二一九。映畫製作配給。八
百萬圓。(社長)松方乙彦。(營業)
田村榮一。(常務)堀久作、石井
常吉。(廣告)大久保謙治。(新
聞廣告費)十二萬圓。(他廣告
費)十二萬圓。(使用新聞)東朝
東日、讀賣、報知、國民、部、
中外、毎夕、中央、やまと、帝
國、毎毎。(代理業)電通、正路
喜社。(沿革)大正元年。

東京寶塚劇場(株式會社)

麴
町區有樂町一丁目三ノ四。(電)
丸ノ内五六二〇—四、四五六七
一九、三七三一—二、三七〇一
一。株式。六百九十二萬圓。
演劇映畫其他各種興行、娛樂
機關の經營、食堂の經營。(取締
役會長)淺澤秀雄。(社長)吉岡
重三郎。(專務)秦豐吉。(取締役
支配人)那波光正。(業務)三橋
哲夫。(廣告課)水田文雄。(新聞
廣告費)百萬圓。(他廣告費)四
十萬圓。(使用新聞)東朝、東日、
讀賣、報知、都、國民、中外、
大朝、大毎、名古屋、新愛知、
名毎、神戸、日ノ出、其他地

方新聞(代理業)電通

(沿革)
昭和七年八月十二日創立、同九
年一月一日營業開始、日本劇場
合併、帝劇合併。(十五、十一、
廿二)

松竹株式會社

京橋區新富町
三ノ五。(電)代表京橋四一三一
劇場經營。映畫製作配給。三千
七百四十萬一千二百五十圓。(社
長)大谷竹次郎。(專務)城戸四
郎。(歌舞伎座係)坂入英雄。明
治座係)細谷辰雄。(東京劇場係)
潮崎佐一。(新歌舞伎座係)森脇
辰夫。(宣傳課長)佐藤德三郎、
齋藤爲之助、平尾郁次、川口三
郎、淺利鶴雄。(廣告費)十二萬
圓。(代理店)正路喜社、電通。
新橋演舞場 京橋區木挽町六
ノ九。(電)銀座八一七、三七五
六。興業。株式。二百萬圓。(代
表者)川村德太郎。(支配人)金
子秀吉。(廣告)石川木舟。(代理
業)弘報堂。
新興キネマ株式會社 京橋
區八丁堀二丁目三ノ三。(電)京
橋(代表)五一七一。活動寫眞映
畫製作、活動常設館の經營及貨
販賣。株式。四百廿五萬圓。

龍造寺三枝(宣傳)水谷

主水。(總務)内田錦一。(經理)
加賀二郎。(新聞廣告費)約三萬
七千圓。(他廣告費)約三萬六千
圓。(使用新聞)朝日、日日、讀
賣、報知、國民、中外、都、毎
夕、他數社。(代理業)電通。(沿
革)昭和六年八月卅一日資本金
二十萬圓を以て創立爾後逐次増
加し帝國キネマ演藝株式會社等
を合併し現在に至る。

阪神電氣鐵道株式會社

大
阪市北區梅田町十四。(電)北六
三。九千五百萬圓。(代表者)今
西與三郎。(支配人)細野躋。(廣
告)前田純一。創立明治三十二
年六月。
阪神急行電鐵株式會社 大
阪市北區角田町四一。(電)北三
四〇〇、三四三〇、八〇一〇。
五千五百萬圓。電鐵(電輪)百貨
店、寶塚新溫泉、土地經營、電
燈。(社長)佐藤博夫。(專務)岩
倉具光。(總務)新海哲之助。(調
査)島津幸太郎。(百貨店)林藤

之輔(使用新聞)大毎、大朝及

大阪市内諸新聞一箇月三萬行以
上。(代理業)電通、京華。(沿革)
明治四十三年三月電鐵營業開始
昭和四年四月百貨店開店。(十
三、十一、廿)
日本海汽船株式會社 麴町
區內幸町大阪ビル内。(電)銀座
一四六、三六一。日本海航路。
日本郵船株式會社 麴町區
丸ノ内二ノ二〇。(電)丸ノ内二
五一一、二五二一、二五三一、
株式。一億六百二十五萬圓。(代
表者)大谷登。(廣告)永島義治。
創立明治十八年十月一日。
東武鐵道株式會社 本所區
小梅一ノ二。(電)墨田三一〇二
三一四。株式。五千五十萬圓。
鐵道運輸。(幹部)吉野傳治、畑
中四郎、原邦三、根津啓吉、前
田利定、中川正左、宇都宮政市
須田宣。(新聞廣告費)四萬圓。
(他廣告費)三萬圓。(使用新聞)
東朝、東日、讀賣、都、報知、
中外、國民。(代理業)數社。(十
三、十一、十三)
東亞海運株式會社 東京驛
前丸ビル二階。(電)丸の内六二

五二二。橫濱支店中區海岸通五ノ二六。(電)本局一〇〇、二八二四。東亞航路。

東京地下鐵道株式會社 神田區須田町一ノ一六。(電)神田二一六一一五。鐵道運輸、地下鐵、自動車兼營。株式四千萬圓。(支配人)高木謙吉。(設立)大正九年十月。

東京灣汽船株式會社 芝浦八號地。(電)三田二一四一七。東京灣遊覽航及運輸業。四百萬圓。(取締役社長)吉野傳治。(專務)鈴木富太郎。(經理)益子智。(運輸)橋爪三郎。(船客兼廣告)森義男。(新聞廣告費)五萬圓。(他廣告費)三萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、其の他。(代理業)電通、正路喜社、其の他。(十二、十二、一)

東京橫濱電鐵株式會社 澁谷區大和田一。(電)青山七五五〇。電鐵運輸、自動車、百貨店兼營。(代表者)五島慶太。(設立)大正十一年九月。

東京高速鐵道株式會社 赤坂區表町二ノ一五。(電)赤坂二一八七。地下鐵運輸業。株式。

三千萬圓。(代表者)門野重九郎。(設立)昭和九年九月。

小田原急行鐵道株式會社 澁谷區千駄ヶ谷町五ノ八六二。(電)四谷七七一一。電鐵運輸、土地砂利販賣。株式三千萬圓。(代表者)利光鶴松。(設立)大正十二年六月。

大阪商船株式會社 大阪市北區宗是町大阪ビル。(電)土佐堀六七〇〇一七。東京支社麴町區內幸町大阪ビル。(電)銀座三一三一八。海運業。株式一億圓。(代表者)村田省藏。(設立)明治十七年五月。

王子電氣軌道株式會社 豐島區西巢鴨三ノ九六五。(電)大塚四四五一十。電鐵運輸、乘合バス、電燈電力供給。株式二千四百萬圓。(代表者)本間利雄。(設立)明治四十三年四月。

名古屋鐵道株式會社 名古屋市中區黃金町三ノ一四。(電)長者町二七二一。電鐵運輸、自動車兼營。株式一千一百萬圓、京濱電鐵の子會社。(代表者)會長望月軍四郎。(社長)生野團六。昭和二年九月。

湘南電氣鐵道株式會社 橫濱市中區黃金町三ノ一四。(電)長者町二七二一。電鐵運輸、自動車兼營。株式一千一百萬圓、京濱電鐵の子會社。(代表者)會長望月軍四郎。(社長)生野團六。昭和二年九月。

博忠。(廣告費)二十萬圓。(使用新聞)名古屋新聞、新愛知、大每、大朝。(沿革)明治三十九年設立、昭和十年八月一日、(名岐鐵道、愛知電鐵と合併)名古屋鐵道株式會社と改稱す。(十四、十、廿九)

南海鐵道株式會社 大阪市南區難波。(電)戎四二一八。株式七千萬圓。交通業、電氣業等。(社長)寺田甚吉。(專務)中山隆吉。(支配人)小原英一。(新聞廣告費)數萬圓。(他廣告費)數十萬圓。(使用新聞)大朝、大每、夕刊大阪、大時、大阪日日、關中等一箇月數段。(代理業)旭廣告。(沿革)明治十八年十二月二十七日開通以來五十年餘。(十三、十一、十四)

南滿洲鐵道株式會社 大連市東公園三〇。(電)大連本局二〇一〇八。鐵道運輸並炭礦等。八億圓。(總裁)大村卓一。(理事)郡山智、佐々木謙一郎、宇佐美實爾、佐藤應次郎、阪谷希一、中西敏憲、武部治右衛門、久保孚。(監事)大橋新太郎、小倉正恒、原邦造、安宅彌吉、森

廣藏。創立明治三十九年十二月七日。

同東京支社 赤坂區榮町二。(電)赤坂二一一一。(大阪支社)堺筋安土町。(電)本町一七〇〇、一七〇一。

武藏野鐵道株式會社 埼玉縣入間郡飯能町。電鐵運輸、電燈電力、自動車兼營。株式一千二百萬圓。(代表者)山名義高。(設立)明治四十五年五月。

京王電氣軌道株式會社 四谷區新宿三ノ四八。(電)四谷三一三一四。電鐵運輸、電燈電力供給事業。株式一千二百九十萬圓。(會長)井上篤太郎。(社長)穴水熊雄。(營業)渡邊孝。(設立)明治四十三年九月。

京濱電氣鐵道株式會社 (本社)川崎市堀川町二九ノ一、(本社事務所)芝區高輪南町一七。(電)高輪一三〇九、一三三五、三七〇七。株式。千五百萬圓。電鐵運輸業、自動車營業、土地、運河經營。(取締役會長)望月軍四郎。(取締役社長)生野團六。(專務)菟田成亮。(取締役)小川市太郎、田中百敏。(監查役)井

坂孝。(廣告費)二萬圓。(使用新聞)東日、東朝、讀賣、都、報知、國民、中外、其の他。(代理業)電通、正路喜社、博通社、春光堂。(沿革)明治三十一年三月十七日創立。(十三、十一、十八)

京成電氣軌道株式會社 本所區向島押上町二〇三。(電)墨田六一〇、六一一、六一二、二四二。四千五十萬圓。(藥品部)京成シミツール、シミツールクリム。(幹部)日下正見、岡野幸太郎、新田眞一。(廣告)日下正見。(新聞廣告費)八萬圓。(他廣告費)二萬圓。(使用新聞)讀賣、朝日、日々、中外、都、報知、其他地方新聞各種。(代理業)(主に)電通。其他二三。創業明治四十二年七月、藥品部は滿二年。(十四、十一、一)

京都電鐵株式會社 澁谷區千駄ヶ谷町五ノ八六二。(電)四谷七七一一。電鐵運輸、自動車兼營。株式。一千二百萬圓。小田原急行の子會社。(代表者)利光鶴松。(設立)昭和三年九月。

參宮急行電鐵株式會社 大

阪市天王寺區上本町六ノ一、電鐵、地所建物。株式四千五百萬圓。(代表者)種田虎雄。(設立)昭和二年九月。

西武鐵道株式會社 澁橋區下落合二丁目二三三八。(電)大塚三一六六一七、三九一三。株式七百八十萬圓。鐵道軌道、自動車運輸事業。(取締役社長)大島清。(專務)戶塚昌宏。(取締役支配人)岩瀬梯。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、報知、都、中外。(代理業)電通、弘報堂、春光堂、博通社、正路喜社。(沿革)大正十一年八月十五日創立。資本金六百萬圓、十五年十月一日増資、資本金千三百萬圓、昭和十三年十一月二十一日減資。(十四、十、廿八)

日本勸業銀行 麴町區山下町一ノ一。銀行業。株式。一億四百五十萬圓。(新聞廣告費)七萬六千四百圓。其他一萬五千六百圓。(使用新聞)東朝外百六十二紙。(代理業)電通、外八店。

日本興業銀行(株式會社) 麴町區丸ノ内一ノ八。(電)丸ノ内二五一、二六一。株式。五千萬圓。(代表者)實來市松。

第一銀行(株式會社) 麴町區丸ノ内一ノ一。(電)丸ノ内一五一。銀行業務一般。株式五千七百五十萬圓。(代表者)明石照男。(營業)小平省三。(廣告擔當)竹内精一。(設立)明治六年六月。

第百銀行(株式會社) 日本橋區通一ノ一。(電)日本橋一四一。銀行業務一般。株式三千八百九十八萬八千五百圓。(代表者)關根善作。(設立)明治十三年三月。

名古屋銀行(株式會社) 名古屋市中區榮町一ノ一。(電)代表本局二一三一。二千六十萬圓。一般銀行業。(頭取)井倉和雄。(常務取締)鈴木廣二、藤野菊雄、菅野直一、安藤時宗。(取締役)森本善七、恒川義夫、加藤泰次

野村銀行(株式會社) 大阪市東區備後町二丁目。銀行業務一般。株式一千萬圓。(代表者)野村元五郎。(設立)大正七年五月。

安田銀行(株式會社) 麴町區大手町一ノ六。(電)丸ノ内代表三四五一、三四六一。一般銀行業務。株式。一億五千萬圓。(取締役頭取)安田一。(營業)日置秀雄。(十二、十二、五)

安田貯蓄銀行(株式) 東京市日本橋區室町三丁目一。(電)日本橋代表五一九一七。株式。五百三十萬五千圓。貯蓄銀行法ニ基ク業務。(幹部)安田善五郎、齋藤順三、林常次郎、安田孝一郎、安田新、安田楠雄、安田彦太郎。(庶務)關路太郎。(使用新聞)朝日、東日、報知、中外、都、讀賣、國民。(代理業)電通廣告社、三芳社。(沿革)創業明治二十九年九月拾六日。(十五、十一、廿五)

安田信託株式會社 日本橋

銀行・信託

區吳服橋三ノ一。(電)日本橋三三八一六。信託業。株式三千萬圓。(代表者)安田善五郎。(設立)大正十四年。

不動貯金銀行 東京市芝區宮本町三十四。(電)芝一一二五外九。株式八百萬圓。貯蓄銀行業。(頭取)牧野元治郎。(副頭取)寺本五郎。(常務)牧野司郎、小田強次。(取締役兼各部長)天沼熊吉、清野天範、北村喜照、北田哲郎。(廣告)八木勳。(新聞廣告費)三萬圓。(使用新聞)大朝大每、東日、東朝、外各地方新聞。(代理業)電通、弘報堂、東京通信、萬年。(沿革)創業明治三十三年九月十日。(十五、十一、廿一)

鴻池信託株式會社 大阪府東區北濱五ノ三一。(電)北濱五四三三四、五九六六一九。二千萬圓。(東京支店)丸ノ内海上七。(電)丸ノ内三四八五一七。(支店長)杉村英三郎。(廣告)都倉一男。

愛知銀行(株式會社) 名古屋市西區御幸本通。銀行業務一般。株式一千五百萬圓。(代表者)渡邊義郎。(設立)明治二十九年三月。

三和銀行(株式會社) 大阪府東區今橋三。(電)今橋三。株式一億七百萬圓。(代表者)中根貞彦。(設立)昭和八年十二月。

共同信託株式會社 大阪府東區今橋三。(電)北濱代表三四〇一。(東京支店)麴町區內幸町一。(代表者)新池恭三。(營業)高山潤三郎。株式。三千萬圓。創立昭和二年七月七日。

三井銀行 日本橋區室町二ノ一。株式。(代表者)三井源右衛門。(新聞廣告費)四萬八千圓。(使用新聞)東朝、東日、報知、中外、經濟關係雜誌。(代理店)東京通信、電通。

三井信託株式會社 東京府東京市日本橋區室町二丁目一。(電)日本橋三一八一。三千萬圓信託業。(取締役會長)松井和宗(常務)島田盛雄、竹内福藏。文書係主任)石坂直正。(使用新聞)朝日、日日、讀賣其他。代理業(電道、弘報堂、京華、告天社其他。(沿革)創業大正十三年三月二十五日。(十五、十一、廿二)

三菱銀行(株式會社) 麴町區丸ノ内二ノ五。(電)丸ノ内代表二二三一一二二四一、長距離代表二二三九。銀行業。株式。一億圓。(代表者)瀨下清。(本店營業)丸山秀彌。

三菱信託株式會社 麴町區丸ノ内二ノ六。(電)丸ノ内二八〇一三。(代表)山室宗文。(營業)速水量平。(廣告)庶務課。三千萬圓。創立昭和二年三月。

住友銀行(株式會社) 大阪府東區北濱五ノ二二。(電)代表北濱二〇六、二二二、三八〇一。(代表)八代則彦。株式。七千萬圓。創立明治二十八年十一月一日。

住友信託株式會社 大阪府東區北濱五。信託業。株式。二千萬圓。(代表者)小倉正恒。(設立)大正十四年。

板谷生命保險株式會社 東京市日本橋區吳服橋。(電)日本橋一二二五八、二二九五五六。株式。壹百萬圓。生命保險業。

日本生命保險株式會社 大阪府東區今橋四丁目。(電)北濱二一九。參百萬圓。(社長)成瀬達。(常務)中松龜太郎、長藤義明、守田常直。(庶務課長)佐藤禮三。(沿革)創業明治二十二年七月。(十五、十一、廿二)

(取締社長)板谷宮吉。(常務)土屋啓造。(取締役)板谷順助。(取締役支配人)佐藤知信。(廣告)小林好二。(新聞廣告費)拾萬圓(他廣告費)貳拾萬圓。(使用新聞)朝日、日日、讀賣、大每、他地方紙。(代理業)電通、萬年、正路喜社、廣告社。(沿革)創業明治四十年一月。(十五、十一、廿)

日本火災保險株式會社 日本橋區通二丁目四ノ四。(電)日本橋三一三一四、三三九一八。株式。資本金一千萬圓。損害保險。(社長)川崎肇。(副社長)川崎守之助。(常務)久米平八郎。(取締役支配人)黑田國次郎。(庶務課長)內山猛。(支店)九。(代理業)廣告社、正路喜社電通外。(沿革)明治廿五年四月創立。(十四、十二、六)

保險

日清生命保險株式會社 麴町區大手町二丁目二。(電)丸ノ内一五二一四。株式。二百萬圓。生命保險業。(社長)吉田秀人。(常務)剛次一郎。(廣告)國子勳夫。(支店)十九。(使用新聞)全國主要新聞。(代理業)電通、正路喜社其他。創業明治四十三年三月一日。(十四、十二、八)

東京火災保險株式會社 麴町區大手町一ノ六。(電)丸ノ内一三〇一五。一千萬圓。(代表者)南莞爾。創立明治二十年。

千代田火災保險株式會社 京橋區京橋二ノ二。(電)京橋五一三一六。(支配人)近權內。(廣告)岡本次郎。創立大正二年八月二十二日。

千代田生命保險相互會社 京橋區京橋二ノ二。(電)京橋一〇一六。(專務)堀井卯之助。(庶務)植松義雄。(使用新聞)五十一。(代理店)八。

片倉生命保險株式會社 東京市京橋區京橋三丁目四。(電)京橋五一六一。株式。二百萬圓生命保險業。(社長)片倉勝衛。

野村生命保險株式會社 日本橋區通一ノ一。(電)日本橋四一七〇一九。株式百萬圓(代表者)野村惠三、西村勝太郎。(支店)堀備介。

第一生命相互保險會社 麴町區日比谷。(社長)石坂泰三。(使用新聞)大朝、大每、東朝、東日、報知、中外、讀賣、外地方有力紙等六十紙。

大同生命保險會社 大阪府西區土佐堀通一ノ一。(電)土佐堀一三一三、三二五、四〇一。株式。三十萬圓。(代表者)廣岡惠三。(營業)入部泰藏。廣告)堀備介。

太陽生命保險會社 日本橋區江戶橋二ノ八。(電)日本橋三一七五八。百萬圓。(代表者)西脇清三郎、清水文之輔。(營業)難波誠四郎。(總務)山口榮治郎。(廣告)擔當)栗田瑞樹。創立明治二十六年五月。

安田生命保險株式會社 日本橋區小網町二ノ二。(電)代表茅場町一三三一九。三十萬圓(社長)四條隆英。(支配人)田中直通。(廣告)川瀨秀夫。創立明治十三年一月。

帝國生命保險株式會社 東京市麴町區丸ノ内一丁目。(電)代表丸ノ内一二二五。株式。壹百貳拾五萬圓。生命保險業。(社長)朝吹常吉。(常務)宇佐美辰五郎、小橋源、小田川芳朗。(取締役)矢野義司、福原信三、高木喜寬、淺澤敏三、古河從純。(監查役)小西喜兵衛、窪田隆次郎。(廣告)庶務課。(使用新聞)東朝、東日、其他地方有力紙。(代理業)四代理店。(沿革)明治廿一年創立。(十五、十一、廿五)

愛國生命保險株式會社 麴町區有樂町一ノ二ノ三。(電)銀座代表二二五一。株式。百二十萬圓。生命保險。(社長)原邦造。(專務)睡道文藝。(支配人)布田典雅。(營業)森岡忠尚。(監查役)矢内榮次。(支店)十七。

有隣生命保險株式會社 麴町區丸ノ内三丁目十。(電)丸ノ内二三〇一六。生命保險業。株式。三十萬圓。(代表者)渡邊甚吉。(營業)淺松啓良。(廣告)庶務課長)福田六助。(外保)村松藤吉、矢島整三。(十二、十二、一、十五)

明治生命保險株式會社 麴町區丸ノ内二ノ一六。(電)丸ノ内一〇一六。株式。百萬圓。生命保險業。(專務)川原林順治郎。(常務)山下坂雄。(支店)十四。(使用新聞)東京、大阪及地方有力紙、三段。(代理業)電通、正路喜社、京華、旭、廣告社、博報堂。創業明治十四年七月九日。(十四、十、三十)

三井生命保險株式會社 日本橋區室町二丁目一。(電)日本橋三一四一、三二四六。株式。貳百萬圓。生命保險業。(取締役會長)渡邊省二。(常務)須之内啓二郎。(廣告)保)矢頭勳一

(使用新聞)月極(雜報欄題字下)朝日、日日、讀賣、中外、大朝大毎等、地方有力紙五十三社ニ決算報告ヲ兼テ營業報告全三段(代理業)電通、弘報堂、正路喜社、告天社。(沿革)大正三年三月創立ノ高砂生命ヲ大正十五年十月三井家ニテ買収シ改稱ス。(十五、十一、一)

住友生命保險株式會社 大阪市東區北濱五丁目二十二(電)代表北濱二〇六。株式。百五十萬圓。生命保險業。(取締役會長)小倉正恒。(專務)北澤敬二郎。(常務)小松正則。(取締役)男爵住友吉左衛門、大平賢作、古田俊之助。(企畫)平林正幹。(常任監査)平井政之助。(監査役)國府精一、岡橋林。(使用新聞)大朝外全國有力紙。(代理業)大阪電通。(沿革)元日之出生生命ニ稱シ明治四十年五月東京に創立、大正十四年六月之を住友繼承シ翌年五月住友生命ニ改稱シ本店を大阪に移シ現在に至る。(十五、十二、一)

證券

日本勸業證券株式會社 麴町區內幸町一ノ一。(電)銀座二四三五一九、二六四三、三九九五、五四〇三、株式。三百萬圓。債券、公債、勸銀株の賣買、金融、不動産賣買仲介金融。(社長)栗原和光。(取締役)小西三雄、野村貞雄、久野木榮、赤岡道明、永野光。(支配人)取締役赤岡道明。(支店)二十三ヶ所。(新聞廣告費)五萬圓。(他廣告費)五萬圓。(使用新聞)東朝、東日、大毎、大朝、讀賣、報知都、その他。(代理業)電通。(沿革)日本勸業銀行の別働機關にして「月報社」として創立されたるものなり。(十四、十、末)

日興證券株式會社 麴町區丸ノ內興銀ビル。(電)丸ノ內代表二四一四。公社債の引受、賣買、保管業にして日本興業銀行の子會社。株式一千萬圓。(代表者)岩井重太郎。(支配人)彌地鈴太郎。

遠山芳三商店 日本橋區兜町二ノ一六。株式仲買。

德田證券株式會社 日本橋區兜町二ノ二。(電)茅場町二一

一一一八。株式。百萬圓。公債引受發行、賣買業。(代表者)德田昂平。(營業)古屋章。(廣告)竹內健三郎。

川島屋商店(株式會社) 日本橋區兜町二ノ一四。(電)茅場町二二三一一五。有價證券賣買募集引受。株式。七百萬圓。(社長)遠山元一。(營業)神田萬吉(調査、廣告)吉野岳三。(新聞廣告費)一萬五千圓。(他廣告費)五千圓。(使用新聞)東朝、其他(代理業)告天社。

金萬證券株式會社 日本橋區兜町二ノ一四。(電)茅場町一三一。株式。公社債引受發行、賣買業。(代表者)河野坦之輔。

大東證券株式會社 日本橋區兜町一ノ一。(電)茅場町二一四一。株式。一百萬圓。公債、社債、株券賣買、募集引受。(社長)内田茂吉。(專務)正村貞之祐。(常務)入倉兼太郎。(新聞廣告費)一萬圓。(使用新聞)東朝、東日、中外、讀賣、東洋經濟、ダイヤモンド。(代理業)告天社、正路喜社。(沿革)昭和二年創業、東株取引員大二印内田茂吉商店

は同系なり。(十四、十三、十)

玉塚商店(株式會社) 日本橋區江戸橋一ノ五。(電)日本橋二一〇一四、二一一一九。株式。三百萬圓。(代表者)玉塚榮次郎。(廣告)水谷直吉、渡邊野吾。創立大正八年四月。

野村證券株式會社 大阪市東區安土町二丁目。(電)本町一三五〇、一九五〇。一千萬圓。公社債株式の引受募集並に賣買證券擔保貸出並に手形金融。(社長)片岡音吾。(常務)丹羽實、飯田清三。(取締役)濱野榮一、大山謙吉、松本忍平。(廣告)吉田繁吉。(支店)十三。(新聞廣告費)約六萬圓。(他廣告費)二萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、中外、讀賣、都、其他諸新聞。(代理業)萬年社。(沿革)大正十四年十一月創立。(十四、十一、一)

山一證券會社 日本橋區兜町一ノ三。(電)茅場町三一四一九。(代表者)太田收。(廣告)漆原正。(新聞廣告費)一萬六千圓。(使用新聞)東京五大新聞、東洋經濟新報、ダイヤモンド。(代理

店電通。

山叶商店(株式會社) 日本橋區江戸橋一。(電)日本橋三一一一九。證券投資。二百萬圓。(代表者)太田圭助。創立大正七年四月。

山文商店(株式會社) 東京市日本橋區兜町壹丁目八。(電)茅場町代表一一二一。株式。貳百萬圓。有價證券業、東株一般取引員。(社長)武田次七。(專務)野口清三郎。(廣告)石黑丙午。(使用新聞)朝日、中外商業、報知、都。(代理業)直接及告天社(沿革)創業大正八年。(十五、十一、廿五)

不動商事株式會社 大阪市東區今橋二ノ一九。株式。八百萬圓。(代表者)太田收。(支配人)村上徹。創立昭和九年二月、十四年五月千代田證券投資株式會社を現稱に改め、本社を東京より大阪に移す。

藤本ビルブローカー證券株式會社東京支店 麴町區大手町二丁目八。(電)丸ノ內四三三一―三五五五。株式。五百萬圓。コールマネー、コールロ

一ノ、手形割引、公社債株式の引受、募集、賣買代理事務。(代表取締役)松葉泰助、三輪小十郎。(支店)内地十二、外地四。(沿革)明治三十九年十月十六日創立。(一三、一一、一〇)

小池證券株式會社 麴町區丸ノ內一ノ六。(電)丸ノ內二二七一。(代表者)小池厚之助。株式。四百萬圓。創立昭和五年二月。

共同證券株式會社 日本橋區通二ノ一。(電)日本橋四四三、一六三七、一八一、一九六二。株式。三百萬圓。(代表者)太田圭助、岡田安之助。(支配人)岩本文太郎。(廣告)庶務部。創立昭和三年八月。

鈴や兩替店 日本橋區兜町二ノ五五。(電)茅場町十番外十一本。個人經營。電話、債券賣買(店主)鈴木勝。(新聞廣告費)六萬圓位。(他廣告費)六萬圓位。(使用新聞)日日、讀賣、報知、中外。(沿革)創業大正十三年。(一三、一一、一〇)

鈴木圭三商店 日本橋區兜町二ノ一。

雜

伊東屋 京橋區銀座通り。(電)京橋一五五一九、五五四四。和洋紙、文具一般。株式。百萬圓。(代表者)伊藤勝太郎。(支配人)立川貞吉。(廣告)同。

石川ペン先製作所(株式會社) 牛込區東五軒町十一。(電)牛込四〇八、四二二八。(代表者)石川德松。セアラペン製作發賣元。

パイロット萬年筆株式會社 京橋區京橋二ノ七。(電)京橋七八三、五二四八、八二二五。萬年筆用インキ。株式。百二十萬圓。(代表者)土屋賢吾。(營業)和田長三。(廣告)小田島義。

箱根土地株式會社 東京府北多摩郡谷保村青柳八九四。(電)國立二、二二。株式。八百四十八萬七千五百圓。不動産賣買(常務)中島勝。(取締役)永井外吉、畔上銳、小島正治郎。(新聞廣告費)十五萬圓。(使用新聞)讀賣、中外、都、東日、朝日、國民其他。(代理業)電通。(沿革)九年八月。

革)創業大正九年三月。(十五、十一、廿二)

日本電建株式會社 神戸市灘區記田町一ノ一三。(總營業所)東京市京橋區銀座七ノ三。(代表者)平尾善保。株式。十七萬五千圓。創立昭和六年五月。

トノボ鉛筆製作所 淺草區柳橋二丁目四。(電)淺草四九一二、四三六一七。(同工場)王子區豊島町一五二。(電)王子三二三四、三九七〇。トノボ鉛筆。個人。(代表者)小川春之輔。(支配人)静岡政明。(廣告)西島光治。(新聞廣告費)全廣告費の三割強。(使用新聞)六十紙。(代理業)電通、博報堂、弘報堂、正路喜社、豊國、萬年等。(沿革)本邦最高の鉛筆工場として設備ミ機械を誇つてゐます。特許回轉オフセット式軸印刷機を整備す。(十二、十二、一)

東京建物株式會社 日本橋區吳服橋三ノ七。(電)日本橋三一六五―一七。土地、建物貸賣買業。株式。一千四百萬圓。(代表者)大泉哲。(設立)明治二十九年八月。

東京不動産株式會社

麹町區丸ノ内二丁目。(電)丸ノ内五
六四七一九。土地、住宅、電話
の賣買業。東京各紙を使用す。

東京亞鉛鍍金株式會社

東京市城東町北砂町一丁目二百十
六。(電)本所二一七一一四。七
拾五萬圓。亞鉛板鍍板、亞鉛鍍
鐵線、丸釘、摺線、有線鐵線、
(取締役)鶴塚彦兵衛、近藤高、
小泉豊次郎。(監査役)森岡文二
吉田惠一。(廣告)小川高三。(廣
告費)三千圓。(代理業)正路喜
社。(沿革)大正二年資本金參拾
萬圓、同拾五年六月資本金七拾
五萬圓。(十五、十一、廿)

東京近郊土地合資會社

四谷區新宿二ノ六。(電)四谷八一
六五。土地、建物、電話賣買業。
東京美術協會 麹町區九段三
ノ十。(電)九段六七四、四八五
六。書畫の販賣。東京、大阪各
有力紙並に地方紙若干。

巴商會 (株式會社)

神田區鍛冶町三丁目一。(電)神田三
四八、三四五三。株式。拾貳萬
圓。温水罐、風呂釜、賣藥製造
販賣、衛生水道工事請負。(取締
役)岡本利平、水野金生、石塚
宗三郎。(支配人)赤坂福三郎、
安藤正男。(廣告)水野金生。(新
開廣告費)約拾萬圓。(他廣告
費)五千圓。(使用新聞)東西朝
日、日々、毎日、讀賣、外東京
紙大略、地方有力紙二十紙程度
外地共。(代理業)新興社、旭、
正路喜社、京華、豊國、第一通
信外二三。(沿革)巴風呂ノ廣告
ハ明治四十三年ヨリ開始以來中
止セルコトナシ、關西大阪方面
ハ大阪支店ニテ取扱フ。(十五、
十一、廿)

大西拓殖株式會社

本郷區本郷三丁目。土地、家屋の仲介
賣買。支店所在地大阪、名古屋、
神戸。東西の中央有力紙初め地
方紙若干を使用す。

雅伎園 (合資會社)

目黒區下目黒一ノ一五六目黒店、芝區芝
浦一ノ四七芝浦店、同區同一ノ
五二東港園。(電)目黒店代表大
崎四一、芝浦店代表三田一
一五一、東港園代表三田四一二
六。合資會社。五十萬圓。料理
業、北京料理、日本料理、西洋
料理、長崎料理。(店主)細川力

郊外土地合資會社

淀橋區角筈一丁目。(電)四谷四三一
九。合資。四十萬圓。土地分讓
業。(社長)小川泰顯。(支配人)
小川源之助、秋山秀男、富士野勉
壽。(廣告)社長扱。(新聞廣告
費)十三萬五千圓。(他廣告費)
一萬五千圓。(使用新聞)東朝
東日、讀賣、報知、都、中外、
國民等。(代理業)電通、博報堂
春光堂、博通社、山元新光社。
(沿革)創業以來十ヶ年土地分讓
業に専念邁進し薄利多賣堅實主
義をモットーとす。(十四、十、
末)

永福土地合名會社

杉並區永福町四三。(電)松澤三三一八
二九一七。合名。三萬圓。不動
產賣買。(代表社員)石田集。(新
開廣告費)三萬八千圓。(他廣
告費)八千圓。(使用新聞)東朝
東日、讀賣、都、報知。(代理
業)春光堂、博通社、電通。(沿
革)昭和十二年一月一日創業。
(十三、十一、十)

テワイ商會 (株式會社)

日本本橋區通り三丁目五。(電)日本
橋四一五一六、四五〇四。株式

藏 (幹部)細川正也、細川八郎

細川由松、細川正助。(廣告)細
川八郎。(新聞廣告費)二萬圓前
後。(他廣告費)千圓前後。(使用
新聞)東京發行五大新聞、ジャ
パンタイムス、地方新聞隨時。
(代理業)電通。(沿革)創業昭和
四年十二月。(十五、十一、廿二)

大同建物電話株式會社

四谷區麴町十三丁目。(電)四谷二
五一一。土地、建築物、電話賣
買業。

大王商會

大阪市天王寺區上本町七丁目。玄米釜の發賣元。
殆ど全國各紙に宣傳す。

那廣化學研究所

日本橋區本町四丁目三二。各種織物類補
強糊オリモト發賣元。

久能木商店

日本橋區室町二丁目。久能木式石油コンロ、吸
入器其他。(代表者)久能木宇兵
衛。

矢滿登商會

大阪市西區靱中通一。(電)土佐堀三四五五六
ハクキン懷爐本舖。個人經營。
(代表者)的場仁市。(支配人)内
海榮一。(廣告)關雅雄。(新聞廣
告費)三萬圓、外二萬圓。(使用

二十萬圓。文化書所製造販賣。

(社長)横田俊三。(幹部)横田藤
次郎、秋山、横田あさ、篠崎忠
雄。(支店)大阪一。(新聞廣告
費)一萬一千圓。(使用新聞)東
朝、東日、讀賣、報知、大毎、
大朝。(代理業)廣告社、新興社
(沿革)創立大正十四年、昭和三
年株式會社に變更。(十三、十一
十)

サンエス販賣株式會社

麴町區丸ノ内昭和ビル二〇六號。
(電)丸ノ内三七四三。サンエス
萬年筆、インキ、クレイオン、
インキ消。(代表者)金勝榮太郎
(常務)鈴木陽右衛門。(支配人)
速藤信宏。(營業)高藤重藏。(會
計)中村征二。(廣告)鈴木計三
(使用新聞)五十四紙。(沿革)創
業以來二十年、昭和十一年販賣
會社新設。

木勢商事地所部

四谷區新
宿一丁目七二。(電)四谷二九三
〇、六〇九九。三十萬圓。土地
分讓。(幹部)木勢喜四郎、木勢
富次郎。(出張所)二。(新聞廣告
費)一萬五千圓。(他廣告費)一
千圓。(使用新聞)東日、東朝、

紙)全國約七八十社。(代理業)

旭、日新等。創業大正十二年。
(十一、十一、三十)

山本最商店 (株式會社)

大阪市西區靱南通一丁目一。(電)
土佐堀八一七一九、三六五。株
式。六拾萬圓。セソタースト
ブ、センター風呂釜、ホームミシ
ン。(幹部)山本最純、岩瀬正之
助、市原豊一。(廣告)大崎省一
(新聞廣告費)五千圓。(他廣告
費)七千圓。(使用新聞)内地、
鮮滿支、各地一流新聞。(代理
業)萬年、電通、旭。

眞崎大和鉛筆株式會社

品川區大井立會町六二〇。(電)高
輪六一四、三六七六。株式。五
十萬圓(全)鉛筆製造販賣(三菱
鉛筆)。(社長)近藤賢二。常務
原三郎、伊吹哲英。(相談役)井
坂孝。(廣告)宮川主之助。(新聞
廣告費)三萬圓。(他廣告費)六
萬圓。(使用新聞)東朝、東日、
讀賣。(雜報)大朝、大毎(突出
し題字下)、地方十七社(電通組

美津濃運動用品株式會社

大阪市東區大川町二五。運動用
品及服裝製造販賣。株式。五百
萬圓。(代表者)水野利八。(使用
新聞)大朝、大毎、東朝、東日
北海タイムス、河北、臺日等。

三井物産株式會社

日本橋區室町二丁目一。(電)日本
橋代表二二五一、二二六一、二
二七一、二二八二。物品販賣業
問屋業、運送業。代理業、製材
業、造船業、繫船並陸揚場業及
以上の各業に附帯する事業。株
式。一億圓。(代表者)井上治兵
衛、田島繁三。(使用新聞)中外
商業新報。(十一、十三、十)

ジャパン・ツーリスト

日本旅行協會
社團法人)本部麴町區丸ノ内一
ノ一東京驛内。(電)代表丸ノ内
四一四一、(分室)神田區鍛冶町
二ノ二四。(電)代表神田一四
一。外客誘致、一般旅行の獎勵
切符類代賣。資産一百十五萬八

合小説談話、其他の廣告欄
は一定せず。(代理業)東京一電
通、告天社、大阪一旭廣告。(沿
革)明治十九年、東洋に於ける
斯業最古最大の工場、大正十四
年横濱神奈川工場と合併し昭和
十四年横濱に分工場新設す、高
級品の製作を主とし世界各地へ
輸出す。(十四、十、二八)

不動建築株式會社

大阪市東區今橋二丁目一九の五。(電)
北濱一八四ノ六。八百萬圓。土
木建築請負業。(取締役社長)竹
原友三郎。(事務)川上佐一。(取
締役)横江萬次郎、佐竹三吾、
藤井喜助、石井頼一郎。(廣告)
川上佐一。(新聞廣告費)五千圓
(他廣告費)三千圓。(使用新聞)
朝日、大毎。(代理業)大阪、電
通、萬年、京華、每廣社、朝日
會。(沿革)舊稱關西不動産株式
會社ヲ改組シテ現在名ニ本年八
月改稱ス。(十五、十一、廿)

富國土地株式會社

神田區
淡路町二ノ四。(電)神田四三四
六不動産賣買業、住宅地、別荘
地、工場敷地の分讓斡旋。(代
表者)中川秀秋。

永福土地合名會社

杉並區永福町四三。(電)松澤三三一八
二九一七。合名。三萬圓。不動
產賣買。(代表社員)石田集。(新
開廣告費)三萬八千圓。(他廣
告費)八千圓。(使用新聞)東朝
東日、讀賣、都、報知。(代理
業)春光堂、博通社、電通。(沿
革)昭和十二年一月一日創業。
(十三、十一、十)

テワイ商會 (株式會社)

日本本橋區通り三丁目五。(電)日本
橋四一五一六、四五〇四。株式

藏 (幹部)細川正也、細川八郎

細川由松、細川正助。(廣告)細
川八郎。(新聞廣告費)二萬圓前
後。(他廣告費)千圓前後。(使用
新聞)東京發行五大新聞、ジャ
パンタイムス、地方新聞隨時。
(代理業)電通。(沿革)創業昭和
四年十二月。(十五、十一、廿二)

大同建物電話株式會社

四谷區麴町十三丁目。(電)四谷二
五一一。土地、建築物、電話賣
買業。

大王商會

大阪市天王寺區上本町七丁目。玄米釜の發賣元。
殆ど全國各紙に宣傳す。

那廣化學研究所

日本橋區本町四丁目三二。各種織物類補
強糊オリモト發賣元。

千三十圓九錢。(會長)喜安慶次郎。(專務理事)高橋甚之助。(調査宣傳)山中忠雄。(總務)千葉豐。(外人旅行)渡邊乙兵衛。(邦人旅行)大坪正。(經理)宇治橋正則。(主事)石田善太郎、宮内昌雄。(新聞廣告費)約一萬二千圓。(他宣傳費)約五萬圓。(使用新聞)東朝、東日、讀賣、都、大朝、大毎。(代理業)電通。(沿革)創業明治四十五年三月十一日各地案内所及出張所一〇八箇所。(十二、十二、一)

篠崎イッキ製造株式會社

東京市本所區綠町三ノ十六(電)本所二一九、二二〇、三四七、七〇六七。四拾五萬圓。ライトイッキ、チャムピオンイッキ、各種事務用並ニ特殊イッキ一切(取締役社長)篠崎又兵衛。(專務)篠崎清三郎。(營業)權田昇平。(販賣)村田義輝。(工場)篠崎德昌(廣告)權田昇平。(兼任)(新聞廣告費)八萬圓。(他廣告費)六萬圓。(使用新聞)全國及滿洲支那主要新聞全部。(代理業)正路喜社其他。(沿革)明治十七年六月創業(本邦イッキ、

元祖)昭和十五年販賣會社(地方制)ヲ設立シ綜合資本百二十萬五千圓トナル、昭和九年十一月長クモ伏見元帥宮殿下ノ御台臨ヲ辱フシ、同十五年十一月十日篠崎社長ニ對シ綠綬褒章御下賜アラセラル。(十五、十一、廿五)

セーラー萬年筆阪田製作所(株式會社)

吳市濱田町十丁目七。(電)二六二三、二五六九株式。五十萬圓。セーラー萬年筆、セーラーイッキ。(社長)阪田久五郎。(專務)阪田齊次郎。(常務)中島四郎。(新聞廣告費)六萬圓。(他廣告費)二萬圓。(使用新聞)大朝、大毎、東朝、東日、其他有力新聞約六十社。(代理業)萬年、第一廣告、外數社。(沿革)明治四十四年二月十一日創業。(十三、十一、二十)

新聞關係諸機關一覽

一、本表は東京、大阪に於ける新聞關係機關の一覽表である。表の諸項目は一々其の機關について問合せたものであるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料により記入した分もある。(各項最後の括弧内の数字は調査年月日を示す)

- 一、配列の順序は東京、大阪の二種に分ち、東京は總體的のもの、外は更に編輯、營業、地方紙等に分ち、其各々も出来るだけ更に分類してある。各項記述順序は次の如し。
- 一、會又は俱樂部名。
- 二、組織、目的。
- 三、沿革。
- 四、事務所々在地、電話番号。
- 五、役員名。
- 六、會員名。

一、東京

内閣情報局

昭和十五年十二月六日内閣情報部は局に昇格され同官制公布さる。○總裁伊藤述史。○次長久富達夫。○總裁官房第一課(庶務)課長久山秀雄(内閣情報部書記官)。(第二課(連絡)課長川面隆三(内閣情報部書記官)。

○第一部(企業)課長海軍少將伊藤賢三(海軍軍事普及部委員長)第一課(企業)課長海軍中佐近藤新一(海軍軍事普及部員)第二課(情報)課長青木重臣(厚生省職業監理課長)第三課(調査)課長陸軍中佐藤田實彦(陸軍情報部員)○第二部(報道)課長陸軍少將吉積正雄(參謀本部附)第一課(新聞)課長陸軍大佐松村秀透(陸軍情報部長)第二課

(雜誌)課長海軍大佐大熊讓(内閣情報官)第三課(ラヂオ)課長宮本吉夫(通信書記官)。

○第三部(國際)課長石井康(外務書記官)第一課(報道)課長岸岸偉一(外務書記官)第二課(宣傳)課長朝海浩一郎(外務事務官)第三課(文化)課長廣瀬節男(外務事務官)○第四部(檢閱)課長福本柳一(内務省圖書課長)第一課(檢閱)課長重成格(警保局事務官)第二課(編輯)課長(兼)本野盛一(内閣情報官)○第五部(文化)課長代理川面隆三(内閣情報部書記官)第一課(施設)課長本野盛一、第二課(寫眞映畫)課長不破祐俊(文部省社會教育官)第三課(文藝)課長(未定)第四課(事業)課長小松東三郎(前精動幹事)。尙情報局新設に關聯し内務省では六日附を以て分課規程を改正し、従来の圖書課を檢閱課と改稱七日舊帝國劇場別館へ移轉(映畫に關する係を除く)することとなつたがその主管事項は左の通りである。一、新聞著作權に關する事項。一、新聞

紙その他出版物に關する事項。一、映畫、演劇、演藝等に關する事項。(十五、十二、六)

日本新聞協會

日刊新聞社、日刊通信等新開事業に従事する者を以て組織し、會員の親睦を旨とし會員並に新聞事業に従事する者の共濟を計り斯業の發達並に文化の向上を期するを以て目的とす。(沿革)創立大正二年四月八日、東京に創立總會を開き、本協會の生誕を見た。當時會員百一社、出席者七十一社、爾來毎年一回大會を開いて大正十一年來完全に全國新聞通信界を網羅するものとなる。昭和五年長くも總裁として東久邇宮稔彦王殿下を奉戴す。(專務所)京橋區銀座四ノ四。(電話)京橋八四二〇。(總裁)東久邇宮稔彦王殿下。(會長)伯爵清浦奎吾。(名譽會員)清浦奎吾、徳富猪一郎、尾崎行雄、三宅雄二郎、大鳥守吉、秋田清、小坂順造、小松壽、松岡洋右、上野精一、下村宏、奥村信太郎、築田欽次郎。(相談役)平野文安、高木第

四郎。高木貞衛。高原操。阿部良夫。兒玉實良。永江眞郷。小坂武雄。湯澤精司。田中都吉。吉武鶴次郎。頭本元貞。緒方竹虎。高石眞五郎。村山長舉。杉山幹正。正力松太郎。福田英助。(理事長)光永星郎。(理事)山口喜一、西澤圭、安島譽、原田徳次郎、河村徹、小柳調平、大宮伍三郎、野中楠吉、山本實一、田中秋聲、多田爲太郎、上田碩三、佐藤新衛、大島一郎、村田徳磨、一力次郎、田中一郎、後川晴之助。(監事)三木七郎、高木貞衛、田中齊。(評議員)七十四名。略。(廣告料不拂通知に關する委員)酒井謙吉、高木貞衛、三木七郎、岡田伊三郎、新田宇一郎。(用紙問題調査常任委員)二十五名。略。(日本新聞賞委員)徳富猪一郎、下村宏、田中都吉、正力松太郎、福田英助、大島宇吉、永江眞郷、一力次郎、河村徹、村田徳磨、光永星郎。(新聞學院院長)山根眞治郎。(協會書記長)兒玉璋一。(甲種會員)十五年四月現在百九十名。略。(乙種會員)六百名。略。(十五、四)

十五年六月十日より八日間九州聖地に十五年大開催さる出席者百七十七名。同七月各社從軍記者戦死七名、負傷二名、應召戦死二十七名、負傷二十名に慰問金を贈る。(前年夏第一次を行ふ) 同十月二日光永理事長米國ロイ・ハワードに宛てて日米和平維持の爲めメツセージを送る。 二十一日會 編輯幹部を以て組織し編輯に關する意志の疎通を計る。(沿革)大正十四年四月二十一日發起人會を開き、會名規約等を決定、翌五月十一日發會式を兼ねて第一回會合を催す六月の第二回會合に於て會則を變更し、爾來毎月二十一日に例會を開く事として今日に至る。(事務所)同盟通信社(電話銀座二二二) (幹事)西野入愛一、細川隆元、神子島梧郎。(會員) (報知)池田林儀、下田三郎(東日)西野入愛一、高石眞五郎、高田元三郎、阿部眞之助。(東朝)細川隆元、緒方竹虎、野村秀雄、美土路昌一、北野吉内、(中外商業)小汀利得、小田島定吉、

兒玉季雄。(讀賣)高橋雄對、宮崎光男、柴田勝衛、安藤覺。(國民)薩摩雄次、大島一衛。(都)渡部英夫、福田恭助、手塚強之介、古澤磯次郎。(同盟)上田碩三、古野伊之助、神子島梧郎。 二十日會 都下八社の定價實行を目的とする決議實行機關として昭和十一年九月三日中外商業新報社長田中都吉君の提唱に依つて結成されたが昭和十二年七月合議に依つてこれを解消し、新たにその會員を以つて販賣協定を離脱した社交機關二十日會を組織した。(會員)正力松太郎(讀賣)、石井光次郎(東朝)、七海又三郎(東日)、三木七郎(報知)、田中都吉(中外)、田中齊(國民)、福田英助(都)。(十三、十二、一) 春秋會 新聞雜誌及通信記者の社交俱樂部。(沿革)明治四十二年創立、會長に箕浦勝人氏を推し、次いで黒岩周六氏、添田善一郎氏を経て現に前中外商業社長築田欽次郎君會長たり。(事務所)東京日日新聞社内。(電)丸ノ内三二一、三三一。(會

長)築田欽次郎。(幹事)岡崎鴻吉、廣田四郎、田中齊、服部錠三、高木富五郎(常任)、頭本元貞、高橋雄對(常任)。(會計監督)光永星郎、坪谷善四郎。(會員) (東日)奥村信太郎、高石眞五郎。(中外商業)村上幸平、佐藤三郎(讀賣)柴田勝衛、高橋雄對。(蒙疆)細野繁勝。(國民)田中齊。(都)大谷誠夫、服部錠三。(博文館)坪谷善四郎。(日本新聞通信)金子有隣。(電通)光永星郎、上田碩三。(ラルド)頭本元貞。(外交時報)半澤玉城、高木富五郎。(富山房)長谷川福平。(鐵道時報)木下立安。(新聞研究所)永代靜雄。(實業之日本)増田義一。(自由通信)小高長三郎。(社外)築田欽次郎、青木精一、神田正雄、松尾要、田村全宜、馬場直美、矢野晋也、新居房太郎、井上正明、寺田四郎、鈴木宇一、廣田四郎、安藤正純、久富達夫、岡崎鴻吉。 東京新聞通信聯盟 (社団法人) 皇道を奉じ相互親睦、救済を目的とす。(沿革)元

新聞社、通信社の親睦を宗として時々會合せしを大正六年社團法人として内務大臣より許可。(事務所)京橋區限座西七ノ四ノ三(電話銀座一五四七)。(理事)金子有鄰。(理事)似島吉次、小高長三郎。(會員)十五社。(十五、十二、十)

新聞通信記者會總聯盟

昭和六年廿一日會の俱樂部改革の時各俱樂部で横斷的聯盟として成立せるもの。(事務所)首相官邸内。(幹事)永田俱樂部外十二俱樂部。(加盟俱樂部)昭和十三年十二月一日現在四十六俱樂部なりし其後の變化不明。

編輯關係

内閣・宮内省

内閣記者會 政府を中心とする政局諸方面のニュースの取材を目的とす。(沿革)加藤高明内閣當時永田俱樂部より朝日日、時事、中外の四社退退、新俱樂部を組織し今日に至る。(事務所)麹町區永田町内閣總理

大臣官邸内。(電)銀座三六三三(幹事)交替。(會員) (東朝)政治部)田畑政治、大渡順二、牧野輝夫、鹽澤總、向義法、佐山忠雄、杉本健、御目誠、茂貫正人、西島芳二、萬木英一郎。(社會部)入江徳郎、足立和雄。(中外商業)政治部)萬直次、鈴形三郎、益子昭良、深川孝、別宮晋一、村合正夫、瀧澤伯永。(東日)政治部)重信嵩雄、野中盛隆、池松文雄、佐藤嘉四郎、高橋司三治、井上健三郎、和田敏明、筒井千尋、緒方昇、濱田尚友、松岡英夫、坊秀男、伊藤治正、栗原千代太郎、柳重徳、高木徳。(社會部)澤田勇。(十四、十一、廿)

首相官邸記者會

(沿革)昭和十一年五月二十七日永田俱樂部より分離。(事務所)内閣總理大臣官舎内。(電)銀座六五〇五、六五〇七。(役員)毎月幹事三名選任。(會員) (同盟)長島又男、小山武夫、竹野進一、新井正義、久保田清松、深澤幹雄、戸來秀隆、中村伸康、秋葉武雄、飼牛響四、秦巖夫。(讀賣)

花見達二、殿田孝次、川田秀徳、森田善十、瀧本潔、有馬英治、末光正人、子安泰、杉元重好、志賀重義、橋岡通雄、長倉榮、愛川重義。(報知)西田富元、神田道徳、藤村富士太郎、村山作造、山本忠次、長田茂郎。(福日)橋本善次、梶原景親、星野力、小池俊雄、秋根昌之。(都)長井光、山添幸治郎、池田禎治、伏見武夫、西寛治。(新愛知)佐築繁男、小林幸一。(國民)塚野晴三、渡邊久博、小林義郎。(十四、十一、十五)

永田俱樂部

新聞、通信社の政治部擔當者を以て組織す(沿革)内閣制度實施と同時に本年をもつて五十五周年。(事務所)麹町區永田町首相官邸内。(電)銀四〇〇九、二七六〇。(幹事)順番、四名、三ヶ月交替。(會員) (日本通信)水越福藏、(日本合同通信)住藤幸一郎、(第三通信)柴田直二、(日刊工業)佐藤剛、佐々木周雄、(日本工業新聞)笹沼操、磯野勝衛、(北海タイムス)的場利貞、(北陸毎日)加藤正男、(東京通信)平井勝利、(東

京毎夕)田原恒雄、(東京時事通信)缺、(東邦通信)矢田吉孝、(東海通信)百武功、(東洋通信)吉田彌四郎、(東亞通信)伊藤豊一、(特別通信)淺尾勝綱、(獨立通信)國金肇、(千代田通信)復永笹一、鷺見一政、(中央通信)井上明夫、(中央新聞)船田順弘(朝野通信)木下章、(晝夜通信)植村武、(大阪時事)水谷信雄、(河北新報)松家賢二、寺田利和(大成通信)北條爲之助、(大日本通信)伊藤茂壽、(臺灣日日)中柳勝次、(臺灣新民報)吳三連、森岩吉、(名古屋新聞)竹崎羊之助、(内外通信)鯉江禮三、(やまご)西衛、川瀬宏、(毎月通信)中村次兵衛、(満日)藤井啓輔、八日泰輔、(京城日報)宮田晋、(國際探訪通信)鷹野喜美雄、(合同通信)後藤長久、(帝國新報)馬男木俊雄、(愛國通信)牛窪操(民衆通信)河野竹吉、(民友通信)田中幸夫、(自由通信)染谷米三、(ジャパントタイムス)缺、(資料通信)本城廣信、(中國新聞)糸川成辰。

企畫院研究會 企畫院擔

任記者團、都下八社及び地方代表福日を以て組織す。(沿革)昭和十五年十一月。(事務所)企畫院内。(會員)正副二名づつ、福日は同盟代行す。(同盟)板垣武男、藤原熊夫(福日代行)、(副)堀川武夫。(東日)井上健三郎、(副)名取襄之助。(朝日)廣岡知男、(副)増田幸郎。(讀賣)花見達二、(副)田村眞一。(報知)田原恒男、(副)未定。(國民)竹方一男、(副)未定。(都)田畑嚴穂(副)未定。(中外)益子昭良、(副)松本光輝。(十五、十一、八)

國策研究會

東朝、東日、中外の政治、經濟部員よりなり政府の遂行せんとする政策乃至經濟方面一般の研究を意圖するものである。(沿革)内閣調査局内創設、其後企畫院を経て現在に至る。(事務所)麴町區大手町一ノ七企畫院内(電)九ノ内五〇一〇。(幹事)高橋司三治。(會員)(東朝)(政治部)大渡順二、西島芳二、向義法、徳田修、佐山忠雄、藤澤總。(經濟部)高垣金三郎、菅原俊二。(中外商業)

興亞俱樂部

日刊新聞通信社所屬記者にて支那事變處理に關する取材を目的とす。(沿革)昭和十三年十二月、興亞院設置と共に成立す。(事務所)興亞院内、(電)九段四九一七、四九一八。(幹事)池田(東朝)、秋定(東日)。(會員)加盟社六十社會員百二名。(十五、十二、三)宮内記者會 各社宮廷記者の親睦を目的とす。(沿革)元坂下俱樂部を改稱せるもの。(事務所)麴町一番町宮内省内(電)丸ノ内三〇〇〇、三〇〇一。幹事)田中徳(同盟)、石井貞二(東日)。(會員)報知)朝倉育造、川上操六。(東日)藤澤準二、石井貞二、鈴木二郎。(東京毎夕)島田重寅。(朝日)足立和雄、森欣

翼賛會

一、秋岡鎮夫。(同盟)田中徳長尾陸也、石井文治。(東海通信)百武功。(千代田)金子智彦、庄司和。(中外商業)藤田英雄。(國民)山野光雄。(讀賣)辻紀、金行勳、竹崎羊之助。(愛國通信)永友宗正。(毎夕通信)中村次兵衛。(名古屋新聞)中村幸。(都)鈴木武久。(十五、十二、一)

議院記者會

帝國議會の議事其の他を報道するに當り會員各自の共同の便益を圖るを以て目的とし、昭和十二年の春の議會に於いて帝國議會記者俱樂部より分離獨立す。(事務所)帝國議會構内。(電)銀座六七二〇(幹事)任期一年△印ハ常任。(東日)吉岡文六、(東朝)△細川隆元、(報知)下田三郎、(讀賣)△安藤覺、(國民)後藤勇、(中外商業)△兒玉季雄、(都)古澤磯次郎、(同盟)△福田一、(福日)△橋本善次、(神戸新聞)水谷信雄、(書記)大島三郎。(會員)報知)松山幸逸、(東日)吉岡文六、(東京毎夕)不明、(東朝)細川隆

帝國議會記者俱樂部

帝國領土内に本社發行所を有する日刊新聞社又は通信社中

の同志を以て組織し帝國議會の議事情勢を記録又は攝影報道するを目的とす。(沿革)明治廿三年帝國議會開設と共に前記の目的を以て組織され、昭和四年四月分裂したが同年十一月更新す、創立以來同盟新聞記者俱樂部と稱せし昭和十一年十二月五日現稱に改む。(事務所)麴町區永田町衆議院構内。(電)銀座四〇六〇。(幹事)(毎夕通信)丹野虎吉、(第三通信)似鳥吉治、(合同通信)後藤長久、(新聞聯合通信)牧胤吉、(日本新聞通信)金子有隣、(書記)佐藤茂作。(會員)東京大勢、運輸日報、日本通信、日本聯合、日本經濟、日本合同、日本新聞通信、公益、寫通、日蘇、日本商業、東方政經、東海、東洋、東京、東京時事、東亞、特別、獨立、中央通信、中外通信、千代田、朝野、晝夜、大日本、第三、聯合情報内外、毎夕通信、國際探訪、合同、帝國、愛國、協同聯合、民友、民衆、新聞同盟、昭和特別自由、資料、運輸通信。(十四、十一、十五)

大政翼賛會記者會

東京八社記者を以て組織し、大政翼賛會と協力皇道を翼賛し大政翼賛會全般に關する取材を目的とす。(沿革)昭和十五年十一月十五日。(事務所)大政翼賛會本部内。(幹事)二社より二名、二ヶ月交替。(會員)報知、東日同盟、中外、讀賣、國民、朝日都。(發起人代表)山本忠本(報知)、筒井千尋(東日)、板垣武男(同盟)、秋尾廉(中外)、瀧本潔(讀賣)、木道茂久(國民)、岸勇夫(朝日)、伏見武夫(都)。(十五、十一、十五)

陸海軍

陸軍省記者俱樂部

陸軍に關する記事蒐集を目的とする記者團。(沿革)以前は北斗會の名稱を以て存在せしが一時俱樂部分裂の結果、大正十年五月辛酉俱樂部と稱し昭和七年に現名に改稱す。(事務所)麴町區永田町陸軍省内。(電)銀座四二四六、六七一。(會員)(東朝)磯野清、菊地陽一、中村正吾、吉武信、牧野輝夫、鎮目誠、菅野

長吉、藤井滿州男、池田源治、進藤次郎、石尾市太郎、田村薫、張一潔、高山毅。(東日)秋定鶴造、長瀧武、栗原千代太郎、濱田尙友、根上柏實、光田善孝、高橋司三治、緒方昇、佐藤嘉四郎、松浦良松、藤田市助、石橋恒喜、平栗竹男、北條清一、高木徳。(報知)佐野増彦、村山作造、鈴木義光、川越博、中林貞男、田口利介、白石敏夫。(讀賣)瀧本潔、内田榮、本間俊一、古田徳次郎、森田善十、林泉、杉元重明、橋岡通雄、花見達二、佐野康、若林政夫、津田正房、福井宏一、前田末廣、石坂四郎平。(都)橋本芳藏、小原一三、稻垣達夫、菊地八郎、山本祐一郎。(滿日)八田泰輔、山田新吾(京城日報)缺。(國民)渡邊久博熊谷幸利、石田周藏。(ジャパソタイムス)吉田直彦、榊原麗一。(中外商業)瓜生倫政、秋尾簾、深川孝、村合正夫、高山晃舟山實。(帝國新報)西谷實。(日刊工業)佐藤剛、野々垣一雄。(日本工業)杉山三郎、並木吉夫。(福日)梶原景親、郡俊夫、小池

黑潮會

新聞通信各社の政治記者を以て組織し、取材の合理化を目的とす。(沿革)創立明治四十二年一月。(事務所)海軍省本省廳内。(電)銀座一一四四、五二〇〇。(幹事)幹事二名任期二箇月、各會員交替。(會員)(報知)桶孝平、岩田岩二、神田道徳、山本忠次。(東日)池松文雄、八並連一、橋野克郎、佐藤三郎、高橋司三治、松浦年三郎。(東京毎夕)田原恒雄。(東朝)西島芳二、渡邊迪、田村眞作、久住悌三、吉武信、鹽澤總

杉本健、田畑政治。(中外商業) 瀧澤伯永、百本佐次郎、秋尾廉(讀賣)内田榮、藤尾主計、森田善十、池田邦夫、神田孝一、鈴木公平、長倉榮、古田徳次郎。(國民)塚野清三、筒井俊一。(名古屋)堀元彦。(やまこ)北原晴光。(夕刊大阪)中村喜廣。(都)西寛治、村野龍之進、梅原一雄、倉林繁。(帝國新報)上領一郎。(北海タイムス) 缺。(ジヤパンタイムス)佐々木仙一。(臺日)中柳勝次。(福日)大楠繁、伊藤浩三。(日本)不明。(同盟)猪伏清、中村伸康、新井正義、松元堅太郎、水野政直、久保田清松(獨立)石田龍藏。(千代田)加藤善七。(中央)缺。(毎夕)鈴木直平。(日露)深宣治。(内外)鯨江禮三。(日華通信)井上幾次郎。(滿日)増田清一。(十三年十一月二十五日現在會員六十四名)(其後の廢刊紙を除く)

海軍省記者俱樂部

社會部記者より成る。(事務所)霞ヶ關海軍省内。(電)銀座六〇二三。(會員)東京八社社會部。(十五、十二、一)

憲兵司令部苗圃俱樂部

憲兵司令部及東京憲兵隊出入の東京市内に於て發行する日刊新聞通信記者を以て組織し新聞記事取材及俱樂部員相互の親睦を圖るを以て目的とす。(沿革)昭和五年八月創立(事務所)麴町區竹平町三憲兵司令部内。(電)九段四一四〇。(會員)報知(鈴木義光、藤波健一。(讀賣)津田正房、松田利吉(幹事)、東日(松浦良松、藤田市助(幹事)、東朝(島津彌六、仁尾一郎(同盟)岡崎龜市。(都)菊池八郎。(國民)石田周藏。(晝夜)植村武(十四、十二、一)

外務・拓務

霞俱樂部

外務省出入の新開及通信記者を以て組織し、一、職務上の便宜を計ること、一、俱樂部員は相互扶助を旨とし共通の利益擁護並増進の爲には適當なる措置を執ることを以て目的とす。(事務所)麴町區霞ヶ關一丁目外務省内。(電)銀座四一〇〇。(幹事)二名任期一

外務省記者俱樂部

都下八社の外務省擔任記者團。新聞通信記者の職責達成と會員の親睦、共同利益の擁護を目的とす。(沿革)昭和十四年七月二十一日霞ヶ關俱樂部より分離獨立す。(事務所)外務省内。(會員)報知、東朝、東日、同盟、國民、中外、讀賣、都各社記者(十五年七月柳(東日)、愛川(讀賣)、藤田(中外)の三君報道稿紙を除く)

拓務俱樂部

東京日刊新聞通信社の拓務省擔當記者を以て組織し、拓務行政全般に亘る事情の研究及會員相互の取材上の利便、身分保護を計るを目的とす。(沿革)昭和四年拓務省成立と同時に置く。(事務所)拓務省内。(會員)報知(森義夫、神田道徳。(東日)松浦年三郎、橋野克郎、佐藤三郎、征矢野平三(東朝)渡邊迪、久住悌三、尾關三郎。(東京毎夕)相川勝利(東京時事通信)浦澤一男。(同盟)住谷金吉、芥川典。(中外商業)飯深章治。(讀賣)林泉、花見達二。(帝國通信)入江群市。(都)山下喜一。

拓務研究會

懇親並に取材を目的とす。(沿革)昭和四年拓務省創立と同時に設立(事務所)日比谷拓務省内。(電)銀座四五四二。(幹事)佐々木正、小寺正三。(會員)(日本工業新聞)小寺正三。(日刊工業)佐藤剛、丹羽一。(日滿工業新聞)缺。(北海タイムス)藤田輝孝、釣仁三郎。(小樽新聞)武田慶重郎、伊

對滿記者會

新聞通信記者に對して對滿事務局内の取材の便宜並に會員相互の向上親睦を圖るを以て目的とす。(沿革)昭和九年十二月廿六日對滿事務局創設と同時に結成。(事務所)麴町區大手町對滿事務局内(電)丸の内一〇八〇。(幹事)佐倉潤吉(東日)、安田三千雄(日刊工業)。(會員)三十二社四十九名(十四、十二、一)

朝鮮記者俱樂部

新聞通信記者を以て組織し、朝鮮關係の報道並に相互の親睦を圖るを以て目的とす。(沿革)東京鷄林記者クラブが朝鮮クラブと變じ事務所の新築落成と共に新に昭和十年十月結成したるも(事務所)芝區田村町朝鮮總督府事務所内。

拓務經濟俱樂部

拓殖

内務・厚生・文部

內政研究會

經濟關係方面擔當の都下新聞通信記者及び植民地有力新聞記者の團體。(事務所)赤坂區葵町、滿鐵東京支社内。

內務研究會

記事取材の爲め報知、東日、大毎、東朝、中外、國民、六社の内務擔當記者を以て組織す。(沿革)大正十二年十二月創立。(事務所)麴町區外櫻田町一内務省内。(電)銀座三四九二。(會員)(東日)山本彦三郎、佐藤嘉四郎根上柏實、長坂慶一、秋定鶴造、栗原廣美、井上健三郎、小山田豊、高原四郎。(大毎)武良順、高木徳、征矢野平三。(東朝)磯田薫一、鹽澤總、久住悌三、徳山繁太、園田俊一。(大朝)鈴木總二、伊藤武雄、尾關三郎。(報知)楠孝平、愛川重義、村山作造、下野信泰、山田靜尉。(中外商業)川邊辰夫、村合正夫。(國民)山内藤市。

內務記者會

內務行政に關し迅速、正確に報道せん目的を以て中央新聞、通信社、地

大手記者會

會員相互の親睦を圖り內務行政一般の研究並に記事取材の爲め共同の利益を増進するを以て目的とす。(沿革)大正十五年十二月六日創立(事務所)麴町區外櫻田町内務省内。(電)銀座五六二二。(幹事)田浦義之、末松太郎。(會員)(同盟)沼佐隆次、高木慶司、戸來秀隆、大澤滋、小田善一、明峰嘉夫。(讀賣)池田邦夫、古田徳次郎、橋岡通雄、前田末廣。(都)長正路、山下喜一、森尉一。(福日)伊東浩三、大楠繁。(新潟母日)坂本房次。(九州日報)岩田潔。(名譽會員)(同盟)西村二郎(都)田代金宜。(十三、十二、一)

北辰俱樂部

會員相互の懇親を目的とし大正七年大手町

方一般紙及特別紙に依り組織さる。(沿革)內務省記者俱樂部は本會より分る。(事務所)麴町區霞ヶ關一丁目二内務省内。(電)銀座五六一一(省内二八三、二七五)(幹事)三ヶ月交替。(會員)(日本工業新聞)永野正時。(日刊工業)野口三郎。(東洋通信)前田禮治。(獨立通信)元木肇。(朝野通信)小松正己。(大阪時事)佐藤千秋。(大日本通信)浮田秀正。(大成通信)北條爲之助。(内外通信)餘江禮三。(名古屋新聞)中村孝。(帝國新報)西谷實。(毎夕通信)中村次兵衛(毎夕新聞)中内卓二。(中央新聞)多田太吉。(北海タイムス)布施陶一。(東亞通信)森山徳治(東京時事通信)安吉英夫。(中央通信)井上明夫。(自由通信)石崎健司。(小樽)武田慶重郎。(河北)村上辰雄。(帝通)上野徳次郎。(資料研究所)荒木武雄。(日滿工業)上野公三。(東京毎日)石田左近。(特別通信)難波英夫。(十五、十二、一)

内華俱樂部

取材の合理化、内政の研究、相互の協和向上を目的とする。(沿革)初め社局内に社会部記者の俱樂部として組織され次で本省に分室を設けた。社会局時代を十八日會と稱し、十八日會は内華俱樂部並に労働記者會となり、ついで労働記者會は別個獨立し今日に至る。目下政治、社会兩者あり。(事務所)内務省。(電)銀座五六三六。(幹事)鷹野喜美雄、松井政治。(會員)やまこ川瀬宏。(合同通信)田中繁。(帝都日日)不在。(産業經濟)堀越登吉。(國際探訪)鷹野喜美雄。(野田經濟研究所)不在。(日刊寫眞通信)松井政治。(東京毎夕)天草麟太郎。(聯合ニュース)一ノ宮進。(中央新聞)杉原三郎。(十五、十二、十一)

厚生俱樂部

同盟、讀賣、都を正會員とし、福日、九日、新潟毎日を準會員とする六社を以て組織し各社の政治、社会、通信、運動、家庭の五部員が入會し、厚生行政及び關係事項の研究報道を目的とする。(沿革)厚生

厚生研究者會

厚生省擔任記者團(事務所)厚生省内(電)九ノ内五七九一。(省内一五六) (會員)(日本工業新聞)細居武二。(日刊工業)野口三郎、宮崎正貴。(大日本通信)浮田秀正。(内外)餘江禮三。(獨立)元木肇(大成)北條爲之助。(自由)古原美雅。(帝國新聞)西谷實(北海タイムス)釣仁三郎。(小樽新聞)牛込龍男。(河北)門奈武男。(大阪時事)佐藤千秋。(朝野)小松正己。(名古屋新聞)水野勝太郎(東洋)吉田彌四郎。(東京時事)安吉英夫。(帝通)小林三男。(東亞)森山徳治。(毎夕新聞)缺。(十四、十一、十五)(其後の廢刊紙を除く)

一橋會

文部省擔任記者團。(事務所)文部省内。(電)銀座七〇九八。(會員)大山喜佐、白石敏夫、長田清道、鈴形三郎、林泉、福井宏一、長倉榮、田山晃菊池陽一、宮本敏行、高山毅、大畑正治、長瀧武、伊藤治正、渡邊仁一郎、征藤基治、新名文夫、菊池一雄。(以上十八名)。(十五、十二、二十)

文部記者會

文部省擔任記者團(事務所)文部省内(電)銀座七〇九八。(會員)大山喜佐、白石敏夫、長田清道、鈴形三郎、林泉、福井宏一、長倉榮、田山晃菊池陽一、宮本敏行、高山毅、大畑正治、長瀧武、伊藤治正、渡邊仁一郎、征藤基治、新名文夫、菊池一雄。(以上十八名)。(十五、十二、二十)

大藏・商工・農林

財政研究者會 大藏省擔任の日刊新聞通信社を以て組織し會員相互の親睦を取材の便宜を計るを目的とする。(事務所)大藏省内。(會員)(報知)黒田力造淺野勇夫、今村武雄。(東日)鷹

を以て組織す。(沿革)大正十年創立現在に至る。(事務所)文部省内。(會員)(東日)高原四郎。(東朝)竹田道太郎。(毎夕)不明(報知)秀島彬、田井眞孫。(讀賣)木村正。(都)小澤信一。(中外)本間俊一。(中央)岡村良爾。(やまこ)角園善五郎。(國民)池田純一。

竹橋俱樂部

東京に本社又は支社を置く日刊新聞及通信社を以て組織し俱樂部員相互の親睦を圖るを目的とする。(事務所)文部省内。(會員)(北海タイムス)石橋百一。(同盟)久保田清松、横地倫平、山部憲太郎馬場常治。(内外通信)小島静三郎。(名古屋)竹崎洋之助。(福日)伊東浩三。(自由通信)石崎憲司。

財政俱樂部

東京及地方日刊新聞及び通信社の大藏省擔任記者を會員とし取材上の便宜を目的とする。(沿革)大正八年設立。(事務所)大手町大藏省。(日本新聞通信)山本武雄。(日本織物新聞)鈴木恭。(日本工業新聞)磯野勝衛。(日刊工業)五明英太郎、岩永吉光。(北海タイムス)塚本鉦次。(東方經濟通信)坂下芳彦。(東洋通信)吉田彌四郎。(東京時事通信)安吉英夫。(獨

采女會

都下七大新聞及び同盟通信の商工省擔任記者を以て組織し會員相互の親睦を目的とする。(沿革)大正十四年九月創立(事務所)京橋區木挽町商工省内(電)銀座四三二九。(幹事)竹澤倫夫、平岡敏男。(會員)(報知)淺野勇夫、竹澤倫夫、戸澤榮一(東日)坊秀男、小林義郎、廣嶺清一、久保田政通、平岡敏男、江口榮治、正岡敏。(大毎)佐野正明、征矢野平三、山本正雄。

商工研究者會

日刊新聞通信記者團(事務所)日刊新聞通信社(東京)大渡順二、西島芳二、岸勇夫、増田壽郎、増田春吉、千早健三郎、廣岡知男、長一潔、帷子勝雄。(大朝)金親不二男。(中外商業)山下静一、齋藤榮三郎、圓城寺次郎、益子昭良。(同盟)猪伏清、竹野進一、水谷啓二、我妻繁夫、布浦芳郎、齋藤桂助。(讀賣)有馬英治、佐久間義夫、森田善十、志賀重義、渡邊文太郎、佐々木芳雄、鈴木勉田中織之進、川上豊二。(都)伏見武夫、細井正道、山本正雄、鈴木公志、高島俊之助。(國民)牧野四郎。(十三、十一、廿四)

商工記者會

會員親睦、共同取材、商工行政研究を目的とする。(沿革)商工省創設と同時に(事務所)京橋區木挽町商工省内(電)銀座五一〇四。(幹事)高橋長吉、友田健二郎、尾崎文蔵。(會員)(日刊工業)今野良蔵、荒

喰清一、坊秀男、佐倉潤吾、田川重盛、對馬好武、藤井泰一、高橋司三治、井上健三郎。(東朝)有竹修二、河野健治、西島芳二、高野信、増田壽郎、岸勇夫、林唯雄、久住悌三。(同盟)大森吉五郎、村田爲五郎、渡澤輝二郎、西村二郎、平柳常雄、飼戸譽四(中外商業)後藤基春、岸純三、鈴木尚雄、圓城寺次郎。(讀賣)板津直光、佐久間義夫、有馬英治、石井忠、菱山辰一、藤原節夫。(名古屋新聞)光田顯一。(福日)秋根昌之。(國民)行方一男。(都)小山信夫、倉林繁、伏見武夫。

立通信)中野佐助。(東京興信所)矢尾板正雄。(朝野通信)加藤貞次郎。(寫眞通信)横山健次郎。(日本合同通信)河合昇。(大阪時事)佐藤健美。(河北)松家賢二。(中央新聞)船田順一。(小樽新聞)千葉隼人。(臺灣日日)重松頼彦。(大東通信)石和田一彦。(聯合情報)蓋昱。(内外通信)佐藤陸三。(野田日報)野田功、吹田秀三。(經濟時事新報)堀文雄(帝都日日)中原正直。(産業經濟通信)永岡米吉。(自由通信)島田清。(特別會員)手島益雄、佐久間豊三。(十四、十一、十五)(其後の廢刊紙を除く)

(東朝)大渡順二、西島芳二、岸勇夫、増田壽郎、増田春吉、千早健三郎、廣岡知男、長一潔、帷子勝雄。(大朝)金親不二男。(中外商業)山下静一、齋藤榮三郎、圓城寺次郎、益子昭良。(同盟)猪伏清、竹野進一、水谷啓二、我妻繁夫、布浦芳郎、齋藤桂助。(讀賣)有馬英治、佐久間義夫、森田善十、志賀重義、渡邊文太郎、佐々木芳雄、鈴木勉田中織之進、川上豊二。(都)伏見武夫、細井正道、山本正雄、鈴木公志、高島俊之助。(國民)牧野四郎。(十三、十一、廿四)

(東京時事通信)安吉英夫。(東京通信)缺。(朝野通信)小松正己。(名古屋新聞)竹光秀正。(内外通信)森本眞俊。(やまこ新聞)大森鐵太郎。(帝都日日)缺。(自由通信)島田清。(日本商業通信)多田大吉。(野田經濟日報)野田功、湊三郎、渡部政雄。(大同通信)大場英十郎。(産業經濟通信)缺。(帝通)缺。(河北)加藤貞次郎。(信濃毎日)鈴木武明。(新潟毎日)坂本房治。(工業日日新聞)青山一雄、横田俊彦。(日滿工業新聞)長谷川浩正、志々目義秋、林久雄。(小樽新聞)伊東尚。(經濟時事新報)倉本肇(北海タイムス)櫻井長徳。(新聞同盟通信)小谷四郎。(京城日報)中牟田收吾。(會友)伊藤了介、我妻俊雄、増川善次郎、笹沼操佐藤隆三。(十五、十二、六)

川利男、南善次、六ツ崎道文、尾崎文藏。(日刊商業)黒木久。(交通日日)左部陸部。(福日)蔵原能夫。(大阪油脂)吉竹弘育。(大阪藥品)萬木幸次郎。(特別通信)難波英夫。(大阪藥品新聞)藥師寺茂四郎。(日本紡織通信)友田健二郎。(鐵鋼)神山利夫、高橋長吉。(經濟日報)長柄互。(中外通信)荒井陽一郎。(大東通信)石和田錦。(資料通信)缺。(日本合同通信)河合昂。(木材通信)鹽谷駒太郎。(寫眞通信)缺。(中央市場新聞)田中豐二。(交通日日)岡三誠夫。(東京機械工業新聞)佐々木俊能。(議會新報通信)工藤三郎。(山形新聞)門奈武男。(十五、十二、四)

農政記者會 ニュースの取材及び擔當記者の親睦。(沿草)昭和五年十月設立。(事務所)農林省內。(幹事)三箇月交代。(會員)(報知)岡野茂雄、岡崎博光、佐野増彦、黒田力造、小堀十明、吉田良直。(朝日)大渡順二、西田芳二、長一潔、鈴木總二。(東日)高橋司三治、鹿嶋清一、井上鏡三郎、江口榮治、藏

孝平、平岡敏男、山本政雄、伊東清六、村田敏美、米林奈翁次(讀賣)花見達二、佐久間義夫、阿美謙平、野間八十八、林田貞一。(中外商業)百本佐治郎、針本健次郎、笹尾克巳。(同盟)坂田二郎、秋葉武雄、板垣武男、中島幸基、星野力。(都)山下喜一、山野富次郎。(國民)後藤勇(東京興信)山越秀一。

瑞穂俱樂部 農林省擔任社會部記者團。(事務所)農林省內。(幹事)二名半年交代。(會員)(同盟)淺野豐。(東日)篠崎彦郎(讀賣)小山義一。(中外)茂木幹夫。(北海タイムス)藤田輝孝。(東京毎夕)御簾納健。(小樽新聞)小林一恵。(冷凍製氷新聞)鈴木正雄。(大東通信)石和田一彦(萬朝報)田中繁。(十四、十二、一)

産業研究會 東京市に本社又は支局を有する日刊新聞社及通信社の農林省派遣記者を以つて組織し、農林省關係のニュース取材と會員相互の親睦を目的とす。(沿草)創立大正九年。(事務所)麴町區大手町農林省內

(會員)(自由通信)石崎健司。(民衆通信)石川博。(日刊工業)岩永吉光。(日本工業)伊藤進一。(大成通信)北條爲之助。(日本運動)小田島清。(朝野通信)金子四郎。(商業通信)加賀卯之吉。(東洋通信)吉田彌四郎。(日本新聞通信)園顯雄。(毎夕通信)中村次兵衛。(名古屋新聞)瓜生田岩喜。(大日本通信)浮田秀正。(東京時事通信)浦田武雄。(やまこ)浦野保。(東京通信)前田禮治。(河北)村上辰雄。(内外通信)木村靖二。(日本通信)水越福藏。(東方政經通信)比野隆保。(獨立通信)元木肇。(東京毎夕)森莊三。(東亞通信)森山徳治。(日本織物新聞)鈴木泰。

重工業記者會 重工業擔任の日刊新聞記者を以て組織し、會員の親睦と重工業全般の研究を目的とす。(沿草)昭和十四年十一月燃料研究會に鐵鋼記者俱樂部を合併して本會と成る。(事務所)麴町區丸の内鐵鋼會館內。(電)丸の内一七二四、六〇二一。(會員)(報知)中野豐(東日)平岡敏男。(東朝)増田春吉。(同盟)水谷啓二。(中外)城寺次郎。(讀賣)坂野善郎。(都)松尾初一。(十四、十一、廿)

東北振興記者會 東北工業振興兩會社出入記者有志を以て組織す、目的は會員相互の親睦と連絡協調を圖り東北振興に寄與するものなり。(事務所)麴町區内幸町二ノ十一仁壽ビル東北興業東北振興電力兩會社內(電)銀座七六一一八。(構内)九番情報室。(幹事)龜封川健次郎、木村三郎、盛田文雄。(會員)(東朝)龜封川健次郎。(東日)鶴澤喜久雄。(讀賣)清野喜七。(報知)安達孝一。(同盟)木村三郎、青戸修。(河北)松家賢二。(中外商業)笹尾克巳。(東日)盛田文雄。(新岩手日報)齋藤忠雄(十四、十一、十五)

ルイバ俱樂部 水産關係擔任新聞記者團。(事務所)麴町區丸の内ビル露領水産組合內。(電)丸の内七二六。

蠶糸記者會 蠶糸業擔任の朝日他六社の經濟部記者で組織す。(事務所)麴町區有樂町蠶糸會館內。(役員)小堀十明(報

知)。(高橋武治)都。(會員)阿美謙平(讀賣)。湧口茂輝(中外)星安藤四郎(日日)。梁田浩治(朝日)。缺(同盟)。(十五、十二、一)

經濟・市場

金融同志會 各社金融擔當記者を以て組織し會員共同の利益相互の扶助を計り内外金融事情を研究するを以て目的とす(沿草)明治三十年金本位制確立と同時に銀擔任記者を以て結成(事務所)日本橋區本石町日本銀行內。(電)日本橋三七七一、二二四一。(幹事)大橋(讀賣)。大形(都)。(會員)(報知)中山光義、櫻谷重春。(東日)小池健夫、牧野純夫、岡島以司郎。(東京興信所)矢尾板正雄。(朝日)吉武信、廣岡知男、藤田武雄、増田壽郎、佐々木清亮。(同盟)永山公明、井上庄二郎、横井雄一、上原正吉。(中外)北井正久、大和勇三、藏並武雄。(讀賣)菱山長、橋、佐治芳雄、武藤三徳、大橋萬輔。(都)福良俊之、大形太郎。(十五、十二、五)

經濟記者俱樂部 日本

及東京商工會議所等擔任の日刊新聞通信記者を以て組織す。新聞記事材料の蒐集研究、並に共同利益の擁護増進を計り、會員相互の親睦を圖る。(沿草)目下の經濟記者關係クラブ中舊き、と隨一、明治三十八年日露戰後創立され其後幾多變遷あつて今日に至る。(事務所)丸の内馬場先門角、東京商工會議所內。(會員)(報知)結城一郎。(東朝)高垣金三郎。(東日)長山浩。(中央)四野宮伸吉。(同盟)石坂晃一。(自由)河村俊藏。(讀賣)濱田申一。(都)山口喬。(中外)中田武夫。

丸の内記者俱樂部 各社經濟記者によつて組織し、相互親睦共同利益増進を目的とす。(沿草)日本工業俱樂部創立以來(大正十年)。(事務所)丸の内工業俱樂部內。(電)直通丸の内六〇八九。(幹事)三名(四箇月交替)、常任委員(各社一名宛七名)。(會員)現在會員四十八名。(十四、十一、十五)

兜俱樂部 東京株式取引所市場に於て市況に關し當時擔當

の記者を以て組織し職務上の協力と相互の親睦を圖るを目的とす。(沿草)日露戰後の兜會の組織を始めとし後現名に改稱今日に及ぶ。(事務所)東京株式取引所內(日本橋區兜町一ノ六)(電)茅場町三四四九。(會員)(報知)今村良祐。(毎夕)須永茂吉。(日)高島濱。(國民)宮内喜官。(同盟)諏訪政治。(都)植松精一、山口福太郎。(報知)青山増榮。(讀賣)松井常彌。(中外)安藤仁三郎。(同盟)○蒔田宣敏。(朝日)○松浦健三。(中央)多田太吉。(中外)樋野勝俊。(讀賣)千葉幸一。(○印幹事)。(十五、十二、一)

瑞穂會 明治四十二年各社の親睦機關として組織し、一般經濟界の連絡機關を目的とす。(事務所)東京米穀商品取引所內。(電)茅場町六〇九。(會員)同盟、商通、讀賣、中央、毎夕、帝國興信、商機、米タイムス、米報、經濟、財界、商業。(十四、十一、三十)(其後の廢刊紙を除く)

商工記者俱樂部 中小商工業者より取材する八社記者

團。(沿草)昭和七年六月創立、はじめ商店記者俱樂部と稱し後現名となる。(事務所)一、日本橋區江戸橋際實業聯合會館六階。二、日本橋區高島屋裏日本商工俱樂部內。(幹事)赤羽幸雄。(會員)(中外)赤羽幸雄、大和勇三。(讀賣)佐々木芳雄、角田隆太郎。(國民)庄山茂次。(都)山本正雄(同盟)齋藤桂助。(報知)缺。(東日)缺。(東朝)井山武雄。(十四、十二、一)

通信・鐵道

常盤俱樂部 各社政治部經濟部通信部を以て組織す。(沿草)昭和十一年三月創設。(事務所)麴町區大手町通信省、丸の内五〇五〇。(幹事)塚原俊郎、杉元重明、楠孝平。(會員)(報知)楠孝平、川崎三藏。(東日)高倉英夫、井上鏡三郎、隅田恭、牧野純夫、小池健夫、伊藤清六(東朝)鐵目誠、菅原俊二、八幡次郎、菊地陽一、喜多崎爲三、辰井正明、松尾健一郎。(同盟)堀川武夫、熊本啓作、深澤幹藏、塚原俊郎。(中外)松本幸久、

中田武夫。(讀賣)杉元重明、森田善十、角田隆太郎、石坂四郎、川田秀穂、大岩小二郎、木下矢五郎。(都)石山恭春、西寛治、池田禎治。(十四、十一、十五)

務所)麹町區大手町逓信省内。(電)丸ノ内一八三六。(幹事)大木正(讀賣)、川邊正巳(中外)、(會員)北海タイムス石澤千松(報知)高橋順二。(東日)田代繼男。(同盟)永井皓。(中外)川邊正巳。(小樽)多田太吉。(讀賣)澤壽夫、大木正。(朝日)長谷川直美。(都)山本源一。(十五、十二、一)

角田隆太郎。(國民)塚野晴三。(都)石山恭春、池田禎治。(十四、十一、十五)

(寫通)宗重彦。(東洋通信)伊東照。(東京毎夕)金子憲太郎。(中外)内山小夜吉。(中央情報)小本曾貞夫。(第三通信)赤澤憲次(やまこ)津久井龍雄。(國際探訪)慶野喜美雄。(鐵道毎日通信)網島勇造。(亞細亞情報)上石丸甫。(中央通信)井上明夫。(十三、十二、七)(其後の廢刊紙を除く)

逓信記者俱樂部

新聞

逓信逓信省擔任記者團。(事務所)麹町區大手町逓信省内。(幹事)小俣一磨、古原美雅。(會員)豐國通信)青柳義孝。(獨立通信)元木肇。(大阪時事)佐藤千秋。(自由通信)古原美雅。朝野通信)小松正巳。(日刊工業)小俣一磨、肥田康彌。(東亞通信)森山德治。(日本工業)兒玉仁秀、佐藤新十郎。(名古屋)杉浦宗吾。(福日)柴田安兵衛。藏原能夫。(河北)生出幸夫。(十五、十二、五)

鐵道第一記者會 各社の政治部、經濟部、通信部連絡の記者を以て組織す。舊交通記者會と舊鐵道一新會と合併(十三年六月四日)して當會に到る。(事務所)麹町區丸ノ内一丁目一番地鐵道省内。(電)丸ノ内一八八五、五三〇四。(幹事)杉元重明、塚野晴三。(會員)報知)楠孝平、川尻連夫。(東亞通信)森山德治、大瀬戸健雄。(東日)根上柏實、隅田恭。(東朝)辰井正明、菊池陽一、銀目誠。(同盟)塚原俊郎、深澤幹藏、平井孝一。(中外商業)松本幸輝夫、中田武夫。(大毎)高木徳、井上縫三郎。(大朝)金親不二男。(讀賣)大岩小二郎、石坂四郎平、杉元重明

鐵道記者會 在東京市内本社在動日刊新聞通信社記者社會部員で結成交通運輸に關する研究を目的。(沿革)鐵道省内に於ける社會部記者團としては最古のもの結成以來廿餘年を経る(事務所)丸ノ内鐵道省内。(電)丸ノ内三八六六。(幹事)(中外)内山。(日工)倉根。(寫通)宗(會員)日本工業新聞)倉根一

鐵道研究者會 交通問題の調査、研究を目的とす。(沿革)鐵道關係最古の記者俱樂部。(事務所)丸ノ内鐵道省内(四階)(電)丸ノ内四九〇〇。(常任幹事)森三郎。(會員)日刊公益通信)春口善吾、森三郎。(東京時事通信)後藤春太郎。(中央新聞)桑野豐助。(大同通信)大場英十郎。(運輸通信)徳安實藏。(運輸日報)志賀岩夫。(鐵道公論)平田健。(自由通信)古原美雅。(新聞同盟通信)清水啓次郎。(十五、十二、五)

四六九〇。(幹事)平井勝利。(會員)東京通信)平井勝利。(中央新聞)玉川憲。(日本新聞通信)荒川甚吾。(日蘇通信)角谷健次(帝都日々)欠員。(十五、十二、一)

(晝夜)村田靜。(河北)松家賢二(福日)中野節朗。(國民)岡十萬男。(帝國新報)池田弘壽。(民友通信)田中幸夫。(新愛知)橋本康男。(十三、十二、七)

六二。(幹事)瀧谷實。(會員)(報知)白木正之。(東日)長瀧武木村一郎、筒井千尋。(朝日)西島芳二、高山毅、杉本健。(同盟)瀧谷實、片山知衛。(中外)萬直次。(讀賣)森田親一、杉本重明(都)岡田冠。(十五、十二、一)

新報)黒澤松次郎、伊藤善次郎。(法律評論)高窪喜八郎。(日本興信)渡邊重二郎。(東京興信)牧村良次。(帝國興信)關家義晴。(商業興信)島谷保治。

逓信記者會

東京都下六

鐵道記者會 昭和三十二年春分離開立す。(事務所)鐵道省内。(幹事)田中辰志。(會員)(日本合同)河合昇。(千代田)八幡兼松。(中外通信)端山敏雄。(大日本)浮田秀正。(大東通信)石和田八郎。(聯合情報)田中辰志。(合同)田中繁。

日本鐵道記者會 昭和三十二年二月地方有力紙が分離結成す。(事務所)鐵道省内。(幹事)中柳勝次。(會員)(小樽)武田慶重郎。(臺灣日日)中柳勝次(臺灣新聞)徳富迪。(滿日)増田清一。(京城日報)宮田晋。(十三、十二、七)

紀尾井俱樂部 東朝、東日、同盟、都、讀賣、報知の六社地方部員をもつて組織し、行政裁判に現れた事件の報道を目的とす。(沿革)昭和十二年三月創立。(事務所)行政裁判所内記者俱樂部。(電)同裁判所。(幹事)小座間茂。(會員)(東朝)田村薫。(東日)石井勝。(讀賣)浮島吉之。(同盟)小座間茂。(都)青山與平。(報知)徳原啓。(十三、十一、廿五)

交通研究者會

都下新聞通

信政治經濟部出身を以つて組織し相互の親睦と交通行政に關する意見の交換研究の機關とす。(沿革)大正十五年九月創立、昭和十年鐵道記者同志會を改稱。(事務所)麹町區丸ノ内鐵道省内(電)丸ノ内四九〇〇。(幹事)二名二箇月交替。(會員)(日本商業通信)多田太吉。(東京毎夕)占部秀男。(獨立通信)中野佐助(朝野)金子四郎。(施行)ミサー(朝野)安東富士夫。(毎夕通信)丹野虎吉。(交通と事業)久保祐三郎。(十四、十一、十五)

東京鐵道記者會 昭和三十二年春分離開立す。(事務所)鐵道省内。(幹事)田中辰志。(會員)(日本合同)河合昇。(千代田)八幡兼松。(中外通信)端山敏雄。(大日本)浮田秀正。(大東通信)石和田八郎。(聯合情報)田中辰志。(合同)田中繁。

司法記者會 都下日刊新聞通信社の裁判所擔任記者團。取材と會員相互の親睦とを目的とす。明治三十六年の創立。(事務所)大審院構内。(幹事)月番。(會員)(報知)大場格之助、神原孝夫、戸崎榮一。(東日)赤地幸享、大川秀吉、川野啓介、後藤喚代。(東京毎夕)相川勝利、高野忠藏。(東朝)金子喜三、西村上、菅原俊二、藤井滿洲男。(同盟)福井賢、依岡健一郎、松井善四郎、小座間茂。(中央)瀧古仁一。(中外商業)中島龜次郎、益子昭良。(讀賣)竹内四郎、浮島吉之、佐々木孜美、杉元重明(國民)遠山寛。(やまこ)菅原可純。(都)青山與平、八木泰司。(晝夜)河村儀彌。(帝都日日)長部慶一郎。(帝國通信)小林三男(法律新聞)石井敏三郎。(法律

警視廳七社會 新聞取材及び會員相互の親睦を圖るを以て目的とす。(沿革)創立昭和七年三月、左記六社により組織さる。(事務所)警視廳内。(電)銀座四七二二。(幹事)毎月二社輪番とす。(會員)報知五名、同盟五名、東日七名、中外商業六名、東朝八名、國民四名。(十四、十一、十五)

鐵道記者俱樂部

鐵道

に關する研究並に諸般の報道を目的とす。(沿革)昭和七年八月鐵道記者會より分離。(事務所)丸ノ内鐵道省内。(幹事)勝川松次郎。(會員)北海タイムスの場利貞。(東京時事)山中克己、

司法・警察

都下日刊新

聞記者を以て組織し、取材上の便宜と親睦を目的とす。(沿革)大正五年組織今日に至る。(事務所)司法省内。(電)銀座三〇

法政研究者會 都下日刊新聞記者を以て組織し、取材上の便宜と親睦を目的とす。(沿革)大正五年組織今日に至る。(事務所)司法省内。(電)銀座三〇

警視廳七社會 新聞取材及び會員相互の親睦を圖るを以て目的とす。(沿革)創立昭和七年三月、左記六社により組織さる。(事務所)警視廳内。(電)銀座四七二二。(幹事)毎月二社輪番とす。(會員)報知五名、同盟五名、東日七名、中外商業六名、東朝八名、國民四名。(十四、十一、十五)

警視廳記者會

讀賣、都
兩社員で組織、會員の親睦と取
材便宜の目的。(沿革)昭和七年
二月日比谷記者會の分裂に伴ひ
脱退組織。(事務所)警視廳内。
(電)銀座五五一一九。(電
内)三二四、三二九。(幹事)月
番二名隔月交代。(會員)讀賣
村田福次郎、景山與志雄、越野
賢二、篠原甚之助、松田利吉、
茂倉清、渡邊昌司、井浦浩、濱
田滿居。(都)戸田武男、草間茂
中山力、卯月由造、吉野正二、
佐藤宏、樽原愛彦。(十五、十二
十)

日比谷記者會

取材を目的とするもの。(沿革)舊丸の内
俱樂部を大正八年日比谷記者會
と改稱今日に至る。(事務所)麹
町區外櫻田町一警視廳内。(電)
銀座九五三、九六九(内)二七
八、二七九。(役員)月番幹事制。
(會員)やまこ、唐木田正。(共同
通信)中村多首、松本辰三。(中
央)宮崎卓一郎。(帝國通信)小
林三男。

警視廳記者俱樂部

晝夜通信、東京毎夕にて結合。

府市政

(沿革)昭和七年二月組織。(事
務所)警視廳正面二階。(電)廳
内二一八。(幹事)日番制。

同氣俱樂部

府市關係の
政治部、地方部員より成る。(沿
草)大正十五年二月創立。(事務
所)麹町區丸の内三ノ一、東京府
廳内。(電)丸の内五一、一八
一。(内)三二一、一三五。(幹
事)北條清一、栗原廣美、田口
明。(會員)(東日)栗原廣美、北
條清一、住本利男、廣瀨英太郎
(東朝)岩田豊秋、星野政雄、佐
々木清亮。(報知)田口明、松本
俊、馬立龍雄。(中外)川邊辰夫
(十三、十一、二五)

自治研究會

東京府市に
出入する新聞通信記者を以て組
織し府市政に就て相互研鑽し併
せて會員の親睦を圖る。(沿革)
明治廿八年鍛冶橋俱樂部として
誕生大正八年改組して自治研究
會と成り現任に至る。(事務所)
東京市役所内。(電)丸の内五一
一。(内)線三二六。(幹事)加須
屋五郎。(會員)(東京毎夕)御藤

有樂俱樂部

東京府、市
政記者團、日刊新聞社會部員を
以て組織す、取材と部員の親睦
を圖るを目的とする。(沿革)大正
八年創立武蔵野俱樂部と稱し、
有樂俱樂部と改稱、更に都政記
者會と改め、再び有樂俱樂部と
なり現在に及ぶ。(事務所)東京
市役所内。(電)丸の内五一
一八一。(幹事)三社宛二ヶ月交
代。(會員)(日日)増田傳八、西
川重雄。(報知)横川禮之輔。(中
外)石川信吉。(讀賣)佐々木孜
美。(毎夕)占部昌宏。(やまこ)
佐藤高一、山田長司。(國民)欠
(中央)欠。(都)山口定雄。(十五
一一、一)

帝都記者會

府市政記者
團。(事務所)麹町區丸の内市役
所内。(電)内線四六三。(幹事)
石和田銜。(會員)(日刊工業)野
口三郎。(工業經濟新聞)中島末
治。(千代田)水野清之。(中央

學藝・スポーツ

東京新聞美術記者

美術界百般のこゝろを是非
々主義により批判報導す。(沿
草)明治四十一年文展創設以來
今日に及ぶ。(兼任幹事)田澤良
夫。(會員)(朝日)遠山孝。(日
々)金子義雄。(報知)廣瀬喜六。
(中外)外狩素心庵。(中外)井上
正雄。(毎日)高澤初風。(毎夕)
田澤良夫。(十四、十一、二〇)
東京音樂記者會 取材
の便宜と會員相互間の親睦を計
るため東京市内の日刊新聞社の
音樂記者によつて組織す。(沿
草)昭和六年八月創立。(事務所)
京橋區銀座西六ノ五、大日本音
樂協會内。(電)銀座三八三〇。

東京運動記者俱樂部

東京市内新聞及び通信社の
運動記者を以て組織し部員相互
の親睦と業績上の便益を圖るを
以て目的とする。(沿革)大正六年
創立、十四年十一月十七日百三
十一名の會員を擁す。(事務所)
假事務所東京市丸の内東京朝日
新聞運動部氣付。(電)丸の内一
三一、社内五六。(幹事)山田午
郎。(兼會計)小島六郎。兩角政
人、進藤鎮雄、上野徳太郎。(會
員)(中外商業)茂田幹夫、太田
唯雄、神林正次、高山晃、舟戸
實、石川信吉。(中央新聞)玉川
憲、岡村良爾、鈴木正雄。(報
知)山本幸重、兩角政人、三原
修、繩田尚門、武野武治、市毛
大成、岩田喜芳、東方利重、鈴
木貞太郎、神原孝夫、徳原敬、
井上康文。(ジャパンプライムス)

部

村田五郎、中島覺、佐々木仙一
(國民)白井正福、平野謙吾、中
島政信、佐々木禮三、柴田道司
杉立宣夫、中村金雄。(都)渡邊
公平、宮川謙一、原三郎、錦戸
善三郎、遠藤崎三、安部忠文、
御牧福兒、兒島宋吉、安藤教雄
渡邊高昌、渡邊正次、出野久滿
治。(同盟)秋山慶幸、村田篤、
工藤孝一、山東嘉樹、菅沼俊哉
武田尚昌、平岡慶次、友田壯一
藤原文雄、矢上誠、川本泰三、
高島修三、野崎彌、大村泰三、
遠藤與一、本田親喜、秋田與四
三。(東朝)小高吉三郎、河合勇
植村陸男、飛田忠順、久保田高
行、小出秀世、加納克亮、伊藤
寛、富永正信、大橋正路、木村
象雷、伊藤昇、進藤次郎、高師
康、杉本藤太郎、加藤福雄、山
田午郎、天藤明。(東京毎夕)御
藤納健、卜部秀男。(東日)弓館
芳夫、福田雅之助、上野徳太郎
岩下秀三郎、伊集院浩、齋藤鏡
洋、中尾庫一、藏田正明、森川
宗興、宮本義男、正富笑人、北
澤清、小野三千鷹、相馬基、竹
節作太、辻修二、小川正太郎、

相撲記者俱樂部

都下
新聞通信相撲擔任記者を以て組
織し正しき批判と報道を通して
相撲道の發展向上を計ると共に
會員の事務遂行の便宜を計るを
目的とする。(沿革)明治三十六年
創立最初振角會と稱し後相撲記
者俱樂部と改む。(事務所)本所
區東兩國二ノ二大日本相撲協會
内。(電)本所七六四九。(役員)
常任幹事加藤進(報知)。幹事小
島六郎(讀賣)。相川勝利(毎夕)
(會員)(朝日)植村陸男、河合政。
(讀賣)江馬盛、小島六郎。(やま

日本競馬記者會

各新
開社競馬擔任記者を以て組織
し、會員相互の親睦を圖り馬事
知識の涵養を目的とする。(沿革)
大正十二年競馬法の發布と共に
帝國競馬記者俱樂部なるものを
組織せりも後雜誌と分離し新聞
社のみの東京競馬記者俱樂部と
名付けたるも昭和十二年八月の
總會に於いて日本競馬記者會と
名稱を變更す。(事務所)東京芝
區新橋田町二二、日本競馬會内。
(幹事)常任)植村陸男、植村嘉三郎
(當番)中澤忠一。(會員)(報知)
井上康文。(東京毎夕)木村政司
(朝日)植村陸郎。(東日)藏田正
明。(同盟)缺。(中央新聞)玉川

惠。(晝夜通信)植村嘉三郎。(中
外商業)茂木幹夫。(讀賣)西郷
謙次。(國民)中澤忠一。(都)楠
茂市。(二六)米山誠一。(やま
さ)岡田光一郎。(十五、十二、一)

雜

十五日會

都下八社整理部
長團。(沿革)昭和十五年二月創
立。(幹事)二名、六ヶ月交替。
(會員)(東日)岩佐直喜、岩下道
爾。(東朝)千葉雄次郎、加藤祇
文。(同盟)岡村二一、田中正太
郎、田村源治、潮海秀之助。(報
知)小原俊一、木村幹枝。(讀賣)
渡貫貞治、門田武雄、前川靜夫
(中外)勝川喜之助。(都)兒島宋
吉、遠藤崎三。(國民)佐々木覺
次郎。(十五、十一、十五)

日本報道寫眞家協會

報道寫眞家及びその研究家
を以て組織し、報道寫眞を以て
國民精神の啓發宣揚を期し全日
本報道寫眞組織の一元統合を
要望す。(沿革)昭和十五年九月
一日結成。(事務所)京橋區築地
明石町卅一。(電)築地二七一二
(役員)(幹事長)梅本忠男。(常

東京ラヂオ記者會

都下日刊新聞社通信社のラヂオ
記事擔當記者を以て組織し、新
事業の向上發展を期す。(沿革)
大正十四年七月A.K放送開始と
共に組織し現在に至る。(事務
所)麹町區内幸町二ノ二、日
本放送會館内。(電)銀座七七五
一一〇(局内線四五六一九)
(役員)小田仁二郎(都)。久住良
三(東日)。(會員)(朝日)菊地侃
伊澤紀、青木純二、木原信二、

東京飛行記者會

航空
に關する指導任務を會員の協同
研究。(沿革)大正七年創立。(事
務所)芝區田村町一丁目、飛行
館内。(電)銀座五六七一九。
(幹事)長谷川直美(朝日)。田代
繼男(東日)。(會員)高橋顯二
(報知)石尾市太郎(朝日)。淺
海一男(東日)。永井浩(同盟)。
川邊正巳(中外)。河村儀彌(晝
夜通信)。長谷川直美(大朝)。田
代繼男(大毎)。大木正(讀賣)。
缺員(名古屋)。樺井金之助(國
民)。山本源一(都)。島谷五郎
(新愛知)。北尾龜男(飛行)。
(十五、十二、一)

東京労働記者會

社會
運動擔當の日刊新聞通信記者を
以て組織す、會員相互の親睦と
取材の便宜を目的とす。(沿革)
創立當時は無産政黨が始めて我

メトロポリタン記者協會

在東京主要新聞通信
社によつて一九二一年二月創立
され外國旅行者及び在住外人の
ニュース發表の媒介を目的とす
(事務所)麹町區丸ノ内帝國ホテ
ル内。(電)銀座三一五一三三
六一。(幹事)奥山清平。(會員)
(文化情報局)山岸孝一郎。(報
知)藤平權一郎。(英文東日)田
中源治。(東日)住本利男。(ジ
ヤパンタイムス)鈴木勝(同盟)

日本商業美術協會

商業美術作家及商業美術に關心
を有つ者を以て組織し、商業美
術の確立とその研究を目的とす
(沿革)大正十五年四月商業美術
家協會の名稱の下に創立、後現
名に改稱す、展覽會、講演會、
月例研究會、機關誌「商業美術」
刊行等の事業をなせり。(事務
所)京橋區銀座三丁目一。(電)
京橋八一七。(會員)(理事長)
古田達賢。(理事)伊藤豊、稻垣
知雄、戸田達雄、片柳忠男、田
野郎温、山崎陽一、朝影禮三、
京谷涼二、宮崎慶次。外會員四
十三名。(十四、十一、廿五)

全國商業美術教育協會

商業學校を單位とする會
員組織、商業美術の發達普及を
目的とす。(沿革)昭和九年實業
教育五十年式典に於ける第一回
商業美術展覽會に端を發し十年
本協會結成、十五年第七回全國
商業美術展覽會を開催、現佐會
員一〇〇なり。(事務所)牛込區
早稲田鶴卷町一〇、早稲田實業
學校内。(電)牛込七五、三八四

日本廣告俱樂部

廣告
に關係を有する事業の經營者、
廣告實務擔當者及學理技術の研
究者を以て組織し、廣告文化の
向上を圖るを以て目的とす。(沿
革)昭和四年四月二十日創立、
昭和十五年七月東京府美術館に
世界ポスター美術展覽會を開催
す。(事務所)京橋區銀座西六ノ
五、鍋町ビル。(電)銀座七八八
(役員)(理事長)津村重舍。(書
記長)増原暢彦。(理事)四十名
(略)。(會員)二百四十五名。
(十五、十二、十)

新聞廣告研究會

全國
新聞社及廣告主を會員とし、新

村山有。(朝日)陸奥陽之助。(奥
山)サード(奥山)清平。(帝國ホ
テル)犬丸徹三。(丸ノ内會館)
五百木竹四郎。(ジャパンプー
リスト)高久甚之助。(日本郵船)
生駒實。(大會組)大倉喜七郎。
(會友)日本貿易振興會)木下乙
市。(中外商業)直海善三。(内閣
情報局)指田文三郎。(ジヤパン
タイムス)上野田節男。(十五、
十二、四)

營業關係

廣告

日本廣告聯盟

我國に於
ける廣告宣傳に關係を有する團
體を以て組織す、加盟團體は理
事を推薦す、各地廣告團體相互
の連絡を密接にし更に世界廣告
會議に参加し廣告に必要な事
項を攻究し廣告文化の向上發展
を圖るを以て目的とす。(沿革)
昭和四年十一月大阪市に結成、
今や國際廣告會議に席を有し加
盟團體十四地方十九團體、會員
三千二百餘名。(事務所)京橋區
銀座西六ノ五、鍋町ビル。(電)

三。(役員)(主任)小林愛雄。(幹事校) 早實、京北實、府立一商、同三商、市立芝商、昭和第一商、淺草女子商、宇都宮市商松阪商。(會員)全國百十七商業學校。(十五、十二、一)

(朝日)田畑忠治。(都)峰島尙志(十五、十二、一)

三社會 東朝、讀賣、東日三社の販賣協定機關として昭和十二年七月結成さる。(事務所)京橋區銀座西七丁目北海タイムスビル内。(會員)(東朝)田畑忠治(讀賣)務光雄。(東日)中坪八重藏。(書記長)益城良造。(十四、十二、一)

販賣

東京新聞販賣聯盟

東京新聞販賣聯盟

東京八社販賣部長を以て組織し自肅自戒、職域奉公、販賣の合理化等を期す。(沿革)昭和十五年十一月廿七日舊五日會(社交團體)を解散し同日結成す。(事務所)京橋區榎町三ノ三北陸館内。(電)京橋七四一八。(幹事)中坪八重藏(東日)。峰島尙志(都)。(會員)(報知)齋藤久治(東日)中坪八重藏。(東京毎夕)塚越三郎。(中外商業)榎原五朗(讀賣)務光雄。(國民)原重徳

新聞工業聯盟

自治組織 新聞製作資材需供給の圓滑を期す。(沿革)昭和十三年八月成立。(事務所)東日印刷部、東朝印刷局。(役員)幹事社、東朝、東日。(會員)帝都七社、大阪二社、新愛知社計十社。(十四、十一、廿二)

全國新聞地金組合

任意組合、所屬新聞社に地金類の配給を行ふ。(沿革)昭和十三年十月二十四日創立。(事務所)京橋區銀座西五ノ五秀吉ビル。(電)銀座三六五二、三六五三。(會員)全國百八十九社。(十四、十一、十五)

廣告代理業

協同會 廣告代理業者を以て組織し相互の親睦と新業の私益を擁護し其進歩發達を圖るを以て目的とす。(沿革)大正三年六月六日創設。(事務所)當番幹事社を以て事務所とす。(役員)(當番幹事)萬年社東京支社。(會員)(博報堂)瀨木博信。(電通)光永星郎。(豐國)谷口武雄。(京華社)井上忠次。(廣告社)湯澤精司。(弘報堂)高田廣海。(告天社)富永良太郎。(正路喜社)安田彦三郎。(萬年社)牧茂。(十五、十二、四)

東京新聞廣告協會

東京市内に本支店又は出張所を有する廣告代理店を以て組織し會員相互の親睦を圖り、業務上の福利を増進するを以て目的とす。(沿革)大正十三年十二月二十二日創立。(事務所)京橋區銀座西五豐國通信社内。(電)銀座一三七七。(役員)交替にて幹事二名を置く。(會員)博生堂、萬歲社、豐國通信、大河組、確報堂、大明通信、大同通信、宗田

八日會

市内案内廣告代理業者の團體、斯界の淨化明朗を期するを目的とす。(沿革)昭和十四年二月創立。

日本廣告協會

屋外其他各種の廣告業者より成り、廣告の進歩發達と其の醇化統制を目的とす。(沿革)創立昭和五年十月廿八日、同六年八月十七日社団法人認可。(事務所)京橋區榎町三ノ五ノ十六。(電)京橋六六一四。(會員)百九十三名。(十三、三十、三十)

東京看板裝飾業組合

看板裝飾業の改善發達と同業者の福利増進等を目的とす。(沿革)昭和八年五月七日創立。(事務所)日本橋區兩國五〇。(電)浪花四九〇四。(組合長)二宮亮一。會員五百八十名。

日本廣告主協會

全國有力新聞に別に定むる相當量の廣告を掲出する廣告主又は廣告主を代理し得る者を以て會員と

し、廣告の國家的社會的重要使命に關し一般の認識を深からしめ、且つ廣告の改善發達による共存共榮を計るを以て目的とす(沿革)昭和十四年十二月創立。(事務所)日本橋區本町三丁目八博文館内。(電)日本橋一三〇一三〇六。(役員)(委員長)大橋進一(博文館)。(幹事)飯田美稻(松坂屋)。總井豐治(三省堂)橋弘作(芝浦マツタ)。津村岩吉(敬天堂)。内藤豐次(田邊商店)。内田誠(明治製菓)。上田良一(わかもと本舖)。山崎麻吉(小林商店)。安藤金平(安藤井筒堂)。三輪善兵衛(丸見屋商店)。峰村幸三(日本ビクター)。(事務長)山崎卓雄。(會員)飯田美稻(松坂屋)。井上成意(カルピス)。岩波茂雄(岩波)。井田友平(京榮堂)。堀正由(救心本舖)。原敏三郎(レオン商會)。千倉豐(千倉書房)。大橋進一(博文館)。大木良輔(大木合名)。小川菊松(誠文堂新光社)。加藤利信(藤澤友吉)。河出孝雄(成美堂河出書房)柿沼源治(友田)。總井豐治(三省堂)。勝田重太郎(平尾)。高木

清茂(鈴木商店)。橋弘作(マツタ支社)。玉置源一郎(玉置)。津村岩吉(敬天堂)。津村重合(順天堂)。内藤豐次(田邊)。中山豐三(太陽堂)。長坂金雄(雄山閣)。中村實(中村瀧)。内田誠(明治製菓)。上田良一(わかもと)。久保伸進(久保政吉)。桑原英雄(田邊五兵衛)。草野豐(近藤商事)。八橋欽二(日蓄)。山内健二(山之内藥品)。山崎麻吉(小林商店)。松田吉雄(萬有製藥)。松浦英吉(高島屋)。福島一郎(野田醬油)。藤井得三郎。藤田篤(日本油脂)。荒木八郎(伊東胡蝶園)。安藤金平(井筒堂)。山崎宗晴(森永)。齋藤榮吉(武長)。齋藤壬夫(近源)。坂入虎四郎(白木屋)。北原鐵雄(アルス)。三輪善兵衛(丸見屋)輕海一男(古醫學)。峰村幸三(日本ビクター)。宮崎博(三越)宮崎彦治郎(松屋)。白川慶三(資生堂)。守隨彦太郎。日南田義治(第一製藥)。鈴木利貞(日本評論)。砂原宣雄(三共)。(十五、十二、五)

亭に發會式を擧ぐ。

十五年八月の中村瀧商店中村實君の入會あり先の入會者ヘチマコロン齋藤壬夫君を加へて四十九名となる。

同九月前滿日東京支社長山崎卓雄君事務所局長となる。

同十月新聞雜誌の廣告料更改に際しその適正單價算定の基礎として、過去三ヶ年間の販賣部數の變遷。一、販賣部數の分布狀態。一、其社及び讀者層の特殊性、以上三點の明示要請を聲明す。

同年十月八日法人組織準備委員會を開く。

彌生會 廣告の研究、取引の合理化、廣告政策の協調を目的とす。(沿革)昭和三年三月創立(事務所)月番幹事の社。(役員)(常任幹事)高木清茂、毎月々番各會員幹事を爲す。(會員)(丸見屋)三輪善太郎。(森永)山崎宗晴。(近藤商事)草野豐。(クラア)中山豐三。(カルピス)井上成意。(アルス)北原鐵雄。(明葉)内田誠。(味の素)高木清茂。(十五、十一、十九)

親睦會

化粧品本舖廣告部長を以て組織し、親睦を目的とす。(沿革)昭和十二年三月發會今日に至る。(事務所)假事務所蒲田區東蒲田一丁目ライオン齒磨本舖小林商店内。(電)大森八七五一。(役員)なし。(會員)(花玉)井上堅。(久保田商店)久保伸進(近源)齋藤壬夫。(中山太陽堂)西郷徳男。(丸見屋)衣笠靜夫。(資生堂)白川慶三。(小林商店)平野次郎。(十四、十一、廿五)

小話會

雜誌、出版物、廣告研究團にて、販賣、廣告、印刷、用紙、取引制度その他營業を中心としたる凡ゆる事項に就いて意見を交換し、事業の發展に資す。(沿革)昭和十年六月創立。(事務所)神田區駿河臺一、日本雜誌協會事務所内。(會員)講談社、主婦之友社、中央公論社、改造社、新潮社、文藝春秋社、實業之日本社、博文館、誠文堂新光社、研究社、婦女界社、小學館。(十五、十二、五)

かなめ會

親交團體。(沿革)創立滿四年。(事務所)京橋區京橋一ノ九、古醫學研究所内

(電)京橋二六三八。(役員)(常任幹事)(古醫學)輕海一男(當番幹事)(アルス)小山進。(當番幹事は月番別)。(會員)輕海一男(古醫學)。小山進(アルス)。佐々木彰(わかも)。寺西憲一(大木合名)。山本惣一(レオン)。内田武雄(日本製藥)。玉川一郎(コロンビヤ)。(十五、十二)

東京書籍商組合 東京市内に營業所を有する圖書の出版業、卸賣業、販賣業者を以て組織す。組合員協同一致して新業の發達を圖るを以て目的とす。(沿革)明治二十年十一月五日設立。(事務所)神田區駿河臺一丁目二。(電)神田八五四。(役員)(組長)目黒共七。(副組長)岸他丑、榊原友吉、外四十八名即ち五十一名(評議員)。(會員)二百七十六名(十四、十一、十五)

取次業の参加を乞ひ春秋二回例会を開く。(幹事)毎回取次店より一名新聞社側より一名を幹事として(會員)(大朝)宮田新次郎(大毎)林嘉一。(大時)佐藤勇助(大阪中外)瀧藤鹿之輔。(大阪日日)百田多三郎。(夕刊大阪)久松秋芳。(大阪朝報)祖上祐三(電通)木下源一郎。(正路喜社)宮澤源三郎。(新興社)加藤敏三郎。(廣告社)木村政雄。(豐國)谷口武雄。(萬年)内田光造。(京華)井上忠次。(博報堂)瀧木博信。(弘報堂)遠山源太郎。(十四、十一、十七)(其後の廢刊紙を除く)

なかよし會 東京紙及地方紙社員有志より成り、廣告研究並に會員相互の親睦を目的とす。(沿革)昭和十一年九月結成(事務所)北海タイムスビル内。(電)銀座一七五。(幹事)月番二名。(會員)岩浦太平(平塚毎日)。石丸務(朝鮮新聞)。伴哲夫(東日)。西部健而(滿新)。本間隆(函タイ)。渡部勝彦(讀賣)立花義孝(中國)。土橋三郎(北海タイムス)。牧野昇三(河北)

櫻井朝次郎(滿洲國通信)。柴垣正次(京城)。酒井金太郎(京都日日)。勝呂宗弘(讀賣)。(會友)伊藤隆(前時事)。香名秋次(名古屋)。(深水三郎(大毎)。(十五、十二、一)

新聞商店懇談會 新聞廣告を中心とした懇親團體。(沿革)昭和十年十一月に設立する。年四回臨時會合し廣告界の時局に就いて種々懇談且つ親睦を圖る。(事務所)なし。(役員)順番幹事制。(會員)神谷市太郎、菊池武一、清澤巖、高木清茂、新田宇一郎、藤本安治、南強一、山崎卓雄、永井省三、佐藤新衛、草野豊、山崎宗晴、中山豊三。(十五、十二、五)

廣告談話會 廣告主並に代理業者(電通)を以て組織し廣告を研究し新界の進歩發達を圖るを以て目的とす。(事務所)京橋區銀座四七丁目、電通内(電)銀座四一一、五九一一。(幹事)柿沼源治、松本朝之助、山崎麻吉。(常任幹事)光永眞三。(會員)(パイロット)小田島義。(コロムビア)玉川一郎。(電通)

光永眞三、不破瑛磨、大、木下源一郎、安藤彪雄(北海道製酪)瀧尾俊三(東京電氣)田島伍祿(友田)柿沼源治(東寶)樋口正美。(中央公論)島中雄作。(大日本麥酒)半田舜資。(高島屋)小瀧竹松、木村宗一。(田邊元)内藤豊次。(敬天堂)津村岩吉。(太陽堂)中山豊三。(花王)山崎高晴。(ウテナ)久保政吉。(ヤマサ)相馬敬止。(丸見屋)三輪香兵衛。(松屋)宮崎彦治郎。(松本算術店)松本朝之助(丸金醬油)彌谷醇平。丸之内會館(五百木竹四郎)。(松坂屋)飯田美稻。藤井得三郎。(小林商店)山崎麻吉、平野次郎。(講談社)水谷龜太郎。(近藤)草野豊。(わかも)上田良一。(井筒堂)安藤金平。(麒麟麥酒)淺岡準平(明治製菓)内田誠。(アルドック)クノース)小島伸三郎。(松竹)三島良藏。(白木屋)坂入虎四郎(養生堂)白川慶三。(平尾)板倉安兵衛。(味の素)高木清茂(東京藥院)横田政五郎。(ウテナ)松田治義。(淺田館)堀内伊太郎(十五、十二、八)

關係業

東京紙商同業組合

地區は舊東京市とし、專業と兼業とを問はず店舗を有する内外紙の卸商仲買商を營業とする者を以て組織す。組合は組合員の一致協同を主とし營業上の弊害を矯正し信用の保持事業の發達を企圖するを目的とす。(沿革)明治四十年七月二日東京洋紙商同業組合設立し大正八年八月東京紙商同業組合と改稱し現在に至る。(事務所)神田區駿河臺三丁目六ノ一。(電)神田一九六一(役員)(組長)山本留次。(副組長)川島庄之助。(同兼會計主任)柏原孫左衛門。(評議員)十七名(會員)二百二十名。(十四、十一、三十)

東京印刷インキ材料商組合

印刷インキ並に材料製造販賣業者を以て組織し組合員の共存共榮を目的とす。(沿革)大正三年十月親睦組合結成昭和十二年十月二十六日準則組合認可(東京府知事)。(事務

東京印刷同業組合

所)京橋區銀座西五ノ三對鶴館内。(電)銀座一三九〇一二。(役員)(組合長)龜岡豊二。(副組長)中西京次郎、水谷景長。(會員)九十三名(十四、十一、一)

東京市麹町區外廿四區(十區未加入)内に於て凸版、平版、凹版の製作及印刷を業とするものを以て組織す組合員は協同一致して營業上の弊害を矯正し其の利益を増進するを目的とす。(沿革)明治四十三年七月創業大正五年五月主要物産同業組合法施行規則改正に伴ひ定款の改正認可さる。(事務所)京橋區新富町二ノ廿三。(電)京橋六九一〇。(役員)(組長)大橋光吉。(副組長)鈴木正平、青木弘。(評議員)十五名。(組合員)二千四百五十名。(十三、十一、廿五)

製本同業組合

東京市内の製本並に製本業者を以てする社団法人(強制加入権を有す)營業上の弊害を矯正し其の利益を増進するを以て目的とす。(沿革)明治三十三年六月八日農商務大臣認可。(事務所)神田區錦

地方紙關係

町二ノ七(電)神田二七三二。(會員)千五百名。

全國新聞支局會

地方新聞東京支局を以て組織す。社交及び交渉の團體。(沿革)約二十年前に組織せられしもの。(事務所)京橋區銀座西五、九州日報支社内。(電)銀座四六六、六二九〇。(會員)百〇八社。(十四、十一、廿五)

地方新聞聯盟

代表的地方紙十七社を以て組織し、同盟の通信を地方的に充實せしめ又加盟各社相互の取材の交換を計り地方紙の特異性を發揮するを以て目的とす。(沿革)昭和七年三月創立(當時五日會と稱す)現在に至る。(事務所)京橋區銀座西七ノ一、電通ビル。(電)銀座七〇〇六。(幹事)北海タイムス鹿兒島朝日、新潟毎日。(會員)(秋田魁)井上勝太郎、(静岡新報)井上忠太郎、(下野)泉澤純藏、(北海タイムス)西美藏、(新潟毎日)川崎新吉、(鹿兒島朝日)河内時中、(北國)吉藤初三郎、

告人會

地方新聞支局員を以て組織し、新聞廣告一般を研究その動向を検討して會員相互の親睦と新聞廣告界の更新態勢に順應の用意を期す。(沿革)昭和十三年三月二日結成。(事務所)京橋區銀座西六ノ一、北國毎日新聞支局内。(電)銀座四七七。(役員)幹事二名(ろは順(書記)藤澤實。(會員)岩林虎之助(毎日新報)。伊藤萬藏(上海毎日)。横池惣三郎(九州日報)。石川峰雄(小樽)。西村松雄(大陸新報)。千葉光雄(河北)。大森盛芳(國通)。渡邊多喜夫(土陽)玉木東一(關西中央)。宇都宮白清(東亞新報)。藤澤實(北國毎日)。福井昌一(名古屋新聞)。齋藤和雄(九州日報)。坂本智男(伊勢新聞)。關川進(中國)。鈴木秋

五(新京日日)。鈴木正雄(泰東日報)。(會友)齋藤綱一(天津庸報)。

日本新聞聯盟

北海タイムス、河北、新愛知、福日の四社を以て組織す。

土曜會

小樽新聞、臺灣日日、名城日報の四社を以て組織し、共同取材を目的とし、小説、時評、特電、園藝、將棋、漫畫等の配給をなす。

昭和八年三月、國民新聞、滿洲日日、臺灣日日、京城日報、名古屋新聞五社を加盟社として創立、同年九月小樽新聞參加、同十二月國民新聞退、同十一月八月滿洲日日退、同時に神戸新聞參加、同十三年十二月同新聞退、今日に至る。

(事務所)京橋區銀座三ノ三豐玉ビル。(電)京橋五七〇二。(役員)(主事)京正義太郎。(會員)(小樽)遠藤誠一。(臺灣日日)永井省三。(名古屋新聞)三浦修治(京城日報)熊谷憲一。(十五、十二、五)

井省三。(名古屋新聞)三浦修治(京城日報)熊谷憲一。(十五、十二、五)

南北會 支那新聞廣告及廣告取引の合理的發展を計る。(事務所)日本電報通信社内。(役員)會員四ヶ月毎に交替。(會員)會員は左記十一社支社長を以て正會員とし、支社員を副會員とす

加盟社は北京新民報、大陸新報、東亞新報、香港日報、天津庸報、武漢報、青島新民報、青島新報、上海毎日、蒙疆新報、大楚報、報業經理所加盟料開、山東新報(十五、十二、十)

三社會 臺日、京日、滿日の東京支社長の親睦機關。

拓務新聞協會 朝鮮、臺灣、滿洲及樺太に於ける新聞社在京社員又は通信員が相互に知識を啓發し且つ通信の迅速及營業の發達を圖るを目的とす。(沿革)創立大正九年。(事務所)京橋區銀座三、豐玉ビル臺灣日日新聞社内。(電)京橋五六四〇、一四九。

地方新聞記者聯盟 地方紙東京支局通信社員を以て

組織し會員相互の親睦と通信上の便宜を得るを目的とす。創立昭和七年九月十三日。(事務所)拓務省内拓務研究會内。(會員)(臺日)中柳勝義(臺灣)德富迪(臺灣日報)松野清一。(京日)宮田晋。(滿日)増田清一。(北海タイムス)藤田輝孝。(小樽)苗慶重郎。(九日)來島三郎(旭川)佐々木正。

代理業と地方紙 八火會 日本電報通信社長光永星郎(號八火)氏を中心に、地方新聞有力支局長を以て組織し相互の親睦を以て目的とす。(沿革)昭和七年十一月結成、爾後毎年二回乃至三回の大會を開催(事務所)京橋區銀座西七ノ一。電通社内。(電)銀座四一一一。九(役員)會員中より順次大會毎に三名或は四名を抽籤任命し、當時七名の幹事を置く。(會員)(横濱)坂崎靜馬。(いはらき)中島保雄。(下野)泉澤純藏。(上毛)巖斗勝文。(福民報)古和口虎雄。(河北)牧野昇三。(新岩日)武田喜久期。(東奥)藤田義

一。(魁)井上勝太郎。(山形)渡部彦四郎。(靜新)井上忠太郎。(山梨日)林省三。(新愛知)中根乾。(名古屋)三浦修治。(信毎)直居史郎。(新每)川崎新吉。(新潟)小野喜一(北國)吉藤初三郎。(福井)村松賀。(伊勢)松崎正二郎。岐阜日)宮田磯治。(京日出)小林俊司。(京日日)酒井金太郎。(神戸)酒井謙吉。(合同)田中常人。(中國)飛鳥江亮智。(關日)山田豐。(德每)前田亮。(海南)清水彌一(高知)栗尾結城。(福日)野口義夫。(九日)鈴木賢司。(九日)森園豐吉。(九州)西東秀剛。(長日)岩瀨隆。(鹿新)松浦信八。(鹿朝)河内時申。(大分)松浦清平。(宮崎)山田壽恵吉。(北タイ)西美藏。(小樽)石川峯雄。(函新)北村温平。(函日)稻垣政次郎。旭川)佐々木正。(臺日)永井省三。(新民報)祖上祐三。(臺新)德富迪(臺日報)大西隆之助。(京日)熊谷憲一。(朝鮮)石丸務。每新)鄭寅翼。(釜日)堀克己。(平每)岩滿太平。(朝鮮)大内寛(滿日)中澤不二雄。(滿新)西都

て組織し、懇親を目的とす。(沿革)昭和八年六月設立。(事務所)大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大手前記者俱樂部 府政報道の正鵠を親睦を圖るため結成。(沿革)大阪府最古の記者俱樂部。(事務所)大阪府廳内。(電)東五五〇〇、六〇〇〇。(幹事)浦上新六。(會員)(日本工業)大川鐵三。(日刊工業)清家唯一。(日滿工業)小網利夫。(同盟)浦上新六。(大阪今日)武本英一。(大阪經濟)太刀掛禮二。(大阪中外)栗田迪。(大阪朝報)中島直光。(大阪毎夕)岩本敬二(大阪日日)大北朝郎。(關西中

博友會 博報堂、地方新聞相互間の親睦を圖るを以て目的とす。(沿革)昭和九年十一月成立(事務所)神田區錦町博報堂内。(電)神田代表二一八一。(役員)全國及滿支と六地方別に各一名二總會每改任。(會員)約五十名(十四、十一、一)

二、大阪 編輯關係 府市政 大阪市政記者團 在阪有力日刊新聞市政擔當記者を以

湯茶話會 廣告社兩社長及社員を中心とし地方有力新聞の東京支社長を會員とす。(沿革)昭和五年十二月懇親團體結成を決す。第一會總會昭和六年三月十四日。(事務所)京橋區西銀座五ノ一廣告社内。(電)銀座三一、三二。(役員)(相談役)湯澤精司(會長)湯澤清。(常任幹事)木村

不言會 電通出入の地方紙廣告擔任外交團體。(沿革)昭和五年十一月廿六日以來會を重ねること廿數回。(事務所)京橋區銀座西七ノ一電通社内。(役員)幹事每年交代。(會員)六十餘名。(十三、十一、卅)

正交會 正路喜社及在京支局長有志を會員とし親睦を圖るを以て目的とす。(沿革)昭和十二年創立に係る。(事務所)京橋區銀座西七ノ五、正路喜社内。(電)銀座五七六六八。(役員)(常任幹事)宮澤源三郎、幹事は半年毎に氏名イロハ順に依る。(會員)(魁)井上勝太郎、(下野)泉澤純藏。(長崎日)岩瀨隆。(北タイ)西美藏。(旭川)佐々木正。(釜日)堀克己。(臺灣日報)

健而。(滿鮮)平澤洵。(盛京)松本七五郎。(國通)田中寛次。東亞)本田龍。(庸報)内海俊輔。(大陸)森山喬。(上海)西村虎一。(武漢)渡邊陸。(電通)光永星郎、光永眞三、不破瑛磨太木下源一郎、栗原廣、石井衛太(書記長)吉田秀雄。(十五、十二、五)

大西隆之助。(北越)小野喜一。(山形)自由(渡部)彦四郎。(九日)鈴木賢二。(關門)山田豐。(新湯)川崎新吉。(鹿朝)河内時申。(北國)吉藤初三郎(合同)田中常人。(新岩手)武田喜久期。(臺灣新民報)祖上祐三(信毎)直居史郎。(臺日)永井省三。(福日)野口義夫。(高知)栗尾結城。(滿日)中澤不二男。(大分)松浦清平。(伊勢)松崎正二郎。(河北)牧野昇三。(小樽)石川敏夫。(中國)飛鳥江亮智(神戸)酒井謙吉。(函館)北村温平(京日)熊谷憲一。(新愛知)中根乾。(名古屋)三浦修治。(京都市)末國金太郎。(夕刊大阪)久松秋芳。(九州新聞)西東秀剛。(十五、十一、廿)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

健而。(滿鮮)平澤洵。(盛京)松本七五郎。(國通)田中寛次。東亞)本田龍。(庸報)内海俊輔。(大陸)森山喬。(上海)西村虎一。(武漢)渡邊陸。(電通)光永星郎、光永眞三、不破瑛磨太木下源一郎、栗原廣、石井衛太(書記長)吉田秀雄。(十五、十二、五)

大西隆之助。(北越)小野喜一。(山形)自由(渡部)彦四郎。(九日)鈴木賢二。(關門)山田豐。(新湯)川崎新吉。(鹿朝)河内時申。(北國)吉藤初三郎(合同)田中常人。(新岩手)武田喜久期。(臺灣新民報)祖上祐三(信毎)直居史郎。(臺日)永井省三。(福日)野口義夫。(高知)栗尾結城。(滿日)中澤不二男。(大分)松浦清平。(伊勢)松崎正二郎。(河北)牧野昇三。(小樽)石川敏夫。(中國)飛鳥江亮智(神戸)酒井謙吉。(函館)北村温平(京日)熊谷憲一。(新愛知)中根乾。(名古屋)三浦修治。(京都市)末國金太郎。(夕刊大阪)久松秋芳。(九州新聞)西東秀剛。(十五、十一、廿)

博友會 博報堂、地方新聞相互間の親睦を圖るを以て目的とす。(沿革)昭和九年十一月成立(事務所)神田區錦町博報堂内。(電)神田代表二一八一。(役員)全國及滿支と六地方別に各一名二總會每改任。(會員)約五十名(十四、十一、一)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

大阪市役所内。(電)北濱五〇五一。(幹事)橋野登。(會員)朝日林田重五郎、神先秀雄。(大毎)須古俊夫、松原久治。(大時)船越謙二、赤羽大二。(夕刊大阪)阪井康夫、田中俊一。(大阪日)橋野登。(同盟)福田義郎。(大阪經濟)高山英次郎。大阪中(外)栗田迪。(日刊工業)伊藤千尋。(大正日日)宮尾普賢(日本工業)大川鐵三。(大阪今日)武本英一。(日滿工業)小網利夫。(十五、十二、五)

億兆記者俱樂部

大阪府警察部擔當記者を以て組織す。(事務所)大阪府警察部内(電)關内九六、九八。(會員)同盟)岸芳一、野中一郎、野津榮中村善雄。(大阪日日)渡邊豊、吉井直熊。(大阪中外)栗田迪。(大阪經濟)太刀掛禮二。(大阪今日)武本英一。(大正日日)岡本作太郎。(夕刊大阪)梶山義三、北村謹一。(讀賣)坂田源吾、山田秀次郎。(新愛知、國民)舟橋勝吉。(十五、十二、七)

經濟關係

大阪商工會議所記者俱樂部

親睦を圖り新聞使命を全うするを以て目的とす。(事務所)北區堂島濱通二丁目大阪商工會議所内。(電)福島一五一。(幹事)赤井彌一郎(日本工業)、荒川英雄(北海タイムス)。(會員)日本織物)井上定規(日本工業)赤井

火曜會

大阪商工會議所擔當記者の有志を以て組織し、會員の親睦及經濟研究を圖るを目的とす。(沿革)昭和十一年十月設立。(事務所)大阪商工會議所記者室内。(電)福島一五一七。(役員)幹事二名、一ヶ年交代制(會員)大時)岸本正一郎(大阪日日)大北朝郎(大阪新日報)佐藤英彬(大阪中外)細見數男(日刊工業)由上勝男、(日滿工業)小網利夫、(日本工業)赤井彌一郎、(大毎)松原正雄(大阪

日本綿業記者俱樂部

在阪綿業當時擔任記者を以て組織し、相互の親睦を計るを目的とす。(沿革)昭和十三年十一月十四日組織す。(從來大阪の綿業記者は漠然たる集合體にすぎなかつたものを目的團體に改組し時代に即應せんとした)。(事務所)東區備後三丁目大阪綿業會館内。(幹事)(名古屋新聞)酒井丈夫、(讀賣)佐々木三九馬

化學纖維記者俱樂部

常時擔任記者を以て組織し親睦を目的とす。(沿革)不詳。(事務所)東區備後町三丁目綿業會館内。(幹事)酒井丈夫、秋本豊。(會員)(日本織物)川瀬安正(日本工業)山口岩夫、(日刊工業)加藤彰、(報知)館林實、(同盟)佐藤友三、(大阪中外)持田建磨(大毎)東明、(大阪經濟)太田岩穗、(大朝)江藤清、(大時)計屋才藏、(關西中央)藤澤茂、(讀賣)佐々木三九馬、(名古屋新聞)酒井丈夫、(夕刊大阪)秋本豊、(都)松尾茂、(新愛知)高橋性。(十四、十一、十六)

金融研究會

親睦及金融研究を目的とす。(沿革)昭和十年設立。(事務所)北區中之島一丁目二九大阪銀行集會所内。(電)北濱一六〇、四〇六〇。(役員)三輪孝平、佐藤邦人。(會員)同盟、朝日、大毎、中外商業、新愛知各金融記者。(十五、十二、五)

大阪海運記者俱樂部

海運關係擔任記者團。(事務所)大阪商船會社内。

大鐵記者團

大阪鐵道局に常時出入する日刊新聞社、通信社の記者を以て組織し、團員相互の親睦を圖り、併せて一般交通の研究を行ふを以て目的とす。(沿革)昭和八年九月廿日大阪鐵道記者俱樂部結成し、昭和十二年十一月一日大鐵記者團に改め現在に至る。(事務所)大阪市北區大深町大阪鐵道局新聞記者室内。(役員)須古俊夫、岸本正一郎、高山英次郎、船橋勝吉(會員)(大阪朝日)犬石隆夫(大毎)須古俊夫、林信夫。(大時)岸本正一郎、小司專一。(夕刊大阪)西田裕臣。(大阪日日)大北朝郎、石田西三。(大正日日)宮尾善賢。(大阪今日)武本英一。(大阪每夕)岩本敬二。(日刊工業)辻元三郎。(大阪經濟)高山英次郎。(日本織物)井上定規。(大阪中外)野田宗二。(新愛知)

大阪遞信航空記者俱樂部

遞信關係日刊新聞記者より成る。(沿革)初め大阪遞信記者俱樂部と稱し、昭和十四年一月現在の名稱に改稱。(事務所)大阪遞信局内。(電)土佐堀一九〇〇。(幹事)澤田三郎(日本工業)。(會員)(朝日)鈴木工(大阪毎日)藤田福平、(同盟)井關納、(時事)入江保太、(夕刊大阪)野間圭吾、(讀賣)坂田源吾(日本工業)澤田三郎、(日刊工業)矢野一男。(十五、十二、二)

大阪司法記者俱樂部

斯界の向上と會員の親睦を目的とす。(沿革)明治三十年設立、殉職者多々あり。(事務所)北區若松町、大阪控訴院内。(會員)(大朝)阪上武一。(大毎)横田利平。(大阪新日報)戸上哲夫(同盟)上郷文雄。(大時)佐竹博一。(夕刊大阪)西田裕信。(會友)鈴木常吉。(大朝)。(十四、十一、十五)

大阪陸軍記者團

中防第四師、大憲を諮問機關に七社にて結成軍の外廓團體として國防思想普及、報道を使命とす。(沿革)昭和十一年四月二十五日結成、軍事研究の爲め視察、見學、講演、執筆等を行ひつゝ、あり。(事務所)大阪城内中部防衛司令部内。(電)東九五。(役員)中所豊。(會員)(大毎)淺井良任

大阪運動記者俱樂部

日刊新聞にして運動欄を有する社の運動部員を以て組織。部員の親睦を計るを以て目的とし春秋二季總會を開く豫定。(沿革)昭和十一年秋創立。(事務所)西區江戸堀上通一ノ八同盟通信社大阪支社内。(電)土佐堀九一〇。(幹事)芥田武夫、井口新次郎、三宅正夫、秋山與四三。(會員)(大朝)渡邊文吉、藤木九三、

營業關係

支局

坂口儀作、大石雄一郎、星山芝太郎、三宅二郎、西野綱三、井田武夫、織田幹雄、酒井芳藏、辻富士夫、杉森一、和崎嘉之、荒尾勇。(大毎)玉置徳三、井口新次郎、湯淺禎次、中出輝彦、齋藤才三、大島鎌吉、淺本俊一、後藤敏雄、蜂須秀夫、中島直矢、中尾保、原田武一、南部忠平、増井春子、家永一夫、渡邊謙二、龍田峻次。(大阪時事)小田切平和、山路久一郎、鶴池武雄、田川繁。(夕刊大阪)牧野樹一郎、安倍宗一郎、坂田源吾。(英文毎日)加藤英明、井川正之。(讀賣)三宅正夫、辻本芳雄、和久禎男(名古屋新聞)半田忠夫、石崎龍(國民)中村三五郎。(新愛知)舟橋勝吉、高橋汪。(報知)桐田常吉、眞崎文吉、館林實。(同盟)近藤公一、秋山與四三、工藤孝一、二川米太郎、見玉正彦。(神戸新聞)久保田喜一、米澤弘道。(十四、十二、一)

在阪全國新聞支局

聯盟 在阪全國新聞支局長を以て組織す。會員相互の親睦を圖るを以て目的とし、大正十年春創立。當時會員六十名に過ぎざりしが現在百餘名、二百餘社を算するに至る。(會員)別掲在阪全國新聞支局聯盟員一覽に同じ

東京新聞協和會

東京六新聞社大阪支局長によつて組織し親睦團體なり。(沿革)昭和三年組織す。(事務所)東區伏見町五ノ二、讀賣支局内。(幹事)森熾。(會員)(報知)山脇義興。(東日)水野信之。(東京毎夕)木村建三。(中外商業)坂田國三郎(讀賣)森熾。(國民)渡邊清治。(都)那須法道。(會友)山崎兼次郎、荻原唯一。(十五、十二、五)

廣告關係

大阪廣告協會

廣告主、新聞社、代理店、商業美術家其他廣告關係者を以て組織さる。廣告に關する總ての事項を研究調査し會員相互の懇親を謀り利益を増進し併せて一般廣告思想

の普及、産業の發達に資するを目的とす。(沿革)大正九年二月十二日創立、爾來日本廣告聯盟を提唱して之れを結成し或は我國始めての廣告販賣講習所を開所し、又廣告展覽會開催、會報其他廣告關係著書を刊行し、常に我廣告會の進歩發展に寄與しつゝあり。現在會員二百數十名を擁し毎月研究的例會を開きつゝあり。(事務所)大阪市北區中之島、大阪市役所産業部内。(電)北濱五〇五一。(役員)(會長)森平兵衛。(理事)二十名。(會員)二百四十名。(十五、十二、十)

水曜會 廣告代理業者を以て組織し相互に德義を尊重しその共通の利益を擁護するを目的とす。(沿革)大正五年十一月創立(事務所)幹事持廻り。(會員)萬年社、大阪電通、京華社、旭廣告、做蟻社、新興社、第一廣告社、金水堂。(十五、十一、末)

新聞廣告業聯盟 九廣告代理業者の團體。(會員)興亞通社、昭和廣告社、新聞合同通信社、千年社、大同社、太平洋廣告社、中央廣告社、東洋社、

日新社。大阪廣告主俱樂部 大阪市及び其附近に本支店を有する廣告主を以て組織し相互の親睦を圖り廣告の進歩並に効果増進を攻究するを以て目的とす(沿革)大正十五年十月創立、當初大阪廣告俱樂部と稱し、昭和七年七月廣告研究俱樂部と改め十一月九月現名稱に改む。(事務所)南區心齋橋筋二丁目をぐらヤビル。(電)南三三七三、四二二〇。(役員)五選により理事二十名選出、(書記長)小川慶一。

さつき會 在阪廣告主を以て組織す。(沿革)昭和十年五月丁目をぐらヤビル。(電)南三三七三、四二二〇。(役員)輪番。

木曜俱樂部 廣告の研究を目的とし、會員の範圍に制限なし。(沿革)昭和二年設立、十二年四月日本廣告聯盟加入。(事務所)東區高麗橋五丁目、萬年社内。(電)北濱〇六九〇一〇六九二、四二七一—四二七三。(役員)幹事五名、評議員十五名(會員)五十九名。(十五、十二、五)

火曜會 會員の心身鍛練向上を圖り、且つ相互の交誼を深むるを以て目的とす、本會員は大阪電通に關係ある在阪新聞社有志を以て組織す。(沿革)昭和十三年一月創立。(事務所)大阪市北區中之島、大阪電通社。(役員)幹事二名(會員)輪番。書記一名(電通社員)。(會員)(臺灣日日)入貝良郎。(京城日報)竹田津吾一。(河北)高橋信。(中國)濱崎稔。(名古屋新聞)吉村喜三郎。(合同)小山政夫。(福日)龜島哲夫。(大分)東田信男。(高知)井上環。(滿日)和氣傳。(大阪電通)光永星郎、岩子龍太郎、小田民造、藤井眞須男、藤島隆範。(十五、十二、五)

文案家協會 純粹の廣告文案家を會員資格とし、會員相互の懇親と研究を兼ねた友交團體。(沿革)昭和十一年四月六日創立。(事務所)北區堂濱通一丁目八〇、文案家協會。(電)北五一七〇。(役員)(發起及び世話役)岸本龍郎、波多野修作、田京平、中谷精志。(會員)現在二十名。(十五、十二、一)

日刊『政治經濟通信』發行

諸新聞雜誌廣告代理業

大同通信社

東京市京橋區銀座西六ノ二
電話 銀座 座 四三〇二
振替東京 七一七二五番

144

709

~~R 709~~

144

~~N 709~~

709

終